

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95010			
科目	9501 基礎ゼミナールI			授業種別	週間授業			
科目責任者	藤井 徹也			単位数	1 単位			
担当教員	藤井 徹也、小山 順子、林 美佐、阪下 陽香、小原 由佳子、藤田 陽子、三村 絵美、木村 友紀							
授業概要	基礎ゼミナールIは、大学生活に早期適応ができるように大学生に必要な基本的学修技能（話す、書く、聞く）、主体的学修態度、生成 AI と学修活動の関係性などを身に付けることを目的とする。授業形態は、講義、グループワークなどの演習で行う。 ★この科目は該当授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	△	○		◎	△			
到達目標	1. ノート・テイキングやアカデミック・ライティング、テキスト精読とその要約など大学生に必要な基本的学修技能を修得することができる。 2. 大学生活における時間管理と目標設定ができる。 3. 人と接する態度・礼節などの一般的常識や自己管理、自己責任、規範意識を理解し、他者を尊重した行動が取れる。 4. 学修に必要な図書館、各センターを活用できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
看護学生スタートブック第2版(3刷り)	藤井徹也	医学書院	1,320	978-4-260-04804-0	冊子版
APA に学ぶ看護系論文執筆のルール 第2版	前田樹海、江藤裕之	医学書院	1,980	978-4-260-05290-0	冊子版

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
文章力の基本の基本	安部紘久	日本実業出版社	1,370	978-4-534-05308-4	
看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK	酒井浩美、山崎啓子	日本看護協会出版会	1,200	978-4-818-02356-7	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキスト(教科書)は、基礎ゼミナールⅡでも使用する。
------------------------------	----------------------------

成績評価	受講態度、レポート、課題により総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする	
評価項目	割合	評価基準
講義への取り組み	20%	授業時の主体性、グループワークの参加の積極性を確認する
レポート	60%	レポート内容を確認する
課題	20%	講義で提示された課題に対する提出物の内容などを確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前にはテキスト等の指定箇所を熟読する(第1～8回)。②授業後には授業での学びを整理しておく(第1～15回)。③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(第1～15回)。以上①②③について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修(45分程度/毎回)を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回 講義・演習：本科目の概要と到達目標、授業計画、本学のポリシー、態度・礼節(藤井・その他担当教員) 第2回 講義・演習：大学生活に必要なサポート、自己目標の設定、授業の受講方法とノート・テイキング、生成 AI と学修活動との関係性(藤井・その他担当教員) 第3回 講義・演習：グループワークの方法、プレゼンテーションへの取り組み(藤井・その他担当教員) 第4回 講義・演習：情報の集め方、読み方、整理の仕方、複写のルール、情報リテラシー(藤井・その他担当教員) 第5回 講義・演習：レポートの書き方(藤井・その他担当教員) 第6回 講義・演習：定期試験への取り組み、成績評価(藤井・その他担当教員) 第7回 講義・演習：臨地実習に必要な取り組み(藤井・その他担当教員) 第8回 講義・グループワーク：テーマ、役割の検討、決定(藤井・その他担当教員) 第9回 講義：建学の精神(学長) 第10回～11回 グループワーク：テーマ内容の討議(全教員) 第12回 グループワーク：討議した内容の発表準備(全教員) 第13回 グループ発表①(全教員) 第14回 グループ発表②(全教員) 第15回 講義・演習：学びの統合(藤井・その他担当教員) *授業開始時に課題(掲載問題、漢字読み取り等)を実施する *グループワークのメンバーは、講義時に提示する *リアクションペーパー、課題および最終レポートについてのコメントは、講義およびメールで全体にフィードバックする。
--------------	--

ナンバリング	NRAL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		95020		
科目	9502 基礎ゼミナールⅡ			授業種別		週間授業		
科目責任者	藤井 徹也			単位数		1 単位		
担当教員	藤井 徹也、井上 直子、山本 義昭、徳永 麗子、都築 弘典、宮野 幸子、谷口 弥生、渡邊 富士子							
授業概要	基礎ゼミナールⅠの学修を基盤に、興味関心のあるテーマについての文献検索、文献講読、討議、発表資料作成、発表を通して、論理的思考、クリティカルシンキングおよびプレゼンテーション能力を育成する。また、自己のキャリアデザインをテーマに文献検索と講読、レポート作成を通して、論理的な文章力を身につける。 ★この科目は該当授業に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	△	○		◎		△		
到達目標	1. 多様なものの見方や異なる価値観を理解しながら、テーマに沿った討議ができる。 2. プレゼンテーションする力を修得できる。 3. アカデミック・ライティングを活用したレポートを作成できる。							

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
看護学生スタートブック 第2版	藤井 徹也	医学書院	1,200	9784260048040		
APA に学ぶ 看護系論文執筆のルール 第2版	前田 樹海	医学書院	1,800	9784260052900		

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル	福澤一吉／著	医学書院	2,200	9784260036405		

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキスト(教科書)は、基礎ゼミナールⅠと同じである。
------------------------------	----------------------------

成績評価	受講態度、レポート、プレゼンテーション内容で総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には教科書の指定箇所を熟読する(第1回、7回、11～15回)。②授業後には授業での学びを整理しておく(第1～15回)。③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(第1～15回)。 ④基礎ゼミナールⅠの内容を事後学修して臨む(第1～15回)。以上①～④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修(45分程度/毎回)を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回 講義・演習：情報の集め方、資料作り、プレゼンテーションの実際など(藤井・その他担当教員) 第2回 グループワーク(一部講義)：テーマ決定、討議(全教員) 第3回 グループワーク：グループ討議と発表資料作成①(全教員) 第4回 グループワーク：グループ討議と発表資料作成②(全教員) 第5回 グループ発表①(全教員) 第6回 グループ発表②(全教員) 第7回 講義・演習：キャリアデザイン(藤井・その他担当教員) 第8回 個人ワーク：レポート作成①(全教員) 第9回 個人ワーク：レポート作成②(全教員) 第10回 個人ワーク：レポート作成③(全教員) 第11回 レポート発表会①(全教員) 第12回 レポート発表会②(全教員) 第13回 レポート発表会③(全教員) 第14回 講義・グループワーク：看護におけるカンファレンス(藤井・その他担当教員) 第15回 講義・グループ発表：カンファレンス、学びの統合(藤井・その他担当教員) ★各授業中に課題(掲載問題、文章表現等)を実施する ★グループワークのメンバーは、講義時に提示する。 ★リアクションペーパー、課題、レポートのフィードバックは、講義またはメールで全体に行う。
--------------	---

ナンバリング	NREL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	95130				
科目	9513 倫理学			授業種別	週間授業				
科目責任者	霜山 博也			単位数	2 単位				
担当教員	霜山 博也								
授業概要		倫理学は人間の生き方を探求する学問である。哲学、宗教学との関連、歴史的な倫理学の変遷の概括を学び、人間の行動の規範と、その背景としての影響を与える倫理学からの視点について基礎的な理解を深める。また、諸科学が発展するなかで人間の行動は、自身とその周辺の環境を調整しながら生きる方策を探求することが必要になってきている。その調整において倫理的視点は重要である。生命倫理、医療倫理、社会倫理、政治倫理など多様であるが、それらに共通する倫理の原則等についても学ぶ。							
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○						
到達目標		1. さまざまな分野の倫理的問題を知り、広い視点で考えられるようになる。 2. 現代社会の倫理的問題に関心を持ち、自分で調べ、それに対する意見を持てるようになる。 3. 倫理的問題の難しさを知り、具体的な場面で実践できるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、私語、講義への取り組みない等の受講態度の悪さがあれば、減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
毎回の課題	30%	毎回の講義内容を理解しているか確認する。優秀な回答は次回に紹介し、どう良いのかを解説する。レポート
レポート	70%	レポートにて理解度を確認する。

受講条件	履修条件はありません
事前・事後学修(内容・時間)	事前学習(2時間相当／15回) ・新聞・ニュースなどを普段から読み、活字にいつも触れておくこと。 ・授業で学んだことを参考にして、世の中のさまざまな物事に対して、哲学的な視点から分析する訓練をすること。 事後学習(2時間相当／15回) ・授業後に、プリントを読み直し内容を復習しておくこと。 ・授業で分からなかったことを質問し、図書館等で調べておくこと。

授業の実施方法と授業計画	※各回の最後に授業内容と関連する課題を出す。次回の初めに、回答の解説や補足説明を行う。 1.(講義) ガイダンス 2.(講義) カントの義務論 3.(講義) 道徳法則について 4.(講義) 最大多数の幸福 5.(講義) ミルの自由論 6.(講義) 徳倫理学 7.(講義) 動物倫理とパーソン論 8.(講義) ロボット倫理 9.(講義) ロングフル・ライフ訴訟と反出生主義 10.(講義) 脳死・臓器移植と身体における他者 11.(講義) 生命倫理の諸問題 12.(講義) スポーツ倫理と社会における道徳の例外 13.(講義) 宗教の役割と隣人愛 14.(講義) レヴィナスと顔 15.(講義) 道徳と倫理 (講義の習熟度に合わせて予定を変更する可能性があります)
--------------	---

ナンバリング	NREL1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	95160			
科目	9516 哲学			授業種別	週間授業			
科目責任者	霜山 博也			単位数	2 単位			
担当教員	霜山 博也							
授業概要	教員や他の学生との質疑応答や討論を通じ、哲学を追体験する。我々の身の回りにあるさまざまな事物について、既存の学問や常識にとらわれずに論理的に考える能力を身につけていくことを目的とする。第一に感想や自分の考えたことを他人に理解できるように自分の言葉で伝える能力の習得を、第二にテキストの著者や他人の言いたいことを代弁する能力の習得を目指す。あわせて読解・論述能力の養成も目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						
到達目標	① 哲学の問題を自分で考えられるようになる。 ② 自分と他人の意見を批判的に検討し、それを肯定的に生かせるようになる。 ③ 他者に理解してもらうために、説得的な文章を書けるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、私語や講義への取り組み等、受講態度の悪さがあれば、減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
毎回の課題	30%	毎回の講義内容を理解しているか確認する。優秀な回答は次回に紹介し、どう良いのかを解説する。
レポート	70%	レポートにて理解度を確認する。

受講条件	履修条件はありません
事前・事後学修(内容・時間)	事前学習(2時間相当／15回) ・新聞・ニュースなどを普段から読み、活字にいつも触れておくこと。 ・授業で学んだことを参考にして、世の中のさまざまな物事に対して、哲学的な視点から分析する訓練をすること。 事後学習(2時間相当／15回) ・授業後に、プリントを読み直し内容を復習しておくこと。 ・授業で分からなかったことを質問し、図書館等で調べておくこと。

授業の実施方法と授業計画	※各回の最後に授業内容と関連する課題を出す。次回の初めに、匿名でさまざまな回答を紹介し、その回答の内容について議論する。また、回答の解説や補足説明、質疑応答を行う。 1.(講義) ガイダンス 2.(講義) 思想をふだんに生かすこと 3.(講義) デカルトのコギト 4.(講義) 自由について 5.(講義) カントの批判哲学 6.(講義) 物事の「よさ」を見抜く方法 7.(講義) メルロ＝ポンティと身体図式 8.(講義) プラトンのイデア論 9.(講義) ニーチェと力への意志 10.(講義) 真理と虚構 11.(講義) 記号について 12.(講義) バロールとエクリチュール 13.(講義) 言語行為論 14.(講義) 言葉遊び 15.(講義) まとめ(予備日として使用する可能性あり) (講義の習熟度に合わせて予定を変更する可能性があります)
--------------	---

ナンバリング	NRFL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	951A0			
科目	951A 心理学概論			授業種別	週間授業			
科目責任者	加藤 知佳子			単位数	2 単位			
担当教員	加藤 知佳子							
授業概要		心理学概論では、科学的にこころを探究する方法とその成果について、基礎的な内容を学ぶ。「知覚」「記憶」「パーソナリティ」「社会的認知」「学習」「動機づけ」「言語」「社会的行動」「人生初期の発達」「青年期の課題」等のテーマをとりあげ、解説する。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○					
到達目標		1. 人間のこころを構成するさまざまな機能（知覚、記憶、学習、動機づけ、言語、思考など）の基礎的な構成要素を説明できる。 2. 人間のこころの働きに関する個人差や発達の差異（パーソナリティ、人生初期の発達、青年期の課題など）について、代表的な理論を説明できる。 3. 一人でいるときと他者とともにいるときでこころの働きが異なることについて、例示することができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
ミニレポートあるいは小テスト	30%	毎回の授業において取り組みや理解度を確認する
定期試験	70%	授業全体の理解度を評価する

受講条件	履修条件を付けない。
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(4時間相当) 1. 指示されたテーマについて、テキストやその他の資料を調べてノートにまとめておく。(各2時間) 2. 授業で得た気づきと学びについてノートにまとめるほか、さらなる疑問については、毎回提出するミニレポートに記載して、自分でも調べ学習をしておく。(各2時間) 3. 学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス: 授業のねらい、試験について、心理学とは 第2回 (講義) 感覚と知覚: 感覚のしくみとはたらき 第3回 (講義) 感覚と知覚: 知覚のしくみとはたらき 第4回 (講義) 記憶: 記憶のメカニズム 第5回 (講義) 学習: 学習のメカニズム(Think-Pair-Share) 第6回 (講義) 感情と動機づけ: 感情とは 第7回 (講義) 感情と動機づけ: 動機づけの理論(Think-Pair-Share) 第8回 (講義) 性格とパーソナリティ: 性格とは 第9回 (講義・演習) 性格とパーソナリティ: 性格の測定 第10回 (講義) 思考・言語・知能: 思考と言語 第11回 (講義) 思考・言語・知能: 言語と知能の障害 第12回 (講義) 発達: 発達とは、乳幼児の発達 第13回 (講義) 発達: 児童、青年、成人、および高齢者の発達 第14回 (講義・演習) 社会と集団: 社会的認知、態度と説得的コミュニケーション(Think-Pair-Share) 第15回 (講義) 社会と集団: 対人関係と対人魅力、集団とリーダーシップ(Think-Pair-Share) 本科目は、主として講義形式によって行う。 試験や課題における全体で共有すべき質問・疑問に関しては、授業内でフィードバックを行うほか、個別の質問等にフィードバックする場合は、Google Classroom の機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRBL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	95120
科目	9512 人間関係論	授業種別	週間授業
科目責任者	式守 晴子	単位数	2 単位
担当教員	式守 晴子		

授業概要	人間関係とは人と人とを結ぶ感情をふくめたつながりである。人と人との二者が最小単位となって、多くの人々のつながりが集まり社会が作られている。看護実践においても対象となる人々と看護師との信頼関係を通して具体的なケアが可能になるため、看護学生が人間関係について学ぶことが必要である。 この科目では、人を身体的、心理的、社会的側面からとらえ、二者の人間関係を通して人間関係の基本的な知識、理論や技法を講義や演習を通して学ぶ。二者の関係の中で最も理解しやすい関係は自分と他人、つまり自己と他者の二者関係で、自己から見た他者との継続的な人間関係を対人関係と呼ぶ。そこで発達段階に沿って他者の対人行動や自己理解の知識や方法を学ぶ。また、人間関係を築くツールとなるコミュニケーションに関する知識・技術を習得し、これらを活用したのちのスキルアップするための振り返りの方法を学ぶ。さらに今後学ぶ保健医療福祉分野で使われる人間関係の用語を紹介する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○			△			
到達目標	1. 人の身体的、心理的、社会的発達段階の特徴を理解し、自己や他者について個々の状況を説明できるようになる。 2. 人間関係を築くためのコミュニケーション手段の種類や特徴を知り、適切な手段でコミュニケーションできるようになる。 3. 自己のコミュニケーションの振り返りの方法を学び、よりよい人間関係を築く工夫ができるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	・課題の提出(60%)、定期試験(40%)	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	受講予定者は、第1回講義に必ず出席すること。
事前・事後学修(内容・時間)	★毎回、事前課題として、次の授業内容を予習し、授業冒頭でリアクションペーパーの今日の目標欄に関心を持った課題や質問を記載する。(60分×15回) ★毎回、授業の最後にリアクションペーパーに質問あるいは授業で理解したことや活用できそうなことを書き、知識の定着をはかる。(授業中15分+授業外45分)×15回)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス、講義の概要 エリクソンの発達段階、自己と自我 第2回(講義) 発達段階: 乳児期の対人関係 (アタッチメント、人見知り、虐待の影響など) 第3回(講義) 発達段階: 幼児期初期、遊戯期の対人関係 (自我の形成、言葉の発達、自己中心性など) 第4回(講義) 発達段階: 学童期の対人関係 (知能の発達と学習の関係、集団での行動、競争など) 第5回(講義) 発達段階: 青年期・前成人期の対人関係 (アイデンティティの確立、自立への道のりと悩みなど) 第6回(講義) 発達段階: 成人期・中年期の対人関係 (結婚、養育などの家族の発達段階、社会的役割、中年危機など) 第7回(講義) 発達段階: 老年期の対人関係 (心身の変化の受容、知能の使い方の変化など) 第8回(講義と演習) コミュニケーション1 対人コミュニケーションの基礎 第9回(講義と演習) コミュニケーション2 多様なコミュニケーション方法の知識と課題 第10回(講義と演習) 日常生活や支援に活用できるコミュニケーションスキル: 交流分析、アサーション・コーチングなど 第11回(講義と演習) 対人関係の振り返り方法1: リフレクション、プロセスレコードなど 第12回(講義と演習) 対人関係の振り返り方法2: プロセスレコードによる振り返りの実際 体験課題についての説明 第13回(講義と演習) コミュニケーションの体験課題のグループでの共有と全体への発表 第14回(講義と演習) 事例を用いてコミュニケーションによる看護師・患者関係を考える 第15回(講義) 対人関係と支援に関する用語に関するまとめ 授業内の質問に対してフィードバックを行う。 受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	NRFL1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	95260			
科目	9526 社会学概論			授業種別	週間授業			
科目責任者	中野 聡			単位数	2 単位			
担当教員	中野 聡							
授業概要	この講義では、グローバル社会とその多様性の中に日本の社会的状況を位置づける比較社会学の視点から、近現代産業社会の仕組みと変化を学ぶ。授業は、相互に関連する基礎的テーマ——現代社会論の古典、社会階層と格差社会、人口変化の論理——を中心に、現代の福祉国家がもつ課題を問う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○				△		
到達目標	参加者は、グローバルな視点から現代社会の仕組みと変化、その課題に関する基礎知識を習得し、また自ら選択したテーマを考察する。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項					
------------------------------	--	--	--	--	--

成績評価	授業参加(課題レポート)30%程度、試験(選択論述式)70%程度。受講者数等に応じ、試験を期末レポート・小論文に変更することがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業参加	30%	課題レポート
定期試験	70%	基礎事項の理解(選択論述式)

受講条件	社会科学領域に関心があること。
事前・事後学修(内容・時間)	社会科学では、日々の社会経済的事象の背景をなす構造的側面を学ぶ。日頃から新聞や関連書籍に接して基礎的知識を習得するとともに、知的好奇心を涵養すること(毎日30分程度)。適宜、復習レポート(課題学習)の作成を求めるが、一部は事後学習の形態をとることがある。期末試験(選択論述式)の準備を十分に行うこと(2、3時間程度)。

授業の実施方法と授業計画	講義では、以下の基本プログラムをベースに現代社会の課題に関連する諸項目を論じる。また、履修者数や進度に応じて授業内容や形態を変更する場合がある。 I 現代社会学の古典 第1回 現代社会の課題、D.ベルとJ.ボードリヤール、J.ハーバーマース—近代という概念(講義) 第2回 見田宗介—消費社会の論理、消費社会の課題(講義)【課題学習】 第3回 エスピン アンデルセン—福祉国家の諸類型(講義)【課題学習】 II 福祉国家と貧困 第3回 社会階層論と格差社会論、階級消滅論・持続論(講義) 第4回 格差社会の現状、日本の経済格差(講義) 第5回 格差社会の要因—雇用格差(講義)【課題学習】 第6回 格差社会の要因—所得分配と福祉国家の危機、Option ニートとフリーター(講義)【課題学習】 第7回 先進諸国の経済格差、経済格差の国際比較(講義) 第8回 パートタイム経済の挑戦(講義) 第9回 格差社会への対応、EUのフレキシキュリティ政策(講義)【課題学習】 III 福祉国家と少子化 第10回 近代化と人口変化、人口転換モデル、国際比較、人口変化のコンポーネント(講義) 第11回 少子高齢社会の到来 人口変化の理論、少子高齢社会、出生率回復の秘訣(講義)【課題学習】 第12回 家族政策の国際比較、日本の家族政策、国際比較(講義) IV ポストデモクラシーの時代 第13回 民主主義の後退—何が問題なのか(講義) 第14回 福祉国家の現在と未来、機会均等社会をめざして(講義) 第15回 市民社会の未来(講義) レポートと試験に関しては、学生にフィードバック(コメントや解説)を行う。
--------------	---

ナンバリング	BAAM1037
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95280			
科目	9528 社会福祉学			授業種別	週間授業			
科目責任者	葛谷 潔昭			単位数	2 単位			
担当教員	葛谷 潔昭							
授業概要	本科目は、患者や利用者の生活に利する基礎的な社会福祉サービスと社会保障制度、対人援助の理念を学習する。 「人間の幸せとはなにか」を考え、人間が人間らしく生きていくための、自己実現に向けての、社会、生活環境、制度のあり方を考え、必要な人々への適用、その他の援助を考えることができる基礎的能力を学習する。 例えば、福祉施設、地域福祉、法律や社会制度等の福祉課題に対する物質的・精神的援助を行う総合的サービスとしての社会福祉とそのあり方、社会保障制度、社会福祉と医療の関連と、保健・医療・福祉の連携と統合について学習する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○				△		
到達目標	①対人サービス専門職として、社会福祉の意義・目的、社会福祉とその関連制度について理解したうえで活用できる ②専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを把握できる ③社会福祉の対象者に必要な社会福祉資源を選択し、アドバイスできる ④保健・医療・福祉の連携と統合の知識と心構えを身に着ける							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業内容に関する課題・レポート、筆記試験を行い、科目の到達目標に対する達成度を評価する。劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内課題(レポート等)	50%	提出状況、内容の適切性、授業内容の理解度、分量等
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1. 各回の授業計画に沿って、テキスト等の該当部分を熟読しておくこと。(合計 8 時間程度) 2. 授業で紹介・配布された資料等について再度確認しておくこと。(合計 8 時間程度) 3. 定期試験に向けて試験範囲の復習をしておくこと。(合計 6 時間程度) 4. 社会福祉制度とサービスについての時事的な話題に関心を払い、ニュース、新聞報道内容に注意を向けメモを取るようしておくこと。(合計 6 時間程度) 5. 授業後の感想文・レポート作成(合計 6 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) オリエンテーション・社会福祉の考え方 第2回(講義) 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向・歴史と展開 第3回(演習) 社会保障制度と社会福祉 第4回(講義) 社会福祉の仕組みと運営 第5回(講義・演習) 社会福祉の機関と施設・援助 第6回(講義) 医療保障制度 第7回(講義) 所得保障制度と公的扶助 第8回(講義) 社会福祉と医療・看護の連携 第9回(講義・演習) 子ども家庭福祉 第10回(講義・演習) 高齢者福祉の理念と制度 第11回(講義) 介護保険制度 第12回(講義・演習) 障害者福祉 第13回(講義) 地域福祉 第14回(講義) これからの社会福祉の課題 第15回(講義・演習) 社会福祉を支える人たち 課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 上記の内容によっては、外部講師を招へいする場合がある。 授業予定については、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。
--------------	--

ナンバリング	NRCL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95300			
科目	9530 地球の生態学			授業種別	週間授業			
科目責任者	渡部 吉規			単位数	1 単位			
担当教員	渡部 吉規							
授業概要	地球環境の成り立ちや人類の活動により深刻化する環境問題について説明する。地球温暖化防止技術をはじめとした種々の環境保全技術学ぶことで、科学的な知見から持続可能な発展のために現代人類の担う役割を理解する。 授業では、アクティブラーニングとして、テーマに関する討論形式でのグループワークおよび発表を行うことで理解の推進を図る。また、電子データでの教材資料公開、ワークシート配付、課題提出を行う。 ※この科目は当該授業内容に関する企業現場での環境保全対策の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○				△		
到達目標	学修者は人類の生産活動が地球環境に与える影響や環境破壊の現状について説明することができ、さらに環境問題を解決するための技術の具体例を挙げることができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
例題で学ぶ環境科学 15 講	伊藤 和男	コロナ社	2,400	9784339066425	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標の達成度を次項に示す「予習レポート」、「課題レポート」、「ワークシート」および「定期試験」の4つの「評価項目」の得点にて総合評価する。 ※「予習レポート」はその性質上、必ず授業開始前に提出すること。授業開始後に提出しても受理しない。 原則として毎回出席すること。正当な理由なく3回以上欠席した者は失格とする。また、出席点は設定しないが、遅遅刻・早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
予習レポート	20%	各回の授業テーマに対する適切な内容・記述になっているかを評価する。
課題レポート	10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。
ワークシート	20%	講義内容の理解度を授業内で確認する。
定期試験	50%	基本的な授業内容の理解度を筆記試験にて確認する。

受講条件	受講条件はありません。
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回 4 時間程度行うこと。() 内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について配付資料および参考書の該当箇所を熟読する。(60 分程度) ・インターネットなども活用し、次回講義テーマに関する「予習レポート」を作成する。(60 分程度) ・毎回の授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。(30 分程度) ・配付資料および参考書などを活用して、予習と復習に励む。(90 分程度) その他 ・授業中に指定した問題・演習問題は必ず解くこと。 ・講義で出された課題は次回の講義までに必ず解くこと。

授業の実施方法と授業計画	※各回の授業開始前までに「予習レポート」を提出すること。 第1回【講義】ガイダンス：本科目の目的と概要、単位取得要件、評価方法などの説明をする。イントロダクション：地球環境の概要。 第2回【講義】地球温暖化防止技術：人類および地球にとって喫緊の課題である地球温暖化の対策技術について解説する。 【アクティブラーニング】地球温暖化防止技術に関するグループ討論および発表。 【予習】「地球温暖化防止技術」の例を調べ、「予習レポート」を作成する。 第3回【講義】酸性雨と森林破壊：酸性雨の原因とその影響および国際的防止策について解説する。 【アクティブラーニング】酸性雨の影響に関するグループ討論および発表。 【予習】「酸性雨」が環境や生物に及ぼす影響を調べ、「予習レポート」を作成する。 第4回【講義】廃棄物処理・リサイクル技術：廃棄物処理・リサイクル技術の概要を説明し、その具体例について解説する。 【アクティブラーニング】廃棄物処理技術に関するグループ討論および発表。 【予習】廃棄物の焼却処理技術又は、最終処分場の構造について調べ、「予習レポート」を作成する。 第5回【講義】水質汚濁：水質汚染物質の種類と汚染のメカニズムおよび汚染の現状や影響、汚濁防止技術について解説する。 【アクティブラーニング】汚水処理技術に関するグループ討論および発表。 【予習】「水が腐る」とは、具体的にはどうなることかを調べ、「予習レポート」を作成する。 第6回【講義】大気汚染と自動車排ガス：大気中に排出される汚染物質の種類および汚染の現状やメカニズム、汚染防止技術について解説する。 【アクティブラーニング】排ガス対策技術に関するグループ討論および発表。 【予習】「自動車排ガス」に関する「大気汚染防止・低減技術」の例を調べ、「予習レポート」を作成する。 第7回【講義】エネルギーの現状と展望：エネルギー資源量と各国のエネルギー構成および各種エネルギーの特徴について解説する。 【アクティブラーニング】エネルギーの展望に関するグループ討論および発表。 【予習】各化石燃料の寿命を調べ、「予習レポート」を作成する。 第8回【講義】エネルギー利用の高効率化：エネルギーの有効利用技術について解説する。 【定期試験】省エネ技術に関するグループ討論および発表。 【予習】「省エネ技術」の例を1つ調べ、「予習レポート」を作成する。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあり得る。 授業内で課題に対するフィードバックを行う。
--------------	---

ナンバリング	NRDL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	953A0			
科目	953A 生命科学の基礎			授業種別	週間授業			
科目責任者	大林 雅春			単位数	2 単位			
担当教員	大林 雅春							
授業概要	本科目は、高等学校での化学、および生物学を統合した内容で進める。具体的には、原子・分子の構造を出発点とし、物質量と濃度、酸・塩基と pH、化学結合、細胞の構造と機能、遺伝や代謝等について概説する。この科目は、専門基礎科目である「生化学」「からだの構造と機能（解剖学）（生理学）」「病態と治療の基礎（病理学）」「臨床薬理学（薬理学）」「臨床栄養学（栄養学）」等を理解するための基盤となる位置づけである。看護に関する専門知識や技術に比べて軽視されがちな基礎知識ではあるが、臨床の現場で自ら判断し、行動するためには基本的な知識が身につけている必要があると考えている。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○					
到達目標	1. からだを構成する物質（原子や分子）を説明できる。 2. 物質の状態・物質の量の表し方を説明できる。 3. 化学結合を説明できる。 4. 酸と塩基・pH、酸化・還元反応を説明できる。 5. 細胞の構造と細胞内小器官の機能を説明できる。 6. 人体の構成成分や役割を説明できる。 7. 遺伝について説明できる。 8. 代謝について説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験の素点が、60 点に達しない学生に対しては 再試験を実施します。再試験を受験した場合には、再試験での 6 割以下の点数が評価点となります。定期試験の点数に、提出物に対する評価を加味することにより 生命科学の基礎 の評価点とします。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	本授業は、アクティブラーニングの「反転授業」のスタイルを取り入れて実施する。すなわち、今回の授業項目の簡単な事前課題（基本問題）を果たし、次の授業の前に提出物として提出してもらう。これは、前もって各自で課題を教科書等で調べる「予習」のスタイルとなり、事前課題をこなしてから本番の授業を迎える前提の授業である。約 30 分から1時間ほど、テキスト中心に取り組むこと。なお授業の最後に、今回の授業内容の参考になるスタディサブリの短編の「動画」番組の案内するので、視聴してから講義にのぞむこと。この動画は、事前課題に取り組む際にもヒントになるので利用を勧める。 毎回の授業で配る『講義資料（紙媒体）』は、講義中の全てのスライドを配布資料としてまとめたものである。講義資料を授業の前に配るので、各自空欄にメモ等を行うこと。また全てのスライドをインターネットの GoogleDrive 上に閲覧共有設定するので、自己学修（事後学修）に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトを URL や QR コードで紹介する。授業には、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を持ち込みを許可する。 Google のクラスルームに掲載する『演習問題』は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。事前課題の出題内容も含まれているので、解答合わせも兼ねて毎回必ず確認しておくこと。演習問題は、定期試験の出題範囲にもなるので、必要に応じて自己学修（事後学修）に役立てること。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 講義：『生命科学の基礎』の講義の進め方、ガイダンスを行う。 第 2 回 講義：（化学）「もの」は何でできているのか（第1章）。原子構造、電子配置について学習する。 第 3 回 講義：（化学）「もの」の量はどうか（第2章）。 第 4 回 講義：（化学）「もの」の成り立ち（第4章）。化学結合、分子について学習する。 第 5 回 講義：（化学）「水（第5章）」を学ぶ。イオン、電解質について学習する。 第 6 回 講義：（化学）「からだの中の水（第6章：浸透圧）」を学ぶ。【※生物（第2章：浸透圧）を含む】 第 7 回 講義：（化学）「からだの中の水（第6章）：酸と塩基、pH」を学ぶ。 第 8 回 講義：（化学）からだは何かからできている（第7章：有機化合物）を学ぶ。 第 9 回 講義：（化学）からだは何かからできている（第7章：生体高分子、脂質・糖質・タンパク質）を学ぶ。 第 10 回 講義：（生物）生物の最小機能単位である「細胞（第1章）」を学ぶ。 第 11 回 講義：（生物）遺伝情報の伝え方（第3章）を学ぶ。 第 12 回 講義：（生物）化学エネルギーと代謝（第5章）を学ぶ。 第 13 回 講義：（生物）化学反応と酵素（第6章）を学ぶ。 第 14 回 講義：（生物）糖質の代謝（第7章）、脂質の代謝（第8章）、タンパク質アミノ酸の代謝（第9章）を学ぶ。 第 15 回 講義：（化学）（生物）まとめ 第1～15回は講義を行う。 ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中の内容に関する質問や感想、リクエストに関しては、リアクションペーパーに記入すること。今回の授業までに個々にメール、あるいは口頭で返答する。多い質問項目などには、今回の授業の冒頭で説明する。指摘された改善点などには、素早く対応するので遠慮せずに、口答でもリアクションペーパーでもメールでも対応します。 ＊授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。
--------------	--

ナンバリング	NRAL1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		95210			
科目	9521 文化人類学			授業種別		週間授業			
科目責任者	高橋 大輔			単位数		2 単位			
担当教員	高橋 大輔								
授業概要		文化人類学は、地域の様々な社会環境において暮らす人々の生活様式や文化、風習等を調査し、人間生活を総合的に探究する学問です。この講義では、その基本的概念や実例等から、日本各地の地理的な環境下における暮らしや風土の特性や違いなど、多様な人間生活をテーマに分けて解説していきます。皆さんの生活で当たり前にある事柄の意味や背景を知ることによって人間生活への理解を深めていきたいと思います。前半は広い視野で世界や日本全体を俯瞰しながら我々の立ち位置を確認しつつ、後半は地域やコミュニティのミクロの目線を加えリアリティある内容で進めていく予定です。							
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○				△		
到達目標		①文化人類学の目的等について、説明できるようになる。 ②生活文化が自然や社会と深く関わり多様で大切であることが理解できるようになる。 ③自然・風土や生活文化を取り巻く地域の様相について特徴や問題点を掴むことができるようになる。 ④生活文化を知るための研究方法や統計を読み解く技術が身につく。 ⑤以上を通じて我々の生活環境について今後の展望を考えることができるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特定にテキストはなし。講義毎にレジュメ、資料を配布します。特定の参考書等はなし。講義の中でテーマに応じて適宜紹介します。
------------------------------	--

成績評価	授業内容の理解度を把握するため、毎回出席者に対してリアクションペーパーの提出を求めます。 記述内容は、適宜指示します。 第15回講義は演習(ディスカッション・発表)を実施します。 試験期間中に定期試験を行います。 毎回のリアクションペーパーの提出状況、演習、定期試験の内容で総合的に評価します。	
評価項目	割合	評価基準
毎回のリアクションペーパーの提出と内容	20%	リアクションペーパーで授業内容の理解度を確認する。
第15回講義での意見交換と発表の内容	20%	ディスカッションと発表の内容にて評価する。
試験期間内でのテスト	60%	講義内容に基づいた考察や文化人類学の興味関心について考えが体系的に説明できているかどうか。

受講条件	特になし。
事前・事後学修(内容・時間)	【事前学修】講義テーマに関する基礎的な視点(文化・社会・人間理解の枠組み)を知り、講義中の議論・理解を深める準備を行うため、新聞・ニュースサイト等に目を通す。これらは日本のみならず世界各国の出来事にも関心を持つこと。関連する記事内容について、要点、背景、影響、自分の疑問を整理する。講義で確認したい問いを考えたり、自分の身の回りや生活に置きかえて物事をイメージする。(90分) 【事後学修】配布した講義資料の読み直しや内容整理により復習する。配布資料と講義内容を再構成し、講義中に扱った概念・事例・課題等の関係が分かるように、提示する図表データや文献、書籍等も活用して、理解の定着と内容の深化を図る。講義で初めて見聞きした用語や概念を自分の言葉で簡潔に説明できるように理解を深める。(90分)

授業の実施方法と授業計画	授業毎に講義資料(プリント等)を配付し、投影するスライドに基づいて進めます。毎回、授業終了時にリアクションペーパーに記述し提出してください。その内容は、毎回指示します。 第1回 イントロダクション：開講科目の紹介(講義) 第2回 世界と日本の文化・風習：エスニシティの特徴(講義) 第3回 文化遺産からみる世界と日本の特徴(講義) 第4回 日本の農山漁村の生業と発展(講義) 第5回 気候風土と生活①：世界の気候風土と暮らし(講義) 第6回 気候風土と生活②：日本の気候風土と暮らし(講義) 第7回 自然環境と人間生活①：地形のメカニズムと食生活(講義) 第8回 自然環境と人間生活②：日本の自然災害と暮らしの知恵(講義) 第9回 中山間地の生活基盤を考える①：中山間地の実態と窮状を捉える(講義) 第10回 中山間地の生活基盤を考える②：中山間地域の地域文化や振興策(講義) 第11回 環境問題・災害から生活基盤を考える①：グローバルな地球環境問題(講義) 第12回 環境問題・災害から生活基盤を考える②：ローカルな生活環境づくり(講義) 第13回 地域の資源や文化を活かした地域振興①：食文化を活かした地域振興(講義) 第14回 地域の資源や文化を活かした地域振興②：生活基盤と観光文化振興(講義) 第15回 講義のまとめ、ディスカッション、発表(講義、演習) 定期試験 試験期間中に定期試験を行う リアクションペーパーに書かれた内容に対するフィードバックを講義時間内で行います。 第2回から第15回については、講義の内容・順序等が変わる場合もある。
--------------	---

ナンバリング	NRAL1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95230		
科目	9523 国語表現法			授業種別	週間授業		
科目責任者	井原 淑雅			単位数	2 単位		
担当教員	井原 淑雅						
授業概要	大学では、様々なタイプのレポートや論文を書くことが課せられます。そこで、レポート・論文とは何かといった基本的事項から、実際にレポートや論文が書けるようになる知識や技術を身につける。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
ディプロマポリシーとの関連性	◎			△			
到達目標	大学で学び社会で働くには、文章表現力を身につける必要がある。国語表現法で学ぶ内容は、学科の卒業認定・学位授与の方針「看護にかかわる事象を科学的に探求するための基礎的な研究能力を身につけている」「看護の対象となる人々を、生物・心理・社会的な面から統合的に理解するための、広い教養と専門的な知識・技術を身につけている」「看護における顕在的・潜在的課題に対し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決していくための実践能力を身につけている」に沿ったものであり、その到達目標は、以下の通りとする。 1. レポート・論文と作文・感想文の違いが分かる。 2. レポート・論文を書くために必要な「発想力」「読解力」「要約力」「思考力」「表現力」を身につける。 3. 「課題発見力」「情報探索力」「構成力」を磨きながら、論理的な文章が書けるようになる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	講義課題レポート(10%)、講義課題レポート(30%)、最終レポート(60%)に基づいて評価する。なお、講義内課題をすべて提出していないものは、最終レポートの提出はできない。	
評価項目	割合	評価基準
講義課題レポート	10%	講義内容の理解度を確認する。
講義課題レポート	30%	講義内容の理解度を、協同学習により確認する。
最終レポート	60%	講義内容の理解度及び習熟度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に教科書を読んでおくこと(第1回～15回／1時間程度) 毎授業後に授業で学んだことを復習すること(第1回～7回、第11回～13回／1時間程度) 授業内に指示されたレポートを作成すること(第8回～10回／1.5時間程度) 授業で学んだことの復習に加え、定期試験範囲の復習を行うこと(第14回～15回／1.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	※前回の講義が知識を習得する場合、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。 第1回 ガイダンス オリエンテーション 第1章 レポートとは何か 第2回(講義・演習) 第2章 論証の基本 第3回(講義・演習) 第3章 文章読解 第4章 要約① 第4回(講義・演習) 第4章 要約② 第5回(講義・演習) 第5章 文章構成の基本 第6章 引用のルール 第6回(講義・演習) 第7章 段落(パラグラフ) 第7回(講義・演習) レポートの構成 第8回(講義・演習) 協同学習① 第9章 テーマの設定 第9回(講義・演習) 協同学習② 第10章 文献調査の方法 第10回(講義・演習) 協同学習③ 第11章 図表の利用 第11回(講義・演習) 協同学習④ 第12章 アウトライン 第12回(講義・演習) 協同学習⑤ 第13章 校正 第13回(講義・演習) 個人テーマ学習① 第14回(講義・演習) 個人テーマ学習② 第15回(講義・演習) 個人テーマ学習③ 学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。 ★ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。
--------------	---

ナンバリング	NRBL1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	95170			
科目	9517 現代芸術論			授業種別	週間授業			
科目責任者	加藤 克俊			単位数	2 単位			
担当教員	加藤 克俊							
授業概要	現代芸術と呼ばれる美術ジャンルは、様々な場所や機会において観ることができる。それは形あるものだけではなく、空間や概念などの鑑賞者の思考に所在するものまでも。この授業では現代芸術とどのように対峙し、どこに作品の魅力があるのか、鑑賞の仕方を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎						
到達目標	1. 美術鑑賞に興味を持つことができる。 2. 鑑賞と作家理解を通し、様々な現象に対して多角的な解釈を試みることができる。 3. 人々は多様な価値観を持っている事を理解し、認めることができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を用いる。
------------------------------	-----------

成績評価	提出物 50% と最終回の確認テスト 50% で総合的に評価する。 なお、授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	50%	提出物より、内容の理解度や自身の考えをどれだけ深められ、示すことができているか見ます。
定期試験	50%	これまでに学んだことから問題を作成します。得点が評価となります。持ち込み不可。

受講条件	美術に興味を持っていること。まじめに授業に取り組むことができること。
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回 2 時間程度) 毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかったプリントや制作は、完成するまでこだわりを持って取り組むこと。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) 現代芸術について 社会の中での表現行為 第 2 回 (講義) 絵画と非絵画 第 3 回 (講義) 抽象表現主義 1 第 4 回 (演習) 抽象表現主義 2 (制作体験) 第 5 回 (講義) コンセプチュアルアート 概念芸術 1 第 6 回 (演習) コンセプチュアルアート 概念芸術 2 (制作体験) 第 7 回 (講義) ミニマリズム 第 8 回 (講義) ランドアート 第 9 回 (講義) ポップアート 1 第 10 回 (演習) ポップアート 2 (制作体験) 第 11 回 (講義) ニューペインティング、グラフィティアート 第 12 回 (講義) 美術館×国際展×パブリックアート 第 13 回 (講義) デートコースを考えよう 第 14 回 (講義) J 回帰 スーパーフラット 第 15 回 (講義) アールブリュット ※提出された課題については、授業内で解説することでフィードバックする。 ※但し、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRAL2005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95220			
科目	9522 ボランティア論			授業種別	週間授業			
科目責任者	葛谷 潔昭			単位数	1 単位			
担当教員	葛谷 潔昭							
授業概要	ボランティアは新しい時代を生きていくための行動様式の一つである。本講義では、福祉・医療・環境保護・まちづくり・子育て・国際協力等さまざまなボランティア活動とそれに関連した NPO（非営利組織）の活動を扱う。ボランティアの意義と実情を学ぶことを目標に、講義だけではなく、実際にボランティア活動をしている現場のリーダーたちの話を聞き、諸施設を訪問し、実際にボランティア活動を行う。これらを通じて、総合的に受講者のボランティア論・ボランティア観の基礎を作り出すことを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性					○	◎		
到達目標	1. わが国のボランティア活動の現状を説明できる 2. 自ら意欲的にボランティア活動に参加することができる 3. 人と人とのコミュニケーション技能・プレゼンテーションの表現力を高め、実践できる 4. 対人援助専門職としての「社会人基礎力」を身に付け、実践することができる 5. 組織の管理者として重要な要素、マネジメント能力、アントレプレナーシップ、ベンチャースピリットを理解し、説明することができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業内課題の取り組み度、および授業後課題提出状況、学外での課題（学外における実習（ボランティア活動）の書類提出、レポート課題含む）で評価。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50%	内容の適切性、分量、期限順守
学外実践活動レポート（事前・事後）	50%	活動の事実、内容の適切性、分量、期限順守

受講条件	履修条件はつけない
事前・事後学修（内容・時間）	1. テキストおよび配布資料を事前・事後に予復習する（合計 15 時間程度） 2. 講義によっては、事前課題・事後課題（個人ワーク、外部講師感想文、活動計画など）を行う（合計 10 時間程度） 3. ボランティア先について、調べ、連絡する（合計 4 時間程度） 4. ボランティア活動を行う（合計 3 時間以上） 5. ボランティア活動についてまとめる（合計 6 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）人間としての社会生活とボランティア活動（ボランティアをする側とされる側、当事者性とは） 第2回（講義）ボランティア活動の範囲、機能、理念、組織、社会的意義 第3回（演習・実技）分野別ボランティア活動（手話、防災、学習支援：学内講師）（講義） 第4回（講義・演習）分野別ボランティア活動（地域福祉・ボランティアコーディネート・青少年育成）（外部講師） 第5回（講義・演習）分野別ボランティア活動（フードバンク、こども食堂）（外部講師） 第6回（講義・演習・実技）分野別ボランティア活動（レクリエーション）（外部講師） 第7回（講義・演習）分野別ボランティア活動（医療的ケア・介護分野）（外部講師） 第8回（講義・演習）分野別ボランティア活動（子育て支援、子育て支援）（外部講師）、 第9回（講義・演習）分野別ボランティア活動（災害・自然保護・環境・まちづくり）（外部講師） 第10回（講義・演習）明るい社会づくり実践体験作文の案内（外部講師）、ボランティア実践活動の意義と計画・実際について 第11回（実習）ボランティア実践活動 第12回（実習）ボランティア実践活動 第13回（講義・演習）分野別ボランティア活動（障害児向けイベント、ホスピタルクラウン等）（外部講師・映像） 第14回（講義）近年の日本におけるボランティア活動・NPO 活動、地域活動の変遷と課題 第15回（演習）今後のボランティア活動と NPO の活動、地域の活動のあり方、ボランティア実践活動報告会 課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	NRDL1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95340			
科目	9534 情報リテラシーI			授業種別	週間授業			
科目責任者	江口 則和			単位数	1 単位			
担当教員	江口 則和							
授業概要	医療に関する多くの情報から、必要な情報を選択し、効率的に収集して編集し、発信できる能力を養う。大学内のIT環境の活用を通して、看護学の学修や研究等に必要な知識を修得し、医療情報の利活用に関する基本的な考え方を学ぶ。さらに、情報モラル（著作権、セキュリティ、SNS 利用におけるトラブルとリスク回避など）、情報の探索方法（文献検索、データベース検索、学修における生成 AI 利用の注意点など）、情報の整理と分析およびレポート・論文の書き方に関する基礎知識についても学ぶ。 授業では UNIVERSAL PASSPORT や Google Classroom の課題提出・授業資料・アンケートなどの機能等を活用し、双方向の授業を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○					
到達目標	1. タッチタイピングができる 2. データの管理ができる 3. 表や図などを含む、ビジュアルな文書作成ができる 4. インデントや段組みを用いたレイアウトができる 5. レポート、論文の作成ができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
30 時間アカデミック Office2021	杉本くみ子	実教出版	1,300	9784407359435	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行うこと。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回 2 時間 / 週程度行うこと。() 内に目安の時間を示す。 ・タイピングの練習をする。できれば毎日。(20 分程度) ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。(40 分程度) ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。(60 分程度) わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。その他、パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。

授業の実施方法と授業計画	第 01 回 (講義・演習) はじめに: Windows の基本操作、Google Classroom の基本操作、タッチタイピング 第 02 回 (講義・演習) 情報科学基礎: 情報の定義と特徴、生成系 AI 利用の注意点 第 03 回 (講義・演習) 情報科学基礎: 情報管理と情報モラル、セキュリティ、SNS の利用の注意点 第 04 回 (講義・演習) Word による文書作成: Word の基礎知識、文書の作成 第 05 回 (講義・演習) Word による文書作成: ページ設定と文書の印刷 第 06 回 (講義・演習) Word による文書作成: 表作成の基本操作 第 07 回 (講義・演習) Word による文書作成: 表作成演習 第 08 回 (講義・演習) Word による文書作成: 文書編集の基本操作 第 09 回 (講義・演習) Word による文書作成: 文書編集演習 第 10 回 (講義・演習) Word による文書作成: 表現力アップのための基本操作 第 11 回 (講義・演習) Word による文書作成: 表現力アップのための演習 第 12 回 (講義・演習) Word による文書作成: 長文作成演習(アウトライン、目次の作成) 第 13 回 (講義・演習) 情報の探索: 学術文献の検索・データベースの利活用 第 14 回 (講義・演習) 情報のアウトプット: 学術文献の引用 第 15 回 (講義・演習) 総合演習: レポート・論文の作成 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 提出課題等については、授業内あるいは Google Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。
--------------	---

ナンバリング	NRBL1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95341			
科目	9534 情報リテラシーI			授業種別	週間授業			
科目責任者	江口 則和			単位数	1 単位			
担当教員	江口 則和							
授業概要	医療に関する多くの情報から、必要な情報を選択し、効率的に収集して編集し、発信できる能力を養う。大学内のIT環境の活用を通して、看護学の学修や研究等に必要な知識を修得し、医療情報の利活用に関する基本的な考え方を学ぶ。さらに、情報モラル（著作権、セキュリティ、SNS 利用におけるトラブルとリスク回避など）、情報の探索方法（文献検索、データベース検索、学修における生成 AI 利用の注意点など）、情報の整理と分析およびレポート・論文の書き方に関する基礎知識についても学ぶ。授業では UNIVERSAL PASSPORT や Google Classroom の課題提出・授業資料・アンケートなどの機能等を活用し、双方向の授業を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○					
到達目標	1. タッチタイピングができる 2. データの管理ができる 3. 表や図などを含む、ビジュアルな文書作成ができる 4. インデントや段組みを用いたレイアウトができる 5. レポート、論文の作成ができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
30 時間アカデミック Office2021	杉本くみ子	実教出版	1,300	9784407359435	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行うこと。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回 2 時間 / 週程度行うこと。() 内に目安の時間を示す。 ・タイピングの練習をする。できれば毎日。(20 分程度) ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。(40 分程度) ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。(60 分程度) わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。その他、パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。

授業の実施方法と授業計画	第 01 回 (講義・演習) はじめに: Windows の基本操作、Google Classroom の基本操作、タッチタイピング 第 02 回 (講義・演習) 情報科学基礎: 情報の定義と特徴、生成系 AI 利用の注意点 第 03 回 (講義・演習) 情報科学基礎: 情報管理と情報モラル、セキュリティ、SNS の利用の注意点 第 04 回 (講義・演習) Word による文書作成: Word の基礎知識、文書の作成 第 05 回 (講義・演習) Word による文書作成: ページ設定と文書の印刷 第 06 回 (講義・演習) Word による文書作成: 表作成の基本操作 第 07 回 (講義・演習) Word による文書作成: 表作成演習 第 08 回 (講義・演習) Word による文書作成: 文書編集の基本操作 第 09 回 (講義・演習) Word による文書作成: 文書編集演習 第 10 回 (講義・演習) Word による文書作成: 表現力アップのための基本操作 第 11 回 (講義・演習) Word による文書作成: 表現力アップのための演習 第 12 回 (講義・演習) Word による文書作成: 長文作成演習(アウトライン、目次の作成) 第 13 回 (講義・演習) 情報の探索: 学術文献の検索・データベースの利活用 第 14 回 (講義・演習) 情報のアウトプット: 学術文献の引用 第 15 回 (講義・演習) 総合演習: レポート・論文の作成 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 提出課題等については、授業内あるいは Google Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。
--------------	---

ナンバリング	NRBL1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	95350			
科目	9535 情報リテラシーⅡ			授業種別	週間授業			
科目責任者	赤松 秀亮			単位数	1 単位			
担当教員	赤松 秀亮							
授業概要	大学での学修や研究に関連したアプリケーションソフトの実践的な操作を通して、情報倫理や個人情報管理、知的財産権、著作権等実際のデータの取り扱いに関する基礎的知識を学び、安全かつ効率的な資料作成ができる能力を養う。将来実践で役立つ情報リテラシーを総合的に身につける。さらに、著作権、セキュリティ、SNS 利用におけるトラブルとリスク回避など情報モラルに関する知識を深める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○					
到達目標	1. 効率良く、かつ、正確なデータ入力ができる 2. 適切な式・関数などを組み、目的にあった表計算ができる 3. 第 3 者を納得させることができる表やグラフが作成できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	演習課題、定期試験による総合評価を行う。 課題：30%、定期試験：70% 演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行う。	
評価項目	割合	評価基準
演習課題	30%	講義内容の理解度、完成度を確認する。Google Classroom を用いて課題を提出する。
定期試験	70%	実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回 1 時間程度行う。() 内に目安の時間を示す。 ・タイピングの練習をする。できれば毎日行う。(10 分程度) ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。(20 分程度) ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。(30 分程度) ※わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。 その他 ・パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。

授業の実施方法と授業計画	第 01 回 (講義・演習) Excel の基礎知識、データの入力・編集 第 02 回 (講義・演習) 表の作成Ⅰ：フォント、罫線、セルの塗りつぶし、セルの結合 第 03 回 (講義・演習) 表の作成Ⅱ：条件付き書式、列・行の非表示 第 04 回 (講義・演習) 情報セキュリティとモラル、著作権、SNS 利用におけるトラブルとリスク回避、表の印刷、セルの参照方法 第 05 回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅰ：関数の入力方法、基本の関数、順位、条件 第 06 回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅱ：条件で集計、検索、端数処理 第 07 回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅲ：エラー回避、日付 第 08 回 (演習) 関数の活用Ⅰ 第 09 回 (演習) 関数の活用Ⅱ 第 10 回 (演習) 関数の活用Ⅲ 第 11 回 (講義・演習) グラフの作成：棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフグラフ、複合グラフグラフ、図形の作成 第 12 回 (演習) いろいろなグラフの作成Ⅰ 第 13 回 (演習) いろいろなグラフの作成Ⅱ 第 14 回 (講義・演習) データベース機能：並び替、抽出 第 15 回 (講義・演習) ピボットテーブル・マクロ ※課題(試験やレポート等)については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※学生の理解度や要望により授業計画を変更することもあります。
--------------	--

ナンバリング	NREL1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	95351			
科目	9535 情報リテラシーⅡ			授業種別	週間授業			
科目責任者	赤松 秀亮			単位数	1 単位			
担当教員	赤松 秀亮							
授業概要	大学での学修や研究に関連したアプリケーションソフトの実践的な操作を通して、情報倫理や個人情報管理、知的財産権、著作権等実際のデータの取り扱いに関する基礎的知識を学び、安全かつ効率的な資料作成ができる能力を養う。将来実践で役立つ情報リテラシーを総合的に身につける。さらに、著作権、セキュリティ、SNS 利用におけるトラブルとリスク回避など情報モラルに関する知識を深める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○					
到達目標	1. 効率良く、かつ、正確なデータ入力ができる 2. 適切な式・関数などを組み、目的にあった表計算ができる 3. 第 3 者を納得させることができる表やグラフが作成できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	演習課題、定期試験による総合評価を行う。 課題：30%、定期試験：70% 演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行う。	
評価項目	割合	評価基準
演習課題	30%	講義内容の理解度、完成度を確認する。Google Classroom を用いて課題を提出する。
定期試験	70%	実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回 1 時間程度行う。() 内に目安の時間を示す。 ・タイピングの練習をする。できれば毎日行う。(10 分程度) ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。(20 分程度) ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。(30 分程度) ※わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。 その他 ・パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。

授業の実施方法と授業計画	第 01 回 (講義・演習) Excel の基礎知識、データの入力・編集 第 02 回 (講義・演習) 表の作成Ⅰ：フォント、罫線、セルの塗りつぶし、セルの結合 第 03 回 (講義・演習) 表の作成Ⅱ：条件付き書式、列・行の非表示 第 04 回 (講義・演習) 情報セキュリティとモラル、著作権、SNS 利用におけるトラブルとリスク回避、表の印刷、セルの参照方法 第 05 回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅰ：関数の入力方法、基本の関数、順位、条件 第 06 回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅱ：条件で集計、検索、端数処理 第 07 回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅲ：エラー回避、日付 第 08 回 (演習) 関数の活用Ⅰ 第 09 回 (演習) 関数の活用Ⅱ 第 10 回 (演習) 関数の活用Ⅲ 第 11 回 (講義・演習) グラフの作成：棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフグラフ、複合グラフグラフ、図形の作成 第 12 回 (演習) いろいろなグラフの作成Ⅰ 第 13 回 (演習) いろいろなグラフの作成Ⅱ 第 14 回 (講義・演習) データベース機能：並び替、抽出 第 15 回 (講義・演習) ピボットテーブル・マクロ ※課題(試験やレポート等)については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※学生の理解度や要望により授業計画を変更することもあります。
--------------	--

ナンバリング	NREL1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード		95380		
科目	9538 プレゼンテーション技法			授業種別		週間授業		
科目責任者	大野 晴己			単位数		2 単位		
担当教員	大野 晴己							
授業概要	患者やご家族の立場にたって、上手な伝え方や相手の考えていることを引き出す聴き方、質問、問いかけ方法から相手に行動をしてもらうための「プレゼンテーション技術」の基本を習得する。患者、家族の係わり方や説明方法、自立支援などの対応ポイントなど、的確な把握と伝達能力を必要になるため状況や場面にあわせたコミュニケーション技法を学ぶ。また、実習の発表などにわかりやすいパワーポイントの資料の作成手順や構成、図表、知的財産権などを学び、効果的な発表方法も習得する							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎				△			
到達目標	自分の考えを、場面や相手の状況や理解にあわせて的確に伝えることができることを目標とする。また、自分の考えを企画書として作成し、論理的思考力を養うことができるようにする。 1、患者や家族などへ効果的な伝え方ができるようになる 2、実習へ行った際の応対ができるようになる 3、研究発表会などの資料作成や効果的な話し方ができるようになる 4、円滑な自己表現方法が習得できるようになる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	1、プレゼンテーション力確認の小テスト 3 回 2、パワポ資料の提出と発表 3、貢献度	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	履修条件はつけない	
事前・事後学修(内容・時間)	・毎授業前に指定個所まで配布テキストを読んで理解を深めておくこと(毎回 /15 分程度) ・授業内で行った個人ワーク、グループワークの学びや気づきをノートに書いておくこと(2 回～ 14 回 /30 分程度) ・プレゼンシート提出における自分の課題テーマは、事前調査と研究を念入りにしておくこと(8 回～ 14 回 /60 分程度) ・入院及び通院患者が抱える問題や課題を調べリストアップしてくる(1 回～ 15 回 /60 分程度) ・事後学習は、テーマについての情報収集をして記述してまとめる(2 回～ 14 回 /15 分程度)	

授業の実施方法と授業計画	・授業の実施方法 1、配布テキスト(配布データ)講義(説明) 2、自己理解を深める「自己診断チェック表」を用いる 3、自己ワークで定着を促す 4、グループワークで他者理解を深める 5、発表、発表などの質問 6、フィードバック ふりかえり、意見共有 など ・授業計画 第 1 回(講義・演習) プレゼンテーション概要 第 2 回(講義・演習) 伝える技術と効果的な表現 第 3 回(講義・演習) 自己認識と他者認識 第 4 回(講義・演習) 信頼関係をつくる(ラポールテクニック) 第 5 回(講義・演習) 伝わる話し方、聴き方 第 6 回(講義・演習) 上手く発表できる話し方 第 7 回(講義・演習) 相手を行動変容させる応対力 第 8 回(講義・演習) 企画書・提案書を書くコツ 第 9 回(講義・演習) 市場動向・事業計画・収支計画の作成方法 第 10 回(演習) プレゼン企画書作成①プレゼン課題テーマについて説明。 入院患者、通院患者、患者家族、看護師、地域医療などの対象と対象者の課題解決や有効性のあるプランを企画書にまとめる 第 11 回(演習) プレゼン企画書作成②テーマ決め、パワーポイントを使う効果と基本の使い方 第 12 回(演習) プレゼン企画書作成③各自作成、ストーリーテリング 第 13 回(演習) プレゼン企画書作成④各自作成、個別確認 第 14 回(演習) プレゼン企画書作成⑤各自作成、発表原稿の作成方法 第 15 回(発表会) プレゼンテーション発表会 (発表会の方法) ①人数によって異なるが、4 名 1 グループとして個々に 5 分間発表をする ② 10 の審査項目から、全員審査をする ※審査用紙は事前に配布 ③審査用紙を集計後、グループで 1 名を選定 ④発表後は、互いにフィードバックや意見交換を行う ⑤プレゼンシートは指定のフォルダに全員保存し提出する ・フィードバック方法 ・プランに対して個別に情報提供とフィードバックをする
--------------	---

ナンバリング	NREL1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95390			
科目	9539 英語Ⅰ			授業種別	週間授業			
科目責任者	船井 純平			単位数	1 単位			
担当教員	船井 純平							
授業概要	大学生に必要な基礎英語（基礎文法、語法、語彙、表現）を、ハンドアウトとオーディオ補助教材等を通して段階的に学習する。単にテキストの解説をしたり、演習問題に取り組みさせて言葉習得させるだけではなく、様々な風俗習慣や民族性をもつ人々の言動を通して、言語と思想との関わりを理解し、母国語を含めた言語一般に対する興味や国際感覚を養う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎					○		
到達目標	①基礎的な文法事項を理解し、辞書を用いて英文を正しく読むことができる。 ②音の変化を理解し、英語で話されているものを正しく聞くことができる。 ③英語圏の文化を理解し、説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	ハンドアウトを配布する。参考書及び参考文献については、適宜指示する。
------------------------------	------------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、期末試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験により理解度を確認する。
期末試験	40%	筆記試験により理解度を確認する。
授業中の課題	20%	授業中の課題への取り組みを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に指定された事前学修(長文の単語を調べて、意味が分かるようにする)を行うこと(毎回1時間程度) 毎授業後に学修した内容について復習すること(毎回1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	★中間試験・期末試験は採点后速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1 回目 (講義) 授業ガイダンス 2 回目 (講義・演習) 口語表現(日常生活、食事、学校、交通) 3 回目 (講義・演習) 新聞・ニュース記事(海外事情、文化) 4 回目 (講義・演習) 日常会話リスニング / コロケーション 5 回目 (講義・演習) 英文読解(Wikipedia) / 口語表現(比喩) 6 回目 (講義・演習) 英語の歌リスニング ① 7 回目 (講義・演習) リスニング(situation comedy ①) 8 回目 (演習) 中間まとめ 9 回目 (講義・演習) リスニング(映画① 視聴) 10 回目 (講義・演習) リスニング(映画② リスニング・表現) 11 回目 (講義・演習) 口語表現(ビジネス、健康) 12 回目 (講義・演習) リスニング(situation comedy ②) 13 回目 (講義・演習) 英語の歌リスニング② 14 回目 (講義・演習) リスニング(situation comedy ③) 15 回目(演習) 期末まとめ ＊ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。
--------------	--

ナンバリング	NRCL1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95391			
科目	9539 英語 I			授業種別	週間授業			
科目責任者	船井 純平			単位数	1 単位			
担当教員	船井 純平							
授業概要	大学生に必要な基礎英語（基礎文法、語法、語彙、表現）を、ハンドアウトとオーディオ補助教材等を通して段階的に学習する。単にテキストの解説をしたり、演習問題に取り組みさせて言葉習得させるだけではなく、様々な風俗習慣や民族性をもつ人々の言動を通して、言語と思想との関わりを理解し、母国語を含めた言語一般に対する興味や国際感覚を養う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎					○		
到達目標	①基礎的な文法事項を理解し、辞書を用いて英文を正しく読むことができる。 ②音の変化を理解し、英語で話されているものを正しく聞くことができる。 ③英語圏の文化を理解し、説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	ハンドアウトを配布する。参考書及び参考文献については、適宜指示する。
------------------------------	------------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験（40％）、期末試験（40％）、授業中の課題（20％）をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40％	筆記試験により理解度を確認する。
期末試験	40％	筆記試験により理解度を確認する。
授業中の課題	20％	授業中の課題への取り組みを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定された事前学修（長文の単語を調べて、意味が分かるようにする）を行うこと（毎回1時間程度） 毎授業後に学修した内容について復習すること（毎回1時間程度）

授業の実施方法と授業計画	★中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1 回目（講義） 授業ガイダンス 2 回目（講義・演習）口語表現（日常生活、食事、学校、交通） 3 回目（講義・演習）新聞・ニュース記事（海外事情、文化） 4 回目（講義・演習）日常会話リスニング / コロケーション 5 回目（講義・演習）英文読解（Wikipedia） / 口語表現（比喩） 6 回目（講義・演習）英語の歌リスニング ① 7 回目（講義・演習）リスニング（situation comedy ①） 8 回目（演習） 中間まとめ 9 回目（講義・演習）リスニング（映画① 視聴） 10 回目（講義・演習）リスニング（映画② リスニング・表現） 11 回目（講義・演習）口語表現（ビジネス、健康） 12 回目（講義・演習）リスニング（situation comedy ②） 13 回目（講義・演習）英語の歌リスニング② 14 回目（講義・演習）リスニング（situation comedy ③） 15 回目（演習） 期末まとめ ★ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。
--------------	--

ナンバリング	NRCL1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	95400		
科目	9540 英語Ⅱ			授業種別	週間授業		
科目責任者	船井 純平			単位数	2 単位		
担当教員	船井 純平						
授業概要	大学生に必要な基礎的な英語を、ハンドアウトとオーディオ教材を通して段階的に学習する。言葉の学習のみならず、テキストやビデオに登場する様々な人々の言動や背景を通して外国事情を理解し、国際感覚を養う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
ディプロマポリシーとの関連性	◎					○	
到達目標	①発展的な文法事項を理解し、様々なジャンルの英文を正しく読むことができる。 ②実際に英語圏で話されている英語を聞いて、内容を正しく聞き取ることができる。 ③英語圏の文化と英語の関わりを理解し、説明できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	ハンドアウトを配布する。参考書及び参考文献については、適宜指示する。
------------------------------	------------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、定期試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	受講条件は特になし。
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に指定された事前学習(長文の単語を調べて、意味が分かるようにする)を行うこと(毎回1.5時間程度) 毎授業後に学修した内容について復習すること(毎回1.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	★中間試験・期末試験は採点后速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1回目(講義) ガイダンス 2回目(講義・演習) 英語の歌リスニング① 3回目(講義・演習) リーディング(英語の看板、漫画) 4回目(講義・演習) リーディング(Snack review) / 風刺画 5回目(講義・演習) リスニング(situation comedy ①) 6回目(講義・演習) リーディング(犬種) 7回目(講義・演習) 英語の歌リスニング② 8回目(演習) 中間まとめ 9回目(講義・演習) リスニング(映画③ 視聴) 10回目(講義・演習) リスニング(映画④ リスニング・表現) 11回目(講義・演習) ライティング / 日常表現 12回目(講義・演習) 英語の歌リスニング③ 13回目(講義・演習) 語彙力診断 / 口語表現(情報、通信) 14回目(講義・演習) 接頭辞・接尾辞 15回目(演習) 期末まとめ ★ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。 ★授業中の課題について、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う
--------------	--

ナンバリング	NRFL1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	95410
科目	9541 英語コミュニケーションI	授業種別	週間授業
科目責任者	Stewart Gale	単位数	2 単位
担当教員	Stewart Gale、船井 純平		
授業概要	English conversation course. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3 DP4 DP5 DP6
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○
到達目標	Students will learn English useful for confidently communicating with people from other countries through a variety of topics.		

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	Classwork 30% Final exam 70%	
評価項目	割合	評価基準
Classwork	30%	Pronunciation, Attendance, Participation
Final exam	70%	Paper test

受講条件	Students should bring an English dictionary.
事前・事後学修 (内容・時間)	Students should review the English grammar they learned at Junior High School and High School, such as how to form questions and the appropriate usage of tenses (present / past / future etc.). Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.

授業の実施方法と授業計画	Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles. 1 - (Lecture, drill and pairwork) Introductions and pair interviews. 2 - (Lecture, drill and pairwork) Useful classroom English questions and expressions and getting to know your partner. 3 - (Lecture, drill and pairwork) Sport and leisure. 4 - (Lecture, drill and pairwork) Shopping and big numbers. 5 - (Lecture, drill and pairwork) Food. 6 - Documentary video and discussion. 7 - (Lecture, drill and pairwork) Travel. 8 - (Lecture, drill and pairwork) Movies and television. 9 - (Pairwork) Quiz. 10 - (Lecture, drill and pairwork) Health. 11 - Documentary video and discussion. 12 - (Lecture, drill and pairwork) Relationships and marriage. 13 - (Lecture, drill and pairwork) Music and books and the passive tense. 14 - (Lecture, drill and pairwork) Japanese culture. 15 - Review.
--------------	--

ナンバリング	NRCL1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	95420
科目	9542 英語コミュニケーションⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	Stewart Gale	単位数	2 単位
担当教員	Stewart Gale、船井 純平		
授業概要	English conversation course. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3 DP4 DP5 DP6 DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎
到達目標	Students will learn English useful for confidently communicating with people from other countries through a variety of topics with an added focus on multicultural understanding.		

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	No textbook. Class materials will be provided.
-------------------------------	--

成績評価	Classwork 30% Final exam 70%	
評価項目	割合	評価基準
Classwork	30%	Pronunciation, Attendance, Participation
Final exam	70%	Paper test

受講条件	Pre-requisite - pass English Communication 1. Students should bring an English dictionary.
事前・事後学修 (内容・時間)	Students should review the material studied in English Communication 1. Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.

授業の実施方法と授業計画	Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles. 1 - (Lecture, drill and pairwork) Self introductions and pair interviews. 2 - (Lecture, drill and pairwork) Differences between British English and American English. 3 - (Lecture, drill and pairwork) Discuss high school memories and compare with high school life in the UK. 4 - Documentary video and discussion. 5 - (Lecture, drill and pairwork) Manners in different countries and taboo questions. 6 - (Lecture, drill and pairwork) Examine the UK and the UK's culture. 7 - (Lecture, drill and pairwork) Examine the USA and American culture. 8 - (Lecture, drill and pairwork) Discuss technology and invent a new product. 9 - Documentary video and discussion. 10 - (Pairwork) Quiz. 11 - (Lecture, drill and pairwork) Money, big numbers, foreign currencies and discussion about shopping. 12 - (Lecture, drill and pairwork) Food. 13 - (Lecture, drill and pairwork) Music. 14 - (Lecture, drill and pairwork) Travel and modes of transport. 15 - Review.
--------------	---

ナンバリング	NRFL1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	95430
科目	9543 英語コミュニケーションⅢ	授業種別	週間授業
科目責任者	Stewart Gale	単位数	2 単位
担当教員	Stewart Gale		
授業概要	English conversation course. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3 DP4 DP5 DP6 DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎
到達目標	Students will use the English learned and practiced in English Communication 1 and 2 to talk about a more complex range of topics. A large focus will be placed on multicultural understanding.		

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	No textbook. Class materials will be provided.
-------------------------------	--

成績評価	Classwork 30% Final exam 70%	
評価項目	割合	評価基準
Classwork	30%	Pronunciation, Attendance, Participation
Final exam	70%	Paper test

受講条件	Pre-requisite - pass English Communication 1 and 2. Students should bring an English dictionary.
事前・事後学修 (内容・時間)	Students should review the material studied in English Communication 2. Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.

授業の実施方法と授業計画	Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles. 1 - (Lecture, drill and pairwork) Self introductions and pair interviews. 2 - (Lecture, drill and pairwork) Scotland, Scottish schools and how they compare to Japanese schools. 3 - (Lecture, drill and pairwork) Fashion and trends. 4 - Documentary video and discussion. 5 - (Lecture, drill and pairwork) Attitudes to money and spending. 6 - (Lecture, drill and pairwork) Food and recipes. 7 - (Solowork) Using the Internet in English. 8 - (Lecture, drill and pairwork) Examine Australia and Australian culture. 9 - Documentary video and discussion. 10 - (Pairwork) Quiz. 11 - (Lecture, drill and pairwork) Looking at various life and social situations and how you would deal with them. 12 - (Lecture, drill and pairwork) Dating and marriage. 13 - (Lecture, drill and pairwork) Health and lifestyle. 14 - (Lecture, drill and pairwork) Tourism and culture in Japan. 15 - Review.
--------------	--

ナンバリング	NRAL2004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	95440						
科目	9544 ドイツ語入門I	授業種別	週間授業						
科目責任者	加藤 皓士	単位数	2 単位						
担当教員	加藤 皓士								
授業概要	この授業では、自己紹介、買い物、道を尋ねるなどの具体的な場面でドイツ語での会話を学びながら、簡単な会話ができるようにし、基礎的なドイツ語の初歩的なレベルの文法について習得することを目的とする。 あわせてドイツという国や、ドイツ人の暮らしや生き方についても見ていくことで多様な文化のあり方についても学ぶ。								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6			
ディプロマポリシーとの関連性	◎					○			
到達目標	① ドイツ語らしい発音ができる。 ② ドイツ語の簡単なあいさつができる。 ③ ドイツ語で数字が言える。 ④ 自分のことや旅行で使える表現がドイツ語で言える。 ⑤ ドイツ人のライフスタイルを知り、日本人としての教養を深める。								

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	点数の換算の仕方についてはガイダンスでお話しします。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	
授業内での小テスト、中間テスト(1回)	30%	

受講条件	
事前・事後学修(内容・時間)	毎回、前回の授業で学んだことを確認するための小テストを実施するので、授業後にテキストやノート、プリント類を見直してください(90分×15回)。

授業の実施方法と授業計画	この授業では、中学1年生で学ぶ英語レベルのドイツ語を学びます。ですから、高等学校の英語でつまづいた人でも、大丈夫です。 ドイツ語はルールが少し多いですが、英語よりも規則的で読み方も簡単です。 テキストは必ず購入しておくこと。テキストのない人は、出席および授業参加点がゼロになります。 1回【講義】ガイダンス 2回【講義】アルファベットとドイツ語の読み方 3回【講義】ドイツ語のあいさつと数字、曜日、月の読み方 4回【講義】人称代名詞・人称変化 5回【講義】平叙文と疑問文 自己紹介 6回【講義】定冠詞・不定冠詞 7回【講義】定冠詞・不定冠詞・否定 文章読解 8回【講義】人称代名詞の格変化 9回【講義】複数形 10回【講義】復習 11回【講義】復習、中間テスト 12回【講義】前置詞・前置詞の格支配 簡単に書いてみよう 13回【講義】前置詞・前置詞の格支配 14回【講義】所有冠詞 15回【講義】半期の振り返りと補足事項 ※皆さんの様子を見ながらゆっくりと授業は進みます。 ※小テストを毎回行い、皆さんが理解できなかったところを確認し、授業中に復習します。 ※受講生の習熟度により授業計画を若干変更する可能性があります。
--------------	---

ナンバリング	NRDL1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95460			
科目	9546 中国語入門I			授業種別	週間授業			
科目責任者	石田 卓生			単位数	2 単位			
担当教員	石田 卓生							
授業概要	この授業では、中国語の基礎的な能力を習得します。正確な中国語の発音ができるように学習をすすめつつ、基本的な文法事項を習得することによって中国語の基礎的なコミュニケーション能力を身に付けます。また、中国の文化や習慣を知ることによって、幅広い教養やグローバル社会で活動するための基礎的な知識を修得します。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎					○		
到達目標	日本と地理的に近く、ビジネス社会において今後ますます重要な存在になっていくと考えられる中国語圏の人々とコミュニケーションを図るための語学力を身につけるために到達目標を以下のようにします。 1) 正確な中国語の発音ができる 2) 中国語のローマ字発音表記を読むことができる 3) 教科書の文章を読解することができる 4) 中国語で自己紹介の文章を書くことができる 5) 中国語で自己紹介のスピーチをすることができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
学ビテ時二之ヲ習ウ中国語入門 新訂	相原 茂 他 著	好文出版	2400	9784872201048	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験、小テスト、課題によって授業の到達目標をどの程度クリアしたのかを評価します。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。また、不誠実な学習態度は減点の対象となります。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験によって学習成果を評価します。
小テスト	20%	筆記試験およびテキスト朗読によって学習成果を評価します。
課題	20%	作成された課題によって学習成果を評価します。

受講条件	選択科目
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修:各回のテキストの単語・語句に目を通し、さらに発音をして予習をしておくこと(第2～15回:90分) 事後学修:各回のオンラインテストを受験し、分からなかった問題については復習をすること。さらに学習した文章を音読し、自然な発話ができるように練習すること(第1～15回:90分)

授業の実施方法と授業計画	各回の授業後に課題としてオンラインテストを行う。オンラインテストについて次回授業内で講評を行うことによって当該回の内容についてフィードバックをすると共に随時受講生からの質問に回答する。 第1回 ガイダンス 第1課声調、単母音(講義・演習) 第2回 第1課単母音、第2課複母音(講義・演習) 第3回 第2課子音(講義・演習) 第4回 第3課鼻音(講義・演習) 第5回 発音のまとめ 第4課声調の変化、組み合わせ(講義・演習) 第6回 第5課人称代詞、名前の言い方(講義・演習) 第7回 第5課復習・練習(講義・演習) 第8回 第6課動詞“是”、諸否疑問文、省略疑問文(講義・演習) 第9回 第6課復習・練習(講義・演習) 第10回 第7課動詞述語文、動詞+目的語、形容詞述語文(講義・演習) 第11回 第7課復習・練習(講義・演習) 第12回 第8課指示代詞、疑問詞疑問文、連体修飾語、存在を表す“有”、名詞の場所化(講義・演習) 第13回 第8課復習・練習(講義・演習) 第14回 第5～6課のまとめ(講義・演習) 第15回 第7～8課のまとめ(講義・演習) ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。
--------------	---

ナンバリング	BAAL1017
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95480			
科目	9548 看護・医療英語			授業種別	週間授業			
科目責任者	船井 純平			単位数	1 単位			
担当教員	船井 純平							
授業概要		グローバル化の波は医療の世界にも押し寄せ、臨地場面で看護職に求められる英語力は年々高くなっている。また看護の質の向上という点からも世界と交流し情報交換していくことは重要である。そのため、本科目では特に臨床で活用できる英語力を養うことを目標とする。英文講読をするための能力、医療従事者として外国人と英語でコミュニケーションするための能力を養う。具体的には、看護関係の英文の要約を行うとともに、医療現場を扱ったビデオや CD を教材として用い、医療英語の表現法を修得する。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			○					◎
到達目標		①医療、看護に関する英語語彙を理解し、説明できる。 ②医療現場で行われる会話文を正しく聞き取ることができる。 ③医療、看護に関する英文を正しく読むことができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、定期試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目 特になし
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に教科書の指定箇所を予習(Ⅲ長文の意味を調べて、意味が分かるようにする)しておくこと(毎回1時間程度) 毎授業後に学習した内容について復習すること(毎回1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	★中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1回(講義) ガイダンス 2回(講義・演習) Chapter 1(ポリオ等) 3回(講義・演習) Chapter 2(処方箋等) 4回(講義・演習) Chapter 3(花粉症等) 5回(講義・演習) Chapter 4(薬剤等)、DVD(リスニング) 6回(講義・演習) Chapter 5(不眠症等) 7回(講義・演習) Chapter 7(SARS 等) 8回(演習) 中間まとめ 9回(講義・演習) Chapter 8(糖尿病等)、DVD(リスニング) 10回(講義・演習) Chapter 9(動脈系疾患等) 11回(講義・演習) Chapter 10(アメリカの医療保険等) 12回(講義・演習) Chapter 11(食物アレルギー等) 13回(講義・演習) Chapter 12(CTS 等) 14回(講義・演習) Chapter13(更年期等) 15回(演習) 期末まとめ ★ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更する場合がある
--------------	--

ナンバリング	NRBL1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95481			
科目	9548 看護・医療英語			授業種別	週間授業			
科目責任者	船井 純平			単位数	1 単位			
担当教員	船井 純平							
授業概要		グローバル化の波は医療の世界にも押し寄せ、臨地場面で看護職に求められる英語力は年々高くなっている。また看護の質の向上という点からも世界と交流し情報交換していくことは重要である。そのため、本科目では特に臨床で活用できる英語力を養うことを目標とする。英文講読をするための能力、医療従事者として外国人と英語でコミュニケーションするための能力を養う。具体的には、看護関係の英文の要約を行うとともに、医療現場を扱ったビデオや CD を教材として用い、医療英語の表現法を修得する。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			○					◎
到達目標		①医療、看護に関する英語語彙を理解し、説明できる。 ②医療現場で行われる会話文を正しく聞き取ることができる。 ③医療、看護に関する英文を正しく読むことができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、定期試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目 特になし
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に教科書の指定箇所を予習(Ⅲ長文の意味を調べて、意味が分かるようにする)しておくこと(毎回1時間程度) 毎授業後に学習した内容について復習すること(毎回1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	★中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1回(講義) ガイダンス 2回(講義・演習) Chapter 1(ポリオ等) 3回(講義・演習) Chapter 2(処方箋等) 4回(講義・演習) Chapter 3(花粉症等) 5回(講義・演習) Chapter 4(薬剤等)、DVD(リスニング) 6回(講義・演習) Chapter 5(不眠症等) 7回(講義・演習) Chapter 7(SARS 等) 8回(演習) 中間まとめ 9回(講義・演習) Chapter 8(糖尿病等)、DVD(リスニング) 10回(講義・演習) Chapter 9(動脈系疾患等) 11回(講義・演習) Chapter 10(アメリカの医療保険等) 12回(講義・演習) Chapter 11(食物アレルギー等) 13回(講義・演習) Chapter 12(CTS 等) 14回(講義・演習) Chapter13(更年期等) 15回(演習) 期末まとめ ★ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更する場合がある
--------------	--

ナンバリング	NRBL1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	95510			
科目	9551 スポーツI			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 康博			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 康博							
授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎				△			
到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組めること。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	30%	スポーツ種目別に教員が定める評価基準に基づいて実施する
試合成績	40%	スポーツ種目別に教員が定める試合成績を点数化して評価する
課題レポート	30%	レポート提出の有無及びレポート内容を教員が定める評価基準に基づいて評価します。

受講条件	特になし
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと(第2～15回/120分程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス 第2回 (実技) ソフトバレーボール① 基礎技術 第3回 (実技) ソフトバレーボール② ゲーム 第4回 (実技) ソフトバレーボール③ゲーム 第5回 (実技) ソフトバレーボール④ゲーム・実技試験 第6回 (実技) バドミントン①基礎技術 第7回 (実技) バドミントン②ゲーム 第8回 (実技) バドミントン③ゲーム 第9回 (実技) バドミントン④ゲーム 第10回 (実技) バドミントン⑤ゲーム 第11回 (実技) 卓球①基礎技術 第12回 (実技) 卓球②ゲーム 第13回 (実技) 卓球③ゲーム 第14回 (実技) 卓球④ゲーム 第15回 (実技) 卓球⑤ゲーム 学生からの質問やフィードバックの要望には担当教員が授業後に対応する。 ※履修学生数によって種目を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	BAAL2032
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	95511			
科目	9551 スポーツI			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 康博			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 康博							
授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎				△			
到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組めること。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	30%	スポーツ種目別に教員が定める評価基準に基づいて実施する
試合成績	40%	スポーツ種目別に教員が定める試合成績を点数化して評価する
課題レポート	30%	レポート提出の有無及びレポート内容を教員が定める評価基準に基づいて評価します。

受講条件	特になし
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと(第2～15回/120分程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス 第2回 (実技) ソフトバレーボール① 基礎技術 第3回 (実技) ソフトバレーボール② ゲーム 第4回 (実技) ソフトバレーボール③ゲーム 第5回 (実技) ソフトバレーボール④ゲーム・実技試験 第6回 (実技) バドミントン①基礎技術 第7回 (実技) バドミントン②ゲーム 第8回 (実技) バドミントン③ゲーム 第9回 (実技) バドミントン④ゲーム 第10回 (実技) バドミントン⑤ゲーム 第11回 (実技) 卓球①基礎技術 第12回 (実技) 卓球②ゲーム 第13回 (実技) 卓球③ゲーム 第14回 (実技) 卓球④ゲーム 第15回 (実技) 卓球⑤ゲーム 学生からの質問やフィードバックの要望には担当教員が授業後に対応する。 ※履修学生数によって種目を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	BAAL2032
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95520			
科目	9552 スポーツⅡ			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 康博			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 康博							
授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○			◎			
到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組めること。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	30%	スポーツ種目別に教員が定める評価基準に基づいて実施する
試合成績	40%	スポーツ種目別に教員が定める試合成績を点数化して評価する
課題レポート	30%	レポート提出の有無及びレポート内容を教員が定める評価基準に基づいて評価します。

受講条件	特になし。
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと(第2～15回/120分程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス 第2回 (実技) ソフトバレー① 基礎技術 第3回 (実技) ソフトバレー② 集団的プレー 第4回 (実技) ソフトバレー③ ゲーム・実技試験 第5回 (実技) バasketボール①基礎技術 第6回 (実技) バasketボール②集団的プレー 第7回 (実技) バasketボール③ゲーム 第8回 (実技) バasketボール④ゲーム・実技試験 第9回 (実技) フットサル①基礎技術 第10回 (実技) フットサル②集団的プレー 第11回 (実技) フットサル③ゲーム 第12回 (実技) フットサル④ゲーム・実技試験 第13回 (実技) 卓球①基礎技術 第14回 (実技) 卓球②ゲーム 第15回 (実技) 卓球③ゲーム 授業内で課題レポートの指示をする。 課題レポート提出後の個別のフィードバックはしません。 学生からの質問やフィードバックの要望には担当教員が授業後に対応する。 ※ただし、履修学生数によって種目を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	BAAL1021
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95521			
科目	9552 スポーツⅡ			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 康博			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 康博							
授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○			◎			
到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組めること。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	30%	スポーツ種目別に教員が定める評価基準に基づいて実施する
試合成績	40%	スポーツ種目別に教員が定める試合成績を点数化して評価する
課題レポート	30%	レポート提出の有無及びレポート内容を教員が定める評価基準に基づいて評価します。

受講条件	特になし。
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと(第2～15回/120分程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス 第2回 (実技) ソフトバレー① 基礎技術 第3回 (実技) ソフトバレー② 集団的プレー 第4回 (実技) ソフトバレー③ ゲーム・実技試験 第5回 (実技) バasketボール①基礎技術 第6回 (実技) バasketボール②集団的プレー 第7回 (実技) バasketボール③ゲーム 第8回 (実技) バasketボール④ゲーム・実技試験 第9回 (実技) フットサル①基礎技術 第10回 (実技) フットサル②集団的プレー 第11回 (実技) フットサル③ゲーム 第12回 (実技) フットサル④ゲーム・実技試験 第13回 (実技) 卓球①基礎技術 第14回 (実技) 卓球②ゲーム 第15回 (実技) 卓球③ゲーム 授業内で課題レポートの指示をする。 課題レポート提出後の個別のフィードバックはしません。 学生からの質問やフィードバックの要望には担当教員が授業後に対応する。 ※ただし、履修学生数によって種目を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	BAAL1021
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95550			
科目	9555 健康科学			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 知代			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 知代							
授業概要	健康は、それ自体が目的ではなく豊かな人生を過ごすための資源や力だと言われている。また、私たちの健康は、生物学的な要因だけではなく社会的要因によっても影響を受けている。必要なことは自分で健康を維持、増進したり回復したりして、動的に変化させられる力をつけることであり、私たちを取り巻く社会的要因や環境にも目を向けることである。自分や家族が取り巻く環境と、より良い関係を築きながら健康を維持・増進させ、QOL を高め充実した生活を送るための健康管理の考え方や実践方法について学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎				△			
到達目標	1. 私たちの健康は生物学的な要因、社会的な要因、私たちを取り巻く環境から影響を受けていることを述べることができる。 2. 生涯を通して QOL を向上させ充実した生活をおくることができるための健康管理に関する基礎的知識を身につけ、その実践方法を考察できる。 3. 他者に修得した知識を的確に伝えることができる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
これからのヘルスリテラシー 健康を決める力	中山 和弘	講談社サイエンティフィック	2,600	9784065301067	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・授業内容に合わせて資料を配布する。
-------------------------------	--------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。小テスト、課題レポートで総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	70%	自分の生活の中での健康課題について、根拠資料を用いて考察する。評価基準はループブックで示す。
小テスト	30%	講義内容の理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	① 授業内で提示する内容について事前に調べて授業に参加すること (30 分程度)。 ② 授業後には、事前学修、授業を通してテーマを深める内容を追加する (30 分程度)。

授業の実施方法と授業計画	事前・事後課題に関しては授業の中でフィードバックを行う。小テスト、課題レポートについては、コメントを返す。 第 1 回 (講義) 健康づくり：ヘルスプロモーションについて 悪い生活習慣は個人の責任か 健康の社会的決定要因について 第 2 回 (講義とグループディスカッション) 健康管理① たばこ対策 第 3 回 (講義) 健康格差について なぜ健康格差が生じるのだろうか 社会的公正について 第 4 回 (講義) 健康を決める力：ヘルスリテラシーについて 健康情報を活用して適切な意思決定をするための考え方や方法について 第 5 回 (講義とグループディスカッション) 健康管理② 子宮頸がんワクチンの話題について 第 6 回 (講義) 健康日本 21 (第三次) について 「誰一人取り残さない健康づくり」とは 第 7 回 (講義とグループディスカッション) 健康管理③ 自分の睡眠について 第 8 回 (講義とグループディスカッション) 健康管理④ 自分の食生活について ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRBL1007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	95600
科目	9560 東三河創造入門	授業種別	週間授業
科目責任者	八木 幸一	単位数	2 単位
担当教員	八木 幸一、石上 早苗、赤松 秀亮		

授業概要	本学の教育理念は「地域社会との連携のもとに、次世代を担うための職能教育を行い、その過程において人間的な成長を促す」ことである。本学が位置する東三河地域についてどのような地域資源があり、どのような地域課題があるのかを学修する。その中から自らテーマを選び、グループのメンバーとともに、実際に地域に足を運び、生きた情報を収集する。そして、この地域の未来を創造するために必要な課題について自らの考えをまとめる。その際、自分が所属する学科以外のグループメンバーと協同作業を行うことで、専門知識のみにとらわれない幅広い視点から課題を検討する力を修得する。 ＊この科目は当該授業内容に関する実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性					○		◎	
到達目標	1. 東三河地域の特徴や地域で行われている活動を調べ、自分たちが取り組む活動の根拠となる地域課題を検討することができる。 2. 検討した地域課題に対して、解決のために行われている実際の活動に参加するための計画を立てることができる。 3. 実際に活動に参加し、活動の内容をまとめることができる。 4. 一連のプロセスを通して、未来を想像するための必要な地域課題について考察することができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	活動計画書と中間報告プレゼンテーション、最終発表プレゼンテーションをルーブリックを用いて評価する。なお、遅刻や早退、劣悪な授業態度は減点対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
活動計画書	20%	
中間報告プレゼンテーション	30%	
最終発表プレゼンテーション	50%	

受講条件	受講条件はありません。	
事前・事後学修(内容・時間)	・オリエンテーションで配布された資料を読み返し、発表・議論・各種調査内容をイメージし、各回の活動内容や運営について主体的に検討すること(第1～6回/60分程度) ・検討した事項をグループメンバーと共有できるよう資料としてまとめるとともに、メンバー間でその内容について検討すること(第1～6回/60分程度) ・グループメンバーと協力して発表資料の作成やフィールドワークを適宜実践すること(第7～15回/120分程度)	

授業の実施方法と授業計画	1 回目 : (講義・演習) オリエンテーションとテーマ紹介 2・3 回目 : (講義・演習) プロジェクトグループ毎に活動計画書の作成 4～6 回目 : (講義・演習) テーマに関する調べ学習(プロジェクト学修の準備) 7 回目 : (演習) プロジェクトの中間報告 8～10 回目 : (演習) プロジェクト活動(フィールドワーク) 11～14 回目 : (講義・演習) プロジェクト活動に対するまとめ 15 回目 : (講義・演習) プロジェクトの最終発表 ※ 8～14 回まではグループ毎に時間配分を調整できる。 ※ 活動計画書や中間プレゼンテーションおよび最終発表の内容について、フィードバックを行う。またグループ学習の内容についても授業時間内で適宜フィードバックを行う。 ※ 受講生の習得度に応じて義授計画を変更することもあり得る。	
--------------	---	--

ナンバリング	NRBL2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード		95190		
科目	9519 東三河の歴史風土と文化			授業種別		週間授業		
科目責任者	高橋 大輔			単位数		1 単位		
担当教員	高橋 大輔							
授業概要		東三河地域の自然・風土、暮らし、産業経済、インフラなどの現況と今後の展望について、都市部・中山間地といった地理的特性に応じて具体的な事象や実例を学び、将来の実務や生活に役立てる。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			○		○	○		
到達目標		1. 東三河地域の自然・風土、人口問題等について都市部・中山間地の視点からその違いと課題を、統計等を用いて学習する。 2. グローバルとローカルの視点から自然災害や環境リスクを捉え、我々の実生活への対応を考える。 3. 東三河の代表的な産業である「農業」「製造業」の現況や今後成長が期待される「観光産業」、それらを支えている道路・港湾、都市計画等のインフラ基盤について、実態や政策を学習する。 4. 以上を通じて、東三河の地域理解を目指す。						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特定にテキストはなし。講義毎にレジュメ、資料を配布します。特定の参考書等はなし。講義の中でテーマに応じて適宜紹介します。
-------------------------------	--

成績評価	・授業内容の理解度を把握するため、毎回出席者に対してリアクションペーパーの提出を求めます。記述内容は、適宜指示します。 ・試験期間中を予定として単位認定試験を行います。 ・各回のリアクションペーパーの提出状況、単位認定試験（演習：ディスカッション・発表）等の内容で総合的に評価します。	
評価項目	割合	評価基準
毎回のリアクションペーパーの提出と内容	30%	リアクションペーパーで授業内容の理解度を確認する。
単位認定試験	70%	地域の将来等が考察・提案されているか。演習（ディスカッション・発表）内容により評価する。

受講条件	特になし。
事前・事後学修 (内容・時間)	【事前学修】 講義テーマに関する基礎知識と現在の社会動向を把握し、講義中の議論・理解を深める準備を行うため、新聞・ニュースサイト等に目を通す。関連する記事内容について、要点、背景、影響、自分の疑問を整理する。事前学修の内容を踏まえ、講義で確認したい問いを考えたり、自分の出身地や暮らす地域に置きかえて地域的特徴をイメージする。(90 分) 【事後学修】 配布した講義資料の読み直しや内容整理により復習する。配布資料と講義内容を再構成し、講義中に扱った概念・事例・地域課題等の関係が分かるように、提示する図表データや文献、書籍等も活用して、理解の定着と内容の深化を図る。講義で初めて見聞きした用語や概念を自分の言葉で簡潔に説明できるように理解を深める。(90 分)

授業の実施方法と授業計画	授業毎に講義資料（プリント等）を配付し、投影するスライドに基づいて進めます。毎回、授業終了時にリアクションペーパーに記述し提出してください。その内容は、毎回指示します。 第1回 イントロダクション（講義） ・講義内容の紹介 ・東三河の歴史、地理的特徴、地域政策の解説 第2回 東三河の人口問題を考える（講義） ・我が国と東三河の人口動向（過去から未来の将来推計） ・人口問題（高齢化、少子化等）と対応策 第3回 東三河の自然環境と災害・環境問題（講義） ・グローバルな地理的特性と災害・環境リスク ・住民生活等を守る防災対策やソフト整備 第4回 東三河の産業経済活動の特性（講義） ・東三河の産業的位置づけと地域ポテンシャル ・自動車産業の大転換と CASE、MaaS の動向 第5回 東三河の地域計画と地域づくりの系譜（講義） ・国土計画の歴史と成果 ・都市計画の仕組み、中心市街地のまちづくり 第6回 私たちの生活や産業活動を支えるインフラ整備の動向①（講義） ・道路等のインフラ整備と次世代物流の潮流 ・東三河へのインパクト 第7回 私たちの生活や産業活動を支えるインフラ整備の動向②（講義） ・港湾都市づくりと港湾インフラ整備の歴史 ・臨海部を活用した地域振興の取り組み 第8回 豊橋を事例としたまちづくりの歴史とこれからの期待（講義） ・豊橋の都市発展の歴史 ・まちなかの文化、中心市街地活性化、賑わいの創出 定期試験 試験期間中を予定として単位認定試験を行う（試験） ・本講義の総括 リアクションペーパーに書かれた内容に対するフィードバックを講義時間内で行います。第2回から第8回については、講義の内容・順序等が変わる場合もある。
--------------	--

ナンバリング	BAAL2035
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	95610
科目	9561 データサイエンス入門	授業種別	週間授業
科目責任者	今井 正文	単位数	2 単位
担当教員	今井 正文		

授業概要	本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養として「リテラシーレベル」の知識を身に付ける。また、学修した数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志で AI 等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。なお、はじめて学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開を目指す。 授業では、Classroom を活用して、教材（ビデオ、スライド）をもとにした小テストおよび課題提出を実施し、質疑応答やフィードバックなどは Classroom および双方向授業や対面授業の時間を設け併せて行う。 ※この科目は基本的にオンデマンド授業、一部を双方向授業や対面授業を併せて実施する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○		◎			
到達目標	・データ・AI によって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる ・「数理 / データサイエンス / AI」が、今後の社会における「読み / 書き / そろばん」であることを理解できる ・データ・AI 活用領域の広がりを理解し、データ・AI を活用する価値を説明できる ・今の AI で出来ること、出来ないことを理解できる ・AI を活用した新しいビジネス / サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できる ・データ・AI が日常生活や社会 / 組織でどのように使われているかを知り、モラル・倫理・リスク・脅威（リスク）の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できる ・帰納的推論と演繹的推論の違いと、それらの利点、欠点を理解できる						

テキスト（教科書）						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

成績評価	小テストおよび課題提出（60%：各章の講義内容の理解度を確認する） 定期試験（40%） 定期試験内訳：講義内容の基礎的事項に関する問題、発展・応用問題	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	前回までの講義内容についての理解度を確認する。
定期試験	60%	筆記試験にて講義内容についての理解度を確認する。

受講条件	特になし。
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回 3 時間程度行うこと。（）内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について教科書や配付資料などの該当箇所を熟読する。（30 分程度） ・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。（60 分程度） ・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。（90 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 章 [導入] 社会におけるデータ・AI 利活用 第 01 回（講義・演習）ガイダンス、1.1 社会でおきている変化 第 02 回（講義・演習）1.2 社会で活用されているデータ 第 03 回（講義・演習）1.3 データと AI の活用領域 第 04 回（講義・演習）1.4 データ・AI 利活用のための技術 第 05 回（講義・演習）1.4 データ・AI 利活用のための技術その 2 第 06 回（講義・演習）1.5 データ・AI 活用の現場 第 07 回（講義・演習）1.6 データ・AI 利活用の最新動向 第 2 章 [基礎] データリテラシー 第 08 回（講義・演習）2.1 データを読む 第 09 回（講義・演習）2.1 データを読むその 2（Excel 実習） 第 10 回（講義・演習）2.2 データを説明する 第 11 回（講義・演習）2.3 データを扱う（SSDSE データ実習） 第 12 回（講義・演習）2.3 データを扱うその 2（SSDSE データ実習） 第 3 章 [心得] データ・AI 利活用における留意事項 第 13 回（講義・演習）3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 第 14 回（講義・演習）3.2 データを守る上での留意事項 第 15 回（講義）まとめ ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあり得る。 課題（テストやレポート等）については、Classroom および双方向授業や対面授業の時間を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。
--------------	---

ナンバリング	NRBL2010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		960A0		
科目	960A からだの構造と機能Ⅰ			授業種別		週間授業		
科目責任者	岡部 明仁			単位数		1 単位		
担当教員	岡部 明仁							
授業概要	本科目では、人間のからだのしくみである「構造と機能について」の理解を目的とする。具体的には、人体の器官系について、個々の細胞・組織・器官に関する内容を取り上げ、個々の知識を人体の全体像と関連付けて理解する。私たちが生命を維持するために、また人間が人間らしく生きるために、人体の構造および組織学・細胞学の基礎や発生学の基本とともに学び、からだの生理・生化学的な機能に関連付けられるよう方向づける。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎					
到達目標	① 学修者は、人体の基本構造である構造と機能について説明できる。 ② 学修者は、病態と関連付けた人体の構造と機能について説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	★定期試験、小テスト、受講態度により総合的に評価する。評価点に達しない学生に対して、面談を実施して成績の向上を目指す。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。
中間テスト	30%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	① 毎回の授業前に授業内容のポイントを読んでおくこと(第2回～14回/20分程度) ② 毎回の授業後に授業内容のポイントの整理をすること(第1回～15回/30分程度) ③ 授業内で実施された確認問題の復習を行うこと(第2回～第14回/30分程度) ④ 定期試験対策のために、各授業内容のポイントを整理しておくこと(第1回～第15回/60分程度)

授業の実施方法と授業計画	1.(講義)看護の土台となる解剖生理学(解剖学とは、生理学とは。解剖学用語)。 2.(講義)人体の区分と細胞小器官名とその機能、器官、組織の種類と機能 3.(講義)栄養の消化と機能 消化器系(上部消化器)の構造と機能① 4.(講義)栄養の消化と機能 消化器系(下部消化器)の構造と機能② 5.(講義)栄養の消化と機能 消化器系(実質性臓器)の構想と機能③ 6.(講義)呼吸と血液のはたらき 呼吸器(上気道)の構造 7.(講義)呼吸と血液のはたらき 呼吸器(下気道)の構造 8.(講義)内呼吸と外呼吸 呼吸器と呼吸運動と呼吸気量 9.(講義)内呼吸と外呼吸 ガス交換とガスの運搬と肺の循環と血流、呼吸中枢と呼吸器系と病態生理 10.(講義)血液の組成と機能① 11.(講義)血液の組成と機能② 12.(講義)血液の循環とその調節① 循環器系の構成 末梢血管系の構造 13.(講義)血液の循環とその機能② 心臓の構造と心臓の拍出機能 心電図 14.(講義)血圧・血流量の調節 15.(講義)微小循環と循環器系の病態生理 リンパとリンパ管 講義の中で、学生に対して疑問や質問を投げかけて、学生からの回答に答える形式で進めて行く予定である。確認問題を提供して、その内容に対して講義外で質問を受け付ける。また、中間テストの結果に基づいてフィードバックを行う。 ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもあり得る。
--------------	---

ナンバリング	NRBM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	960B0			
科目	960B からだの構造と機能Ⅱ			授業種別	週間授業			
科目責任者	岡部 明仁			単位数	2 単位			
担当教員	岡部 明仁							
授業概要	本科目では、人間のからだのしくみである「構造」を理解したうえで、からだの機能を理解することを目的とする。からだの機能は、生命を維持するために必要な機能、また人間が人間らしく生きるために必要な機能等があり、それらが多角的、多様に有機的につながって成り立っている。その全体のからだの機能である生理的なメカニズムを理解する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎					
到達目標	① 学修者は、人体の基本構造である構造と機能について説明できる。 ② 学修者は、病態と関連付けた人体の構造と機能について説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	中間試験(50%)と定期試験(50%)の点数で総合判定を行う。中間試験の評価基準は60点として、達成できなかった学生に対して、面談を実施して、講義内容の理解度並びに学習方法を教授する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。
中間試験	50%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	① 毎回の授業前に授業内容のポイントを読んでおくこと(第2回～第30回/20分程度) ② 毎回の授業後に授業内容のポイントの整理をすること(第1回～第30回/30分程度) ③ 授業内で実施された小テストの復習を行うこと(第2回～第30回/30分程度) ④ 定期試験対策のために、各授業内容のポイントを整理しておくこと(第14回～第15回/60分程度)

授業の実施方法と授業計画	1.(講義)体液の調節と尿の生成① 腎臓の構造 2.(講義)体液の調節と尿の生成② 腎臓の機能 3.(講義)体液の調節と尿の生成③ 腎臓の機能と体液の調節 4.(講義)内臓機能の調節 自律神経による調節① 自律神経の構造 5.(講義)内臓機能の調節 自律神経による調節② 自律神経の機能 6.(講義)内分泌系による調節① 内分泌とホルモン 7.(講義)内分泌系による調節② 全身の内分泌腺と内分泌細胞 8.(講義)内分泌系による調節③ ホルモン分泌の調節 9.(講義)身体の支持と運動 人体の骨格と骨の連結① 10.(講義)身体の支持と運動 人体の骨格と骨の連結② 11.(講義)骨格筋の構造 背部の筋 胸部の筋 腹部の筋 12.(講義)上肢の骨格と筋と運動 13.(講義)下肢の骨格と筋と運動 頭頸部の骨格と筋 14.(講義)筋の収縮機構 15.(講義)神経系の構造と機能 神経細胞と支持細胞 16.(講義)中枢神経系の外観 脊髄の構造と機能 17.(講義)脳の構造と機能 18.(講義)末梢神経系 脳神経 19.(講義)末梢神経系 脊髄神経と運動機能と上・下行伝導路 20.(講義)感覚機能と上行伝導路 21.(講義)眼の構造と機能 眼球の付属器 22.(講義)耳の構造と聴覚・平衡覚 耳の構造 23.(講義)味覚と嗅覚 味覚器と味覚 24.(講義)痛み(疼痛) 痛みの分類と発生機序 25.(講義)皮膚の構造と機能 皮膚の組織構造 26.(講義)生体防御機構① 27.(講義)生体防御機構② 28.(講義)体温調節 29.(講義)生殖・発声と老化のしくみ 30.(講義)男性・女性生殖器の構造と機能 成長と老化 講義の中で、学生に対して疑問や質問を投げかけて、学生からの回答に対して答える方式で進めて行く予定である。質問や中間試験の結果に対するフィードバックも同時に行っていく。 ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもあり得る。
--------------	---

ナンバリング	NREM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード		960C0		
科目	960C 臨床心理学			授業種別		週間授業		
科目責任者	加藤 知佳子			単位数		1 単位		
担当教員	加藤 知佳子							
授業概要	人が生きていく過程で直面するさまざまな危機的状況において、どのように反応し、行動するのか、心理的な状況・問題と関連させて学びを深める。その心理的な状況・問題の理解を基盤として、心を病む人たちに対してどのような働きかけができるのか、心理面からの援助の在り方とその具体的方法についての基礎を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○	○			
到達目標	1. 人間が発達の過程で遭遇する典型的な危機的状況について、年齢と関連付けて列挙できる。 2. 人間が危機的状況において行う典型的な反応と心理的な援助を例示できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
ミニレポートあるいは小テスト	30%	授業における課題への取り組みを評価する。
定期試験	70%	筆記試験によって最終的な授業内容の理解度を評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(4 時間相当) ・指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。(各 2 時間) ・授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。(各 2 時間) ・学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) イントロダクション:「心理学概論」との接続、基礎から応用へ 第 2 回 (講義) 発達するひと: 発達の視点の重要性 第 3 回 (講義・演習) エリクソンの発達段階と心理学的危機 (Think-Pair-Share) 第 4 回 (講義) 個人から集団へ: 対人関係と集団における個 第 5 回 (講義・演習) ヘルスケアワークにおけるコミュニケーションの問題 (Think-Pair-Share) 第 6 回 (講義) カウンセリング・マインドと心理療法 第 7 回 (講義・演習) 傾聴とカウンセリング・マインドにもとづくコミュニケーション (Think-Pair-Share) 第 8 回 (講義・演習) まとめ: 学びの共有と質疑応答 (Think-Pair-Share) 試験や課題における全体で共有すべき質問事項・疑問点については授業内でフィードバックを行うほか、個別の質問等に対してコメントをフィードバックする場合は、Google Classroom の機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	NREM2005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	960D0			
科目	960D 社会システムと人間			授業種別	週間授業			
科目責任者	辰巳 智行			単位数	1 単位			
担当教員	辰巳 智行							
授業概要	この講義では、今日われわれが生きている社会の仕組み（社会システム）を理解するために必要な知識と方法論の基礎を学ぶ。 まず、現代社会の基盤となる「近代」という時代を概観しながら、そこで想定される人間像や社会システムの特徴を学ぶ。 次に、具体的な社会問題の事例検討を通じて、受講者が人間と社会システムの関係について深い洞察力を身につけることを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性			◎			△		
到達目標	1. 学修者が、現代社会の特徴のひとつである近代性の基礎を説明できる 2. 学修者が、現代社会が想定している人間や集団を社会的な面から説明できる 3. 学修者が、現代の諸課題を人間と社会システムの面から科学的に考察する能力を習得する							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストは指定しない。講義でプリントを配布する。Classroom で資料を配付する場合もある。
------------------------------	--

成績評価	成績は、(1) 毎回の講義での貢献やコメントペーパー（講義内レポート）の提出、(2) 定期試験の両方で、講義の到達目標がどの程度達成できているのかを評価する。 ただし、定期試験は、受講生の習熟度や新型コロナウイルスの発生状況によって、レポートに切り替える場合がある。 講義への貢献・コメントペーパーの提出： コメントペーパー（講義内レポート）で理解度や達成度を評価する。 講義中の質問やコメントで取組姿勢も評価する。 定期試験：定期試験で、講義の到達目標がどの程度達成できているのかを評価する。	
評価項目	割合	評価基準
講義への貢献 コメントペーパーの提出	45%	（成績評価の項を参照：文字数の制限のため）
定期試験	55%	（成績評価の項を参照：文字数の制限のため）

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	・日常的に新聞やテレビ、Web のニュースを通じて、社会の「問題」について見聞を広めておくこと（1 時間×8 回） その際、社会の「問題」について言及する記者やキャスター、ネット上の意見・コメントを分析して、どういう立場・視点から、どのような根拠で発言がなされているか。誰にとって、どのような「問題」であるのかを整理する（0.5 時間×8 回） ・講義の復習（1.5 時間×8 回） ・定期試験のための学習（5 時間）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回【講義】：ガイダンス：社会学的想像力 第 2 回【講義】：近代の諸要素 第 3 回【講義】：国民国家 第 4 回【講義】：市民社会 第 5 回【講義】：資本主義 第 6 回【講義】：近代の家族 第 7 回【講義】：働くこと 第 8 回【講義】：病気と病院 ・本科目は、主に講義形式で実施する ・講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること ・提出されたコメントペーパー（講義内レポート）や定期試験は個別にフォローアップするが、全体で共有すべき話題提供や質問は講義内で紹介やフィードバックするので、それを前提とすること。 ・受講者の習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある
--------------	--

ナンバリング	NRCM1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		961A0		
科目	961A 臨床薬理学			授業種別		週間授業		
科目責任者	森本 達也			単位数		1 単位		
担当教員	森本 達也、刀坂 泰史、砂川 陽一							
授業概要	「生体内に入った薬物が生体にどのような影響を及ぼすか」という薬力学と「生体が生体に入った薬物をどのように処理するか」という薬物動態学の両面から追求し、治療効果と副作用を明らかにする学問である臨床薬理の基礎知識を学ぶ。また、主な病態に対する薬物療法とその効用の作用機序、副反応、留意点および新たに開発されてきている薬剤等についても学ぶ。※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	総論において、薬理学の基礎知識について医学用語を説明でき、薬理学の大筋をつかむ。そして中枢神経、心臓血管系、消化器、抗感染症、抗悪性腫瘍などの臨床で使用されている薬物について説明できる。講義を受ければ重要な薬物のポイントを認識でき、他の薬物も類推できるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	試験・小テスト・提出レポートから総合的に評価する。原則として毎回出席すること。定期試験受験資格は出席が 2/3 以上とする。早退・遅刻が 2 回で 1 回欠席扱いとする。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する(基礎問題 80%、応用問題 20%)
小テスト	5%	講義内容・重要点の理解度を確認するために過去の国試問題を中心に行う。
課題レポート	5%	課題について簡潔なまとめ方なども考慮する。

受講条件	必修科目 履修条件は付けない
事前・事後学修(内容・時間)	○毎授業前に指定箇所まで配布した授業プリントや教科書を読み、医学・薬学用語および・重要な医薬品の知識などについて予習する(第 1～15 回/30 分)。 ○毎授業後に授業で得た医薬品の知識などを授業プリントや教科書・参考書を見直し、理解する。単元ごとに配布した国家試験過去問題を行い理解したかを確認しておくこと(第 1～15 回/60 分)。小テストが行われることがあるので必ず復習をしておくこと。 ○医薬品に関する重要な問題についてニュースなどで注目されるテーマについて、また、授業内で指摘された興味ある事項についてレポートとしてまとめる。必要な予備知識、授業時間外の学習は、資料の下調べなど時間外学習は学生同士のディスカッションなども行いまとめる(第 5～10 回/30 分)。提出するレポートは簡潔に説明した要旨も添付する(第 11～14 回/30 分)。 ○第 15 回には、最終試験についての重要な個所の注意事項の説明、小テスト、自習を行い試験の対策を行う。小テストの復習と 16 回目の定期試験範囲について全体の復習を行う(第 15 回/120 分)。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回(講義) 森本 達也薬理学を学ぶにあたって 第 2 回(講義) 森本 達也薬理学の基礎知識① 第 3 回(講義) 森本 達也薬理学の基礎知識② 第 4 回(講義) 森本 達也循環器系に作用する薬物① 第 5 回(講義) 森本 達也循環器系に作用する薬物② 第 6 回(講義) 森本 達也循環器系に作用する薬物③ 第 7 回(講義) 刀坂 泰史中枢神経系に作用する薬物① 第 8 回(講義) 刀坂 泰史中枢神経系に作用する薬物② 第 9 回(講義) 刀坂 泰史末梢神経系に作用する薬物 第 10 回(講義) 刀坂 泰史物質代謝に作用する薬物 第 11 回(講義) 刀坂 泰史呼吸器・消化器・生殖系系に作用する薬物 第 12 回(講義) 砂川 陽一抗アレルギー薬・抗炎症薬、皮膚科用薬、眼下用薬 第 13 回(講義) 砂川 陽一抗感染症薬 第 14 回(講義) 砂川 陽一抗がん剤・免疫治療薬 第 15 回(講義) 砂川 陽一救急の際に使用される薬物・漢方薬・消毒薬 ただし、受講学生の習熟度等・講師陣の都合により、順番は変更することもあります。授業内で課題に対するフィードバックを行います。もしくは問題解説を配布します。
--------------	--

ナンバリング	NRCM2002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	95231			
科目	9523 国語表現法			授業種別	週間授業			
科目責任者	井原 淑雅			単位数	2 単位			
担当教員	井原 淑雅							
授業概要		大学では、様々なタイプのレポートや論文を書くことが課せられます。そこで、レポート・論文とは何かといった基本的事項から、実際にレポートや論文が書けるようになる知識や技術を身につける。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎			△				
到達目標	大学で学び社会で働くには、文章表現力を身につける必要がある。国語表現法で学ぶ内容は、学科の卒業認定・学位授与の方針「看護にかかわる事象を科学的に探求するための基礎的な研究能力を身につけている」「看護の対象となる人々を、生物・心理・社会的な面から統合的に理解するための、広い教養と専門的な知識・技術を身につけている」「看護における顕在的・潜在的課題に対し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決していくための実践能力を身につけている」に沿ったものであり、その到達目標は、以下の通りとする。 1. レポート・論文と作文・感想文の違いが分かる。 2. レポート・論文を書くために必要な「発想力」「読解力」「要約力」「思考力」「表現力」を身につける。 3. 「課題発見力」「情報探索力」「構成力」を磨きながら、論理的な文章が書けるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	講義課題レポート(10%)、協同学習レポート(30%)、最終レポート(60%)に基づいて評価する。なお、講義内課題をすべて提出していないものは、最終レポートの提出はできない。	
評価項目	割合	評価基準
講義課題レポート	10%	講義内容の理解度を確認する。
協同学習レポート	30%	協同学習により、講義内容の理解度を確認する。
最終レポート	60%	講義内容の理解度及び習熟度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に教科書を読んでおくこと(第1回～15回／1時間程度) 毎授業後に授業で学んだことを復習すること(第1回～7回、第11回～13回／1時間程度) 授業内に指示されたレポートを作成すること(第8回～10回／1.5時間程度) 授業で学んだことの復習に加え、定期試験範囲の復習を行うこと(第14回～15回／1.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	※前回の講義が知識を習得する場合、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。 第1回 ガイダンス オリエンテーション 第1章 レポートとは何か 第2回(講義・演習) 第2章 論証の基本 第3回(講義・演習) 第3章 文章読解 第4章 要約① 第4回(講義・演習) 第4章 要約② 第5回(講義・演習) 第5章 文章構成の基本 第6章 引用のルール 第6回(講義・演習) 第7章 段落(パラグラフ) 第7回(講義・演習) レポートの構成 第8回(講義・演習) 協同学習① 第9章 テーマの設定 第9回(講義・演習) 協同学習② 第10章 文献調査の方法 第10回(講義・演習) 協同学習③ 第11章 図表の利用 第11回(講義・演習) 協同学習④ 第12章 アウトライン 第12回(講義・演習) 協同学習⑤ 第13章 校正 第13回(講義・演習) 個人テーマ学習① 第14回(講義・演習) 個人テーマ学習② 第15回(講義・演習) 個人テーマ学習③ 学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。
--------------	---

ナンバリング	NRBL1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード		961B0		
科目	961B 臨床栄養学			授業種別		週間授業		
科目責任者	上田 洋子			単位数		1 単位		
担当教員	上田 洋子							
授業概要	人間が食物あるいは体内への注入により摂取した食品・栄養物が、栄養となって生命・生活活動に使われる生化学的なメカニズムについて理解する。どのような食品・栄養物を摂取することが、人間の健康にとってよいか、病態を引き起こす栄養の摂取の在り方等を学ぶ。これらを通し、学生自身の栄養摂取についても考える機会とする。 またこの科目は医療施設や福祉施設での実務経験を有する教員（管理栄養士）が、その経験を活かし、疾病と栄養や食事内容をイメージしやすいように講義をおこなう科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎					
到達目標	・食品から摂取した栄養物が体内で利用されるメカニズムを説明できる。 ・医療における食事療法の重要性を説明できる。 ・疾患別の食事療法の特徴を説明できる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	授業到達目標がどの程度達成できているか小テストと筆記試験の総合評価とする。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	30%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。
定期試験	70%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。

受講条件	必須科目
事前・事後学修 (内容・時間)	事前学習 (2 時間相当／8 回) ・毎授業前に指定箇所まで教科書を熟読しておくこと。 ・授業の 1 週間前に次回講義で使用する教材資料を公開するので必ず読んでおくこと。 事後学習 (2 時間相当／8 回) ・教科書や授業時に配布した教材資料などを利用し復習をすること。

授業の実施方法と授業計画	疾患において、栄養素の摂取と生理作用との関連を織り込む。 授業の最後に提出された質問内容は、次回授業時に復習をふまえ解説を行う。 授業内で実施した小テストについては、フィードバックを行う。 ※記載された数字・アルファベットは、教科書の内容に対応しています。 1 回 (講義) 第 1 章 人間栄養学と看護 看護と栄養 看護師の役割 第 9 章 臨床栄養 A：チームで取り組む栄養管理 B：病院食 一般食 特別治療食 C：栄養補給法 経腸栄養法 経静脈栄養法 2 回 (講義) F：疾患・症状別食事療法の実際 ①：やせ・低栄養患者の食事療法 ②：肥満・メタボリックシンドローム ③：循環器疾患患者の食事療法 3 回 (講義) ①高血圧症 ②動脈硬化 ③虚血性心疾患 ④心不全 ④消化器疾患患者の食事療法 a 胃・腸疾患 ①胃炎 ②胃・十二指腸潰瘍 ③腸炎 4 回 (講義) b 肝臓・胆嚢疾患 ①急性肝炎 ②慢性肝炎 ③肝硬変 ④脂肪肝 ⑤胆石症 ⑥膵炎 5 回 (講義) 1 ～ 4 回小テストの実施 (フィードバックを行う) 下痢・便秘 ①下痢 ②便秘 6 回 (講義) ⑤栄養・代謝疾患患者の食事療法 ①糖尿病 ②脂質異常症 ③高尿酸血症・痛風 ④ビタミンの欠乏症、過剰症 ⑤ミネラルの欠乏症、過剰症 7 回 (講義) ⑥腎臓疾患患者の食事療法 ①急性糸球体腎炎 ②慢性腎臓病 C K D 透析療法 8 回 (講義) ⑦血液疾患患者の食事療法 ①鉄欠乏性貧血 ②巨赤芽球性貧血 ③白血病 ⑧食物アレルギー疾患患者の食事療法 ⑨骨粗鬆症患者の食事療法 ⑩摂食・嚥下障害患者の食事療法 定期試験実施 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある
--------------	--

ナンバリング	NREM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	96090			
科目	9609 生化学			授業種別	週間授業			
科目責任者	米田 雅彦			単位数	1 単位			
担当教員	米田 雅彦							
授業概要	ヒトを含めて生きているものは、絶えずエネルギーを消費している。そしてヒトの場合、エネルギー源はすべて食事によりまかなわれている。エネルギーは食物(栄養素；糖質、脂質、アミノ酸・タンパク質)を消化することで取り出される。その過程(代謝)はすべて化学反応による。この授業では、そもそもエネルギー(ATP)とは何かから始まり、どのようにして食物からエネルギーを産生し、どう使用(消費)していくのかを学ぶ。最終的にはエネルギー代謝を統合して、相互の関係の中で栄養障害やアルコール中毒、糖尿病の代謝の状態を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎					
到達目標	1. 三大栄養素(糖質、脂質、タンパク質)の構造が理解できる。 2. 病気の症状がなぜ起きているか理解できる。 3. 薬や治療が生体で起こしている変化を推測できるようになる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験(90%)、毎回の授業後に配布する課題の提出(毎回の授業終了時、授業の始めに時間を設ける)(10%)の結果から評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題	10%	課題項目について、考察されているかを評価する。正確な回答は問わない。
定期試験	90%	筆記試験により理解度を確認する。資料の持ち込みはない。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	予習:事前位配布した資料ならびに教科書の該当ページに一通り目を通しておく。(60分) 復習:授業内容を振り返り、疑問点を明らかにする。(60分) その他:日常生活の中で、講義内容に関連した情報を気にかける。(適宜)

授業の実施方法と授業計画	授業は講義形式で行う。毎回の授業時に課題を配布して、授業の始めに考えてもらう。課題の内容は当日の授業内容または復習の内容である。課題の解説は授業内で行うが、自由に考えてもらうことが目的である。質問は授業前、授業中および授業後に受け付ける。また、課題時に提出してもらう振り返りまたは Google Classroom やユニバでの質問も可能である。質問に対する回答は、内容によっては次回の授業または Google Classroom で全員に還元する。 第1回 生化学で扱う化学の基礎：特に生体内の反応は水の中で起こるので、水に溶けるという現象を理解する。 第2回 糖質：栄養の主成分である糖質(炭水化物)の構造と性質を学ぶ。 第3回 脂質とは：ダイエットで目のカタキにされる脂肪の構造を学び、その役割を理解する。 第4回 アミノ酸の構造：我々の体を構築するタンパク質の構成成分であるアミノ酸の構造と性質を学ぶ。次回のタンパク質の立体構造と酵素を理解するための基本的な知識を補う。 第5回 タンパク質の高次構造：生体の構築や生命活動の一部を担っているのはタンパク質であるが、その機能は立体構造によって変化する。また、立体構造異常は病気とつながることを学ぶ。 第6回 酵素の性質・活性調節(阻害作用)：生命活動は化学反応の集大成である。その化学反応を行うのは酵素と呼ばれるタンパク質である。その役割と活性制御について学ぶ。薬は化学反応を妨害するものであることも、授業の中で理解することになる。 第7回 解糖系(細胞質での糖質の代謝)：食べた糖質(デンプンなど)からどのようにして、生体活動を支えるエネルギー(ATP)を生産するか学ぶ。細胞内の反応(解糖系)を勉強する。 第8回 クエン酸回路・電子伝達系・酸化リン酸化(ATPの産生)：糖質の分解が細胞内で終了した後、より多くのエネルギーを得るために細胞内小器官のミトコンドリアで反応が進行する。エネルギー産生の最終段階を学ぶ。 第9回 糖新生・ペントースリン酸回路の意味：脳のエネルギーは糖質のグルコースであるが、食べることで不足するので体内で合成(糖新生)するが、そのメカニズムを学ぶ。さらに解糖系の脇回路のペントースリン酸回路の役割を勉強する。 第10回 脂肪の分解：食べた脂肪の分解と組織への分配のメカニズムを理解する。 第11回 脂質の合成：食事の途中から脂肪の皮下脂肪組織への貯蓄と脂肪の合成が始まるが、そのメカニズムを勉強する。 第12回 プロスタグランジンの働きと製剤との関係について勉強する。 第13回 血糖値の調整と糖尿病:糖尿病について学び、今まで勉強してきた糖質・脂肪(脂質)・タンパク質の分解と合成(生体)の正常とは異なる状態を理解する。 第14回 タンパク質の代謝：タンパク質の消化と体内への取り込みについて学ぶ。さらにアミノ酸の分解により生体にとって有害なもの(アンモニア)ができるが、その処理(尿素回路)は肝臓で行われる。その仕組みについて勉強する。また、アミノ酸はタンパク質の構成成分としての役割以外に単独または誘導体がいろいろな機能をもつことを勉強する。 第15回 核酸の代謝：核酸およびゲノムの構造を学んだ後で、核酸の分解の過程(代謝)と代謝異常による病気である痛風について学ぶ。 ただし、学生の習熟どにより割り振りの時間を変更することもあります。
--------------	--

ナンバリング	NRFM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	961D0					
科目	961D 病原体と感染	授業種別	週間授業					
科目責任者	齋藤 寛史	単位数	1 単位					
担当教員	齋藤 寛史							
授業概要	人間生活を取り巻く微生物やウイルスと人間（宿主）との相互作用について学修する。 病原微生物やウイルスの基礎、生体防御機構、検査と診断、治療及び薬剤耐性等について学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎					
到達目標	1 主な病原微生物やウイルスの種類や特徴、病原性について説明できる。 2 これらの知識が、医療の現場で活用できる方法について説明できる。							

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	学期末に行う筆記試験で評価する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する。
小テスト	10%	単元ごとの理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと(30分程度)。 2 微生物や感染症に関する新聞記事等に関心を持ち、知識を深めること。 *以上1、2について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学習を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	本科目は全て講義形式で行う。 1回 微生物と微生物学、細菌の性質 2回 ウイルスの性質・真菌の性質 3回 感染と感染症、感染に対する生体防御機構 4回 滅菌と消毒、感染症の検査と診断 5回 感染症の治療、感染症の現状と対策 6回 病原細菌と細菌感染症 7回 病原ウイルスとウイルス感染症、病原真菌と真菌感染症、寄生虫と衛生動物 8回 まとめ ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。 小テストや課題のフィードバック(解説)は、都度講義時に行う。
--------------	--

ナンバリング	NRCM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	96510			
科目	9651 病態と治療の基礎			授業種別	週間授業			
科目責任者	大林 雅春			単位数	1 単位			
担当教員	大林 雅春							
授業概要		病変の生じるシステム、病気の定義・病因等の基本的な知識を学び、生体のシステムと病態、生命現象を理解する。具体的には、細胞の変性と壊死、損傷、循環障害、炎症、腫瘍等を学修する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎					
到達目標	1. 細胞・組織の障害とその修復、再生、適応の過程を、形態学的な変化として説明できる。 2. 人体に備わる病態からの修復機構、生体防御機構について基本的な仕組みを説明できる。 3. 炎症や腫瘍などの基本的な概念を説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
なるほどなっとく！病理学 plus: 病態形成の機序と各器官の疾病の特徴	小林 正伸 (著)	南山堂	2,750 円 (税込)	ISBN-10:4525151811	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	筆記試験およびレポート／課題 定期試験 90% 学習内容について理解の程度を総合的に把握する。 レポート／課題提出 10% 学習内容について課題やレポートを果たし、理解の程度を把握する。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	本授業は、アクティブラーニングの「反転授業」のスタイルを取り入れて実施する。すなわち、次の授業項目の簡単な事前課題(基本問題)を果たし、次の授業の前に提出物として提出してもらう。これは、前もって各自で課題を教科書等で調べる「予習」のスタイルとなり、事前課題をこなしてから本番の授業を迎える前提の授業である。約 30 分から1時間ほど、テキスト中心に取り組むこと。 毎回の授業で配る『講義資料(紙媒体)』は、講義中の全てのスライドを配布資料としてまとめたものである。講義資料を授業の前に配るので、各自空欄にメモ等をする。また全てのスライドをインターネットの GoogleDrive 上に閲覧共有設定するので、自己学修(事後学修)に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトを URL や QR コードで紹介する。授業には、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を持ち込みを許可する。 Google のクラスルームに掲載する『演習問題(正誤訂正問題および選択式問題)』は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。事前課題の出題内容も含まれているので、解答合わせも兼ねて毎回必ず確認しておくこと。必要に応じて自己学修(事後学修)に役立てること。特に「選択式問題」は、国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。演習問題は、定期試験に約6割出題します。将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。

授業の実施方法と授業計画	第1回 病気の原因、細胞・組織の障害と修復 第2回 代謝障害 第3回 先天異常と遺伝子異常、老化、死 第4回 循環障害 第5回 免疫 第6回 炎症 第7回 感染症 第8回 腫瘍 第1～8回は講義を行う。 ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ＊授業中の内容に関する質問や感想、リクエストに関しては、リアクションペーパーに記入すること。次の授業までに個々にメール、あるいは口頭で返答する。多い質問項目などには、次の授業の冒頭で説明する。指摘された改善点などには、素早く対応するので遠慮せずに、口答でもリアクションペーパーでもメールでも対応します。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。 ＊授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。
--------------	---

ナンバリング	NRFM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	96520			
科目	9652 病態と治療Ⅰ (内科系)			授業種別	週間授業			
科目責任者	山口 直己			単位数	2 単位			
担当教員	山口 直己、小竹 伴照、武藤 真広、澤崎 浩平、渡邊 智治、磯貝 善蔵							
授業概要	主に内科的な病変を引き起こす疾患と治療ならびにその発生要因について学修する。本科目では、主に循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患、皮膚疾患の主要病態、症状、検査、治療について最新の知見を踏まえて学修する。 この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎					
到達目標	1. 循環器系の主な病態と治療の概括を述べることができる 2. 呼吸器系の主な病態と治療の概括を述べることができる 3. 腎臓系の主な病態と治療の概括を述べることができる 4. 皮膚の主な病態と治療の概括を述べることができる							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
看護のための臨床病態学	浅野 嘉延	南山堂	8800	9784525505158	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	到達目標における達成度で評価する。 遅刻・早退・無断欠席、および劣悪な受講態度（私語・居眠り等）は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」、「生命科学の基礎」、「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく (第1回～15回／30分) 2. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にしておく (第1回～15回／30分) <事後学修> 1. 授業後は配布資料も含めて自身のまとめノートを作成しておく (第1回～15回／30分) 2. 授業を受けて不明だった事項に関しては必ず調べ明確にしておく (第1回～15回／30分)

授業の実施方法と授業計画	本科目は全て講義形式で行う <受講イントロダクション> 第1回 呼吸器系の解剖と生理【講義】 (豊橋創造大学：小竹伴照) 第2回 呼吸器系の症候、検査と治療【講義】 (豊橋創造大学：小竹伴照) 第3回 呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患【講義】 (豊橋創造大学：小竹伴照) 第4回 間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患【講義】 (豊橋創造大学：小竹伴照) 第5回 換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患【講義】 (豊橋創造大学：小竹伴照) 第6回 循環器系の主な病態とそのメカニズム、基礎的知識【講義】 (浜松医療センター：澤崎浩平) 第7回 心不全等の病態と治療、血圧異常【講義】 (浜松医療センター：武藤真広) 第8回 虚血性心疾患・心筋症等の病態と治療【講義】 (浜松医療センター：澤崎浩平) 第9回 不整脈等疾患の病態と治療【講義】 (浜松医療センター：武藤真広) 第10回 動脈系疾患の病態と治療【講義】 (浜松医療センター：澤崎浩平) 第11回 腎臓系の主な病態とそのメカニズム、基礎的知識【講義】 (豊橋市民病院：渡邊智治) 第12回 慢性腎臓病・腎不全・尿毒症等の病態と治療【講義】 (豊橋市民病院：渡邊智治) 第13回 糸球体腎炎・ネフローゼ症候群等の病態と治療【講義】 (豊橋市民病院：渡邊智治) 第14回 全身性疾患に伴う腎疾患の病態と治療【講義】 (豊橋市民病院：渡邊智治) 第15回 炎症・湿疹・感染・各種皮膚疾患【講義】 (国立長寿医療研究センター：磯貝善蔵) ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあるので、初回授業時に配布する授業計画表を必ず確認すること（講師の都合により、時間および講師の変更の可能性あり）。 授業時間内にミニテストを行った場合にはその場で解答し解説する。 試験の結果に応じて補習を行う。
--------------	--

ナンバリング	NRGM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		96530		
科目	9653 病態と治療Ⅱ (内科系)			授業種別		週間授業		
科目責任者	鈴木 知代			単位数		2 単位		
担当教員	鈴木 知代、小竹 伴照、酒井 秀樹、長山 浩士、榊原 由美子、高取 宏昌							
授業概要	主に内科的な病変を引き起こす疾患と治療、ならびにその発生要因について学修する。本科目では、主に血液疾患、神経疾患、内分泌・代謝疾患の主要病態、症状、検査、治療について最新の知見を踏まえて学修する。 この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	1. 血液・免疫疾患の主な病態と治療の概括を述べることができる 2. 神経疾患の主な病態と治療の概括を述べることができる 3. 内分泌・代謝疾患の主な病態と治療の概括を述べることができる 4. 感覚器系（眼）の病態と治療の概括を述べることができる							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
看護のための臨床病態学	浅野 嘉延	南山堂	8800	9784525505158	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・テキスト、看護のための臨床病態学は購入済み
-------------------------------	------------------------

成績評価	到達目標における達成度で評価する。 遅刻・早退・無断欠席、および劣悪な受講態度（私語・居眠り等）は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	100%	筆記試験において到達度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」、「生命科学の基礎」、「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく。(第1回～15回／30分) 2. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にしておく。(第1回～15回／30分) <事後学修> 1. 授業後は配布資料も含めて自身のまとめノートを作成しておく。(第1回～15回／30分) 2. 授業を受けて不明だった事項に関しては必ず調べ明確にしておく。(第1回～15回／30分)

授業の実施方法と授業計画	<受講イントロダクション> 第1回 「血液」 解剖と生理、症候【講義】 (豊橋創造大学 小竹伴照) 第2回 「血液」 検査と治療、主な疾患【講義】 (豊橋創造大学:小竹伴照) 第3回 免疫・防御系異常が起こる病態のメカニズムと治療 (基礎的知識)【講義】 (浜松医療センター:高取宏昌) 第4回 アレルギー疾患・膠原病・自己免疫疾患・免疫不全症の病態と治療【講義】 (浜松医療センター:高取宏昌) 第5回 内分泌代謝異常が起こる病態のメカニズムと対処法 (基礎的知識)【講義】 (浜松医療センター:長山浩士) 第6回 視床下部 —下垂体系異常の病態と治療【講義】 (浜松医療センター:長山浩士) 第7回 ホルモンの分泌過剰と不足の病態と治療【講義】 (浜松医療センター:長山浩士) 第8回 糖代謝異常・脂質代謝異常・水電解質代謝異常・痛風等の病態と治療【講義】 (浜松医療センター:長山浩士) 第9回 脳・神経系異常の病態と対処法 (基礎的知識)【講義】 (第二成田記念病院:西村康明) 第10回 脳血管障害の病態と治療①脳梗塞【講義】 (第二成田記念病院:西村康明) 第11回 脳血管障害の病態と治療②頭蓋内出血他【講義】 (第二成田記念病院:西村康明) 第12回 脳腫瘍・神経系の感染・神経性変疾患の病態と治療【講義】 (第二成田記念病院:西村康明) 第13回 神経系変性疾患の病態と治療、脱髄性疾患【講義】 (第二成田記念病院:西村康明) 第14回 末梢神経疾患・筋疾患の病態と治療【講義】 (第二成田記念病院:西村康明) 第15回 感覚器系（眼）の病態と治療【講義】 (豊橋市民病院:榊原由美子) ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあるので、初回授業時に配布する授業計画表を必ず確認すること（講師の都合により、時間および講師の変更の可能性あり）。 授業時間内にミニテストを行った場合にはその場で解答し解説する。 定期試験については適宜フィードバックおよび補講を行う。
--------------	--

ナンバリング	NRDM2001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		96540		
科目	9654 病態と治療Ⅲ (外科系)			授業種別		週間授業		
科目責任者	井上 直子			単位数		2 単位		
担当教員	井上 直子、山下 克也、杉浦 昌、安藤 雅規、佐野 逸郎、山口 浩志、渡邊 智治							
授業概要		主に外科的な疾患を診断するための検査、主要病態と症状、治療について最新の知見を踏まえて学修する。手術や麻酔に関する内容も含む。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			◎		○			
到達目標		1. 手術・麻酔および必要な検査を述べることができる 2. 摂取・消化・吸収に関わる主な病態と外科的治療を述べることができる 3. 運動器系疾患の主な病態と外科的治療を述べることができる 4. 泌尿器系疾患の主な病態と外科的治療を述べることができる 5. 感覚器系疾患 (耳鼻咽喉科) の主な病態と外科的治療を述べることができる						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
看護のための臨床病態学	浅野 嘉延	南山堂	8,800	9784525505158	
臨床外科看護総論 第 12 版	池上 徹	医学書院	2,800	9784260049986	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキスト「看護のための臨床病態学」は購入済
-------------------------------	-----------------------

成績評価	到達目標における達成度で評価する。 遅刻・早退・無断欠席、および劣悪な受講態度 (私語・居眠り等) は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」、「生命科学の基礎」、「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく (第 1 回～ 15 回 / 30 分) 2. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にしておく (第 1 回～ 15 回 / 30 分) <事後学修> 1. 授業後は配布資料も含めて自身のまとめノートを作成しておく (第 1 回～ 15 回 / 30 分) 2. 授業を受けて不明だった事項に関しては必ず調べ明確にしておく (第 1 回～ 15 回 / 30 分)

授業の実施方法と授業計画	<受講イントロダクション> 第 1 回 手術・麻酔及び必要な検査①麻酔法・呼吸管理【講義】 (豊橋市民病院：佐野逸郎) 第 2 回 手術・麻酔及び必要な検査②外科的治療と術後管理【講義】 (豊橋市民病院：佐野逸郎) 第 3 回 手術・麻酔及び必要な検査③外科的治療と術後管理【講義】 (豊橋市民病院：佐野逸郎) 第 4 回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 消化管の基礎的知識【講義】 (豊橋医療センター：山下克也／安藤雅規) 第 5 回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 食道・胃・十二指腸疾患【講義】 (豊橋医療センター：山下克也／安藤雅規) 第 6 回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 小腸・大腸の疾患【講義】 (豊橋医療センター：山下克也／安藤雅規) 第 7 回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 肝・胆・膵の基礎知識【講義】 (豊橋医療センター：山下克也／安藤雅規) 第 8 回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 肝・胆道・膵疾患【講義】 (豊橋医療センター：山下克也／安藤雅規) 第 9 回 運動器系にかかわる病態のメカニズムと対処法【講義】 (本学：杉浦昌) 第 10 回 骨折・関節異常の病態と治療【講義】 (本学：杉浦昌) 第 11 回 脊椎・脊髄異常の病態と治療①【講義】 (本学：杉浦昌) 第 12 回 脊椎・脊髄異常の病態と治療②【講義】 (本学：杉浦昌) 第 13 回 泌尿器系疾患の病態と治療①尿路結石・腎細胞がん・水腎症【講義】 (豊橋市民病院：渡邊智治) 第 14 回 泌尿器系疾患の病態と治療②尿路感染症・前立腺肥大・前立腺がん【講義】 (豊橋市民病院：渡邊智治) 第 15 回 感覚器系疾患 (耳鼻咽喉科) の病態と治療【講義】 (豊橋医療センター：山口浩志) ただし、学生の習熟度により授業計画を変更することもあるので、初回授業時に配布する授業計画表を必ず確認すること (講師の都合により、時間および講師の変更の可能性あり)。 授業時間内にミニテストを行った場合にはその場で解答し解説する。 試験結果は、必要に応じてフィードバックおよび補講を行う。
--------------	---

ナンバリング	NRAM2001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		96550		
科目	9655 病態と治療Ⅳ（小児）			授業種別		週間授業		
科目責任者	鈴木 和香子			単位数		1 単位		
担当教員	鈴木 和香子、田口 智英、宮本 健、大下 裕法、佐野 伸一郎、金岡 遼							
授業概要		小児期における代表的な疾患の病態および症状、検査、治療について学修する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	1. 小児の特性（成長・発達の特徴）について述べることができる。 2. 小児期における代表的な疾患の主要病態とその症状について述べるができる。 3. 小児期における代表的な疾患の治療、検査について述べるができる。 ※この科目は該当授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその経験をいかし講義を行う科目である。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、授業内で紹介する
------------------------------	-------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達度がどの程度達成できているかで評価します。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	100%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	①授業前には教科書の該当箇所を熟読する（第1回～第8回／120分程度） ②授業後には授業での学びを整理しておく（第1回～第8回／120分程度） ③全8回終了後にはすべての事項について復習を行い、学修内容を整理する（6時間程度） 以上を参考に自己学修を行うこと。なお、からだの構造と機能Ⅰ・Ⅱ、病態と治療の基礎、病態と治療Ⅰ（内科系）、病態と治療Ⅱ（外科系）と関連させて学修することが望ましい。

授業の実施方法と授業計画	★各回においてリアクションペーパーの記載を求める。 ★学習内容に関する質問事項については、各授業内で解説を行う（フィードバック）。 第1回（講義） 小児の特性（成長と発達） 新生児疾患の病態と治療（低出生体重児、仮死、分娩損傷、感染症、新生児の呼吸器疾患、新生児黄疸） 【田口】 第2回（講義） 免疫疾患・アレルギー疾患の病態と治療（小児気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、小児のリウマチ（JIA）、アレルギー性紫斑病、先天性免疫不全症） 血液・造血器疾患の病態と治療（貧血、特発性血小板減少性紫斑病、好中球減少症、凝固異常症） 感染症の病態と治療（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘などのウイルス感染症、細菌感染症） 【田口】 第3回（講義） 消化器疾患の病態と治療（口唇口蓋裂、胃腸炎、腸重積症、ヒルシスブルング病、鎖肛など） 腎疾患の病態と治療（ネフローゼ症候群、糸球体腎炎など） 【宮本】 第4回（講義） 耳鼻咽喉頭疾患の病態と治療（アデノイド増殖症など） 神経疾患の病態と治療（二分脊椎、水頭症、てんかん、脳性麻痺など） 精神疾患（神経発達症、虐待） 【宮本】 第5回（講義） 呼吸器疾患の病態と治療（上気道疾患、下気道疾患、気管支炎、肺炎、クループ、急性喉頭蓋炎、気胸、喘息、気管支異物） 【金岡】 第6回（講義） 循環器疾患の病態と治療（心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、PDA、ファロー四徴症、川崎病など） 【大下】 第7回（講義） 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の病態と治療（染色体異常について、ダウン症、トリソミー、ターナー、マルファン、ブラダーウィリーなど） 【佐野】 第8回（講義） 代謝・内分泌疾患の病態と治療（先天性代謝異常症、糖尿病、低身長、中枢性尿崩症、クレチン症など） 【佐野】 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 授業時間内にミニテストを行った場合には、その場で解答し解説する。 定期試験については、適宜フィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	NRBM2002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	96560			
科目	9656 病態と治療Ⅴ（産科・婦人科）			授業種別	週間授業			
科目責任者	富岡 美佳			単位数	1 単位			
担当教員	富岡 美佳、渡辺 慎一郎、保條 説彦							
授業概要	産科・婦人科疾患の病態生理を理解し、疾患の診断、検査、治療、症状等について学ぶ。主に、女性生殖器（子宮・卵巣等）疾患の病態生理、妊娠・分娩が原因となって起こる母体・胎児に起こる疾患の病態生理について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥期の異常の診断、治療、検査、症状について説明できる。 2. 女性生殖器（子宮・卵巣等）疾患の診断、治療、検査、症状について説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
病気がみえる vol.10 産科第 4 版	医療情報科学研究所編集	メディックメディア		9784896327137	
病気がみえる vol.9 婦人科第 4 版	医療情報科学研究所編集	メディックメディア		9784896327120	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻・早退・無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	100%	

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」「生命科学の基礎」「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく(第1～8回/30分) 2. 授業計画を参照して、テキストの該当頁を読み、わからない箇所を明確にしておく(第1～8回/30分) <事後学修> 1. 授業後はテキストの内容をもとに自身のまとめノートを作成しておく(第1～8回/30分) 2. 授業を受けて不明な事項について、テキストや参考書で調べて明確にしておく(第1～8回/30分)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 妊娠期の異常と管理(子宮外妊娠・多胎妊娠を含む) 第2回 (講義) 基礎疾患に妊娠が合併した妊婦の管理 第3回 (講義) 分娩期の異常(胎児機能不全と新生児仮死を含む) 第4回 (講義) 産褥期の異常 第5回 (講義) 婦人科疾患 第6回 (講義) 婦人科腫瘍(良性・悪性) 第7回 (講義) ホルモン関係の疾患(月経・更年期) 第8回 (講義) 婦人科炎症疾患 ★学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 ★課題(テスト等)や質疑内容については、授業内あるいは Classroom を通してフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRBM2003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	96570
科目	9657 病態と治療Ⅵ (精神)	授業種別	週間授業
科目責任者	上條 厚	単位数	1 単位
担当教員	上條 厚		

授業概要	世界精神保健調査によると、日本における成人の気分障害、不安障害、衝動制御障害、物質関連障害のいずれかの生涯有病率は 24.2%、12 か月有病率は 10.0%となっている。調査に含まれていない統合失調症や認知症などを含めると、日本における精神疾患の有病率はさらに高くなると推測される。また身体疾患の患者でも、ストレスが継続的に加わることで、結果として精神医学的な問題が生じることも多い。日々患者に接している医療従事者が主治医より先に精神的な不調に気づくことも多いことから、医療従事者として必要な知識を身につけることは必須である。精神疾患の一部は慢性的な経過をたどるが、治せない患者はいても関わることのできない患者はいない。したがって精神科は医療従事者としてやりがいを感じられる分野であろう。 本講義は、8 回の授業により、医療従事者として必要な精神医学的知識の習得を目標とする。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義棟を行う科目である。							
------	---	--	--	--	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				

到達目標	第1回 精神医学の歴史や、症候学、検査方法などを理解できる 第2回 統合失調症の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第3回 気分 (感情) 障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第4回 不安障害、ストレス関連障害、摂食障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第5回 児童・思春期における精神障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第6回 精神作用物質による精神および行動の障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第7回 器質性精神障害 (認知症など)、てんかん、睡眠障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第8回 成人のパーソナリティと行動の障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる							
------	---	--	--	--	--	--	--	--

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	定期試験を主として小テストを勘案する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	一連の講義を通じた総合的な理解度を確認する
小テスト	40%	各講義日に当日の授業内容の理解度を確認するために行う

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	配付資料の下記の章を事前に予習しておくこと (第 1 回～ 8 回 / 60 分) 第 2 章 精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査 第 3 章 主な精神疾患 / 障害 第 4 章 精神疾患の主な治療法 授業後は当日配布されたプリントを元に復習すること (第 1 回～ 8 回 / 60 分) ※ 1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと

授業の実施方法と授業計画	授業は PowerPoint を使用して行う。 この科目は全て講義形式で行う。 第 1 回 精神医学総論 (歴史や症候学を中心に) 第 2 回 統合失調症 第 3 回 気分 (感情) 障害 第 4 回 不安障害、ストレス関連障害、摂食障害 第 5 回 児童・思春期における精神障害 第 6 回 精神作用物質による精神および行動の障害 第 7 回 器質性精神障害 (認知症など)、てんかん、睡眠障害 第 8 回 成人のパーソナリティと行動の障害 ※必要に応じて小テストのフィードバックをおこなう。
--------------	--

ナンバリング	NRCM2004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	96210
科目	9621 公衆衛生学	授業種別	週間授業
科目責任者	齋藤 寛史	単位数	2 単位
担当教員	齋藤 寛史		
授業概要	人間の健康は様々な社会生活環境と関連していることを知り、公衆衛生学的考え方の基本を学修する。そして、少子高齢化社会の日本における各ライフステージの健康課題と、それに対する各種諸制度を含む公衆衛生学的対策の現状と課題について学修する。 この科目は当該授業に関する食品衛生・環境衛生の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義を行う。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3 DP4 DP5 DP6
ディプロマポリシーとの関連性			◎ ○
到達目標	1 疾病の予防と健康保持増進について、その意義と重要性、技術について説明できる。 2 公衆衛生向上の意義と重要性について学び、地域社会に役立てることができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	学期末に行う定期試験で評価する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する
小テスト(レポート)	10%	単元ごとの理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1 事前・事後学修は、指定箇所まで(第2回～第14回 30分程度)教科書を熟読すること。 2 公衆衛生に関する新聞記事等に関心を持ち、知識を広く深めること。 ※以上1、2について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学習を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	本科目は全て講義形式で行う。 1回 公衆衛生を学にあたって、公衆衛生のエッセンス 2回 公衆衛生の活動対象 3回 公衆衛生のしくみ 4回 集団の健康をとらえるための手法 疫学・保健統計 5回 環境と健康 6回 感染症とその予防・国際保健、(小テスト又は課題) 7回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)① 公衆衛生看護、母子保健 8回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)② 成人保健 9回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)③ 高齢者保健 10回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)④ 精神保健 11回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)⑤ 歯科保健、障害者・難病保健) 12回 学校と健康 13回 職場と健康 14回 健康危機管理・災害保健 15回 まとめ(小テスト・課題等のフィードバック) ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRGM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	96270			
科目	9627 保健医療福祉行政論			授業種別	週間授業			
科目責任者	西川 浩昭			単位数	2 単位			
担当教員	西川 浩昭							
授業概要	健康で文化的な最低限度の生活を営むことは憲法に保障された国民の権利である。そのために必要であり、用意されている保健医療福祉行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みとその財源である国と地方自治体の財政と医療経済を学修する。また、保健福祉計画の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	わが国における保健医療福祉行政および保健医療福祉サービスの基礎的知識を学ぶ。また、地方公共団体における保健医療福祉行政施策に関する基礎的知識を学ぶ。 1. 我が国における保健福祉政策の現状を把握する。 2. 保健医療福祉行政のしくみを学ぶ。 3. 社会保障・社会福祉制度のしくみを学ぶ。							

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	課題提出及び定期試験により授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出物	10%	講義内容の理解度を確認する。
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	授業計画に沿って、教科書の関係箇所を熟読し予習しておくこと(各回 30 分程度)。 授業後は、配布資料と講義内容を復習し、復習用の問題に解答すること(各回 60 分程度)。 授業の性格上、事後学修が中心となるので、十分に復習すること。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回(講義) 保健医療福祉行政の仕組みと財政 第 2 回(講義) 社会保障の概念と仕組み 第 3 回(講義) 公衆衛生行政・地域保健 第 4 回(講義) 医療提供体制 医療法・医療計画 第 5 回(講義) 医療経済・国民医療費 第 6 回(講義) 医療保険制度① 医療保険制度の概要・国民健康保険 第 7 回(講義) 医療保険制度② 被用者保険・後期高齢者医療保険 第 8 回(講義) 介護保険制度① 制度の概要 第 9 回(講義) 介護保険制度② 要介護認定・介護サービス 第 10 回(講義) 年金保険制度 制度の概要・国民年金・厚生年金 第 11 回(講義) 労働者の保護 雇用保険・労働者災害保険 第 12 回(講義) 社会福祉① 社会福祉の概要・生活保護 第 13 回(講義) 社会福祉② 障害者福祉、高齢者福祉 第 14 回(講義) 社会福祉③ 児童福祉、寡婦母子福祉 第 15 回(講義) 保健医療分野の国際協力 課題のフィードバックは講義内で行う。
--------------	---

ナンバリング	NREM2006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	96280		
科目	9628 保健医療統計学Ⅰ			授業種別	週間授業		
科目責任者	小川 八郎			単位数	1 単位		
担当教員	小川 八郎						
授業概要	看護学領域では質量の様々なデータと直面する。データを適切に処理し活用するには統計理論に関する知識が必要不可欠となる。本科目では統計データ処理に必要な確率の基礎や理論分布等について学修する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			
到達目標	近年の医療の高度化とともに科学的根拠にもとづく意思決定能力が看護の現場で強く求められるようになってきており、実データによる統計解析処理の重要性が増している。このような実状を踏まえ、本授業の到達目標を以下の通りとする。 ①データとは何かについて説明できる ②データの尺度水準と尺度の違いを説明できる ③代表値の種類について説明することができ、それぞれの値を求めることができる ④分散や標準偏差について説明することができ、それぞれの値を求めることができる ⑤標本と母集団の関係について説明できる ⑥正規分布の特徴などについて説明できる ⑦正規分布の標準化と標準正規分布について説明できる ⑧正規分布以外の分布について簡単に説明できる						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業には毎回出席すること。 当授業目標への達成度評価は以下の2通りの方法で行う。 ・筆記試験(中間試験および定期試験) ・課題レポート 単位認定は上の評価方法で得られた点数を合計し、その6割以上獲得した者を対象とする。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な授業態度は減点の対象になる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	30%	中間期までの学修目標への達成度を筆記試験により評価する
定期試験	50%	当授業科目の到達目標への達成度を筆記試験により評価する
課題レポート	20%	授業中実施する演習は課題レポートとして、その提出状況や完成度等の観点から評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	毎回の授業について、事前および事後学修(学修時間:4時間相当)を必ず行うこと。それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・授業に該当する内容は事前に必ず教科書等で確認しておくこと(第2～第7回/2時間相当) ・授業で扱った数式や数値データ等は事後、必ず確認しておくこと。また、演習で実施した内容は繰り返し練習を行い、確実にできるようにしておくこと(第1～第8回/2時間相当)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス(道具としての統計およびデータの性質を把握しよう) 第2回(講義・演習) データを斬る、尺度水準と数の性質および代表値とは 第3回(講義・演習) ばらつきをどう評価する、分散および標準偏差とは 第4回(講義・演習) 標本から母集団を知る 第5回(講義・演習) データ集団から特徴を読み取る度数分布とヒストグラム 第6回(講義・演習) 統計学で最も重要とされる正規分布とは何か 第7回(講義・演習) 標準化法と標準正規分布、偏差値など 第8回(講義・演習) 正規分布以外(二項分布など)の特徴について 受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある。なお、授業中に実施した演習課題や中間試験等は後日可能な範囲で解説を行う。
--------------	---

ナンバリング	NRCM2005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	96290
科目	9629 保健医療統計学Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	小川 八郎	単位数	1 単位
担当教員	小川 八郎		

授業概要	看護・医療をとりまく様々なデータを用いた統計処理の手法を学ぶ。また、種々の統計データ処理の実践的応用に関する知識を修得し、健康に関する統計の在り方についても学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			
到達目標	近年の医療の高度化とともに科学的根拠にもとづく意思決定能力が看護の現場で強く求められるようになってきており、実データによる統計解析処理の重要性が増している。このような実状を踏まえ、本授業の到達目標を以下の通りとする。 ①統計的仮説検定の基本的内容について説明できる ②帰無仮説と対立仮説を組み立てることができる ③データのばらつきの違いを調べる F 検定の方法について説明できる ④対応のあるデータの母平均に差があるかを調べる t 検定法について説明できる ⑤対応のないデータの母平均に差があるかを調べる t 検定法について説明できる ⑥ウェルチの t 検定について説明できる ⑦カイ 2 乗を利用した適合度検定と独立性検定について説明できる ⑧ピアソンの相関係数を求めることができる						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	授業には毎回出席すること。 当授業目標への達成度評価は以下の 2 通りの方法で行う。 ・筆記試験 (中間試験および定期試験) ・課題レポート 単位認定は上の評価方法で得られた点数を合計し、その 6 割以上獲得した者を対象とする。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な授業態度は減点の対象になる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	30%	中間期までの到達目標への達成度を筆記試験で評価する
定期試験	50%	当授業の到達目標への達成度を筆記試験により評価する
課題レポート	20%	授業中実施する演習は課題レポートとして、その提出状況や完成度等の観点から評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	毎回の授業について、事前および事後学修 (学修時間：4 時間相当) を必ず行うこと。それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・授業内容に該当する部分は必ず教科書等で事前に確認しておくこと (第 2 ～第 7 回 /2 時間相当) ・授業で扱った数式や数値データ等は再度確認しておくこと。また、演習で実施した内容は繰り返し練習を行い、確実にできるようにしておくこと (第 1 ～第 8 回 /2 時間相当)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義・演習) ガイダンス、仮説検定の考え方 第 2 回 (講義・演習) 母分散には差があるか (F 検定) 第 3 回 (講義・演習) 対応のある 2 群データの母平均に差があるか (t 検定) 第 4 回 (講義・演習) 対応のない 2 群データの母平均に差があるか (t 検定) 第 5 回 (講義・演習) ウェルチの t 検定とは 第 6 回 (講義・演習) 実測値と予測値の適合度検定 (χ^2 検定) 第 7 回 (講義・演習) 分割表による独立性の検定 (χ^2 検定) 第 8 回 (講義・演習) 2 変数の関係の強さはどうすればわかる (ピアソンの相関係数の算出) 受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある。なお、授業中に実施した演習課題や中間試験等は後日可能な範囲で解説を行う。
--------------	---

ナンバリング	NRFM2005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	962A0		
科目	962A 環境と人間			授業種別	週間授業		
科目責任者	渡部 吉規			単位数	1 単位		
担当教員	渡部 吉規						
授業概要	人類の産業活動が地球環境に及ぼす影響を学ぶ。環境倫理の観点から、持続可能な発展のために科学技術の発展と人間の生活を自然環境に調和させることの大切さおよび現代人類の担う役割を理解する。 授業では、アクティブラーニングとして、テーマに関する討論形式でのグループワークおよび発表を行うことで理解の推進を図る。また、電子データでの教材資料公開、ワークシート配付、課題提出を行う。 ※この科目は当該授業内容に関する企業現場での環境保全対策の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
ディプロマポリシーとの関連性			◎			○	
到達目標	学修者は人類の活動が環境へ及ぼす影響について説明ができ、かつ持続可能な社会を実現するために実践すべき行動を述べることができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
例題で学ぶ環境科学 15 講	伊藤 和男	コロナ社	2400	9784339066425	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標の達成度を次項に示す「予習レポート」、「課題レポート」、「ワークシート」および「定期試験」の4つの「評価項目」の得点にて総合評価する。 ※「予習レポート」はその性質上、必ず授業開始前に提出すること。授業開始後に提出しても受理しない。 原則として毎回出席すること。正当な理由なく3回以上欠席した者は失格とする。また、出席点は設定しないが、遅刻・早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
予習レポート	20%	各回の授業テーマに対する適切な内容・記述になっているかを評価する。
課題レポート	10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。
ワークシート	20%	講義内容の理解度を授業内で確認する。
定期試験	50%	基本的な授業内容の理解度を筆記試験にて確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回 4 時間程度行うこと。() 内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について配付資料および参考書の該当箇所を熟読する。(60 分程度) ・インターネットなども活用し、次回講義テーマに関する「予習レポート」を作成する。(60 分程度) ・毎回の授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。(30 分程度) ・配付資料および参考書などを活用して、予習と復習に励む。(90 分程度) その他 ・授業中に指定した問題・演習問題は必ず解くこと。 ・講義で出された課題は回次の講義までに必ず解くこと。

授業の実施方法と授業計画	※各回の授業開始前までに「予習レポート」を提出すること。 第1回【講義】ガイダンス：本科目の目的と概要、単位取得要件、評価方法などの説明をする。イントロダクション：世界各地で起こっている環境問題を概観する。 第2回【講義】持続可能な社会と環境倫理：持続可能な社会の実現のために求められる環境倫理の理念を考える。 【アクティブラーニング】環境倫理に関するグループ討論および発表。 【予習】「環境倫理」の定義を調べ、「予習レポート」を作成する。 第3回【講義】生物多様性：生物多様性の概念を理解し、その保存に向けて人類の担う役割を学ぶ。 【アクティブラーニング】生物多様性に関するグループ討論および発表。 【予習】「生物多様性」が減少することの問題点を調べ「予習レポート」を作成する。 第4回【講義】循環型社会と資源・廃棄物：循環型社会の構築における資源供給・廃棄物処理の問題点について考える。 【アクティブラーニング】循環型社会に関するグループ討論および発表。 【予習】「循環型社会」とはどんな社会かを調べ、「予習レポート」を作成する。 第5回【講義】低炭素社会とエネルギー：持続可能な未来のため、我々が志向すべき「低炭素社会」について考える。 【アクティブラーニング】低炭素社会に関するグループ討論および発表。 【予習】「低炭素社会」とはどんな社会かを調べ、「予習レポート」を作成する。 第6回【講義】地球温暖化：地球温暖化の現状と将来の影響予測について説明し、温暖化の原因とその不確実性、対策技術について解説する。 【アクティブラーニング】地球温暖化の影響に関するグループ討論および発表。 【予習】身近に実感する「地球温暖化」の影響を調べ、「予習レポート」を作成する。 第7回【アクティブラーニング】討論会：出題テーマについてグループで討論し、結論を発表する。 【予習】「課題レポート」を作成する。 第8回【講義】四大公害：我が国の環境問題歴史を振り返る。 【定期試験】 【予習】「四大公害」のうちの1つを調べ、原因と影響をまとめる。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあり得る。 授業内で課題に対するフィードバックを行う。
--------------	---

ナンバリング	NREM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	970A0
科目	970A 看護学原論	授業種別	週間授業
科目責任者	藤井 徹也	単位数	2 単位
担当教員	藤井 徹也		

授業概要	看護学全体を概観し、その基盤となっている看護学のメタパラダイムである人間・環境・健康・看護について、本質的な見方、考え方を学ぶことをめざす。 看護の歴史的な背景および看護理論の見地から、目的・本質を中心に看護の原理を理解する。また、看護の対象である人間そして病人について理解し、臨床判断の必要性や看護の方法の概括とケアの方向性、看護が提供されるシステム全体を知る。さらに、地域包括ケアなどの現状の看護トピックスや今後の看護の課題についても考察する。 ★この科目は該当授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎			△	△		
到達目標	1. 看護の概念、定義に含まれる構成要素（人間、環境、健康、看護）の理解を通し、看護の本質、原理について考察できる。 2. 看護の対象である個人 / 家族 / 集団について、その対象を全体的な存在として理論的基盤の見地から述べることができる。 3. 看護の専門性、責任・義務を多様な視点から、看護を学ぶ者としての方向性を考察できる。 4. 看護の機能、役割、保健福祉医療チームについて看護活動との関連を通し、その概括を述べるができる。 5. 看護の本質、専門性を大切にした看護、現状と課題について考えることができる。							

テキスト (教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業時に提示する。
-------------------------------	-----------

成績評価	筆記試験、課題レポート・講義中の提出物、講義中の討論の参加態度により総合的に評価する。なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験 (筆記試験)	80%	各授業の重要な点について適切に理解していることを評価する。
課題レポート・講義中の提出物	10%	課題に対して文献を活用し、分析し、考察がされていることを評価する。
講義中の討論の参加度	10%	講義中の意見交換、討論が自主的にできるか、他者の意見に関心を持った発言が出来るか等を評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	①指定されたテキストの範囲を事前学修する (第1～15 回)。 ②専門科目である看護学に初めて踏み込む導入、看護学の全体を overview する位置づけの科目である。耳慣れない用語等に接することも多い。教員の体験や見解も多く語られるため、学修内容を適宜まとめ整理する (第1～15 回)。 ③内容を理解、考察するのに社会状況や他の分野との関連性が欠かせないため、多角的に整理する (第1～15 回)。 ★2 単位の修得には 90 時間の学修時間が必要であることを踏まえ、講義毎に事前・事後学修合わせて 90 分程度の自己学修を行う。

授業の実施方法と授業計画	第1回 Introduction ; 看護学の学修に向けて (講義: 藤井) 第2回 看護とは何か, 看護の概念, 看護の本質 (講義: 藤井) 第3回 現在の看護の定義と看護モデルの発達 (講義: 藤井) 第4回 看護の歴史的な変遷と本質① (講義: 藤井) 第5回 米国における看護 (講義: ゲストスピーカー) 第6回 看護の歴史的な変遷と本質② (講義: 藤井) 第7回 看護の対象の理解①: 生活統合体としての人と環境, 発達・変化するものとしての人間 (講義: 藤井) 第8回 看護の対象の理解②: 環境の変化と対処機制, 健康の概念と看護の目標, 人々の健康の状態 (講義: 藤井) 第9回 看護の構成要素としての主要概念 (環境, 健康, 人間, 看護) (講義: 藤井) 第10回 保健医療システムと看護 (講義: 藤井) 第11回 看護の機能と業務, 看護活動 (講義: 藤井) 第12回 看護過程, 看護関連の法と制度① (講義: 藤井) 第13回 看護関連の法と制度②, 医療安全, 看護に関する倫理① (講義: 藤井) 第14回 看護実践と倫理, 患者の権利と責務, 道徳的判断 (講義: 藤井) 第15回 看護活動の現状の課題と今後の展望 (講義: 藤井) ★発表内容やリアクションペーパーの回答は授業時間内で行う。課題(定期試験やレポート等)のフィードバックは、授業内またはメール等でコメントする。
--------------	--

ナンバリング	NRCM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	970B0
科目	970B 看護理論概説	授業種別	週間授業
科目責任者	藤井 徹也	単位数	1 単位
担当教員	藤井 徹也		

授業概要	看護理論を学ぶ意義を理解し、学ぶことに興味をもつ。また、理論そのものの構造、守備範囲、主張点のつかみ方など、理論をクリティークできる視点を理解する。そのうえで、看護理論、周辺理論の時代的な流れ、関連性を概観し、先人の理論を実際に講読する。この購読、討論、発表、討論を繰り返す中で、それらの理論の内容、関連性が分かり、多様な理論を身近なもので、活用することに興味深くなる姿勢を養う。また、実際に、文献の購読方法を学び、自らの考え方にも理論を活用する。この科目は、当該授業内容に関する看護職の実務経験を有する教員等が、その実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	△					
到達目標	1. 看護理論を学ぶ目的と意義を理解でき、自らの考える看護に対する考え方の基礎にすることができる 2. 理論の構造、守備範囲の存在を知り、理論を構造的に述べることができる 3. 看護理論を支える周辺理論について、その特徴と看護への活用へのされ方等、概括的に述べるができる 4. 主要な看護理論の特徴と活用のされ方などの概括について歴史的変遷、影響された理論を含めて述べるができる 5. 看護理論および周辺の理論に関する文献講読、グループワークを通し、理論への接近の仕方と理論への興味関心を深め、プレゼンテーションができる							

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
新訂版 実践に生かす看護理論 19 第 2 版	城ヶ端初子編	サイオ出版	3,190	978-4-907176-71-6		

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	自らが購読を必要とする文献と考え方を広げるために必要とする文献
------------------------------	---------------------------------

成績評価	筆記試験(85%)、グループワークを含めた学修への取り組み状況(グループワークの参加度)(15%)で評価する。 なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記試験)	85%	講義内容の理解度を確認する
グループワーク(GW)を含めた学修への取り組み状況	15%	文献を用いて課題を適切に分析、まとめ GW で述べること、GW への参加度(役割遂行含む)の視点で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	① 授業前には事前に提示した文献や参考書の必要箇所を熟読する。 ② 授業後には授業での学びを整理しておく。 ③ 授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。 ①②③について、1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。(第 1 回～8 回講義の予習・復習で各々 30 分程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 Introduction, 看護学における理論、看護学の発展 (講義: 藤井) 第 2 回 先人たちの看護理論(1) ナイチンゲール、ヘンダーソン (講義、GW: 藤井) 第 3 回 先人たちの看護理論(2) オレム、ペプロー (講義、GW: 藤井) 第 4 回 先人たちの看護理論(3) トラベルビー、キング (講義、GW: 藤井) 第 5 回 先人たちの看護理論(4) ロジャース、ワトソン (講義、GW: 藤井) 第 6 回 先人たちの看護理論(5) ベナー、ロイ (講義、GW: 藤井) 第 7 回 先人たちの看護理論(6) レーニンガー、看護現象を理解するための諸理論(1) マズローの自己実現論、発達理論 (講義、GW: 藤井) 第 8 回 看護現象を理解するための諸理論(2) 危機理論、ストレス・コーピング理論、システム論、看護理論のまとめ (講義、GW: 藤井) ＊発表内容およびリアクションペーパーについては、授業内にフィードバックとしてコメントとする。定期試験のフィードバックは受講生にメール等でコメントする。
--------------	--

ナンバリング	NREM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	970F0			
科目	970F 看護コミュニケーション論			授業種別	週間授業			
科目責任者	藤井 徹也			単位数	2 単位			
担当教員	藤井 徹也、山口 直己、井上 直子、笹木 りゆこ、林 美佐、小原 由佳子、徳永 麗子							
授業概要	看護コミュニケーション論の学修は、【看護の専門家としての対人関係を築くために必要なコミュニケーション技法】【看護の対象を生物心理社会モデルでとらえることができる面接技法】から構成される。これらのコミュニケーション技法を学修する科目である。 ＊この科目は該当授業内に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	○		○			
到達目標	1. 看護の専門家に求められるコミュニケーション技法について説明できる。 2. 看護の対象を生物心理社会モデルでとらえることができる面接技法について説明できる。 3. 看護の専門職に求められる基本的な態度について説明ができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	講義内で適宜提示する
------------------------------	------------

成績評価	筆記試験(80%)、課題レポート・講義中の提出物(20%)について総合的に評価する。 なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記試験)	80%	各授業の重要な点について適切に理解していることを評価する。
講義中の提出物	20%	課題に対し分析・考察がされていることを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1. 指定されたテキストの範囲を事前学修する(第1～15回)。 2. 教員の体験や見解も多く語られるため、学修内容を適宜まとめ整理する(第1～15回)。 3. 臨地実習に欠かせない科目内容であるため、事例内容を振り返り、整理する(第1～15回)。 ★2単位の修得には90時間の学修時間が必要であることを踏まえ、講義毎に事前・事後学修合わせて90分程度の自己学修を行う。

授業の実施方法と授業計画	第1回：コミュニケーションとは 第2回：コミュニケーションの種類と影響するもの 第3回：看護におけるコミュニケーション 第4回：良好なコミュニケーションに必要な技法(1) 質問技法 第5回：良好なコミュニケーションに必要な技法(2) 関係構築技法 第6回：看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法(1) 患者中心の看護に必要な面接技法 第7回：看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法(2) 患者中心の面接と医療者中心の面接 第8回：看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法(3) 統合された面接技法演習 第9回：患者家族とのコミュニケーション 第10回：多職種連携とコミュニケーション 第11回：臨床実習で遭遇する事例 第12回：看護面接のコミュニケーションのトレーニング法 第13回：看護コミュニケーション技法 模擬患者とのセッション 第14回：看護コミュニケーション技法 模擬患者とのセッション 第15回：良好な患者―看護師関係を構築するための看護コミュニケーション ★第1～12,15回：藤井徹也 ★第13回・14回：井上直子、藤井徹也、山口直己、笹木りゆこ、林美佐、小原由佳子、徳永麗子 ・リアクションペーパーの回答は講義内で行う。 ・筆記試験の結果についてはユニバなどにより全体にフィードバックを行う
--------------	---

ナンバリング	
--------	--

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	980D0			
科目	980D 基礎看護学方法論Ⅰ			授業種別	週間授業			
科目責任者	井上 直子			単位数	2 単位			
担当教員	井上 直子、藤井 徹也、山口 直己、笹木 りゆこ、小原 由佳子、林 美佐、徳永 麗子							
授業概要	看護の目的を達成するために提供される方法論として看護技術は存在する。基本的な生活上の看護援助および人間関係を形成するためのコミュニケーションについて学ぶと共に、看護技術の根拠となる知識を基に、技術に共通して必要となる要素（安全・安楽・正確）に基づいた看護技術を講義・演習をとおして学修する。 *この科目は該当授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○					
到達目標	1. 看護場面に共通して必要となる看護技術を実施するために必要な基本的な知識とその根拠を述べることができる。 2. 安全・安楽・正確・効率（経済性）・美しさ（審美性）を考慮した看護技術を実施できる。 3. 看護技術を受ける対象者の状態を把握し、対象者を尊重した態度で実施できる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
系統看護学講座 - 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版	有田 清子	医学書院	3520	978-4-260-05688-5	冊子版
基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版	茂野 香おる	医学書院	2700	9784260049924	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	筆記試験、技術試験、参加状況・課題を総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や受講態度は減点対象とする	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記試験）	55%	講義内容の理解度を確認する
定期試験（技術試験）	30%	実技の修得状況を確認する
小テスト	10%	講義前小テスト
参加状況	5%	演習講義の準備・参加状況

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	1. 授業前には教科書の該当箇所を読んでおくこと（第 2 回～ 30 回の講義・演習／ 60 分程度） 2. 講義で学修した知識を復習する（第 1 回～ 28 回の講義／ 60 分程度） 3. 演習では、事前に配布される手順書の読み込み、クラスルームにアップされた演習動画を視聴する（第 2 回～ 30 回の演習／ 60 分程度） 4. 看護技術は繰り返し練習を積み重ねることによって習得されるため、演習で学修した内容を繰り返し練習する（全体で 16 時間）
授業の実施方法と授業計画	第 1 回 看護技術論概論（講義）、実習室オリエンテーション（演習）（井上、その他担当者） 第 2 回・第 3 回 バイタルサインの観察（講義）（井上、その他の担当教員） 第 4 回・第 5 回 バイタルサインの観察（演習）（井上、その他の担当教員） 第 6 回・第 7 回 感染防止の技術（講義）（笹木、その他担当者） 第 8 回 衛生的な手洗い、エプロン・手袋の着脱（演習）（笹木、その他担当者） 第 9 回・第 10 回 活動休息の援助技術（講義）（笹木、その他担当者） 第 11 回・第 12 回 体位の保持、体位変換、移乗・移送（演習）（笹木、その他担当者） 第 13 回・第 14 回 環境調整技術、衣生活援助技術（講義）（井上、その他担当者） 第 15 回 ベッドメイキング（演習）（井上、その他担当者） 第 16 回・第 17 回 臥床患者のシーツ交換・寝衣交換（演習）（井上、その他担当者） 第 18 回・第 19 回 清潔・整容援助技術（講義）（井上、その他担当者） 第 20 回 足浴（演習）（井上、その他担当者） 第 21 回・第 22 回 洗髪（演習）（井上、その他担当者） 第 23 回・第 24 回 清拭（演習）（井上、その他担当者） 第 25 回 清潔の援助技術（講義）（井上、その他担当者） 第 26 回 おむつ交換・陰部洗浄（演習）（徳永、その他担当者） 第 27 回 排泄の援助技術（講義）（徳永、その他担当者）、電法（笹木、その他担当者） 第 28 回・第 29 回 食事の援助技術・口腔ケア（講義）（林、その他担当者） 第 30 回 食事の援助・口腔ケア（演習）（林、その他担当者） ＊授業では新しい知見をふまえた内容を教授する。 ＊演習は前半・後半グループに分けて実施する。 ＊受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ＊リアクションペーパーの回答、小テストの解答は授業時間内に行う。 ＊筆記試験・技術試験については全体にフィードバックを行う。

ナンバリング	NRFM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		980E0		
科目	980E 基礎看護学方法論Ⅱ			授業種別		週間授業		
科目責任者	山口 直己			単位数		2 単位		
担当教員	山口 直己、小原 由佳子、笹木 りゆこ、藤井 徹也、井上 直子、林 美佐、徳永 麗子							
授業概要	医学治療・検査に伴う看護技術を根拠に基づいて対象者に提供する必要性を理解し、正確かつ安全、安楽に看護技術を実施するための知識・技術・態度を講義および学内演習を通して修得する。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○		○	◎	△			
到達目標	1. 医学治療・検査に伴って必要となる看護技術を実施するために必要な基礎的な知識を述べることができる。 2. 医学治療・検査に伴う基本的な看護技術を演習をとおして、正確かつ安全、安楽に配慮し実施できる。 3. 対象者の心身の状態を把握し、人として尊重した態度で実施できる。 4. 対象者に合った看護技術を考えることができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
基礎看護 [3] 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版	任 和子	医学書院	3520	9784260056885	
基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版	茂野 香おる	医学書院	2700	9784260049924	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	原則として毎回出席すること。 授業の到達目標がどの程度達成できているかを定期試験、小テスト、課題で総合的に評価する。 なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記試験）	55%	講義内容の理解度を確認する
定期試験（技術試験）	30%	実技の修得状況を確認する
小テスト	10%	講義・演習に臨むための準備状況を確認する
課題	5%	看護技術実施計画の内容を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	1. 授業前には教科書の指定箇所を読んでおくこと（第 2 回～ 30 回の講義／ 60 分程度） 2. 講義で学修した知識を復習する（第 2 回～ 30 回の講義／ 60 分程度） 3. 演習では、事前に配布される手順書の読み込み、クラスルームにアップされた演習動画を視聴する（第 2 回～ 30 回の演習／ 60 分程度） 4. 看護技術は繰り返し練習を積み重ねることによって習得されるため、演習で学修した内容を繰り返し練習する（全体で 16 時間）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 ガイダンス、感染防止の基礎知識 《講義》（山口） 第 2 回 感染防止の技術（無菌操作、滅菌手袋の着脱、ガウンテクニック） 創傷管理の技術（創傷処置）《講義》（徳永） 第 3・4 回 無菌操作、滅菌手袋の着脱、創傷処置《演習》（徳永、その他教員） 第 5 回 排泄援助技術①（導尿）《講義》（井上） 第 6 回 排泄援助技術②（浣腸）《講義》（林） 第 7 回 一時的導尿 《演習》（井上、その他教員） 第 8 回 グリセリン浣腸 《演習》（林、その他教員） 第 9・10 回 食事援助技術（非経口的栄養摂取の援助）《講義》（林） 第 11・12 回 経管栄養法 《演習》（林、その他教員） 第 13・14・15 回 与薬の技術《講義》（山口） 第 16・17 回 検査の技術（検体検査、生体検査）《講義》（山口） 第 18・19 回 静脈血採血 《演習》（山口、その他教員） 第 20・21 回 皮下注射・筋肉内注射 《演習》（山口、その他教員） 第 22・23 回 点滴静脈内注射 《演習》（山口、その他教員） 第 24・25 回 呼吸・循環を整える技術（酸素吸入、排痰ケア）《講義》（井上） 第 26・27 回 酸素吸入療法、口腔・鼻腔内吸引《演習》（井上、その他教員） 第 28 回 死の看取りの援助（死後の処置）《講義》（山口） 第 29・30 回 事例に基づく看護援助（GW・発表）《演習》（山口） *授業では新しい知見を含めた内容を教授する。 *演習は前半・後半グループに分けて実施する。 *受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *リアクションペーパーの回答、小テストの解答は時間内に行う。 *筆記試験・技術試験については全体にフィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	NRDM2004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		980F0		
科目	980F 基礎看護学方法論Ⅲ			授業種別		週間授業		
科目責任者	笹木 りゆこ			単位数		1 単位		
担当教員	笹木 りゆこ、藤井 徹也、山口 直己、井上 直子、小原 由佳子、林 美佐、徳永 麗子							
授業概要	看護の視点から対象者が生理的・心理社会的に全体として適応して生活しているか臨床判断し、必要な看護ケアを立案、実施し、成果を得る看護のプロセスについて看護理論を基盤として理解する。模擬事例を通し、対象者にとって有効な看護プロセスを最新の知見を踏まえながら、学生自身が体験的主体的に展開する。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			△	◎				
到達目標	1. 看護過程の意義、展開方法について概括を説明できる。 2. 看護過程の展開について、ロイ適応看護モデルを基盤に理論的に根拠立ててアセスメントすることを説明できる。 3. 行動（診断指標）、刺激（影響因子＜関連因子／危険因子＞）を理解し、アセスメントすることを説明できる。 4. アセスメントの結論として看護診断し、看護目標と解決に向けた看護介入の計画立案をすることを説明できる。 5. 模擬事例を用いて 2～4 の一連の看護プロセスの展開に取り組むことができる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026 原書第 13 版	(原著編集) T. ヘザー・ハードマン、上鶴 重美、カミラ・タカオ・ロベス (訳) 上鶴 重美	医学書院	3,630	978-4-260-05712-7	
【第2版】ザ・ロイ適応看護モデル	シスター・カリスタ・ロイ／原著 松木光子／監訳 松木光子／〔ほか〕訳	医学書院	4800	9784260009737	
基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版	茂野 香おる	医学書院	2700	9784260049924	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	すべてのテキストは、1 年次に購入済み
------------------------------	---------------------

成績評価	定期試験（筆記）、看護過程記録内容・取り組み姿勢、小テストで総合的に判断する。 看護過程記録内容、取り組み姿勢は、授業の到達目標の達成状況をルーブリック評価表に基づいて評価する。 各時間で体験的に学修する進捗となっているため、原則として毎回出席する必要がある。 なお、欠席、遅刻、早退や演習課題の取り組み等で劣悪な受講姿勢は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記試験）	50%	講義の中で学んだ学修内容の理解度を確認し、評価する。
看護過程記録内容	40%	模擬事例の演習課題から理解度と取り組み姿勢を確認し、ルーブリック評価表の評価基準で評価する。
小テスト	10%	授業、学修内容について、知識確認のために実施し評価する。

受講条件	必須科目
事前・事後学修（内容・時間）	①毎授業前には、テキストの指定箇所を熟読する。（第 1 回～7 回／30 分程度） ②授業後には、授業での学びを整理しておく。（第 1 回～ 15 回／30 分程度） ③授業後には、看護過程記録の学修すべき内容について、フィードバック等の指導を受けて取り組む。（第 8 回～ 14 回／60 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 看護過程とは 問題解決過程、クリティカルシンキング、看護理論との関係〈講義〉（笹木） 第 2 回 看護過程の各段階について①アセスメント〈講義〉（笹木） 第 3 回 看護過程の各段階について②看護問題の明確化（看護診断①）〈講義〉（笹木） 第 4 回 看護過程の各段階について③看護問題の明確化（看護診断②）〈講義〉（笹木） 第 5 回 看護過程の各段階について④看護目標、看護計画、実施、評価〈講義〉（笹木） 第 6 回 看護記録、演習オリエンテーション 第 7 ～ 14 回 看護過程を展開するための方法論 〈講義・演習〉（笹木、その他担当教員） ロイ適応看護モデルを理論的基盤とした模擬事例の看護過程の展開 対象を通した情報収集の実際 生理的機能様式：第一段階アセスメント、第二段階アセスメント、看護診断、看護介入、計画について 第 15 回 模擬事例のまとめ 看護計画実施、評価について〈講義〉（笹木） ＊第 7 回以降の内容については授業計画を変更する場合がある。 ＊小テストの回答、提出された看護過程記録のフィードバックを授業時間内に行う。 ＊筆記試験については、全体にフィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	NRAM2004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	98610			
科目	9861 基礎看護学実習Ⅰ			授業種別	実習			
科目責任者	井上 直子			単位数	1 単位			
担当教員	井上 直子、笹木 りゆこ、藤井 徹也、山口 直己、小原 由佳子、林 美佐、徳永 麗子							
授業概要	基礎看護学で学んだ学修内容を活用しながら、看護の対象者との関わりや生活援助の体験をとおして、対象者の生活の実際を知り、対象者の視点から看護の役割について考える。また、実習を通して看護への関心を深め、主体的な学修への動機づけとする。 *この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎		△			
到達目標	1. 患者が 24 時間過ごす療養環境とその過ごし方を知ることができる 2. 既修の知識・技術を用いながら、患者とコミュニケーションをとることができる 3. 療養している患者の気持ちを知ることができる 4. 患者の療養生活を支える看護師と多職種について知ることができる 5. 看護学を学ぶものとして誠実な態度で行動することができる 6. 看護への関心を深め、自らの今後の学修を考えることができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
看護コミュニケーション 第 2 版	篠崎 恵美子	医学書院	1800	9784260047937	
基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版	茂野 香おる	医学書院	2700	9784260049924	
基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 第 18 版	有田 清子	医学書院	2900	9784260042123	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	全出席を原則とする。 授業の到達目標がどの程度達成できているかルーブリック評価表によって評価する。 なお、欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
実習内容・記録	65%	目標の到達状況を確認する
課題・実習に取り組む姿勢	35%	実習中の行動、言動、事前および事後学修状況を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	*実習は 45 時間をもって 1 単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 事前学修 ・基礎看護学で学修した知識を復習する ・基礎看護学方法論Ⅰ、看護コミュニケーション論で学修した実技内容を十分に練習する

授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間：5 日間 2. 実習内容： - 実習中 ・翌日の実習の目標・計画を立案する ・実習後にその日の実習を振り返り、学びと課題を記述する - 実習 1 日目《学内》看護学実習へのレディネス形成(実習オリエンテーション、知識・技術の事前確認と演習) - 実習 2 日目《臨地》病院実習(a. 医療の場の 1 つである病院の機能とそこでの看護の実際を知る、b. 病院内の多職種を知る) - 実習 3 ～ 4 日目《臨地》病院実習(実習指導者の支援のもとに対象者への看護ケアに参加または同席し、療養生活の実際と対象者の多様なニーズを知る) - 実習 5 日目《学内》実習のまとめ(a. 病院における臨地実習で得た経験と課題の検討、グループワークと発表会、ルーブリック評価表の到達度を面談で確認) - 実習後 ・実習を終えての学びと課題について、レポートにまとめる フィードバックは、面談または、Google クラスルームから行う
--------------	---

ナンバリング	NRGM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	98620			
科目	9862 基礎看護学実習Ⅱ			授業種別	実習			
科目責任者	笹木 りゆこ			単位数	2 単位			
担当教員	笹木 りゆこ、井上 直子、藤井 徹也、山口 直己、林 美佐、小原 由佳子、徳永 麗子							
授業概要	一人の患者を受け持ち、対象者との関わりを通して対象理解を深め、看護過程を展開する。看護の視点から対象者の生理的・心理社会的全体として適応しているかどうか、アセスメントし看護診断をする。この臨床判断のプロセスを通し、必要な看護ケアを立案し、それに基づいた看護技術による生活援助を実践し、その評価とフィードバックを行う。また、対象者にあった生活援助の実施に必要な知識・技術・態度を学修する。さらにこの一連の体験を通して、看護における患者―看護師の人間関係の重要性を理解する。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	△	○			
到達目標	1. 対象者の健康状態の維持・増進および問題解決に向けて、看護過程が展開できる。 2. 対象者の健康状態の臨床判断に基づき、生活援助に関する看護技術が実施できる。 3. 対象者と人間関係を築くことができる。 4. 看護を学ぶ者としての倫理的態度を考え、行動できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	なし 参考書は適宜紹介する。
------------------------------	-------------------

成績評価	実習内容、実習記録、カンファレンスでの発言、実習への取り組み姿勢により、ルーブリック評価表に基づいて総合的に評価する。なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な実習態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
実習記録、実習内容、カンファレンス発言内容	75%	ルーブリック評価表の評価基準で評価する。
課題への取り組み姿勢	25%	ルーブリック評価表の評価基準と実習態度で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	実習は 45 時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 また、実習前の学内オリエンテーションに出席し、実習に臨むこと。

授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間 2週間 2. 実習内容 1) 行動計画の立案と実施 日々、自身の実習目標(行動目標)を立案し、目標が達成するよう行動計画を立案し実施する。 また、1日の学びと実習目標に対する振り返りをする。 2) 看護過程の展開 受け持ち患者(対象者)の看護過程を展開し、看護介入を実施する。 実施後は、その成果を評価・修正して看護過程を展開する。 3) 生活援助に関する看護技術の実施 受け持ち患者(対象者)の健康状態にあわせて、必要な生活援助の看護技術実施計画を立案して実施する。 実施後は、臨地実習指導者及び教員と振り返りを行い、計画を修正して、繰り返し実施する。 4) カンファレンス カンファレンスは原則として毎日行う。テーマの決定、運営方法は、担当教員の指導を受けながら各グループメンバーで話し合い、学生が中心になって運営する。 ★日々、行動計画、看護過程、看護技術の記録や実施内容に対して、教員及び臨地実習指導者がフィードバックを行う。 ★実習期間中盤に中間評価、実習最終日に最終評価を行い、教員が面談にてフィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	NRFM2006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	984F0
科目	984F 在宅看護学原論	授業種別	週間授業
科目責任者	蒔田 寛子	単位数	2 単位
担当教員	蒔田 寛子		

授業概要	社会の変化をふまえた在宅看護の歴史の変遷、在宅で医療や看護を必要とする療養者と家族の特徴、看護の役割、関連する保健医療・福祉・介護制度の概要と ICT の活用も含めた多職種連携について学修する。また、諸外国の在宅ケア、在宅看護のあり方等について学び、多職種連携とソーシャルキャピタルが活かされる地域包括ケアシステムと、それをふまえた在宅看護のあり方を発展的に考えることができる基礎的能力を養う。※この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目である。教員の研究結果を教育内容に含めて講義を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎			△	△		
到達目標	在宅看護の考え方、その歴史と諸外国の状況、在宅看護実施に関連した法制度、地域包括ケアシステムと多職種連携、家族を含めた在宅看護の対象について学び、説明することができる。具体的には、以下の内容である。 1. 在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。 2. 在宅看護の対象と在宅看護の特徴を理解し、看護を実践するための基礎的能力を身につける必要性について説明できる。 3. 在宅看護における倫理的な問題について意識を高く持ち、倫理的問題への意見を述べるができる。 4. 多職種連携を基盤に支援する必要性と連携における看護の役割について説明できる。 5. 社会の変化と在宅看護に関連する法制度をふまえ、地域包括ケアシステムについて説明できる。 6. 諸外国の在宅ケアの実際も参考に、在宅看護を発展的に考え説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア	石田千絵 臺有桂 山下留理子	メディカ出版	本体 3100 円＋税	978840484718	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書および参考文献は必要時適宜紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。 筆記試験とプレゼンテーションの合計で評価し到達しなかった場合に再試験とします。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。
課題の発表	30%	わかりやすいスライドと発表、質問への適切な対応、積極的に質問できるかで評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(1～12回/30分程度) 2. 講義で学んだ内容は配布資料、テキストを見直し整理しておく(毎回/60分程度) 3. プレゼンテーションは、指定された項目について、テキスト、参考文献等を活用し、グループで協力し準備すること(13～15回について180分程度) 4. 筆記試験には授業内容の復習を十分に行い臨むこと 以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回 授業ガイダンス(講義 蒔田) 在宅看護の考え方 社会的背景 第2回 暮らしを考える (講義・演習 蒔田) 第3回 暮らしを考える 暮らしと健康の関係 (講義・演習 蒔田) 第4回 共生社会と地域包括ケアシステム 多職種・多施設連携(講義 蒔田) 第5回 在宅看護の歴史と在宅看護における倫理(講義 蒔田) 第6回 地域療養を支える在宅看護の役割 いのちと生活を看護する訪問看護の実践(講義・ディスカッション 蒔田) 第7回 在宅看護の対象(療養者) (講義 蒔田) 第8回 在宅看護の対象(家族) 介護者としての家族と看護の対象としての家族 (講義 蒔田) 第9回 在宅療養を支える訪問看護 (講義 蒔田) 第10回 政策と制度と法律 医療保険制度 介護保険制度(講義 蒔田) 第11回 海外の在宅看護と我が国の在宅看護の先駆的取り組み プレゼンテーション準備(講義・プレゼンテーション準備 蒔田) 第12回 在宅看護における安全と健康危機管理 災害対策 (講義 蒔田) 第13回 在宅ケアに関わる法制度について(1) (プレゼンテーション 蒔田) 第14回 在宅ケアに関わる法制度について(2) (プレゼンテーション 蒔田) 第15回 在宅ケアに関わる法制度について(3) (プレゼンテーション 蒔田) ※ただし受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもあります。 ※講義内容の順序は変更することもあります。 ※課題については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※定期試験の疑問点については適宜フィードバックします。
--------------	--

ナンバリング	NRBM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	984E0			
科目	984E 在宅看護学方法論			授業種別	週間授業			
科目責任者	蒔田 寛子			単位数	1 単位			
担当教員	蒔田 寛子、今福 恵子							
授業概要	在宅看護の対象者は、小児から高齢者までと年齢の幅は広く、寝たきりの高齢者、がんの終末期患者、神経系難病患者、在宅療養している子ども、精神疾患をもつ療養者等、対象の疾病や状態もさまざまである。本科目では、地域包括ケアシステムを踏まえ、在宅療養者の特徴と看護の方法について学修する。※この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。教員の研究結果を教育内容に含めて講義を行っています。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			△	
到達目標	1. 在宅看護の対象者の特徴と、特徴をふまえた援助の実践について説明できる。 2. 在宅看護における倫理的な問題、多職種連携の必要性について説明できる。 3. 在宅看護の対象者により利用できる社会保障制度について説明できる。 4. 地域包括支援システムにおける看護の役割について説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア	石田千絵 臺有桂 山下留理子	メディカ出版	本体 3100 円＋税	9784840484718	
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術	石田千絵 臺有桂 山下留理子	メディカ出版	本体 3300 円＋税	9784840484725	
療養者が望む暮らしを支える地域・在宅看護過程	尾崎章子 蒔田寛子	医歯薬出版株式会社	本体 2500 円＋税	9784263237755	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書および参考文献は必要に応じ適宜紹介します。
------------------------------	--------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。筆記試験と課題レポートの合計で評価し、到達しなかった場合に再試験とします。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	筆記試験にて内容の理解度を確認する。
課題レポート	20%	課題に対して適切で論理的にわかりやすい内容であるかで評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(毎回/30分程度)。 2. 講義で学んだ内容は配布資料、テキストを見直し整理しておく(毎回/60分程度)。 3. 課題に対して論理的にわかりやすくレポートを作成する(120分程度) 3. 筆記試験には授業内容の復習を十分に行い臨む。 以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回 寝たきりの高齢者の在宅看護(講義 蒔田) 第2回 認知症高齢者の在宅看護(講義 蒔田) 第3回 がんの終末期患者の在宅看護(講義 蒔田) 第4回 AYA世代のがん療養者の在宅看護(講義・グループワーク 蒔田) 第5回 高齢独居療養者の在宅看護(講義 蒔田) 第6回 在宅療養している子どもの看護(講義 蒔田) 第7回 精神疾患をもつ療養者の在宅看護(講義 蒔田) 第8回 神経系難病患者の在宅看護(講義 蒔田) ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 ※講義内容の順序は変更することもあります。 ※講義やリアクションペーパーの質問等については授業内あるいは Classroom を通してフィードバックを行います。 ※定期試験の疑問点については適宜フィードバックします。
--------------	---

ナンバリング	NRGM2007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	984C0			
科目	984C 在宅看護学演習Ⅰ			授業種別	週間授業			
科目責任者	蒔田 寛子			単位数	1 単位			
担当教員	蒔田 寛子、谷口 弥生							
授業概要	在宅看護ではさまざまな対象者に、生活の場の特徴を踏まえて臨床判断できる能力が必要である。本科目では、講義と演習を通して、療養者および家族の健康状態と生活状況から支援ニーズを把握し、適切な看護を提供するための看護過程について学修する。※この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。教員の研究結果を教育内容に含め教授しています。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			△	◎				
到達目標	1. 在宅療養者の健康問題について知識をふまえて論理的にアセスメントし説明できる。 2. 在宅療養者の健康問題と家族を含めた対象の生活について説明できる。 3. 療養生活継続及び生活の質向上への必要な看護について説明できる。 4. 在宅療養者の支援ニーズをふまえ看護計画を立案できる。 5. 訪問看護における援助の特徴について説明できる。 6. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割について説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術	石田千絵 臺有桂 山下留理子	メディカ出版	本体 3300 円＋税	9784840484725	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書および参考文献は適宜紹介します。
------------------------------	---------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。課題の合計で評価し到達しなかった場合に再試験とする。	
評価項目	割合	評価基準
看護過程課題(記録内容)	50%	模擬事例の演習課題について、適切かつ十分な内容・記述になっているかで評価する。
定期試験	50%	到達目標に沿って、演習での重要なポイントについて理解度を筆記試験で確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	①各講義時間で取り組む看護過程の内容について必要な基礎知識を学修し整理しておく(第2回～12回／60分程度) ②各講義時間で取り組む看護過程の内容について、事後学修で次回講義までに完成させる(第1～12回／120分程度) ③講義時間内で十分に検討できなかった内容については、グループで取り組み発表に備えて準備をすること(第14回、第15回／90分程度) ④演習を通して理解不足であった基礎知識は復習し整理しておくこと(毎回／30分程度) 以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	講義は全員で受講し、演習はグループに分かれて実施する。 第01回 授業ガイダンス 在宅看護過程の基本的な考え方 事例紹介(講義 蒔田) 第02回 在宅看護過程におけるアセスメント 健康問題(演習 蒔田) 第03回 在宅看護過程におけるアセスメント 価値・意思決定(演習 蒔田) 第04回 在宅看護過程におけるアセスメント 食事・栄養 排泄・清潔(演習 蒔田) 第05回 在宅看護過程におけるアセスメント 睡眠 運動・身体活動(演習 蒔田) 第06回 在宅看護過程におけるアセスメント 認知機能・知覚 セクシャリティ(演習 蒔田) 第07回 在宅看護過程におけるアセスメント 情緒・精神 家族(演習 蒔田) 第08回 在宅看護過程におけるアセスメント 社会との関係 地域の生活環境 社会資源の活用(演習 蒔田) 第09回 在宅看護過程におけるアセスメント 自立した暮らし 安全な暮らし その人らしい暮らし(演習 蒔田) 第10回 在宅看護過程におけるアセスメント 今後の療養生活の方向性 関連図(演習 蒔田) 第11回 在宅看護過程における看護課題の明確化と優先順位 (演習 蒔田) 第12回 在宅看護過程における看護計画(演習 蒔田) 第13回 在宅看護過程模擬事例のケアプラン作成(演習 蒔田) 第14回 在宅看護過程模擬事例の看護計画シナリオ作成とロールプレイングの準備(演習:グループワーク 蒔田) 第15回 在宅看護過程模擬事例のロールプレイング発表と振り返り(演習:グループワーク 蒔田) ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 ※提出された看護過程演習課題については、コメントをした上で返却します。 ※課題については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問に対するフィードバックを行います。
--------------	---

ナンバリング	NRAM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	984D0
科目	984D 在宅看護学演習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	蒔田 寛子	単位数	1 単位
担当教員	蒔田 寛子、谷口 弥生		

授業概要	在宅看護ではさまざまな対象者に、生活の場の特徴をふまえて安全な援助を実施できる能力が必要である。本科目では、講義と演習を通して、在宅療養生活を支える日常生活援助技術と医療処置（医療ケア）について学修する。★この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義などを行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		△	◎				
到達目標	1. 在宅の特性を考慮し、療養者や家族の状況、および生活環境に合わせた日常生活援助の方法について説明することができる。 2. 医療ケアに伴う援助について、在宅における援助方法および、起こりうるリスクとその対応について説明できる。 3. 訪問看護に必要な基本的マナー、コミュニケーションスキルを身につけることができる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
在宅療養を支える技術 第2版	臺 有桂	メディカ出版	2,800	9784840475440	
地域療養を支えるケア 第7版	臺 有桂	メディカ出版	3,400	9784840475433	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	筆記試験と演習への取り組み、レポートの合計で再試験の判定をします。 なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
筆記試験	50%	講義で学んだ内容の理解度を確認する。
実技に対する取り組み	20%	実技の習得状況、演習記録から確認する。
課題レポート	30%	課題に対する内容の適切性について確認する。

受講条件	必修科目（専門科目）履修条件を付けない。
事前・事後学修（内容・時間）	①講義内容に該当するテキストの内容を読んでおくこと（毎回 /30 分程度） ②講義内容に該当する援助技術について、基礎看護学で学んだ内容を復習しておく（毎回 /30 分程度） ③演習で学んだ内容は、実習で活用できるよう自身で整理しておく（毎回 /30 分程度） 以上について、1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	講義は全員で受講し、演習は A グループ、B グループに分かれて実施します。 第 01 回 ガイダンス、在宅における日常生活援助の特徴・家庭訪問マナー（講義） 第 02 回 日常生活援助ー環境・活動の援助（講義） 第 03 回 日常生活援助ー嚥下・食事の援助（講義） 第 04 回 日常生活援助ー清潔の援助（講義） 第 05 回 日常生活援助ー排泄の援助（演習） 第 06 回 日常生活援助ー活動の援助（演習）（外部講師） 第 07 回 医療ケアに伴う援助ー胃ろう（講義） 第 08 回 医療ケアに伴う援助ー在宅中心静脈栄養法（講義） 第 09 回 医療ケアに伴う援助ー在宅膀胱留置カテーテル法（講義） 第 10 回 医療ケアに伴う援助ー在宅酸素療法（講義・演習）（外部講師） 第 11 回 医療ケアに伴う援助ー在宅人工呼吸療法・排痰ケア・吸引（講義） 第 12 回 医療ケアに伴う援助ー腹膜透析・ストーマ管理（講義） 第 13 回 医療ケアに伴う援助ーバイタルサイン・腸蠕動聴取（演習） 第 14 回 医療ケアに伴う援助ー褥瘡（講義） 第 15 回 医療ケアに伴う援助ー薬物療法・疼痛管理（講義） ★ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 ★レポート等提出物は適宜コメントし返却します。
--------------	--

ナンバリング	NRAM3009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	986C0
科目	986C 在宅看護学実習	授業種別	実習
科目責任者	蒔田 寛子	単位数	2 単位
担当教員	蒔田 寛子、谷口 弥生、鈴木 知代、石上 早苗		

授業概要	在宅看護では、様々な対象に応じて、根拠をふまえた援助の実践能力が必要である。本科目では、在宅で療養生活している対象者の理解を深め、個々の対象の健康障害、生活状況を把握し、保健、医療、福祉の制度や介護保険制度をふまえて看護計画を立案実施評価ができる基礎的能力を養う。さらに療養生活を継続するために必要な包括的支援と支援の中での看護専門職の役割について学び、在宅看護を発展的に考えることができる能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1. 訪問看護を利用しながら在宅で生活している対象者とその家族の健康状態、生活状況をふまえ看護計画を立案し実践できる。 2. 通所介護や多機能サービスを利用しながら生活している対象者の特徴を理解し、対象者におけるサービス利用の意義を説明できる。 3. 在宅ケアにおける多職種連携の必要性と、看護専門職の役割を説明できる。 4. 実習で体験した事象をふまえ、在宅看護における倫理的問題について考えを述べるができる。 5. 看護学生としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
療養者が望む暮らしを支える 地域・在宅看護過程	尾崎章子、蒔田寛子編著	医歯薬出版	2,750	9784263237755	
地域療養を支えるケア 第7版	臺 有桂	メディカ出版	3,400	9784840475433	
在宅療養を支える技術 第2版	臺 有桂	メディカ出版	2,800	9784840475440	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	ルーブリック評価表に基づき評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	ルーブリック評価表に基づき評価する。

受講条件	必修科目 (専門科目)
事前・事後学修 (内容・時間)	実習は 45 時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 指示された事前学習課題を行い、実習に臨むこと。

授業の実施方法と授業計画	【実習内容】 1. 事前オリエンテーション 学内での事前オリエンテーションに参加する。 2. 訪問看護ステーションでの実習 (6 日間) 実習指導者およびスタッフの訪問に同行し実習する。 3. 通所サービス・多機能サービスでの実習 (2 日間) 実習指導者の指導の下、利用者とのコミュニケーション、ケアを行う。 4. 学内実習 (2 日間) 学内で記録の指導整理 カンファレンス 中間・最終評価 【実習スケジュール】 訪問看護ステーションでの実習を中心に、1 週目と 2 週目の同じ曜日に通所サービス・多機能サービスでの実習を行う。 毎週金曜日は原則学内実習とする。 【実習方法】 訪問看護ステーションの実習では、受け持ち事例を決めて看護過程の展開を行い、看護計画に沿って実施評価まで行う。受け持ち事例以外の療養者へも訪問看護に同行し、対象の特徴と訪問看護について理解を深める。 通所サービス・多機能サービスでの実習では、施設の 1 日のスケジュールに従い、日常生活援助は指導者指導の下に実施、医療処置などについては目的をもって看護援助を見学し学ぶ。 他詳細は在宅看護学実習要項を参照すること。 ※実習記録については、教員及び実習指導者が内容を確認し、適宜コメントする。
--------------	---

ナンバリング	NREM3011
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	988B0			
科目	988B 成熟期看護学方法論I			授業種別	週間授業			
科目責任者	二十軒 温美			単位数	1 単位			
担当教員	二十軒 温美、小山 順子							
授業概要	急性期やクリティカルケアを必要とする重篤な状態、周術期にある人とその家族の特徴を理解する。また、看護援助に必要な臨床判断と、生命維持、心身の回復過程を理解し、対象者の特性に応じて生きることができ、QOL を高める看護援助について多職種連携の視点を踏まえて学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			△	
到達目標	1. 急性期および回復期にある対象への看護に必要な基盤となる概念を説明できる 2. 急性期にある対象の身体的・心理社会的特徴について説明できる 3. 手術療法に伴う生体侵襲を理解し、対象者の心身の状態に応じて適切な看護援助について説明できる 4. 救命医療や手術療法を受ける患者の人権や生命の尊厳を守る看護について述べるができる 5. クリティカルな状態にある対象の身体的・心理社会的側面を踏まえた援助を述べるができる 6. 回復過程にある対象の状態を理解し、セルフケアの再獲得への支援が説明できる 7. 急性期および回復期にある対象の治療や社会復帰への意思決定に関して、主体的取り組みへのサポートを理解し述べるができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ナーシンググラフィカ成人看護学④ 周術期看護 第4版, 2025	中島恵美子 (編集)	メディカ出版	3600 円	ISBN:978-4-8404-7539-6	
新訂版 写真でわかる 臨床看護技術②アドバンス. 2025	本庄恵子, 田みつ子 (監修)	インターメディカ	3400 円	ISBN:978-4-89996-414-8	
系統看護学講座 臨床外科看護総論 第12版. 2023	池上徹, 高橋則子 (編集)	医学書院		ISBN:978-4-260-04998-6	(病態と治療Ⅲで購入済)

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
系統看護学講座 - 別巻, 臨床外科看護各論	北川雄光, 江川幸二 (編集)	医学書院	3300 円	ISBN:978-4-260-04990-0	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて適宜紹介する
------------------------------	--------------

成績評価	筆記試験と課題レポートにより評価する。 原則として毎回出席すること、遅刻、欠席、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する
課題レポート	10%	課題に対する内容の適切性について評価する

受講条件	必修科目(履修条件を付けない)
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修：授業前には教科書の指定箇所を熟読し、授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(第1～8回/60分程度)。 事後学修：授業後には授業での学びを整理する。また Classroom より講義確認問題に取り組む(第1～7回/60分程度)。第8回課題レポート作成、全講義の学修内容を振り返りまとめる ★1単位の習得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	- 第1回 急性期および回復期にある患者への看護に必要な基盤となる概念(講義) - 第2回 麻酔による生体の反応、生体の損傷に伴う反応(講義) - 第3回 手術侵襲と術後の合併症、術前・術後の看護(講義) - 第4回 運動器系/性・生殖器・乳腺機能に障害のある患者の看護(講義) - 第5回 消化代謝系に障害のある患者の看護(講義) - 第6回 呼吸器系に障害のある患者の看護(講義) - 第7回 循環器系に障害のある患者の看護(講義) - 第8回 クリティカルな状態にある患者の看護(ゲストスピーカー講義) ・受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある ・ゲストスピーカーは、救急の現場で活躍されている認定看護師または特定看護師による講義である ・課題やリアクションペーパーの質疑内容、試験についてのフィードバックは、授業内または Classroom を通して行う
--------------	---

ナンバリング	NRGM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	988C0
科目	988C 成熟期看護学方法論Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	豊島 由樹子	単位数	1 単位
担当教員	豊島 由樹子		

授業概要	慢性病を抱えて生活する患者とその家族の特徴と、特有な健康問題・関連する諸要因について理解し、今後も住み慣れた地域で暮らしていくための地域包括ケアの視点から、慢性病を抱えて生活する患者と家族におけるQOLの向上・充実にむけた看護援助に必要な臨床判断能力を養うための基礎的知識について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			△	
到達目標	1. 慢性病を抱えて生活する患者の代表的な健康障害（病態・症状・合併症など）と関連する諸要因について説明できる。 2. 慢性病を抱えて生活する患者の身体・心理・社会面の療養上の特徴を説明できる。 3. 慢性病の病状維持や増悪予防に向けた治療を受ける患者に対する看護援助について説明できる。 4. 生涯にわたり慢性病と上手に付き合っていくための地域で暮らしていくために、患者・家族に必要なセルフケアを支える看護援助について説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
成人看護学 成人看護学概論（改訂第5版）	林直子 他編	南江堂		9784524211920	既に購入済
成人看護学 慢性期看護（改訂第4版）	鈴木久美	南江堂	3400	9784524234363	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を各回の講義で配布する。
------------------------------	-----------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、定期試験と課題レポートから評価する。なお、劣悪な授業態度や提出物の不備については減点対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する
授業後課題（レポート）	30%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修として、配布する次回講義分の事前学修課題に、各自取り組んだ上で講義に臨むこと。講義は事前学修課題の内容を踏まえて進める（第1～8回／60分程度）。 事後学修として、各回の授業における主要な内容をまとめた課題レポートを作成する。また Google Classroom を利用した復習問題に取り組むこと。（第1～8回／60分程度）。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回：授業ガイダンス、化学療法と看護 ＜講義＞ 第2回：血液疾患患者と看護 ＜講義＞ 第3回：自己免疫疾患患者と看護 ＜講義＞ 第4回：慢性呼吸不全患者と看護 ＜講義＞ 第5回：肝硬変患者と看護 ＜講義＞ 第6回：脳血管障害患者と看護 ＜講義＞ 第7回：神経難病患者と看護 ＜講義＞ 第8回：慢性心不全患者と看護 ＜講義＞ 各授業後に提出する学修課題に関しては、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。定期試験のフィードバックは適宜メール等に対応する。 ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRGM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	988D0			
科目	988D 成熟期看護学方法論Ⅲ			授業種別	週間授業			
科目責任者	原沢 優子			単位数	2 単位			
担当教員	原沢 優子、城川 絵理子、三村 絵美							
授業概要	健康な高齢者、疾病を持つ高齢者、要介護高齢者など、高齢者看護が対象とする人の暮らしを支えるために必要な看護実践に関する知識・技術の具体的な方法を学修する。特に、高齢者に特有の症状や高齢者に多い疾患をアセスメントする視点、高齢者への具体的な看護の考え方・看護方法を教授する。さらに、認知症について理解を深め、認知症高齢者との関わりを学び、コミュニケーションスキルを演習する。これらの学修を通して地域の高齢者の健康から要介護者、疾患を持つ高齢者への看護に必要な実践力を知識修得する。 ※この科目は、臨床における高齢者看護と認知症看護の実務経験を有する教員が講義を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			△	
到達目標	1. 高齢者の暮らしの特徴を理解し、高齢者の暮らしを支える看護が説明できる。 2. 老年症候群を理解し、それをアセスメントする技術と必要な看護が説明できる。 3. 高齢者に多い症状と疾患を理解し、高齢者特有のアセスメントと必要な看護が説明できる。 4. 認知症高齢者の特徴を理解し、認知症高齢者への看護が説明できる。 5. 認知症高齢者とのコミュニケーション技術を理解し、実践時に気を付けることを説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
(2 年次購入済) 老年看護学 第 10 版(系統看護学講座)	北川公子	医学書院		冊子 978-4260056892 電子 978-4260656894	
老年看護 病態・疾患論 第 6 版(系統看護学講座)	鳥羽研二 他	医学書院		冊子 978-4260056830 電子 978-4260656832	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験と課題レポートから評価する。劣悪な授業態度、早退・遅刻、提出物の不備は減点となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	第 1 ～ 11 回の理解度を筆記試験にて評価する
課題 1	10%	第 11 ～ 12 回の認知症に関する課題の適切性から評価する
課題 2	10%	第 13 ～ 15 に関する講義内容から出題し、習熟度から評価する

受講条件	必須科目 履修条件を付けない
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修(第 1 ～ 15 回／30 分程度) - 当該授業に関する教科書のページを事前に示す。 - 事前学修では、その該当ページを授業前までに読む。 - 内容の理解が難しい箇所や疑問点に付箋を貼り授業に臨む。 - 授業にて解決しない疑問点は、リアクション ペーパーに記載して質問する。 事後学修(第 1 ～ 15 回／60 分程度)。 - 授業で配布されたレジュメを振り返り、知識として修得する内容を整理する。 - その他、気づき・学びを自己学習としてノート等にまとめる。 - 毎回の授業で事後学修課題を提示する。 - 事後学修課題は、資料をみなくても全問正解となるまで繰り返し解く。 レポート課題について、授業の事後学修に加えて文献学習を活用する。

授業の実施方法と授業計画	※双方向型授業の展開をする。 ※各回リアクションペーパーの記載(foams)を通して質問・意見を求める。 ※質問・意見・試験やレポート等へのフィードバック方法：classroom を通して行う。 ※各自の携帯電話などインターネット通信機器を持参すること 第 1 回(講義) 授業ガイダンス、高齢者看護の対象と看護の特徴【原沢】 第 2 回(講義) 老年症候群とその看護；脱水、低栄養、めまい、骨粗鬆症【原沢】 第 3 回(講義) 高齢者に多い疾患とその看護 ①循環器系の症状と疾患の看護；心疾患、血圧調整障害、貧血【原沢】 第 4 回(講義) ②呼吸器系の症状と疾患の看護；慢性閉塞性肺疾患・肺炎・肺結核【原沢】 第 5 回(講義) ③脳・神経系の疾患の看護；脳梗塞・パーキンソン病【原沢】 第 6 回(講義) ④消化器系の症状と疾患の看護；食道炎・胆石症・大腸憩室炎【原沢】 第 7 回(講義) ⑤皮膚の症状と疾患の看護；スキンテア・皮膚掻痒症・皮膚炎・褥瘡【原沢】 第 8 回(講義) ⑥視聴覚系の症状と疾患の看護；白内障・黄斑変性症他・難聴【原沢】 第 9 回(講義) ⑦歯周病、感染症、運動器系疾患の看護【原沢】 第 10 回(講義) 高齢者と医療安全 / 安全な薬物療法【原沢】 ※ 第 11 回(講義) 認知症と共に生きる高齢者の理解と看護【城川】 第 12 回(講義・演習) 認知症高齢者とのコミュニケーションスキルを高めよう【城川】 第 13 回(講義) 高齢者の自立した暮らしを支える看護 ①口から食べ続ける看護【三村】 第 14 回(講義) ②トイレ排泄ができる看護【城川】 ※ 第 15 回(講義) ③活動・社会参加と休息・睡眠のバランスを整える看護と ICF モデルの活用・まとめ【原沢】
--------------	---

ナンバリング	NRGM2010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		988E0		
科目	988E 成熟期看護学演習Ⅰ			授業種別		週間授業		
科目責任者	小山 順子			単位数		1 単位		
担当教員	小山 順子、二十軒 温美							
授業概要		周術期（手術前・中・後）にある患者の紙上事例を用いて、身体的・心理社会的変化を理解し、合併症予防と早期回復を目指して患者に必要な看護を提供するための看護過程を学ぶ。また、看護技術演習では、クリティカルな状態にある対象の療養支援に必要な看護技術を学ぶ。※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎	○		△	
到達目標	1. 手術を受ける患者を理解するために必要な、病態生理・諸検査・治療・看護などの知識について説明できる。 2. 急性・回復期にあり、侵襲の大きい治療を受ける対象者を理解するために必要な情報を整理できる。 3. 整理した情報を科学的根拠に基づき分析・統合して看護診断を実施することができる。 4. 侵襲の大きい治療を受ける患者に対して、合併症予防・早期回復に向けた看護目標と看護計画を立案できる。 5. 疑似体験から、看護計画の実施、評価することができる。 6. クリティカルな状態にある患者に対する具体的な看護方法について理解し、実施できる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ナーシンググラフィカ成人看護学④周術期看護 第 4 版, 2025	中島恵美子（編集）	メディカ出版	3600 円	ISBN:978-4-8404-7539-6	（成熟期看護学方法論Ⅰで購入済）
新訂版 写真でわかる臨床看護技術②アドバンス, 2025	本庄恵子, 田みつ子（監修）	インターメディカ	3400 円	ISBN:978-4-89996-414-8	（成熟期看護学方法論Ⅰで購入済）

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
講義から実習へ 高齢者と成人の周術期看護 術前編 第 4 版	竹内登美（編）	医歯薬出版株式会社	2200 円	ISBN:978-4-263-71725-7	
講義から実習へ 高齢者と成人の周術期看護 術中・術後編 第 4 版	竹内登美子（編）	医歯薬出版株式会社	2200 円	ISBN:978-4-263-71726-4	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて適宜紹介する
------------------------------	--------------

成績評価	筆記試験と課題レポート、講義・演習に対する取り組みにより評価する。 原則として毎回出席すること。遅刻、欠席、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート（看護過程）	40%	課題に対する内容の適切性について評価する
課題レポート（授業内課題）	20%	課題に対する内容の適切性について評価する
技術演習に対する取り組み	10%	技術の修得状況、演習の参加姿勢から確認する
定期試験	30%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	必須科目（履修条件をつけない）
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修：授業前には教科書の指定箇所を熟読し、授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む（第 2 ～ 15 回 /60 分）。 事後学修：授業後には授業での学びを整理し看護過程レポートを作成する（第 1 ～ 13 回 /60 分）。クリティカルケア技術演習について、講義内容をまとめイメージトレーニングを行う。また演習後に得た気づきと学びをまとめる（第 14 ～ 15 回 /60 分）。定期試験範囲の復習を行う（第 15 回 /60 分）。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 周手術期看護：ガイダンス / 急性・回復期看護の特徴【講義】（小山） 第 2 回 看護過程の展開①：事例紹介・情報の整理【講義・演習】（小山、その他教員） 第 3 回 看護過程の展開②：アセスメント【講義】（小山） 第 4 回 看護過程の展開②：アセスメント【演習】（小山、その他教員） 第 5 回 看護過程の展開③：アセスメントの統合、看護診断【講義】（小山） 第 6 回 看護過程の展開③：アセスメントの統合、看護診断【演習】（小山、その他教員） 第 7 回 看護過程の展開④：看護目標、看護計画【講義・演習】（小山、その他教員） 第 8 回 看護過程の展開⑤：看護援助（手順書）【講義】（小山） 第 9 回 看護過程の展開⑤：看護援助（手順書）【演習】（小山、その他の教員） 第 10 回 看護過程の展開：（プレゼンテーション）看護援助：術前訓練【演習】（小山、その他教員） 第 11 回 看護過程の展開：（プレゼンテーション）看護援助：術後 1 日目の離床援助【演習】（小山、その他教員） 第 12 回 看護過程の展開⑥：看護記録、評価【講義・演習】（小山、その他教員） 第 13 回 看護過程の展開⑥：看護記録、評価【演習】（小山、その他教員） 第 14 回 クリティカルケア看護：人工呼吸器装着中の患者の看護：気管内吸引・体位ドレナージ【講義】（小山） 第 15 回 クリティカルケア看護：気管内吸引【演習】（小山、その他教員） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 ・課題レポートやリアクションペーパーの質疑内容については、授業内でフィードバックを行う。 ・試験のフィードバックは Classroom を通して行う。
--------------	---

ナンバリング	NRBM3015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		988F0		
科目	988F 成熟期看護学演習Ⅱ			授業種別		週間授業		
科目責任者	山本 義昭			単位数		1 単位		
担当教員	山本 義昭、豊島 由樹子							
授業概要	慢性病を抱える患者の紙上事例を用いて看護過程を展開することから、慢性病を抱えながらもその人らしい生活の実現に向けた看護を行うために必要な臨床判断能力を養う。また慢性病を抱えて生活するためにセルフマネジメントを必要とする患者に特有な看護技術について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎	○		△	
到達目標	1. 慢性病を抱えて生活する患者を総合的に理解するために必要な病態・検査・治療などの知識について説明できる。 2. 慢性病を抱えて生活する患者の紙上事例を通して、系統的に情報を整理できる。 3. 整理した情報を科学的思考をもとに解釈・分析・統合し、慢性病を抱えて生活する患者の看護上の問題を明確化できる。 4. 慢性病を抱えて生活する患者の看護上の問題を解決し、その人らしい生活の実現に向けた看護計画を立案できる。 5. 慢性病を抱えて生活するためにセルフマネジメントを必要とする患者を支援するために必要となる看護技術を修得できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
糖尿病治療の手引き 改訂第 58 版増補	日本糖尿病学会編著	南江堂		9784524210046	
成人看護学 慢性期看護 改訂第 4 版	鈴木久美 他編	南江堂			既に入済済
成人看護学 成人看護学概論 改訂第 5 版	林直子 他編	南江堂			既に入済済

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を随時配布する。
------------------------------	-------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、課題レポート、実技に対する取り組み、定期試験から評価する。 なお、劣悪な授業態度や提出物の不備については減点対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート(看護過程記録)	40%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する
課題レポート(授業内課題)	10%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する
実技に対する取り組み	20%	実技の修得状況、演習記録から確認する
定期試験	30%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない。
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修として、「成熟期看護学原論」「成熟期看護学方法論Ⅱ」の内容を復習し、グループワークに必要な参考図書や文献資料を選択し自分で調べた上で、毎授業に臨むこと。また看護技術演習については「基礎看護学技術」で修得した知識・技術を復習した上で演習に臨むこと(第 1 ～ 15 回／30 分程度)。 事後学修として、各自でグループワークで得た気づきと学びをもとに、個人で看護過程レポートを作成する(第 1 ～ 12、15 回／60 分程度)。また看護技術演習については、演習後に得た気づきと学びをまとめる(第 13、14 回／30 分程度)。 1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回：授業ガイダンス・慢性病を抱える事例の看護過程の展開① 事例紹介 <講義>(山本・豊島) 第 2 回～ 3 回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開②③ 事例についての情報整理 <演習・個人ワーク>(山本・豊島) 第 4 回～ 5 回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開④⑤ 病態関連図の作成 <演習・グループワーク>(山本・豊島) 第 6 回～ 7 回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開⑥⑦ 全体関連図の作成 <演習・グループワーク>(山本・豊島) 第 8 回～ 9 回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開⑧⑨ 看護計画立案 <演習・グループワーク>(山本・豊島) 第 10 回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開⑩ 看護過程まとめ <講義>(山本・豊島) 第 11 回：糖尿病患者に対するセルフマネジメント支援 <講義>(ゲストスピーカー：慢性疾患専門看護師) 第 12 回：糖尿病患者・家族を支援する看護師の役割と実践 <講義>(ゲストスピーカー：慢性疾患専門看護師) 第 13 回：血糖自己測定・インスリン自己注射の看護技術 <実技>(山本・豊島) 第 14 回：安全な輸液管理の看護技術 <実技>(山本・豊島) 第 15 回：慢性腎不全患者と看護 <講義>(豊島) 課題レポートに関しては、実習での学修に役立てられるようコメントを行い、採点后に返却する。また課題については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。定期試験のフィードバックは適宜メール等で対応する。 ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	NRBM3016
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	988G0			
科目	988G 成熟期看護学演習Ⅲ			授業種別	週間授業			
科目責任者	原沢 優子			単位数	1 単位			
担当教員	原沢 優子、桂川 純子、富岡 美佳、蒔田 寛子、小山 順子、城川 絵理子							
授業概要	本科目は、エンドオブライフケアを主題としたオムニバス形式の授業展開をする。 第1回から第8回までは、エンドオブライフケアの専門家から基礎知識を学修する。 第9回以降は、医療における多様な場面のエンドオブライフケアとして、領域別に異なる特徴を各専門領域の教員が具体例を挙げて教授する。本科目は、医療者として実践するエンドオブライフケアの基礎知識の修得と領域別のエンドオブライフケアの知識修得を目的とする。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護学の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	○		△	
到達目標	1. エンドオブライフケアの理念、目的が説明できる。 2. グリーフ&ビリーフメントケアが説明できる。 3. 症状緩和・症状マネジメントの方法が説明できる。 4. がん患者・非がん患者のエンドオブライフケアの違い・特徴が説明できる。 5. 自死・不慮の事故死へのエンドオブライフケアを説明できる。 6. 子どものエンドオブライフケアの特徴が説明できる。 7. ペリネイタル・ロスの特徴が説明できる。 8. ICU/救命医療におけるエンドオブライフケアの特徴が説明できる。 9. 高齢期のエンドオブライフケアの特徴が説明できる。 10. 在宅におけるエンドオブライフケアの特徴が説明できる。 11. エンドオブライフケアに関する意思決定支援（ACP）が説明できる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
エンドオブライフケア その人にとっての最善をめざして	谷本真理子 増島麻里子	南江堂		978-4-524-23202-4	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験と課題レポートを総合して評価する。 授業欠席・遅刻・態度不良に関して減点となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	90%	
課題	10%	課題の指定に沿った内容か、課題内容の精度から評価する

受講条件	必須科目 履修条件を付けない
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修：第1回～第8回 教科書の指定箇所を読む（各 30 分程度）。 第9回～第15回 指定された事前学習課題を行う（各 30 分程度）。 ※初回授業ガイダンスにて事前学修課題を提示する。 事後学修：全回において授業にて配布された講義レジュメを再読し、各講義の学習目標を達成するまで復習する（各 60 分程度）。

授業の実施方法と授業計画	※本科目は、講義を中心としつつ、事例に基づいて演習等も展開する。 ※各回リアクションペーパーの記載（foams）を通して質問・意見を求める。 ※質問・意見・試験やレポート等へのフィードバック方法：classroom を通じて行う。 ※各自の携帯電話などインターネット通信機器を持参すること 第1回 授業ガイダンス、エンドオブライフケアの理念・目的・ケア対象、死生観＜原沢＞ 第2回 エンドオブライフケア期の症状緩和・マネジメント（痛み・呼吸困難）＜番匠：がん看護 CNS＞ 第3回 エンドオブライフケア期の症状緩和・マネジメント（精神的苦痛）＜番匠：がん看護 CNS＞ 第4回 エンドオブライフケア実践のためのアプローチ＜加藤＞ 第5回 喪失・悲嘆とグリーフ&ビリーフメントケア＜加藤＞ 第6回 がん患者（成人期）の治療選択・意思決定支援とエンドオブライフケア＜佐久間：がん看護 CNS＞ 第7回 非がん患者（成人期 心不全・腎不全）へのエンドオブライフケア＜加藤＞ 第8回 非がん患者（成人期 慢性閉塞性肺疾患、神経疾患）へのエンドオブライフケア＜加藤＞ 第9回 高齢者のエンドオブライフケア＜城川＞ 第10回 自死・不慮の事故死へのエンドオブライフケア＜桂川＞ 第11回 ペリネイタル・ロスのエンドオブライフケア ～出生にかかわる死への看護～＜富岡＞ 第12回 ICU・救命医療の場面におけるエンドオブライフケア ～生命維持装置装着者へのケア、家族へのケア～＜小山＞ 第13回 子どもにかかわるエンドオブライフケア ～終末期にある子どもと家族・きょうだいの看護～＜鈴木香＞ 第14回 在宅におけるエンドオブライフケア＜蒔田＞ 第15回 エンドオブライフケアにおける意思決定支援（ACP）・まとめ＜原沢＞
--------------	--

ナンバリング	NRBM3017
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	988I0
科目	988I 成熟期看護学実習Ⅰ	授業種別	実習
科目責任者	城川 絵理子	単位数	1 単位
担当教員	城川 絵理子、原沢 優子、三村 絵美		

授業概要	日常生活が自立した高齢者との関わりを通して、既習の高齢者看護に活用される理論・概念を基盤に高齢者を捉える視点（観察力）を体得する。 日常生活が自立した高齢者との関わりを通して、高齢期の健康生活に向けた看護について考えを深め、看護実践への基礎能力を修得する。 豊橋市の高齢者事業への参加を通して高齢期の自立した生活を支える地域の社会資源（人的・組織的）について知識を深める。 ※本科目は当該内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして教育する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1. 高齢者と円滑なコミュニケーションをとることができる。 2. 高齢者に形成された暮らし方への価値観、健康への価値観が理解できる。 3. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理論・概念を活用して把握するとともに、それがもたらす日常生活への影響を説明できる。 4. 高齢者の健康生活に向けて既習の基礎看護技術を活用して活動ができる。 5. 高齢期の健康生活に向けた看護について考えを深め、自身の考えを説明できる。 6. 地域で暮らす高齢者の活動と健康を支える制度と関係する人々の役割が説明できる。 7. 地域の高齢者がより健康的に暮らすための今後の看護課題を考えることができる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
老年看護学第 10 版	北川公子編集	医学書院		978-4260056892	
老年看護病態・疾患論第 6 版	鳥羽研二編集	医学書院		978-4260056830	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書および参考文献については、適宜紹介する。
------------------------------	-------------------------

成績評価	実習目標、到達目標の達成状況を実習記録、看護実践、事前課題、実習態度、カンファレンス参加度、グループワーク参加度から評価する。各項目別の評価表に基づき評価する。実習への欠席、遅刻、劣悪な実習態度を減点対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
実習記録、看護実践	80%	評価表に基づいて評価する。
事前課題、カンファレンス参加度、グループワーク参加度	20%	各項目の評価表に基づき評価する。

受講条件	必須科目 履修条件を付けない
事前・事後学修（内容・時間）	実習は 45 時間をもって 1 単位とする。ただし、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 事前学習 1. 指定課題 7 月オリエンテーションにて具体的内容を提示する。 知識に関する課題、技術に関する自己学習課題がある。 2. 自己学修 ・成熟期看護学原論において学修した内容の復習。 ・基礎看護学にて学修した基礎看護技術の復習 ・ビジュランクラウドを活用したコミュニケーション技術の視聴 事前学習 翌日の実習計画、技術、コミュニケーションスキルの確認等 事後学修 1. 実習目標の評価、実習記録の課題 2. 実習終了後は、理解不足があった知識について国家試験に向けた自己学修をする。

授業の実施方法と授業計画	※この実習の成績評価等のフィードバックは面談にて行う。 1. 実習期間 1 週間（8/5 および 8/24 ～ 9/18 のうち 4 日間） 2. 実習場所 豊橋市内にある老人福祉センター 3. 実習方法・内容 ・豊橋市が行う高齢者の健康生活支援に向けた活動を学修する。 ・老人福祉センターにて行われる地域高齢者の活動に参加する。 ・学生がグループ別に老人福祉センターにて健康教室を開催し、高齢者の参加を誘導する。 ・高齢者に積極的に話しかけることを通して実習目標の達成を目指す。 ・到達目標に関する実習記録の課題を行い目標の達成度を深める。 ・学内実習ではグループワークを行い、個々の学びを広げる。 ・学内実習では発表会を通して成果のプレゼンテーション力を高める。 4. スケジュール ・7 月にオリエンテーションを行う。日時は別途案内する。 ・実習の詳細は「成熟期看護学実習Ⅰ 実習要項」にて提示する。 ・7 月オリエンテーションにおいて要項と実習施設の学生配置、事前学修課題を提示する。 ・その他、必要事項は classroom を開設して案内する。
--------------	---

ナンバリング	NREM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	988J0			
科目	988J 成熟期看護学実習Ⅱ			授業種別	実習			
科目責任者	小山 順子			単位数	1 単位			
担当教員	小山 順子、二十軒 温美							
授業概要	クリティカルケアを必要とする重篤な状態にある患者とその家族の特徴を踏まえ、対象者の生命維持に向けた治療の特徴や回復過程に応じた看護実践の基礎能力を養う。 *この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1. 生命の危機的状況に直面した患者とその家族の特徴について述べるができる 2. クリティカルな状態にある患者とその家族に対するチーム医療について考えることができる 3. クリティカルな状態にある患者とその家族への看護の役割について述べるができる 4. クリティカルな状況にある患者への看護実践の一部を看護師とともに実施することができる 5. クリティカルな状況にある患者とその家族への倫理面について考え、述べることができる 6. 看護学生として責任ある行動をとることができ、積極的に実習に取り組むことができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ナーシンググラフィカ成人看護学④ 周術期看護 第4版, 2025	中島恵美子 (編)	メディカ出版	3600 円	ISBN:978-4-8404-7539-6	(成熟期看護学方法論Iで購入済)
新訂版 写真でわかる 臨床看護技術②アドバンス. 2025	本庄恵子, 吉田みつ子 (監修)	インターメディカ	3400 円	ISBN:978-4-89996-414-8	(成熟期看護学方法論Iで購入済)
系統看護学講座 臨床外科看護総論 第12版. 2023	池上徹, 高橋則子 (編集)	医学書院		ISBN:978-4-260-04998-6	(病態と治療Ⅲで購入済)

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて適宜紹介する
------------------------------	--------------

成績評価	実習目標、到達目標の達成状況について、事前課題、看護実践、実習記録、実習態度、カンファレンス等の参加度から実習評価表に基づき総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、カンファレンス等参加度、課題レポート、提出物等	100%	実習評価表に基づき評価する

受講条件	必修科目(履修条件をつけない)
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習前の事前学修：既修した内容を復習して実習に臨む。また、実習ガイダンスで提示した事前課題を期日までに行うこと。 実習中の学修：実習中の課題に取り組むこと。 事後学修：実習での学びと自己の課題を明確にする。

授業の実施方法と授業計画	1. 実習場所：岡崎市民病院、豊川市民病院、浜松医療センター 2. 実習期間：1週間 3. 実習内容 - 臨地実習(3日)：クリティカルケアが提供される場(ICU、救命センター、手術室等)で実習する。 - 学内実習(2日)：救急処置および手術室看護に必要な技術演習、学びの共有 詳細は事前オリエンテーションで説明する。 ・事前課題は担当教員がフィードバックを行い、返却する。 ・課題レポート、実習記録は担当教員が実習後面接時にフィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	NREM2010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	988K0				
科目	988K 成熟期看護学実習Ⅲ			授業種別	実習				
科目責任者	山本 義昭			単位数	1 単位				
担当教員	山本 義昭、豊島 由樹子								
授業概要		慢性病を抱えて地域で生活している患者の特徴を理解し、継続した治療や日常生活における自己管理に向けた看護実践に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし実習を行う科目である。							
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○	○	○		△	
到達目標		1. 透析治療を継続しながら地域で生活している患者と家族の権利を擁護し、尊重した言動がとれる。 2. 透析治療を継続しながら地域で生活している患者の病態・治療、日常生活における自己管理、疾患や治療についての受け止め、社会的影響について説明できる 3. 透析治療を継続しながら地域で生活している患者と家族に関わる医療チームにおいて、看護職の役割と多職種連携について説明できる。 4. 看護学生として責任ある行動をとることができ、専門職者として常に学び続ける姿勢をもつことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
成人看護学 慢性期看護 改訂第4版	鈴木久美 他編	南江堂			既に入済
成人看護学 成人看護学概論 改訂第5版	林直子 他編	南江堂			既に入済
糖尿病治療の手引き 改訂第58版増補	日本糖尿病学会編著	南江堂			既に入済

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜紹介する
------------------------------	--------

成績評価	到達目標が達成できているかを、事前課題、実習記録、看護実践、課題レポート等について、実習評価表に基づいて総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、課題レポート	80%	到達目標の達成状況を実習評価表に基づき評価する
実習態度	20%	実習中の行動について実習評価表に基づき評価する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習においては「成熟期看護学原論」「成熟期看護学方法論Ⅱ」「成熟期看護学演習Ⅱ」で学修した内容を復習して実習に臨む。また、指定された事前課題を期日までにやる。 実習後は、理解が不十分であった内容について、各自復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	1) 透析クリニック実習 ①実習期間：1週間 ②実習場所：医療法人社団三遠メディメイツ 豊橋メイツクリニック ③実習内容：透析治療を継続しながら地域で生活している患者とその家族への看護について学修する。 2) 実習方法 (1) 学内オリエンテーション・臨地オリエンテーション：実習施設の概要等について説明を受ける。 (2) 臨地における医師・臨床工学士・管理栄養士からの臨床講義をもとに、透析治療における医療チーム連携について学ぶ。 (3) 臨地で実習指導者・教員の指導のもと、透析患者に対する治療・看護について、看護学生として責任をもって実習を行う。 事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、その後の学修に役立てられるようフィードバックを行う。 詳細については、「成熟期看護学実習Ⅲ実習要項」参照。
--------------	--

ナンバリング	NREM3013
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	988L0				
科目	988L 成熟期看護学実習Ⅳ			授業種別	実習				
科目責任者	豊島 由樹子			単位数	2 単位				
担当教員	豊島 由樹子、山本 義昭								
授業概要		慢性病を抱える入院患者とその家族を総合的に理解し、退院後のその人らしい生活の実現に向けた看護実践に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし実習を行う科目である。							
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○	○	○		△	
到達目標		1. 慢性病を抱える入院患者とその家族に対して、適切な援助的人間関係を築くことができる 2. 慢性病を抱える入院患者を総合的に理解し、看護過程の思考を用いて、その人らしい生活の実現に向けた看護が実践できる。 3. 慢性病を抱える入院患者・家族に関わる医療チームにおいて、看護専門職の役割を認識して行動することができる。 4. 慢性病を抱える入院患者と家族の権利を擁護し、看護専門職としての倫理観を考えて行動できる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができ、専門職者として常に学び続ける姿勢をもつことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
成人看護学 慢性期看護 改訂第4版	鈴木久美 他編	南江堂			既に購入済
成人看護学 成人看護学概論 改訂第5版	林直子 他編	南江堂			既に購入済
糖尿病治療の手引き 改訂第58版増補	日本糖尿病学会編著	南江堂			既に購入済

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜紹介する
------------------------------	--------

成績評価	到達目標が達成できているかを、事前課題、看護実践、実習記録、カンファレンスでの発言等について、実習評価表に基づいて総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	80%	到達目標の達成状況を実習評価表に基づき評価する
実習態度	20%	実習中の行動について実習評価表に基づき評価する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。ただし、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習においては「成熟期看護学原論」「成熟期看護学方法論Ⅱ」「成熟期看護学演習Ⅱ」で学修した内容を復習して実習に臨む。また、指定された事前課題を期日までに行う。 実習後は、理解が不十分であった内容について、各自復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	1) 慢性看護病棟実習 ①実習期間：2週間 ②実習場所：豊橋医療センター、豊川市民病院、聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院 ③実習内容：慢性病を抱えて入院している患者1～2名を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する。 2) 実習方法 (1) 学内オリエンテーション・臨地オリエンテーション：実習施設の概要、診療記録の閲覧方法等について説明を受ける。 (2) 臨地で実習指導者・教員の指導のもと、看護学生として責任をもって実習を行う。 (3) カンファレンス：毎日、学生主体で行う。臨地最終日に臨地実習指導者も交えて、実習のまとめカンファレンスを行う。 (4) 最終日には、実習施設合同のカンファレンスを行い、実習目標について学びの共有をはかる。 事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、その後の学修に役立てられるようフィードバックを行う。 詳細については、「成熟期看護学実習Ⅳ実習要項」参照。
--------------	---

ナンバリング	NREM3014
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	988M0			
科目	988M 成熟期看護学実習Ⅴ			授業種別	実習			
科目責任者	二十軒 温美			単位数	2 単位			
担当教員	二十軒 温美、小山 順子							
授業概要	周手術期にある患者とその家族の特徴を理解し、手術による生体侵襲や心理社会面など全人的に捉え、急性の経過をとる健康問題を把握し問題解決を図るための看護実践に必要な基礎的能力を養う。 ★この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1. 周手術期にある患者とその家族に対して、関心を持ち援助的人間関係を築くことができる。 2. 周手術期にある患者の生理的機能や病態生理等の知識を活用して、身体・心理社会的状態をアセスメントし看護診断ができる。 3. 周手術期にある患者の看護介入について立案できる。 4. 周手術期にある患者に全人的理解に基づいた看護を実践できる。 5. 患者の権利を擁護し、看護専門職者としての倫理的態度で行動できる。 6. 患者にかかわる医療関係者との連携の重要性を理解し、述べることができる。 7. 看護学生として責任ある行動をとることができ、専門職者として常に学び続ける姿勢をもつことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ナースングラフィカ成人看護学④周術期看護 第4版, 2025	中島恵美子 (編)	メディカ出版	3600 円	ISBN:978-4-8404-7539-6	(成熟期看護学方法論Ⅰで購入済)
新訂版 写真でわかる臨床看護技術②アドバンス, 2025	本庄恵子, 吉田みつ子 (監修)	インターメディカ	3400 円	ISBN:978-4-89996-414-8	(成熟期看護学方法論Ⅰで購入済)

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
講義から実習へ 高齢者と成人の周術期看護 術前編 第4版	竹内登美子 (編)	医歯薬出版株式会社	2200 円	ISBN:978-4-263-71725-7	
講義から実習へ 高齢者と成人の周術期看護 術中・術後編 第4版	竹内登美子 (編)	医歯薬出版株式会社	2200 円	ISBN:978-4-263-71726-4	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜紹介する
------------------------------	--------

成績評価	実習目標、到達目標の達成状況について、事前課題、看護実践、実習記録、実習態度、カンファレンス等の参加度から実習評価表に基づき総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、カンファレンスの参加度等	80%	目標到達度をルーブリック評価表に基づき評価する
実習への取り組み姿勢	20%	実習中の行動からルーブリック評価表に基づき評価する

受講条件	必修科目(履修条件をつけない)
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習前の事前学修：既修した内容を復習して実習に臨む。また、実習ガイダンスで提示した事前課題を期日までにすること。 実習中の学修：実習中の課題に取り組むこと。 事後学修：実習での学びと自己の課題を明確にする。

授業の実施方法と授業計画	周手術期実習(豊川市民病院、豊橋医療センター) ①実習期間：2週間 ②実習内容 臨地実習：手術療法を受ける患者を受け持ち、術前から術後回復期までの看護を実践する。 学内実習：実習初日(オリエンテーション、術直後の観察演習等)、最終日(実践した看護について学びの共有) 詳細は事前オリエンテーションで説明する。 ・事前課題は担当教員との実習前面接時にフィードバックを行い、返却する。 ・課題レポート・実習記録は担当教員との実習後面接時にフィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	NREM3015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	988N0
科目	988N 成熟期看護学実習Ⅵ	授業種別	実習
科目責任者	原沢 優子	単位数	2 単位
担当教員	原沢 優子、三村 絵美、城川 絵理子		

授業概要	要介護状態等により介護老人保健施設あるいは療養病床等で過ごす高齢者を対象として、高齢者看護に必要な理論や概念の知識をもとに健康支援と生活支援の両側面からエビデンスに基づく看護過程の展開を行う。高齢者の意思を尊重する態度、倫理的な志向、安楽な看護技術の提供を通して高齢者への看護実践に必要な知識と技術の基礎的能力を養う。 ※本科目は当該内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして教育する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1. 高齢者と家族を尊重した倫理的態度により看護学生として信頼される人間関係を築くことができる。 2. 高齢者看護に必要な知識・エビデンスをもとに高齢者の健康状態・生活機能への看護過程展開ができる。 3. 高齢者の生活機能の維持を支える保健医療福祉チームの一員として行動し、看護の役割を述べることができる。 4. 学生グループ間において建設的な意見交換を行い、協働して深めた学びが記載できる。 5. 看護学生として責任ある行動をとり、専門職者として創造的に学び続ける意欲が述べられる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	実習目標、到達目標の達成状況を実習記録、看護実践、事前課題、実習態度、カンファレンス参加度、グループワーク参加度について、各項目別に作成した評価表に基づき評価する。実習への欠席、遅刻、劣悪な実習態度を減点対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
実習目標、到達目標の達成状況	80%	実習記録、看護実践、カンファレンス参加度、グループワーク参加度から評価する
実習態度	20%	事前課題の取り組み、日々の課題の取り組み、実践態度から評価する

受講条件	必須科目 履修条件を付けない
事前・事後学修 (内容・時間)	実習 1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要である。 事前学習 1. 指定課題 8 月オリエンテーションにて具体的内容を提示する。 知識に関する課題、技術に関する自己学習課題がある。 2. 自己学修 ・「成熟期看護学原論」「成熟期看護学方法論Ⅲ」「老年看護学演習Ⅳ」の復習。 ・基礎看護学にて学修した基礎看護技術の復習 ・ビジュランクラウドを活用した病態理解、フィジカルアセスメント技術、コミュニケーション技術の視聴 3. 翌日の実習計画、技術の手技確認等 事後学修 1. 実習日の評価、看護過程展開に関する記録の未達成分の課題 2. 実習終了後は、理解不足があった知識を自己学修する。

授業の実施方法と授業計画	この実習の成績評価等のフィードバックは面談にて行う。 1. 実習期間 2 週間 2. 実習場所 介護老人保健施設：明陽苑、おとわの杜 総合青山病院、赤岩病院病院、渥美病院、福祉村病院：療養病床、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟 3. 実習方法・内容 ・臨地実習にて 1 名の高齢者を受け持ち看護過程の展開をする。 ・高齢者に対して学内にて演習済みの基礎看護技術を安全に実践する。 ・最終学内日にグループにて「実習の学び」をテーマにピア・ラーニングする。 また、その内容をプレゼンテーション資料としてまとめ発表会をする。 ・個人の「実習の学び」をレポート提出する。 ・実習終了日に担当教員と面談にて学修達成状況の振り返りをする。 4. スケジュール ・8 月に領域別実習オリエンテーションを行う。日時は別途案内する。 ・実習の詳細は「成熟期看護学実習Ⅵ 要項」にて提示する。 8 月オリエンテーションにおいて要項と実習施設の学生配置、事前学修課題を提示する。 ・その他、必要事項は classroom を開設して案内する。
--------------	---

ナンバリング	NRFM3016
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	983A0			
科目	983A 小児看護学原論			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 和香子			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 和香子							
授業概要	子どもと家族を取り巻く環境の変化や関連する法律・施策の変遷、地域包括ケアシステムにおける子ども・子育て支援の現状等の基本的知識をふまえ、小児看護の対象となる人々と役割について学修する。また、子どもの成長・発達の特徴を理解し、アセスメントできる能力を養う。 ★この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○		○	○	
到達目標	1. 小児医療・看護の変遷と小児看護の特徴について述べることができる。 2. 小児にとっての家族の機能・役割について述べることができる。 3. 子どもの権利を理解し、小児看護における倫理について述べることができる。 4. 小児の健康を維持・促進するための保健医療福祉について述べることができる。 5. 成長・発達の一般的原則、成長・発達に影響する因子を説明できる。 6. 小児期における各成長・発達段階に応じた身体的変化、心理社会的変化の特徴を理解した上で、子どもの成長・発達をアセスメントできる。 7. 各成長・発達段階の特徴を踏まえ、成長・発達の評価法について述べることができる。							

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第15版	奈良間美保	医学書院	3520	9784260056861		
系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 第15版	奈良間美保	医学書院	3740	9784260056854		

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜紹介する。また、教員作成の補足資料を適宜配布する。
------------------------------	-----------------------------

成績評価	筆記試験で評価を行う。なお、劣悪な授業態度(私語、居眠り等)は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	90%	到達目標に沿って、適切に理解しているかを筆記テストで確認する
小テストあるいはレポート課題	10%	授業開始時あるいは終了時に小テストあるいはレポート課題を実施する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には教科書の指定箇所を熟読する(第1回～第8回／各1時間程度) ②授業後には授業での学びを整理しておく(第1回～第8回／各2時間程度) ③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(3時間程度) 以上①②③について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。なお、1年次に学んだ「からだの構造と機能Ⅰ・Ⅱ」、「母性看護学原論」などと関連させて学習すること。

授業の実施方法と授業計画	＊各回においてリアクションペーパーの記載を求める。 ＊各授業開始時に前回の講義内容・課題等に関する振り返り(フィードバック)を行う(授業への意見・質問等についての解説含む)。クラスルームも活用することがあるので確認すること。 第1回(講義) ガイダンス、小児の特徴、小児看護の対象と役割 第2回(講義) 成長・発達的一般的原則と影響する因子、小児の成長・発達①(新生児期、乳児期) 第3回(講義) 乳幼児期の栄養 第4回(講義) 基本的生活習慣 第5回(講義) 小児の成長・発達②(幼児期) 第6回(講義) 小児の成長・発達④(学童期、思春期)、発達の評価(発達評価の目的と方法) 第7回(講義) 小児の健康維持・促進のための法律(主な保健統計、予防接種法、児童福祉法、母子保健法) 第8回(講義) 子どもの権利と小児看護における倫理、家族のアセスメント ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります
--------------	---

ナンバリング	NRDM2003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	983B0			
科目	983B 小児看護学方法論			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 和香子			単位数	2 単位			
担当教員	鈴木 和香子、中島 怜子							
授業概要	成長・発達段階をふまえ、様々な健康レベル、施設や地域など多様な場における子どもと家族の特徴を理解し、子どもの成長・発達そのものを促進する援助や子どもと家族の健康を支えるための看護の方法を学修する。 ★この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			△	
到達目標	1. 発達段階に応じた養育と看護について説明できる。 2. 病気や障害が子どもと家族に与える影響を説明できる。 3. 発達段階によって生じやすい小児期特有の症状と必要な看護について説明できる。 4. 子どもと家族がおかれる場（入院中、外来）の特性に応じた看護について説明できる。 5. 病気や障害を抱え、様々な病期（急性期・慢性期・終末期・周手術期）におかれた子どもと家族の特徴を理解し、必要な看護について説明できる。 6. 先天的な健康問題や障害のある子ども、虐待等の特別な状況にある子どもや家族の特徴を理解し、必要な看護について説明できる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第15版	奈良間美保	医学書院	3520	9784260156861	
系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 第15版	奈良間美保	医学書院	3740	9784260056854	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	授業内において、教員作成の補足資料を適宜配布する。
------------------------------	---------------------------

成績評価	筆記試験から評価を行う。劣悪な受講態度（居眠り、私語等）は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標に沿って、適切に理解しているかを筆記試験で確認する
小テスト	20%	講義内容の重要箇所の理解度を確認する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない
事前・事後学修（内容・時間）	①授業前には、教科書の指定箇所を熟読する（第1回～第15回／各1時間程度） ②授業後には、配布資料をもとに授業での学びを整理しておく（第1回～第15回／各2時間程度） ③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む（3時間程度） 以上を参考に自己学習を行うこと。なお、小児看護学原論、病態と治療Ⅳ（小児）で学修した内容と関連させて学修すること。

授業の実施方法と授業計画	★各回においてリアクションペーパーの記載を求める。 ★各授業開始時に前回の講義内容・課題等に関する振り返り（フィードバック）を行う（授業への意見・質問等についての解説含む）。クラスルームも活用することがあるので確認すること。 第1回（講義） 治療・入院などの環境が子どもと家族に及ぼす影響（鈴木） 第2回（講義） 子どもの事故防止（鈴木） 第3回（講義） 子どもに起こりやすい症状と看護①（発熱、嘔吐・下痢、脱水）（中島） 第4回（講義） 子どもに起こりやすい症状と看護②（呼吸困難、発疹など）（中島） 第5回（講義） 慢性期にある子どもと家族の看護①（ネフローゼ症候群、糖尿病など）（鈴木） 第6回（講義） 慢性期にある子どもと家族の看護②（神経疾患など）（鈴木） 第7回（講義） 慢性期にある子どもと家族の看護③（口唇口蓋裂など）（鈴木） 第8回（講義） 周手術期にある子どもと家族の看護①（消化器疾患）（鈴木） 第9回（講義） 周手術期にある子どもと家族の看護②（先天性心疾患）（鈴木） 第10回（講義） 急性期にある子どもと家族の看護（川崎病、喘息など）（鈴木） 第11回（講義） 運動器疾患の子どもと家族の看護（外傷など）（鈴木） 第12回（講義） 外来における子どもと家族の看護（中島） 第13回（講義） 子どもの虐待と看護（鈴木） 第14回（講義） 障害のある子どもと家族の看護（坪見） 第15回（講義） 小児がん・予後不良にある子どもと家族の看護（宮城島） ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRFM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		98330		
科目	9833 小児看護学演習			授業種別		週間授業		
科目責任者	鈴木 和香子			単位数		1 単位		
担当教員	鈴木 和香子、阪下 陽香、宮野 幸子							
授業概要	小児看護に必要な技術について、その基本となる理論と根拠に基づく実践的知識を修得するとともに、安全、安楽、発達を考慮した援助方法について学ぶ。また、小児看護の対象となる子どもとその家族の状況を適切に判断し、看護援助を立案、実施、評価するために必要な看護のプロセスについて、紙上事例を通して学ぶ。 *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎	○		△	
到達目標	1. 小児看護に必要な技術について、安全・安楽、発達を考慮した援助方法を述べることができる。 2. 小児看護に必要な技術について、安全・安楽、発達を考慮した方法で実践できる。 3. 小児看護の対象となる子どもと家族に対して、尊重した態度、姿勢を示すことができる。 4. 子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に判断するために、理論的に根拠立ててアセスメントすることができる。 5. 子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に捉え、具体的な看護計画が立案できる。							

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第15版	奈良間美保	医学書院	3190	9784260138607		
系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 第15版	奈良間美保	医学書院	3520	9784260156861		

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
根拠と事故防止から見た小児看護技術 第4版	浅野みどり	医学書院	4400	9784260043250		

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・適宜、授業で紹介する。教員作成の資料を適宜配布する。
------------------------------	-----------------------------

成績評価	筆記試験、看護過程演習の課題および技術演習の課題で評価を行う。なお、劣悪な授業態度(私語、居眠り、自己学修の不備など)は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
技術演習の課題	60%	
看護過程(個人で行う)	40%	

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には教科書の該当箇所を熟読する(第1回～第15回／各60分程度) ②授業後には配布資料をもとに授業での学びを整理しておく(第1回～第15回／各30分程度) ③技術演習に関する内容は事前に調べて授業に臨む(第6, 7, 8, 10, 11回／各60分程度) 以上を参考に自己学修を行うこと。なお、病態と治療Ⅳ(小児)、小児看護学概論、小児臨床看護学、基礎看護技術で修得した内容と関連させて学修することが望ましい。

授業の実施方法と授業計画	第1回 看護過程ガイダンス(事例紹介、アセスメントの進め方等)【講義】第2回 看護過程の展開①(成長・発達および病態と治療の理解)【講義】 第3回 看護過程の展開②(アセスメント)【演習】 第4回 小児看護における基本技術【講義】 ーコミュニケーション、フィジカルアセスメントー 第5回 小児看護における基本技術【講義】 ー身体計測、バイタルサイン測定ー 第6回 小児看護における基本技術【演習】 ー身体計測ー 第7回 小児看護における基本技術【演習】 ーバイタルサイン測定ー 第8回 プレパレーション【講義・演習】 ープレパレーションについて考え、実際に行ってみるー 第9回 検査・処置における介助技術【講義】 ー与薬の技術ー 第10回 検査・処置における介助技術【演習】 ー与薬の技術(特に経口与薬)ー 第11回 検査・処置における介助技術【講義・演習】 ー末梢静脈内持続点滴の管理・抑制ー 第12回 NICUにおける看護(ゲストスピーカー)【講義】 第13、14回 看護過程の展開③(問題の明確化／関連図を含む)【講義・演習】 第15回 看護過程の展開④(看護計画立案)【講義・演習】 ※本科目は、講義、演習のいずれかのスタイルにより実施する。また、技術演習はグループに分かれ実施する。 ※技術に関する課題(補足資料含む)は実習でも活用するため、不足があった場合は、追加・修正し、整理しておくこと。 ※事前課題および提出物については、教員が適宜内容を確認し、フィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRCM3009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	983C0			
科目	983C 小児看護学実習Ⅰ			授業種別	実習			
科目責任者	鈴木 和香子			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 和香子、宮野 幸子、阪下 陽香							
授業概要	乳幼児期にある子どもとの関わりを通して、子どもの成長・発達の特徴および遊びや生活についての理解を深め、成長・発達を支援するための実践力を養う。また、子どもとのコミュニケーション、遊びの援助、日常生活援助などの小児看護に必要な基礎的実践能力を育成する。 ★この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし実習指導を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 乳幼児期における子どもの成長・発達について説明することができる。 2. 乳幼児期における子どもの日常生活と養育環境について説明することができる。 3. 子どもの発達に応じた遊びや生活の支援を通して、成長・発達を促進するための関わりをすることができる。 4. 誠実で真摯な態度で実習に臨むことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特になし 適宜紹介する
------------------------------	----------------

成績評価	実習内容(目標の達成状況)、実習への取り組み姿勢、記録等で総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	70%	到達目標の達成状況を実習評価表に基づいて評価する
実習態度(学内実習のグループワーク、発表など)	30%	実習中の行動について、実習評価表に基づいて評価する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない
事前・事後学修(内容・時間)	実習は 45 時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については、各自で学習を行うこと。 <具体的な内容> ①関連する病態と治療Ⅳ(小児)、小児看護学原論など、これまで学修した内容の復習 ②事前課題として指示した内容について、実習中に活用できるように整理しておく

授業の実施方法と授業計画	1. 事前オリエンテーション 全体オリエンテーション(学内) 2. 保育園実習(3日間) 保育園実習は、病棟実習前豊橋市内の指定された保育園で実施する。各施設の日課や行事に従い、配属されたクラスの保育士の指導のもと、一緒に保育活動に参加する。 3. 学内実習(2日間) 保育園実習前：子どもの成長・発達および乳幼児期の子どもの生活に関して学習を深める。 保育園実習後：学習の整理およびグループ討議、全体発表および他施設で実習した学生と学びの共有を行う。 詳細は小児看護学実習1の実習要項を参照のこと *事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、フィードバックする。
--------------	--

ナンバリング	NRGM3007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	983D0			
科目	983D 小児看護学実習Ⅱ			授業種別	実習			
科目責任者	鈴木 和香子			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 和香子、宮野 幸子、阪下 陽香							
授業概要	健康上の課題を有する子どもとその家族の状況を的確にアセスメントし、看護診断する臨床判断能力を育成するとともに、子どもと家族の意思を尊重し、健康を支えるための看護実践能力を養う。入院や治療、検査を要する子どもとその家族を受け持ち、看護実践を通して学修する。 ＊この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし実習指導を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 子どもの成長・発達段階を把握し、評価できる。 2. 小児の健康状態を観察し、その健康のレベルと発達段階に応じて日常生活を提供できる。 3. 小児を取り巻く環境を理解し、援助することができる。 4. 小児看護に特有な日常生活援助、および診療介助に伴う技術の必要性を理解し、援助することができる。 5. 子どもの権利擁護の重要性を理解したうえで、子どもと家族を尊重した関わりができ、援助の人間関係が形成できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特になし 適宜紹介する
------------------------------	----------------

成績評価	実習内容、実習記録、カンファレンスでの発言内容、実習への取り組み姿勢により、評価表に記載の評価項目、評価基準にそって総合的に評価する。なお、実習における取り組みや態度が誠実でない場合(欠席、遅刻など)は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	80%	到達目標の達成状況を実習評価表に基づいて評価する
実習態度	20%	実習中の行動について、実習評価表に基づいて評価する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない
事前・事後学修(内容・時間)	実習は 45 時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については、各自で学習を行うこと。 <具体的な内容> ①専門基礎科目、専門科目での講義・演習(特に関連する病態と治療Ⅳ[小児]、小児看護学原論、小児看護学方法論、小児看護学演習)で、これまで学修した内容の復習 ②事前課題として指示した内容について、実習中に活用できるように整理しておくこと

授業の実施方法と授業計画	1. 事前オリエンテーション 1) 全体オリエンテーション(学内) 2) 病院・病棟オリエンテーション 2. 病棟実習 病棟実習は、臨地実習計画表に基づき、指定された病院で実習を行う。入院している小児を受持ち、看護過程の展開を通して、看護を実践する。 <実習の進め方> 1日目: 学内オリエンテーション／病院・病棟オリエンテーション、受持ち患児の決定など 2日目以降: 看護計画の立案および計画に基づく援助の実施 ※病棟実習最終日: 最終カンファレンス(病院により時間は異なる。) 5日目: 学内実習 詳細は小児看護学実習要項を参照のこと ★事前課題および実習記録については、教員が適宜内容を確認し、フィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRGM3010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		982A0			
科目	982A 母性看護学原論			授業種別		週間授業			
科目責任者	富岡 美佳			単位数		1 単位			
担当教員	富岡 美佳								
授業概要		母性看護学の基礎となる概念と理論を理解し、リプロダクティブヘルス / ライツに関する健康課題を明らかにするとともに、女性とその家族の各ライフステージにおける特徴を包括的に捉える。具体的内容は、母子保健の動向と制度の変遷、ウィメンズヘルス、セクシャルヘルス・ライツ、プレコンセプションケアなどを学び、看護の役割について学修する ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性				◎	○			○	
到達目標		1. 母性看護の基盤となる概念および理論を知り看護の役割を説明することができる 2. わが国の母子保健の動向と母子保健施策の現状と課題について説明できる 3. 生殖に関する形態機能、内分泌について説明できる 4. 女性のライフサイクル各期における健康とニーズ、健康課題とその看護について説明できる 5. ウイミンズヘルスケアの必要性和生殖に関する生命倫理を説明できる							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
母性看護学概論 第 15 版 系統看護学講座専門分野2 母性看護学 1	森恵美	医学書院		9784260061988	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
母子保健の主なる統計	母子衛生研究会	母子衛生研究会		9784260061988	
看護学テキスト NICE 母性看護学 I 概論・ライフサイクル	斎藤いずみ他	南江堂		978-4524223381	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻・早退・無断欠席や劣悪な受講態度（私語・居眠り等）は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	筆記試験にて理解度を確認する
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業 60 分程度行う <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること (第1～8 回 /30 分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること (第1～8 回 /30 分程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) 母性看護の基盤となる概念 (富岡) 第 2 回 (講義) 母性看護学の対象理解: 母子保健統計と母子に関する組織と法律 (富岡) 第 3 回 (講義) 母性看護学の対象理解: 形態機能と内分泌の理解 (富岡) 第 4 回 (講義) リプロダクティブヘルスケア (富岡) 第 5 回 (講義) 母性看護学に必要な看護の視点と看護技術 (富岡) 第 6 回 (講義) 女性のライフステージにおける看護: 思春期・成熟期 (富岡) 第 7 回 (講義) 女性のライフステージにおける看護: 更年期・老年期 (富岡) 第 8 回 (講義) 母性看護における生命倫理と倫理的意思決定 (富岡) *受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題 (テストやレポート等) やリアクションペーパーの質疑内容については、授業内あるいは Crassroom を通してフィードバックする
--------------	---

ナンバリング	NRCM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	982B0
科目	982B 母性看護学方法論	授業種別	週間授業
科目責任者	リトル 奈々重	単位数	2 単位
担当教員	リトル 奈々重、富岡 美佳		

授業概要	女性のライフサイクルで、生命誕生にかかわる、妊娠、分娩、産褥、新生児期各期の身体的、社会的、心理的变化を理解するとともに、出生前からの女性とその家族のリプロダクティブヘルスケア、産後の子育てまでを含む新しい家族の発達過程について看護の役割を理解する ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	△		△	
到達目標	1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて説明ができる 2. 妊娠期の身体的・心理社会的変化、アセスメントに必要な技術と保健指導について説明できる 3. 妊娠期の異常と看護、ハイリスク妊婦への看護を説明できる 4. 分娩の機序と身体的変化を理解し、分娩各期のアセスメントに必要な技術と看護ケアについて説明できる 5. 分娩各期の異常と胎児への影響について説明できる。 6. 産褥期の身体的・心理社会的変化、アセスメントに必要な技術と保健指導について説明できる 7. 産褥期・子育て期の異常と看護について説明できる 8. 新生児の生理とアセスメントに必要な技術について説明できる 9. 妊娠期の異常と看護について説明できる 10. 特別な配慮・支援を必要とする妊産褥婦への看護について説明できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
母性看護学各論 第15版	森恵美	医学書院		978-4260061971	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
母性看護学 [2] 母性看護学各論 第15版	森 恵 美	医 学 書 院		ISBN 978-4260061971	
病気がみえる vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所編集	メディックメディア		9784896327137	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退、無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	筆記試験にて理解度を確認する
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業 60 分程度行う <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～15 回 /30 分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～15 回 /30 分程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 出生前からのリプロダクティブヘルスケア (富岡) 第2回 (講義) 妊娠期の身体的・心理社会的変化 (富岡) 第3回 (講義) 妊婦と胎児のアセスメントに必要な技術と看護(富岡) 第4回 (講義) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常と看護(富岡) 第5回 (講義) 分娩の機序と身体的・心理的变化(リトル) 第6回 (講義) 分娩経過に伴う産婦と胎児の変化と看護(リトル) 第7回 (講義) 分娩各期の異常と胎児への影響(リトル) 第8回 (講義) 分娩の異常と看護(リトル) 第9回 (講義) 産褥期の身体的・心理社会的変化(富岡) 第10回 (講義) 産褥期のアセスメントに必要な技術と看護(富岡) 第11回 (講義) 産褥期の異常と看護(富岡) 第12回 (講義) 新生児期の生理(リトル) 第13回 (講義) 新生児期のアセスメントに必要な技術と看護(リトル) 第14回 (講義) 新生児の異常と看護(リトル) 第15回 (講義) 特別な配慮・支援を必要とする妊産褥婦への看護(富岡) ＊受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ＊課題(テストやレポート等) やリアクションペーパーの質疑内容については、授業内や Classroom を通してフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRCM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	98280			
科目	9828 母性看護学演習			授業種別	週間授業			
科目責任者	リトル 奈々重			単位数	1 単位			
担当教員	リトル 奈々重、富岡 美佳							
授業概要	妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体・心理社会的特性を理解し、対象の状態とニーズに応じた看護の基礎的知識と具体的な看護方法を理解し、看護実践に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	○		△	
到達目標	1. 母性看護における看護過程のあり方を説明できる 2. 対象事例の状態をアセスメントし、妊娠期・分娩期の状態を要約できる 3. 対象事例の妊娠・分娩・産褥・新生児経過をアセスメントし、看護診断、看護目標設定、看護計画を立案できる 4. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の観察・ケアに必要な根拠に基づく看護技術について説明でき、技術を修得できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
母性看護学各論	森恵美	医学書院		ISBN97826042239	
ウェルネスの視点にもとづく 母性看護過程 第4版	太田操	医歯薬出版株式会社		978-4263710647	
根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版	石村由利子編	医学書院		978-4260043243	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
病気がみえる vol.10 産科 第4版	病気がみえる vol.10 産科 第4版	メディックメディア		9784896327137	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻・早退・無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合があります。 課題レポート内容を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート 看護技術演習	20%	演習前後で出された課題を自己学習して期限までに提出した内容を評価
課題レポート 看護過程	80%	看護過程の課題を学習して期限までに提出した課題内容を評価

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業 60 分程度行う <事前学修> 1. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成する(第1・2・7～15回/60分) 2. 1. の過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む <事後学修> 1. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する(第1・2・7～15回/60分) 2. 技術演習後は技術をくり返し行い、根拠に基づく技術修得に努める(第3～6回/60分)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 母性看護学におけるウェルネスの看護診断(富岡) 第2回(講義・演習) 妊娠期の情報収集(富岡・リトル) 第3回(講義・演習) 妊娠期のアセスメントとアセスメントの統合と看護計画の立案(富岡・リトル) 第4回(講義・演習) 分娩期の情報収集(富岡・リトル) 第5回(講義・演習) 分娩期のアセスメントとアセスメントの統合と看護計画の立案(富岡・リトル) 第6回(講義・演習) 産褥期の情報収集(富岡・リトル) 第7回(講義・演習) 産褥期のアセスメントとアセスメントの統合と看護計画の立案(富岡・リトル) 第8回(講義・演習) 新生児期の情報収集(富岡・リトル) 第9回(講義・演習) 新生児期のアセスメントとアセスメントの統合と看護計画の立案(富岡・リトル) 第10回(演習) 妊娠期・分娩期の看護ケア演習①(リトル・富岡) 第11回(演習) 妊娠期・分娩期の看護ケア演習②(リトル・富岡) 第12回(演習) 妊娠期・分娩期の看護ケア演習③(リトル・富岡) 第13回(演習) 産褥期・新生児期の看護ケア演習①(リトル・富岡) 第14回(演習) 産褥期・新生児期の看護ケア演習②(リトル・富岡) 第15回(演習) 産褥期・新生児期の看護ケア演習③(リトル・富岡) ＊受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 ＊課題(テストやレポート等)やリアクションペーパーの質疑内容については、授業内や Classroom でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRFM2007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	98660
科目	9866 母性看護学実習	授業種別	実習
科目責任者	富岡 美佳	単位数	2 単位
担当教員	富岡 美佳、リトル 奈々重		

授業概要	周産期にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体・心理社会的特性を理解し、総合的にアセスメントし、個別性を踏まえた看護計画の立案・実施・評価を行い、母子とその家族の看護実践に必要な基礎的知識・技術をウエルネスの看護過程展開により養う。病棟実習に加え、外来における妊婦健診・産後健診・母乳外来等の場面を通して、予防的看護の重要性を理解する。 対象者の発達段階や生活背景、理解度に応じた保健指導・健康教育の方法を学び、母子と家族のセルフケア能力を高める支援について考察する。さらに、多職種連携や地域母子保健とのつながりを理解し、母性看護における助産師・看護師の役割と責任を自覚するとともに、倫理的配慮をもって対象者と関わる姿勢を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 妊娠により生じた妊婦と胎児の心身の変化をアセスメントし、状態に応じたウエルネスの看護過程を展開できる 2. 分娩により生じた心身の変化における産婦と胎児の状態をアセスメントできる 3. 褥婦の退行性・進行性変化を観察し、状態をアセスメントし、順調な経過を促進する看護過程を展開できる 4. 新生児の胎外適応過程と生理的变化を観察し、状態をアセスメントし、生後日数に応じて順調に経過する看護過程を展開できる 5. 褥婦と夫・パートナーを含む家族の役割適応を把握し、順調な家族形成に向けて適応を促す援助を実施できる 6. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚して行動できる							

テキスト (教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
ウエルネスの視点にもとづく 母性看護過程 第4版	太田操	医歯薬出版株式会社		ISBN 978-4263710647		
母性看護学概論 第14版	森恵美	医学書院		978-4260042253		
母性看護学各論 第14版	森恵美	医学書院		978-4260042239		

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
病気がみえる vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所編集	医療情報科学研究所編集		978-4896327137		
根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版	石村由利子編	医学書院		978-4260043243		

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	実習評価表に則り評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	実習は 45 時間をもって 1 単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 <事前学修> 実習ガイダンスで提示した実習要項の事前学修の指示に従い学修し、実習初日に提出する <事後学修> 実習での学びと自己の課題をレポートにまとめる

授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間 2 週間 2. 実習施設 豊川市民病院、豊橋市民病院のいずれか 1 施設 3. 実習内容・方法 1) 学内オリエンテーション (初日) 2) 臨地実習 ・病棟オリエンテーション (初日) ・褥婦・新生児 (あるいは妊婦・産婦) を受け持ち、看護過程を展開する ・日々、受け持ち対象者の看護計画に基づき看護を実践し、評価する。行動計画、看護過程展開、看護実践については、担当教員もしくは実習指導者から日々フィードバックする ・カンファレンスは原則毎日行い、1 週目最終日に中間ケースカンファレンス、2 週目最終日にケースカンファレンス、まとめを行う 3) 学内まとめ (実習最終日) として、記録提出、担当教員との面談による学修内容・評価のフィードバックを行う。
--------------	---

ナンバリング	NRFM3010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	986D0			
科目	986D 精神看護学原論			授業種別	週間授業			
科目責任者	桂川 純子			単位数	1 単位			
担当教員	桂川 純子、都築 弘典、藤田 陽子							
授業概要	精神看護の対象となる人々のこころの健康に関する理論や歴史的背景、現代の社会病理に関する知識を修得し、誰もが精神の不調を経験する可能性がある中で、幅広い視座からこころの健康を捉える重要性を理解する。精神の不調や精神疾患・障害を持つ人々が尊厳をもって共生社会を生きることを支えるために、多様な価値観を理解し、倫理的・道徳的な視点をもった看護職の役割や、役割の拡大について学修する。 主に講義で実施するが、一部グループワークを取り入れ、展開する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○	△		△	
到達目標	- こころの健康を説明できる。 - こころの健康に関連する理論を説明できる。 - ストレスマネジメントとその具体的な方法を説明できる。 - 精神医療保健における関係法規について、歴史的背景を踏まえて説明できる。 - こころの健康の保持増進や疾病の予防、リハビリにおける看護者の役割について説明できる。							

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論／精神保健 第6版	岩崎弥生、渡邉博幸（編）	メヂカルフレンド社	2,530	9784839233891		
新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 第6版	岩崎弥生、渡邉博幸（編）	メヂカルフレンド社	4,400	97848392339075		
こころの健康がみえる 第1版	医療情報科学研究所	メディックメディア	4,500	9784896329452		
精神看護学まとめノート 精神看護学概論／精神保健 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生（総監修）	メヂカルフレンド社	1,980	9784839216979		

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験、グループワークに関連したレポートで総合判断する	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	85%	論述を含む筆記試験により目標の達成度を確認する。
レポート	15%	グループワークに関連したレポート（グループワークでの学び、授業内知識との関連、論理性）で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	第1回予習（30分） - 教科書①②の目次を精読し、どのような学習をするのか見通しを立てる。 第2～6、8回予習・復習（各回2～4時間） - 事前学修では、教科書の該当部分を通読し、わからない言葉を辞書、看護学辞書、官庁のHPなどで確認する。 - 事後学修では、授業資料を振り返り、教科書該当箇所を精読する。定義、概念、用語等については、ノートなどにまとめ、内容を理解して知識として定着させる。 - まとめノートを活用してよい。 第7回（8時間） - 事前学修では、事前に課されたレポート課題に取り組む。 - 事後学修では、予習、グループワークで得た学びと、それに関連する文献等を活用し、学んだ内容を自分の言葉で論述しレポートを作成する。

授業の実施方法と授業計画	※毎時のリアクションペーパー（Google Classroom 経由 Forms を使用するので通信機器を持参すること）に述べられた内容のうち特に学修に関連するものは、授業内や Google Classroom でコメントする。試験やレポートは、成績確定後、個別にコメントする。 第1回 こころの健康とは（講義）（桂川） 第2回 こころの健康を理解する理論（講義）（桂川） 第3回 家族・集団のこころの健康（講義）（桂川） 第4回 ストレスマネジメント（講義）（桂川） 第5回 こころの健康を支える制度と歴史（講義）（桂川） 第6回 こころの健康を支える看護の方法（講義）（桂川） 第7回 現代社会とこころの健康（グループワーク）（桂川、都築、藤田） 第8回 こころの健康を支える看護師の役割（講義）（桂川） 受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	NRAM2003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	986E0			
科目	986E 精神看護学方法論			授業種別	週間授業			
科目責任者	桂川 純子			単位数	2 単位			
担当教員	桂川 純子、都築 弘典、藤田 陽子							
授業概要	精神の不調や精神疾患・障害により日常生活や人生をおくる上で支援が必要な人々に対して、発達段階、健康レベル、地域包括ケアを含む多様な場での予防、早期発見、診療の補助・治療、リカバリーの過程を支援する臨床判断と支援方法の専門的知識を学修する。その際、人々の主体性の尊重や、治療と人権擁護のバランス、多職種連携・協働の視点の重要性について理解を深める。 授業方法は、主に講義とする。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎			△	
到達目標	1. 精神疾患 / 精神障がいをもつ人に共通する治療と看護について説明できる。 2. 主な精神疾患 / 精神障がいをもつ人への看護について、尊厳を守り、セルフケアの視点を踏まえた具体的な方法を説明できる。 3. 精神医療保健における社会資源について、他職種協働の観点から説明できる。 4. わが国における精神看護の発展について説明できる。 5. 精神疾患 / 精神に障がいをもつ人へのセルフケアとリカバリーを踏まえた看護者の役割について説明できる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論／精神保健 第6版	岩崎弥生、渡邊博幸（編）	メヂカルフレンド社	2,530	9784839233891	
新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 第6版	岩崎弥生、渡邊博幸（編）	メヂカルフレンド社	4,400	9784839233907	
こころの健康がみえる 第1版	医療情報科学研究所	メディックメディア	4,950	9784896329452	
精神看護学まとめノート 精神看護学概論／精神保健 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生（総監修）	メヂカルフレンド社	1,980	9784839216979	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	筆記試験、課題レポートを総合的に勘案して判断する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	85%	論述を含む筆記試験により目標の達成度を確認する。
ミニレポート	5%	ゲストスピーカーの講義内容について学んだことを論述する
当事者講義レポート	10%	当事者ゲストスピーカーの講義を受けて、精神障害をもつ当事者の地域生活と支援について論述する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	各回予習 (30 分～1 時間) ・疾患や治療については、「病態と治療Ⅵ (精神科)」の授業内容を基盤とするので、復習して記憶を想起させておくようにする。 第1 回予習 (30 分) ・教科書①②の目次を精読し、どのような学習をするのか見通しを立てる。 第2～10、12～15 回予習・復習 (各回2～4 時間) ・事前学修では、教科書の該当部分を通読し、わからない言葉を辞書、看護学辞書、官庁のHP などで確認する。 ・事後学修では、授業資料を振り返り、教科書該当箇所を精読する。定義、概念、用語等については、ノートなどにまとめ、内容を理解して知識として定着させる。 ・まとめノートを活用してよい。 第11 回 (ゲストスピーカー講義) 8 時間 ・予習では、地域で生活する当事者の人々に関する指定ビデオを視聴して、内容を整理し、不明な用語や内容について調べ学習をする。 ・復習では、予習、ゲストスピーカー講義で得た学びと、それに関連する文献等を活用し、学んだ内容を自分の言葉で論述しレポートを作成する。

授業の実施方法と授業計画	※毎時のリアクションペーパー (Google Classroom 経由 Forms を使用するので通信機器を持参すること) に述べられた内容のうち特に学修に関連するものは、授業内や Google Classroom でコメントする。中間評価は授業内で解説する。希望者に個人指導を行う。定期試験やレポートは、成績確定後、個別にコメントする。 第1 回精神疾患・精神障がいをもつ人を支える医療の基本・ケアの原則 (講義) (桂川) 第2 回さまざまな精神症状への看護 (講義) (桂川) 第3 回精神科医療における安全とリスク管理 (講義) (桂川) 第4 回こころの健康への援助と「患者 - 看護師」関係の構築 (講義) (桂川) 第5 回精神疾患・精神障がいをもつ人のセルフケアを支える看護 (講義) (桂川) 第6 回急性期の精神症状で支援が必要な人への看護 (講義) (桂川) 第7 回復期の精神症状で支援が必要な人への看護 (講義) (桂川) 第8 回精神看護学における看護援助の原則 (中間評価) (講義) (桂川、都築、藤田) 第9 回解説、慢性期の精神症状 (精神障害) で支援が必要な人への看護 (講義) (桂川) 第10 回依存症により支援が必要な人への看護 (講義) (桂川) 第11 回様々な精神疾患で支援が必要な人への看護 (講義) (藤田) 第12 回精神疾患・精神障がいと共に地域で生きる (講義) (ゲストスピーカー、桂川、都築、藤田) 第13 回精神疾患・精神障がいをもつ人を支える地域医療保健福祉 (講義) (都築) 第14 回精神看護学の発展：リエゾン精神看護 (講義) (ゲストスピーカー) 第15 回リカバリーを踏まえた看護者の役割 (講義) (桂川) 受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	NRGM2006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	98380			
科目	9838 精神看護学演習			授業種別	週間授業			
科目責任者	桂川 純子			単位数	1 単位			
担当教員	桂川 純子、都築 弘典、藤田 陽子							
授業概要	精神看護学における具体的な看護実践の方法について、一連の看護過程を通して対象者の特徴を踏まえた臨床判断と実践能力の基礎を修得する。 本演習では、オレム・アンダーウッドのセルフケア理論および精神力動的視点（発達課題等）をアセスメントの枠組みとして活用し、対象者のリカバリーを支える関わりを追求する。この過程で、プロセスレコードを用いた自己理解の方法、対人関係のためのコミュニケーション技術、心理・社会的療法の実践について学習する。講義、個人ワーク、看護師経験を有する SP（模擬患者）シミュレーション、デブリーフィング、グループワークにより展開する。 ※この科目は当該授業内容に関する精神看護学の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. オレム・アンダーウッド理論のアセスメントフレームワークを用い、精神疾患、精神障害をもつ人を成育歴から全体として理解するための看護過程を展開できる。 2. 精神看護学において人間関係構築の重要性を理解したうえで、プロセスレコードを用いて対人関係における自己を洞察し、基本的・治療的コミュニケーションを実践し、自己の課題を上げられる。 3. プロフェッショナルとしてのチームワークと、セルフケアの姿勢を身につける。							

テキスト（教科書）						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論／精神保健 第6版	岩崎弥生、渡邊博幸（編）	メヂカルフレンド社	2,530	9784839233891		
新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 第6版	岩崎弥生、渡邊博幸（編）	メヂカルフレンド社	4,400	9784839233907		
こころの健康がみえる 第1版	医療情報科学研究所	メディックメディア	4,950	9784896329452		
精神看護学まとめノート 精神看護学概論／精神保健 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生（総監修）	メヂカルフレンド社	1,980	9784839216979		

成績評価	筆記試験、プロセスレコード、SP 演習への参加度、看護過程展開記録、グループワークへの貢献で総合判断する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	看護過程の展開を含む、論述形式の筆記試験を行う。
課題レポート①：プロセスレコード	10%	指定されている正しい書き方、自身の振り返りの程度によって評価する。
SP 演習への参加度	20%	SP からのフィードバックにより評価する。GW を含むので相互評価を行う。
課題レポート②：看護過程展開記録	20%	指示された看護過程の記録の内容により評価する。GW を含むので相互評価を行う。

受講条件	必修科目（専門科目）
事前・事後学修（内容・時間）	第1～15回 ・事前学修：これまで学んだ精神看護学領域の科目（病態と治療Ⅵ（精神）、精神看護学原論、精神看護学方法論）についてを十分復習する。（各回 30 分） ・事後学修：講義や演習を行う中で、理解不足、学修不足であると自覚した箇所について復習し、本科目の課題を達成できるように補充する。 第1～4、8～11回（各回 60 分） ・事後学修：指示されたコミュニケーション、患者とのワークに関する課題に取り組む。 第5～7、12～14回（各回 60 分） ・事後学修：指示された看護過程の展開に関する課題に取り組む。グループワークの際メンバーと協力できるように、個人個人が指定された課題に取り組む。プレゼンテーションの準備では、メンバーと協力して取り組む。 ・指定の期間に、看護過程に関する個人指導を1回以上受ける。 第15回（3 時間） 全過程での学修状況について振り返り、まとめる。

授業の実施方法と授業計画	※毎時のリアクションペーパー（Google Classroom 経由 Forms を使用するので通信機器を持参すること）に述べられた内容のうち特に学修に関連するものは、授業内や Google Classroom でコメントする。課題レポートは、授業内で解説する。 その他、個別に対応する。 1. 精神看護学における看護実践の基本、事例紹介（DVD）、エリクソン発達課題の視点（講義、ワーク） 2. オレムのセルフケア理論（セルフケア・エージェンシー、セルフケア・デマンド）による精神疾患・精神症状をもつ人の理解（講義、ワーク） 3. 人間関係の構築と看護者自身を看護ツールとして活用する方法：プロセスレコード、転移・逆転移、基本的・治療的コミュニケーション技法（講義、ワーク） 4. プロセスレコードによる看護者のコミュニケーションスキルの向上（演習） 5. 看護過程の展開①（MESE、情報の整理）（講義、ワーク） 6. 看護過程の展開②（精神症状がある人との関りながらの観察・情報収取、出会いの場面での関わり方の基本：そばにいないこと）（講義、ワーク） 7. 人間関係の発展とコミュニケーションスキル・転移・逆転移、防御機制、リフレクション、治療的コミュニケーション技法（講義、ワーク） 8. SP 演習：実践 A（出会いの場面）1（演習） 9. SP 演習：実践 A（出会いの場面）2（演習） 10. 看護過程の展開③（ストレングス・リカバリーの視点を踏まえた全体像の把握、看護診断／リカバリー目標の設定）（講義、ワーク） 11. 看護過程の展開④（看護介入の計画、スモールステップの理解、結果評価修正、見えない変化を理解するあり方）、ターミネーション（講義、ワーク） 12. SP 演習：実践 B（看護計画の実践）1（演習） 13. SP 演習：実践 B（看護計画の実践）2（演習） 14. ストレスマネジメントの方法：自分自身と対象のためのモニタリング、マインドフルネスの実践、社会資源の活用（講義、ワーク） 15. まとめ（講義） 受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	NRDM3004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	98680
科目	9868 精神看護学実習	授業種別	実習
科目責任者	桂川 純子	単位数	2 単位
担当教員	桂川 純子、都築 弘典、藤田 陽子		

授業概要	精神疾患・障害のために日常生活や対人関係に困難を抱えている対象者の生活の実際を知り、リカバリーの視点を踏まえたその人らしい日常生活を送るための支援、地域包括ケアを活用した社会参加に向けた働きかけなどの看護を実践する。 その過程で、リフレクションを踏まえた援助的人間関係の構築、多職種との協働を活用し、科学的根拠や倫理的・道徳的態度を基盤とした精神看護における臨床判断と看護実践に適用する能力を身につける。 ※ 授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 精神症状・精神疾患・精神障害をもつ人の困難やリカバリーの過程を自身の言葉で述べることができる。 2. 精神症状・精神疾患・精神障害をもつ人を支える環境を知り、どのような影響をもたらしているか自身の言葉で述べるができる。 3. セルフケアとリカバリーの視点をふまえ、受持ち患者に対する適切な臨床判断をし、看護計画・実施・評価する過程を通じて、精神看護学における看護実践の基礎的能力を身につけることができる。 4. 精神看護学領域において、看護専門職者としてふさわしい科学的根拠の活用、倫理的・道徳的態度を養うことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	ルーブリック評価表に基づいて、評価する。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1 単位 45 時間の学習が必要であることを踏まえ、事前課題は、実習オリエンテーション時に連絡する、精神看護学に関連する定義、用語、方法論についてまとめ身につけつつ、実習期間中に活用できるように資料として作成する。 実習中は、実習目標を達成するための自宅学習を実施する。 事後学修では、実習期間中に学んだ内容について、振り返り知識の定着を図る。

授業の実施方法と授業計画	※日々の学修状況に対しては、臨地実習時間、あるいは学内実習時間にコメントする。また、ルーブリック中間評価で、到達度について確認する。 実習期間 2 週間(学内実習あり) 実習場所 精神科病棟 実習方法 実習指導者のもと原則 1 名の患者を受け持ち看護過程の展開を行う。 1 病棟 2 ～ 4 名 でグループを再編成する。 1 週目 ・臨地オリエンテーションを通して精神科病院組織全体の理解を深める。 ・プロセスレコードを用い、看護師 - 患者関係の構築における対人相互作用について学びを深める。 ・受け持ち患者のアセスメントに基づき、看護診断を導き出す。 2 週目 ・看護診断に基づき看護計画を立案し、看護計画の一部を実践し評価する。 ・自己洞察及び自己の傾向についての理解を深めるとともに、対人関係構築のプロセスに活かす。 ・社会資源や多職種連携の過程を体験し、リカバリーへの影響について考察する。 ・最終カンファレンスを通して学びを統合する。 カンファレンスは基本的に毎日実施する。 ・デイリーカンファレンス 【内容】 一日の振り返りやテーマカンファレンス。実習に関する質問、相談。 【日時】 毎日実習終了前(30 分) ・中間カンファレンス 【内容】 受け持ち患者についての統合アセスメント、看護診断の発表。 【日時】 実習 1 週目の金曜日(60 ～ 90 分)(予定) ・最終カンファレンス 【内容】 看護実践の実際や介入後の評価について発表し、テーマに沿った話し合いから学びの統合を図る。 【日時】 実習 2 週目の金曜日(60 ～ 90 分)(予定) ※フィードバックは、ルーブリック評価表を用いて個人面談で行う。
--------------	--

ナンバリング	NRGM3008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	97450
科目	9745 家族看護学	授業種別	週間授業
科目責任者	蒔田 寛子	単位数	1 単位
担当教員	蒔田 寛子		

授業概要	社会の変化とともに、世帯構造は変化し、家族のありようもさまざまに個性化している。看護の対象は病んでいる人だけではなく、影響を及ぼしている家族も看護の対象と捉える必要性から、家族看護学は発展し、注目されてきた。本科目では、家族看護学発展の歴史的背景をふまえ、家族の機能、援助の方法、および家族を一つの単位として、アセスメントし援助する必要性を学修する。※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。家族看護の事例検討は教員の研究的取り組みを踏まえ教授します。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○	△		△	
到達目標	家族看護学発展の歴史とその必要性をふまえ、家族を包括的に理解し援助する基本的姿勢を身につけることができる。具体的には以下の内容である。 1. 家族を包括的に捉え、支援する必要性を説明できる。 2. 家族の複雑さと個性化をふまえ、高い倫理性を備え関わりようとする姿勢を獲得できる。 3. 家族支援における多職種との連携の必要性について、職種の特徴もふまえ説明できる。 4. 社会の変化をふまえ、家族看護学についても発展的に考え述べるができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書および参考文献については必要時適宜紹介する
------------------------------	--------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。筆記試験とプレゼンテーションの合計で再試験の判定をします。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験で理解度を確認する。
プレゼンテーション	40%	グループ発表について、スライドと発表のわかりやすさ、質問への対応等で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	①事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(1～5回/30分程度)。 ②講義で学んだ内容は配布資料、テキストを見直し整理しておく(毎回/60分程度)。 ③授業内で指示する課題に各自で取り組み授業に参加すること(5回/60分程度)。 ④グループで協力しプレゼンテーションの準備をすること(6～8回/120分程度)。 以上の①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回 授業ガイダンス 家族看護学発展の歴史 文化的背景と家族のありよう(講義) 第2回 家族の定義 家族の成長と発達 家族を理解するための諸理論(講義) 第3回 家族看護に関する研究 プレゼンテーション準備(演習:グループワーク) 第4回 家族アセスメントモデルの紹介 家族看護の事例検討 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例を整理(講義・演習) 第5回 家族看護の事例検討(講義・演習) 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例を整理 まとめ 第6回 家族看護に関する研究 グループ発表①(演習:学生によるプレゼンテーション) 第7回 家族看護に関する研究 グループ発表②(演習:学生によるプレゼンテーション) 第8回 家族看護に関する研究 グループ発表③(演習:学生によるプレゼンテーション) 家族看護における看護者の役割と援助姿勢(講義) ※筆記試験とプレゼンテーションの合計を100点とし再試験の判定をします。 ※学生によるプレゼンテーション内容については、授業内で必要時適宜コメントします。 ※課題については、授業内あるいはClassroomを通して質問や疑問等に対するフィードバックを適宜行います。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。
--------------	---

ナンバリング	NRBM3010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	970C0
科目	970C 看護倫理	授業種別	週間授業
科目責任者	桂川 純子	単位数	2 単位
担当教員	桂川 純子、鈴木 和香子、富岡 美佳、原沢 優子、蒔田 寛子、林 美佐		

授業概要	現在の社会の多様な事象の中で、保健医療及び看護に求められる高い倫理への要請を理解した上で、医療に求められる倫理、看護倫理の意義、必要性を理解する。また、思考の基盤となる哲学的知見を活用しつつ、多様な角度から倫理的課題を感じ取る感受性と看護倫理の原則を基盤に、医療における事象を対象者の人権を擁護する視点から考察できる基礎的な能力を育成する。さらに、看護学実習を含めた看護実践場面で生じるモラル・ディストレス（倫理的苦悩）に焦点を当て、看護者として誠実に行動するためのプロセスを学ぶ。 この科目は、当該授業内容に関する看護職の実務経験を有する教員等が、その実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○	○	△		
到達目標	1. 看護倫理の基盤となる主要な概念および哲学的理論（徳倫理・義務論・ケアの倫理等）を、看護実践と関連づけて説明できる。 2. 専門職としての倫理綱領や規範の意味とその限界を理解し、対象者の人権擁護（アドボカシー）における看護師の責務を説明できる。 3. 臨床場面における倫理的課題に気づく「感受性」の重要性を理解し、自身の価値観が判断に与える影響を客観的に省察できる。 4. 臨床実習や看護場面に潜む倫理的ジレンマやモラル・ディストレスを、倫理原則等の専門用語を用いて具体的に抽出できる。 5. 事例分析の枠組みを活用し、哲学的・理論的根拠に基づいた「看護者として誠実な行動（最善のケア）」を検討し、提案できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項		
成績評価	筆記試験、グループワーク、レポートで総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	第7～11回の専門領域の看護倫理の内容を含む筆記試験とする。用語や概念の確認に加え、論述問題を含む。
グループワーク	15%	分析枠組みを用い事例を多角的に検討できるか評価する。ワークを通じた倫理的態度について相互評価を行う。
レポート	15%	自身の看護体験を題材に、専門的価値観の課題を省察しつつ、論理的かつ誠実に叙述できるか評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	【第1回（3時間）】 ・事前学修：これまでの看護の学修や体験から「いのち」について考える。 ・事後学修：授業内のワークで取り組んだ内容について振り返り、自身の言葉でまとめる。 【第2～6回（各1時間）】 ・事前学修：教科書該当箇所を熟読し、専門用語や概念について確認する。 ・事後学修：授業で学んだ内容について振り返り、日常生活、看護場面でどのように適応されるか考える。専門用語や概念について内容を正しく理解し、使用場面を設定し、イメージトレーニングする。 【第7～11回（各1時間）】 ・事前・事後学修：各担当者からの課題に取り組む。GoogleClassroom や事前の授業内で提示されることがある。 【第12～15回（各1時間）】 ・事前学修：これまで学んだ看護倫理に関する用語や概念、求められる態度について自身の意見として討議できるように準備する。 ・事後学修：グループワークを通じて、看護倫理に必要な知識や態度の課題を明らかにして目標を設定し、今後の学修でどのように自身の看護実践に組み込んでいくか考える。

授業の実施方法と授業計画	第1回 看護倫理とはなにか：看護実践における倫理の様相、看護者の倫理綱領の歴史と改定（講義）（桂川） 第2回 倫理的判断を支える理論：行為の正当性を支える哲学的思考の基盤。（講義）（桂川） 第3回 患者の権利とアドボカシー：（講義）（桂川） 第4回 看護職の責務と倫理原則：看護倫理の概念と原則。専門職の責任。規範の意味とその限界。モラルディストレス。（講義、ミニワーク）（桂川） 第5回 意思決定のプロセスと対話：ナラティブ、対話的アプローチ、コンサルテーション。（講義）（桂川） 第6回 倫理的課題のある看護場面の分析方法：（講義、ミニワーク）（桂川） 第7回 周産期における看護倫理（講義）（富岡） 第8回 小児看護学と看護倫理（講義）（鈴木） 第9回 高齢者看護学と看護倫理（講義）（原沢） 第10回 在宅看護学と看護倫理（講義）（蒔田） 第11回 精神看護学と看護倫理（講義）（桂川） 第12回 倫理的課題のある事例へのアプローチ：事例を分析する（演習（グループワーク））（桂川、林） 第13回 倫理的課題への看護専門職としてのアプローチ:倫理的な看護者の実践方略（演習（グループワーク））（桂川、林） 第14回 倫理的課題への看護専門職としてのアプローチ（発表（グループワーク））（桂川、林） 第15回 倫理的な実践を行なう看護者とは：まとめ（講義）（桂川） ※※毎時のリアクションペーパー（Google Classroom 経由 Forms を使用するので通信機器を持参すること）に述べられた内容のうち特に学修に関連するものは、授業内や Google Classroom でコメントする。グループでの発表後は授業内でコメントする。定期試験、課題レポートは、成績確定後、個別に対応する。
--------------	--

ナンバリング	NRAM3004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期		授業コード		98460			
科目	9846 看護学研究Ⅰ		授業種別		週間授業			
科目責任者	鈴木 知代		単位数		1 単位			
担当教員	鈴木 知代、桂川 純子、富岡 美佳、豊島 由樹子、原沢 優子、藤井 徹也、鈴木 和香子、山口 直己、石上 早苗、二十軒 温美、井上 直子、小山 順子、笹木 りゆこ、城川 絵理子、リトル 奈々重、山本 義昭、小原 由佳子、都築 弘典、徳永 麗子、林 美佐、藤田 陽子、三村 絵美、阪下 陽香、谷口 弥生、宮野 幸子							
授業概要	看護における研究の意義、研究プロセス、研究方法、研究倫理などの看護研究の基礎的知識を学ぶ。また、最新の研究動向を踏まえて、関心のあるテーマについての文献検索、文献クリティーク、文献のまとめを実際に行う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性				○		◎		
到達目標	1. 看護における研究の意義、研究プロセスの概観、研究方法の種類・特徴について説明できる。 2. 看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方について説明できる。 3. 看護学分野において関心のある研究テーマについて適切に文献検索できる。 4. 収集した文献を整理・クリティークして、文献内容をまとめることができる。 5. 看護研究に対して興味・関心・探求心をもち主体的に取り組むことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
看護研究 第2版	坂下 玲子	医学書院	2500	9784260049955	
APA に学ぶ 看護系論文執筆のルール 第2版	前田 樹海	医学書院	1800	9784260052900	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・テキスト、APA に学ぶ看護系論文執筆のルール 第2版は購入済み
------------------------------	-----------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や他の人に迷惑をかけるような受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	20%	筆記試験にて理解度を確認する
課題・取り組み	10%	課題に対して適切に記述されているか評価する
文献検討のまとめ・ゼミへの取り組み	70%	評価表を用いて課題に対して適切に論述されているかを評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	・第1～5回はテキスト該当箇所を読む(1回/30分程度) ・第6～7回は第4回で提示する課題を実施して参加する(1回/120分程度) ・第8～15回はゼミ内で提示された学修をして次の授業に臨む(1回/120分程度) 事後学修：研究で用いる用語等について、理解が十分ではない事を適宜、テキスト等で復習する。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) 看護における研究の意義、研究プロセスの概観、研究方法の種類・特徴(豊島) 第2回(講義) 看護研究における倫理(豊島) 第3回(講義) 研究疑問(リサーチエスション)、文献検討の方法(豊島) 第4回(講義・演習) ガイダンス、研究内容についての紹介(教務委員会) 第5回(講義・演習) 文献検索の実践(図書館司書) 第6回文献の読み方・クリティーク練習1. 質的研究(原沢) 第7回文献の読み方・クリティーク練習2. 量的研究(原沢) 8回目以降は所属ゼミに分かれて履修する。 第8～15回(演習) 関心のある研究テーマについての文献検討、文献クリティーク、文献まとめ(担当教員) 受講学生の学修状況により授業計画を変更することがある。 第1～7回授業の質疑内容については授業内あるいはClassroomを通してフィードバックする。 第8回目以降のゼミにおける課題や文献まとめはレポート内容については、各担当教員から授業内でフィードバックする。
--------------	--

ナンバリング	NRBM3009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	授業コード	98470
科目	9847 看護学研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	鈴木 知代	単位数	1 単位
担当教員	鈴木 知代、桂川 純子、富岡 美佳、豊島 由樹子、原沢 優子、藤井 徹也、鈴木 和香子、山口 直己、石上 早苗、二十軒 温美、井上 直子、小山 順子、笹木 りゅこ、城川 絵理子、リトル 奈々重、山本 義昭、小原 由佳子、都築 弘典、徳永 麗子、林 美佐、藤田 陽子、三村 絵美、阪下 陽香、宮野 幸子、谷口 弥生		

授業概要	看護学研究Ⅰで学んだ研究の基礎的知識および自己の研究課題に関する文献検討のまとめをもとに、最新の研究動向を踏まえ、自己の研究課題を明確にして研究計画書を作成する。 研究計画書の作成を通して、看護研究に必要な基礎的能力を養うとともに、看護における研究の意義を理解し、専門職者として生涯にわたり継続して研鑽し、専門性を発展させる基本的態度を培う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性				○		◎		
到達目標	1. 自己の研究課題を明確化にし、文献検討することができる。 2. 自己の研究課題について、目的、意義、対象、研究方法、倫理的配慮を明確にし、研究計画書を作成することができる。 3. 研究計画について発表し、質疑に応答することができる。 4. 看護研究に対する興味・関心・探求心をもち主体的に取り組むことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
看護研究 第2版	坂下 玲子	医学書院	2500	9784260049955	
APA に学ぶ 看護系論文執筆のルール 第2版	前田 樹海	医学書院	1800	9784260052900	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・テキストは全て購入済み
------------------------------	--------------

成績評価	課題レポート(研究計画書)、発表、研究への取り組み態度で総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート(研究計画書)	60%	評価表に基づき、研究計画書が適切な内容・記述になっているかを評価する。
発表	15%	評価表に基づき、発表時の状況、発表用の資料等について評価する。
授業への取り組み	25%	評価表に基づき、研究への取り組み姿勢等について評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前にはテキスト等の該当箇所を熟読し、提示された内容については事前に調べて授業に臨む(第1～13回/30分程度)。 ②授業後には学びを整理し、レポートの作成を進める(1～13回/60分程度)。 ③計画発表会に向けて準備を行う(14・15回/60分程度)。

授業の実施方法と授業計画	第1～13回：(講義・演習) 各自の研究テーマに沿った研究計画書の作成(担当教員) 第14・15回：研究計画の発表(合同) *受講学生の学修状況により授業計画を変更することがある。 *課題レポート、発表の内容については、授業内でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRDM4008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	97470			
科目	9747 災害看護学			授業種別	週間授業			
科目責任者	笹木 りゆこ			単位数	1 単位			
担当教員	笹木 りゆこ							
授業概要	災害が人々の健康と生活に及ぼす影響と国内外の災害に関する社会のしくみ、対応システムなどを概観し、災害各期における人々の健康や生活ニーズ、被災者の特徴に合わせた看護について最新の知見を踏まえながら学ぶ。 また、演習を通して災害時に必要とされる基礎的な看護技術を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性						△	◎	
到達目標	1. 災害の定義、災害の種類、災害サイクル、国内外の災害に関する社会のしくみと対応システム、倫理原則について述べるができる。 2. 災害が人々の健康に及ぼす影響と必要な看護ケアについて述べるができる。 3. 災害各期の被災者のニーズと看護師の役割や実践活動について述べるができる。 4. 災害時に必要な看護技術について理解し、対象者を尊重した態度で実施できる。 5. 国や地域、病院における防災・減災活動について述べるができる。 6. 災害時の国際支援システム、看護活動について述べるができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
災害看護(改訂第4版)	酒井明子	南江堂	2,700	9784524231652	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。 授業終了時の定期試験(筆記)にて理解度を確認する。 欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記)	90%	
講義・演習の取り組み姿勢	10%	
受講条件	履修条件を付けない。	
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には教科書の指定箇所を熟読する。(毎回 45 分程度) ②授業後には、授業での学びを整理しておく。(毎回 60 分程度) ③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。(毎回 45 分程度) ※以上①②③について、1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。	

授業の実施方法と授業計画	第 1 回	災害看護学概要〈講義〉(笹木)
	第 2 回	災害時特有の疾病・医療・看護実践 災害各期の特徴的な健康問題と看護の役割① 〈講義〉(笹木)
	第 3、4 回	災害時に必要な技術① トリアージ 〈講義・演習〉(ゲストスピーカー、笹木)
	第 5 回	災害時に必要な技術② 災害時の応急処置、搬送 〈演習〉(ゲストスピーカー、笹木)
	第 6 回	災害各期の特徴的な健康問題と看護の役割② 〈講義〉(笹木)
	第 7 回	災害時に配慮を必要とする人への看護 〈講義〉(笹木)
	第 8 回	防災・減災マネジメント、災害時の国際支援システムと看護活動 〈講義〉(笹木)
	* 授業計画は、授業進行状況により変更の可能性がある * リアクションペーパーの回答は講義内で行う。 * 筆記試験の結果については、ユニパなどで全体にフィードバックを行う。	

ナンバリング	NRAM4008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	97460			
科目	9746 国際看護学			授業種別	週間授業			
科目責任者	内木 美恵			単位数	1 単位			
担当教員	内木 美恵							
授業概要	国際社会における保健衛生の動向および健康問題と対策、加えて、気候変動、貧困、災害など人道的危機等における国際的な支援や協力の基礎知識を学び、人々の健康と幸福に向けて看護師の果たすべき役割を理解する。その上で、グローバルヘルスを担う一員である看護師として、何ができるのか検討することを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性							◎	
到達目標	・ 国際的な保健衛生の動向および健康問題と対策を説明できる。 ・ 国際保健学の歴史的変遷に関する概況を説明できる。 ・ 気候変動、貧困、災害など人道的危機等における健康への影響を説明できる。 ・ 貧困、災害など人道的危機等による国際的な支援と看護師の活動を説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業中の質疑応答、ディスカッションを重視します。積極的な発言を期待します。	
評価項目	割合	評価基準
リフレクションペーパー	20%	
定期テスト	80%	

受講条件	履修条件を付けない
事前・事後学修(内容・時間)	①事前：毎回のテーマについて、教科書を活用しながら調べ、内容を A4 用紙 1 枚程度にまとめる。(30 分 / 回程度) ②事後：授業資料と教科書を見直し、学んだことを確認し、整理する。(30 分 / 回程度) ※以上①②について、1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	<授業の進め方> ・講義、ディスカッションなどで学びを深める。 ・毎回リフレクションペーパーを記入し、提出する。学んだことを記述する中での質問や疑問点も記入すること。質問、疑問点は次の講義で説明する。 ・3 回程度、過去の国家試験問題を振り返り、学びを整理していく。 <授業内容> 第 1 回：講義 国際保健・看護と世界の動向 (国際看護とは何か、健康に影響を与える社会課題、世界の健康課題など) 第 2 回：講義 グローバルヘルスにおける保健衛生活動に関する理念、国際協力のしくみ (グローバルヘルスの保健衛生活動に関する理念、国際協力のしくみ、保健医療分野で活躍する国際機関) 第 3 回：講義 国際機関、国際協力、国際緊急救援に関連組織を知る 第 4 回：講義 文化を考慮した看護を考える (レイニンガーの理論を用いた看護を検討する) 第 5 回：講義 発展の途上にある国の健康の問題を考える 1) 健康であるための生活環境の整備(水と衛生、栄養など) 第 6 回：講義 発展の途上にある国の健康の問題を考える 2) 疾患等(感染症、母子保健、小児保健)の理解と看護 第 7 回：講義 世界の災害発生状況 第 8 回：講義 途上国の災害時と健康の展開について考える (健康を危機的な状態になる自然災害、紛争など)
--------------	---

ナンバリング	NRBM4015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	974A0			
科目	974A 看護管理学			授業種別	週間授業			
科目責任者	森田 恵美子			単位数	1 単位			
担当教員	森田 恵美子							
授業概要	看護管理学は、質の高いケアを提供するために、ケアの担い手である自分たちがどのようにあればより能力を発揮できるのか、人が仲間を作り組織で働くときにその効果を高めるにはどうしたら良いのか、リーダーシップとは何なのか、資源を有効に活用して成果を上げるにはどうすればよいか、看護がどうあれば社会をよりよくすることに結びつくのかなどを考える領域です。 この科目では、看護師として臨床での看護管理の実務経験のある教員が、人、グループ、組織、社会と看護の関係を模索し、ケアを支える看護管理の基本的な考え方を教授していきます。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	○		◎		
到達目標	1) 看護管理とは、医療・看護の質とはどのようなものか理解し、その評価方法について説明できる。 2) 人と組織の関係を理解し、組織で働く上での個人の役割や自己の課題を考えることができる。 3) リーダーシップとマネジメント、モチベーションについて、身近な例を用いて説明ができる。 4) 専門職としてのキャリア開発のあり方について、自己の考察ができる。 5) 保健医療福祉制度の最近の動向と課題を知り、看護への影響を考察することができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
看護の統合と実践 [1] 看護管理 第11 版	上泉 和子	医学書院	2500	9784260053044	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているか筆記試験、毎回の講義の振り返りシートで評価します。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	① 授業計画にある内容をテキスト(教科書)を参考にして各回の授業内容に応じた 30 分程度の予習をして講義に出席する。特に用語の定義などは事前学習しておく。 ② 授業後には、各回の授業内容に応じた学びを整理し 30 分程度の復習をしておく。 ③ 授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。 ④ 筆記試験には、授業内容の復習を十分にに行い臨む。 ※以上①②③④について、1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	各回の最初に、前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。 第 1 回(講義) オリエンテーション 看護管理と医療・看護の質評価 看護管理学とは、医療や看護の質とは何かを理解し、質評価の枠組み、看護の質を測定するための試みについて学ぶとともに、質向上に向けた現状と課題について考える。 第 2 回(講義) 看護管理と組織 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護ケアのマネジメントおよび組織とは何か、看護専門職の働く場(病院や保健所等)について、チーム医療や多職種連携とは何かについて学ぶ。 第 3 回(講義) 看護ケアのマネジメント 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護業務の実践、安全管理、情報の活用する方法について学ぶ。 第 4 回(講義) 看護職のキャリアマネジメント 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護職のキャリア形成、キャリアディベロプメント、タイムマネジメント、ストレスマネジメントについて学ぶ。 第 5 回(講義) 看護サービスのマネジメント 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。組織目標達成のマネジメント、看護サービス提供の仕組みづくり、労働環境について学ぶ。 第 6 回(講義) ケアの効果的・効率的提供を支える仕組み 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。人・物・情報などの効果的・効率的な活用について学ぶ。 第 7 回(講義) マネジメントに必要な知識・技術 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。組織マネジメント、人々や集団に働きかけるために必要なリーダーシップとマネジメント、組織の調整、動機付け・コンフリクトマネジメントについて学ぶ。 第 8 回(講義) 看護を取り巻く諸制度 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護職と法制度、医療制度、看護政策の過程などについて学ぶ。
--------------	---

ナンバリング	NRCM4016
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	974B0			
科目	974B 看護教育学			授業種別	週間授業			
科目責任者	藤井 徹也			単位数	1 単位			
担当教員	藤井 徹也							
授業概要	看護学教育全体を概観したうえで、教育の基本的な理論のもと、看護教育制度、教育課程の変遷と現在の課題を理解する。そのうえで、卒後教育、継続教育の現状、生涯学習の方法等の概括を理解し、看護の質を高めるために実践の場に教育がケアにも看護職の能力向上にも実際に活用されていることを知り、自らの進む方向に役立てる。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性						◎	△	
到達目標	1, 看護学教育、看護教育の本質と目的について述べるができる。 2, 看護教育制度、看護教育課程について変遷をふまえて理解し、変化する看護行政を視野に現状における課題について考察しまとめることができる。 3, 看護学教育に必要な教育内容、方法、評価の概括に述べるができる。 4, 継続教育、生涯教育の必要性和その在り方の概括について述べるができる。 5, 専門職における教育的な機能の意義と重要性について理解できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う 改訂第3版	グレッグ美鈴、池西悦子	南江堂	2,800	978-4-524-20424-3	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	講義時に適宜示す
------------------------------	----------

成績評価	筆記試験(85%)、課題レポート(10%)、授業・討論の取り組み姿勢(5%)について総合的に評価する。なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記試験)	85%	講義内容の理解度を確認する
課題レポート	10%	課題について文献を用いて適切に分析、自分の考えがレポートに書かれているかの視点で評価する
授業・討論の取り組み姿勢	5%	主体的に学ぶ態度、自ら意見を理論的に適切な表現で伝えることができているかの視点で評価する

受講条件	特になし
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には参考書の指定箇所を熟読する。②看護学原論等で学んだ看護教育制度の復習、各看護学で学んだ看護に必要な教育的機能等の復習をしておく。また、自らが学んできて、現在に至っている教育課程を振り返ってみておく、学修に効果的である。③授業後には授業での学びを整理しておく。④授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。以上①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。(第1回～8回講義の予習・復習で、各々30分程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 看護教育学とは、看護学教育、本質と目的、教育の理論的根拠 (講義：藤井) 第2回 看護教育制度の変遷と現状① (講義：藤井) 第3回 看護教育課程の変遷と現状②、欧米による看護学教育 (講義：藤井) 第4回 看護教育の内容、方法 (講義：藤井) 第5回 看護教育の評価 (講義：藤井) 第6回 継続教育、生涯教育 (講義：藤井) 第7回 専門職における教育的機能の重要性 (講義：藤井) 第8回 看護学教育の現状における課題と今後の方向性 (講義：藤井) ★リアクションペーパーの回答は授業時間内で行う。課題(定期試験やレポート等)のフィードバックは、授業内またはメール等でコメントする。
--------------	--

ナンバリング	NRDM4007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期		授業コード		97830			
科目	9783 統合実習		授業種別		実習			
科目責任者	豊島 由樹子		単位数		2 単位			
担当教員	豊島 由樹子、藤井 徹也、鈴木 知代、桂川 純子、原沢 優子、富岡 美佳、鈴木 和香子、山口 直己、石上 早苗、二十軒 温美、井上 直子、小山 順子、笹木 りゆこ、城川 絵理子、リトル 奈々重、山本 義昭、小原 由佳子、都築 弘典、徳永 麗子、林 美佐、藤田 陽子、三村 絵美、阪下 陽香、宮野 幸子、谷口 弥生							
授業概要	4 年次春学期までに修得した看護学の講義・演習・実習の学修を統合し、対象者それぞれの特徴に応じた看護実践能力を養うことを目的とする。ここでの看護実践能力とは看護の対象となる人を尊重し権利を擁護する倫理的姿勢を基盤として、対象者のニーズを的確に判断し、適切な看護援助をエビデンスに基づいて提供できる能力、チームの一員として社会性、協調性、安全性をふまえて行動できる能力を指す。また看護実践能力の向上にむけて、学生が自己の課題を明確にし、課題達成に主体的に取り組むことも目指す。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし実習を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	○	○	
到達目標	1. 自己の課題を明らかにし、その課題達成に向け、主体的に取り組むことができる。 2. 対象者を尊重し、人権を擁護する倫理的姿勢を基盤として行動できる。 3. 対象者のニーズを的確に判断し、エビデンスに基づいて適切に看護援助を提供できる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として社会性、協調性、安全性をふまえて行動できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
各領域で指示されたもの					

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	各領域で指示されたもの
------------------------------	-------------

成績評価	到達目標が達成できているかを、事前課題、実習記録、看護実践、課題レポート等について、ルーブリック評価表に基づいて評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、課題レポート、カンファレンスへの参加度	100%	ルーブリック評価表に基づき評価する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない。
事前・事後学修(内容・時間)	実習は 45 時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 事前課題については、各領域ごとのオリエンテーションで指示された内容や自己の課題に対して主体的に学修する。 実習後は、理解が不十分であった内容について、国家試験に向けて各自復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	[実習方法] 1. 実習期間：2026 年 7 月 ※実習施設により変更あり 2. 実習施設 <table border="0"> <tr> <td>豊橋医療センター</td><td><基礎看護学></td></tr> <tr> <td>豊川市民病院</td><td><成熟期看護学(急性)(慢性)></td></tr> <tr> <td>豊橋市民病院</td><td><小児看護学、母性看護学></td></tr> <tr> <td>浜松市リハビリテーション病院</td><td><成熟期看護学(慢性)></td></tr> <tr> <td>可知記念病院</td><td><精神看護学></td></tr> <tr> <td>老人保健施設 明陽苑</td><td><成熟期看護学(老年)></td></tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td><td><在宅看護学></td></tr> <tr> <td>地域包括支援センター</td><td><公衆衛生看護学></td></tr> </table> 3. 実習までの予定 3 月に統合実習ガイダンスを行い、実習配置を決定する。その後、各領域のオリエンテーションを行い、事前課題などに取り組み臨地実習に臨む。 ※事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、フィードバックを行う。	豊橋医療センター	<基礎看護学>	豊川市民病院	<成熟期看護学(急性)(慢性)>	豊橋市民病院	<小児看護学、母性看護学>	浜松市リハビリテーション病院	<成熟期看護学(慢性)>	可知記念病院	<精神看護学>	老人保健施設 明陽苑	<成熟期看護学(老年)>	訪問看護ステーション	<在宅看護学>	地域包括支援センター	<公衆衛生看護学>
豊橋医療センター	<基礎看護学>																
豊川市民病院	<成熟期看護学(急性)(慢性)>																
豊橋市民病院	<小児看護学、母性看護学>																
浜松市リハビリテーション病院	<成熟期看護学(慢性)>																
可知記念病院	<精神看護学>																
老人保健施設 明陽苑	<成熟期看護学(老年)>																
訪問看護ステーション	<在宅看護学>																
地域包括支援センター	<公衆衛生看護学>																

ナンバリング	NRBM4016
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	96220		
科目	9622 疫学			授業種別	週間授業		
科目責任者	齋藤 寛史			単位数	2 単位		
担当教員	齋藤 寛史						
授業概要	疫学概念や疫学調査方法、曝露効果の指標などの基本的な統計手法を学ぶ。また、疫学は個人ではなく集団の健康問題を取り上げることから、国内外における保健水準や健康に及ぼす要因の分析手法を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			
到達目標	1. 疫学や保健統計で利用される基本的な指標や統計手法等を学び、疫学の目的や用いられる指標、疾病の発生状況・特性とその解釈について説明できる。 2. 疫学研究デザインの特徴について説明できる。 3. 疫学研究と倫理について説明できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
基礎から学ぶ楽しい疫学(第4版)	中村好一	医学書院		ISBN: 978-4-260-01669-8	
演習問題で学ぶ疫学	横山徹聖	南江堂		ISBN: 978-4-525-18531-2	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	図書館にはこのほかにも、多数の参考書が備えられている。
------------------------------	-----------------------------

成績評価	国家試験に準拠した定期試験と講義中に実施する小テストで評価する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する。
小テスト	10%	単元ごとの理解度を確認する。

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修(内容・時間)	疫学は、個人を対象とする診断学、治療学とは異なり、集団を対象とする研究の論理や基礎を取り上げるので、教科書をあらかじめ(第2回～第9回、60分程度)読んで概略をつかんでおくこと。 また、基礎的な統計学を使っているため、医学統計学の初等的知識を理解しておくこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) 疫学とはなにか、疫学を理解するための基本 第2回(講義) 疫学で用いられる指標 第3回(講義) 疫学研究デザイン① 第4回(講義) 疫学研究デザイン②、システムティックレビュー 第5回(講義) バイアスと交絡、スクリーニング、情報収集方法、情報処理 第6回(講義) 疫学で用いられる統計学的方法とその解釈 第7回(講義) 生命表・平均寿命、保健統計調査、診療関連データベース 第8回(講義) 疫学研究と倫理、領域別の疫学① 第9回(講義) 領域別の疫学② 第10回(演習) 疫学演習①、質疑応答 第11回(演習) 疫学演習②、質疑応答 第12回(演習) 疫学演習③、質疑応答 第13回(演習) 疫学演習④、質疑応答 第14回(演習) 疫学演習⑤、質疑応答 第15回(演習) 疫学演習⑥、質疑応答 小テストのフィードバックは講義内で行う。 ※習熟度により、講義計画を変更することがある。
--------------	--

ナンバリング	NRCM3011
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	96230
科目	9623 学校保健学	授業種別	週間授業
科目責任者	津田 聡子	単位数	1 単位
担当教員	津田 聡子		

授業概要	学校保健の果たす役割と今日の健康課題について理解を深め、学校保健安全に関する知識・技術・態度を習得することを通して、実践力の基礎を養う。学校保健安全法が示す学校における児童生徒等の健康と安全を図るための学校教育や学校保健活動について学び、健全な成長を続けるために必要な事柄を、自己教育の観点を変えて検討していく。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○				
到達目標	1. 学校は地域社会の中に存在し、義務教育時代の重要な教育の場であること、子どもの生きる力を育てる役割を担っていることを説明できる 2. 学校教育における学校保健の役割と重要性を学ぶとともに、子どもの心身の成長には、養護教諭をはじめ、教諭等多くの職種の人たちが関わっていることを説明できる 3. 学校保健は「学校における保健教育と保健管理をいう」と法に示されており、子ども時代の心身の健康づくりに重要な役割を果たす領域であることを学ぶとともに、学校現場では、深刻、複雑化していくばかりの子どもの現代的な心身の健康課題に対して、保健教育、保健管理はどのような役割を担っているのか。また教育現場では、保健教育・保健管理が具体的にどのような役割を担っているのかについて、説明できる。 4. より良い人間関係の在り方や自己肯定感を高める取り組みを通じて、学生自身が、自他のいのちの大切さを実感し、今までの自分を振り返り、これからの生き方を考え、述べることができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験(筆記試験)および授業内ワークシートで評価する	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する
授業内ワークシート	30%	適切な内容・記述になっているかを評価する

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修: 講義計画にそって予習すること(60分/1~8回)。また子どもに関する新聞記事を購読すること。 事後学修: 授業内容を振り返り、学んだ内容や意見をまとめる(60分/1~8回)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) オリエンテーション 学校保健の目的・役割と変遷: 教育基本法、学校教育法、学校保健安全法、文部科学省設置法など 第2回(講義・演習) 学校保健の構成職種とチーム学校保健: 保健教育・保健管理・組織活動(学校保健委員会) 第3回(講義・演習) 学校保健計画・学校安全計画について: 学校保健計画・学校安全計画, 保健室経営計画 第4回(講義・演習) 発達段階に基づいた健康把握・評価と今日の健康課題: 現代的な心身の健康課題に対する指導の取り組みについて 第5回(講義・演習) 健康診断・健康観察: 健康診断・健康観察の目的と方法 第6回(講義・演習) 健康相談の進め方、児童生徒の心身の健康問題とその対応 第7回(講義・演習) 保健管理: 安全で健康的な学校づくり(環境衛生・危機管理) 第8回(講義・演習) 保健教育: 指導案の作成と指導方法の工夫について 養護教諭の役割と個別指導 講義毎のワークシートに記載された意見や質問への回答は、翌週の講義内でフィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	NRDM3005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	96240			
科目	9624 産業保健学			授業種別	週間授業			
科目責任者	古井 景			単位数	1 単位			
担当教員	古井 景							
授業概要	第一種衛生管理者の立場で職場における労働衛生活動が出来るよう、産業保健の概念について理解を深め、その目的、関連法規、取り組むべき活動内容について学ぶ。また、産業の場における保健師の役割について、実践的な活動内容を紹介する。古井は産業医の実務経験から、畑中は企業で勤務する保健師の実務経験から、理論と実践を詳解する。 ※この科目は当該授業内容に関する実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			△	
到達目標	1. 産業保健の動向、目的、役割、機能と現状を説明できる。 2. 労働安全衛生管理の制度とシステムについて説明できる。 3. 産業保健の場における健康課題について職場環境の特性と関連づけて理解し、必要な健康支援について述べるができる。 4. 産業保健における専門職として、関係機関等との望ましい連携のあり方について述べるができる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
図説 国民衛生の動向 2025/2026		一般財団法人 厚生労働統計協会		ISBN978-4-87511-935-7	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	その他、必要に応じて紹介する
------------------------------	----------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な学習態度は減点の対象とする場合もある。毎回授業で提出するリアクションペーパーで、各授業の理解度を評価し(30%)、定期試験で産業保健に関する理解度を評価する(70%)。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	産業保健に関する理解度を確認します
リアクションペーパー	30%	授業の理解度を確認します

受講条件	保健師選択コースの学生であること
事前・事後学修（内容・時間）	1. 事前に、講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する。 2. 講義で学んだ内容は、テキスト等を見直し整理しておく。 3. 厚生労働省 職場における労働衛生対策サイトのリーフレット等を参考にし、テキスト内容を理解しておく。 4. 産業保健に関連する法令改正が続いています。厚生労働省ホームページを閲覧し、最新の情報を予習し、授業に臨み、復習をすること。 5. 1～4. の内容を、各回 2 時間相当行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)産業保健の動向 (古井) 産業保健の目的やその課題について学ぶ 第2回(講義)産業保健関係法規 (古井) 関係する様々な法律を理解し、それらに基づく体制や活動について学ぶ 第3回(講義)産業保健における健康課題①(労働安全対策と関係法規) (古井) 現在展開されている労働安全対策と近年の健康に関する課題に関連する法律について学ぶ 第4回(講義)産業保健における健康課題②(職業性疾病について) (古井) 一定の職業に従事することでおこる疾病について理解し、その管理対応等について学ぶ 第5回(講義)産業保健における健康課題③(メンタルヘルス対策) (古井) 産業保健分野で特に喫緊の課題となっているメンタルヘルス対策、自殺対策について学ぶ 第6回(講義)産業保健の展開 (古井) ストレスチェック制度、就労支援について学ぶ 第7回(講義)産業保健における産業看護活動①(産業保健情報の把握と活用) (畑中) 産業看護活動を効果的かつ効率的に進めるために、情報を的確に把握し、看護支援計画、実施、評価に活用、展開することの重要性について学ぶ 第8回(講義)産業保健における産業看護活動②(各種健診・活動とその事後支援) (畑中) 産業保健の場で特に専門職としてその専門性を発揮する各種健診等の活動について学ぶ 習得度を鑑みて、産業保健活動のテーマを設定し、授業中に課題を提示します。 ★授業形態はすべて講義となります。受講学生の習熟度等により授業計画を変更する事もあります。
---------------------	--

ナンバリング	NRAM3006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	978A0			
科目	978A 公衆衛生看護学原論			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 知代			単位数	2 単位			
担当教員	鈴木 知代、蒔田 寛子、石上 早苗							
授業概要	公衆衛生看護は、地域で生活するあらゆる人々の健康を看護の立場から保持・増進し、疾病を予防することを旨とし、個人・家族、集団、組織、地域を対象に意図的・組織的な活動を展開する。実際には、対象者の健康課題の構造を明らかにすること、また、地域の健康ニーズの的確な把握を行うこと、そして、対象者の主体性にはたらきかけることが不可欠となる。そのための公衆衛生看護の理念や活動の方法、展開の基本を学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○				
到達目標	1. 公衆衛生看護の理念、概念について述べることができる。 2. 公衆衛生看護活動に必要な法律について述べることができる。 3. 公衆衛生看護活動の対象と対象に応じた活動について述べることができる。 4. 公衆衛生看護活動の展開方法について述べることができる。 5. 公衆衛生看護活動の様々な場と活動について述べることができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2025/2026	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	3740	4910038540859	冊子版
公衆衛生看護学概論 第7版	田口敦子	医学書院	3300	9784260061995	冊子版

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。定期試験(筆記試験)、課題レポートで総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。
課題レポート	30%	課題のテーマに関して、適切に記述できているか評価する。

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修(内容・時間)	①授業内で提示する内容について事前に調べて授業に参加すること(第1～15回/60分程度)。 ②授業後には、深める内容について提示するため、それについてまとめること(第1～15回/60分程度)。

授業の実施方法と授業計画	事前・事後課題で提示した課題の内容については、授業内でフィードバックする。課題レポートについてはコメントを返す。定期試験についてはフィードバックを行う。 第1回(講義) 公衆衛生看護の理念 (鈴木) 第2回(講義) 公衆衛生看護の歴史(日本) (鈴木) 第3回(講義) 公衆衛生看護の歴史(外国) (石上) 第4回(講義) 公衆衛生看護における倫理 (石上) 第5回(講義) 社会環境の変化と健康課題 (石上) 第6回(講義) 公衆衛生看護の対象と展開方法 (個人・家族) (石上) 第7回(講義) 公衆衛生看護の対象と展開方法 (集団・組織) (鈴木) 第8回(講義) 公衆衛生看護の対象と展開方法 (地域組織活動) (鈴木) 第9回(講義) 公衆衛生看護の対象と展開方法 (地域) (鈴木) 第10回(講義) 公衆衛生看護活動の展開(地域アセスメント) (鈴木) 第11回(講義) 公衆衛生看護活動の展開(地域アセスメントに活用できるモデル) (鈴木) 第12回(講義) 公衆衛生看護活動の展開(計画・実践・評価) (鈴木) 第13回(講義) 保健医療福祉における施策化と事業化 (鈴木) 第14回(講義) 公衆衛生看護活動の場(医療施設・福祉施設)における活動 (蒔田) 第15回(講義) 公衆衛生看護活動の場(行政機関)における活動 (石上) ★ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRBM3019
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		978B0		
科目	978B 公衆衛生看護学方法論Ⅰ			授業種別		週間授業		
科目責任者	石上 早苗			単位数		2 単位		
担当教員	石上 早苗、鈴木 知代							
授業概要	地域で生活するあらゆる発達段階、健康レベルの個人と家族および人々が生活し活動する集団が、健康の保持増進、健康障害の予防と回復を促進できるように、生活に視点を置いて保健師は保健指導を行う。本科目では、発達段階や健康障害の特性に応じた対象別の保健指導について学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎				
到達目標	1. 発達段階や健康障害の特性に応じた健康課題を述べることができる。 2. 発達段階や健康障害の特性に応じた公衆衛生看護における理論・基本的知識・技術について説明できる。 3. 個人・家族の健康課題に対する支援や集団・組織や地域を対象とした支援について説明できる。 4. 個別支援を集団・地域への支援につなげる公衆衛生看護活動の展開方法について説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公衆衛生看護学概論 第7版	田口敦子	医学書院	3,300	9784260061995	冊子版
公衆衛生看護技術 第5版	中村 裕美子	医学書院	3,200	9784260050029	
対象別公衆衛生看護活動 第5版	中谷 芳美	医学書院	3,500	9784260053037	
公衆衛生がみえる 2024-2025	医療情報科学研究所	メディックメディア	4,200	9784896329285	
国民衛生の動向 2025/2026		厚生労働統計協会	3,400		

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・下記のテキストは購入済み 1) 標準保健師講座1公衆衛生看護学概論 第7版 2) 国民衛生の動向 2025/2026
------------------------------	---

成績評価	1. 原則として毎回出席すること。 2. 授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 3. 遅刻、早退や他の学生に迷惑となる授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を評価する
課題レポート	40%	授業内で課題を提示し、記述内容の評価する
授業に向かう姿勢	10%	授業内のグループワーク等への積極性や参加状況を評価する

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修(内容・時間)	1. 予習と復習は必ず行って授業に臨むこと。(第1～15回/30分程度)。 2. 授業テーマに関連する法的根拠、保健医療行政の状況や動向を理解した上で授業に臨むこと(第1～15回/30分程度)。 3. 学習課題はグループメンバーと協力して計画的に取り組むこと。

授業の実施方法と授業計画	事前(個人)課題、グループ課題の内容は、授業の中でフィードバックを行う。筆記試験については、フィードバックを行う。 *講義、グループワーク(ジグソー法、反転授業、事例展開)を組み合わせて学習する。 *アクティブラーニングで学ぶ授業である。グループワークが多いため無断欠席をしないこと。 *やむをえず遅刻や欠席をする場合には、必ず事前に教員に連絡をすること。 第1回 公衆衛生看護学方法論Ⅰオリエンテーション(学習の流れ)/授業 (石上) (公衆衛生看護における保健師活動とは) 第2回 保健師活動に用いる理論②/ジグソー法 (石上) (ヘルスピラーフモデル,行動変容ステージモデル,ナッジ理論) 第3回 保健師活動に用いる理論③/ジグソー法 (石上) (エンパワメント,自己効力感,ティーチングとコーチング,ヘルスリテラシー) 第4回 保健師がおこなう公衆衛生看護技術とは何か (石上) 成人保健に関わる法制度と動向と事例 ※牛川クリオさん (反転授業の説明) 第5回 保健師が用いる技術①/反転授業 (石上) (健康診査とは) 第6回 保健師が用いる技術②/反転授業 (石上) (健康相談・保健指導とは) 第7回 保健師が用いる技術③/反転授業 (石上) (家庭訪問とは) 第8回 保健師活動に関連する法律とその動向①/反転授業 (石上) (母子保健に関する法律と近年の動向) 第9回 保健師活動に関連する法律とその動向②/反転授業 (石上) (高齢者保健に関する法律と近年の動向) 第10回 保健師活動に関連する法律とその動向③/反転授業 (石上) (障害者保健に関する法律とその動向) 第11回 母子事例に関連する保健師活動の展開/事例展開 (石上、鈴木) (豊橋一子・いなりちゃん親子への保健師の支援) 第12回 高齢者事例に関連する保健師活動の展開/事例展開 (石上、鈴木) (独居で暮らす山佐野くわさんへの保健師の支援) 第13回 障害者事例に関連する保健師活動の展開/事例展開 (石上、鈴木) (近所からのクレームが寄せられる豊川のぼるさん、ツサ子さん親子への保健師の支援) 第14回 健康危機管理 感染症の動向と法制度/グループワーク (石上、鈴木) (コロナの事例から保健活動を考える/一部結核対策を含む) 第15回 健康危機管理 災害の動向と法制度/グループワーク (石上、鈴木) (災害(地震)の事例から保健師活動を考える) *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRBM3020
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		978C0		
科目	978C 公衆衛生看護学方法論Ⅱ			授業種別		週間授業		
科目責任者	鈴木 知代			単位数		2 単位		
担当教員	鈴木 知代、石上 早苗							
授業概要		公衆衛生看護の対象は、個人・家族だけではなく、集団、組織、地域がある。また、公衆衛生看護活動は、計画、実施、評価、改善の 4 段階からなる PDCA サイクルを繰り返すことで活動の継続的な改善をはかる。本科目では、地域アセスメントを中心に公衆衛生看護活動の一連の過程を学ぶ。また、公衆衛生看護活動の展開方法として、健康教育や地域組織活動について学修する。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性				○	◎			
到達目標		1. 公衆衛生看護活動は、地域アセスメントをもとに、計画、実施、評価、改善の PDCA サイクルによって進められることが説明できる。 2. 地域アセスメントの課程を説明できる。 3. 公衆衛生看護学活動における健康教育を適切に実施できる基礎的能力を身につけることができる。						

テキスト (教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
厚生 の指標 増刊 国民衛生の動向 2025/2026	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	3,740	4910038540859	冊子版	
公衆衛生看護学概論 第 7 版	田口敦子	医学書院	3,300	9784260061995	冊子版	
公衆衛生看護技術 第 5 版	中村 裕美子	医学書院	3,200	9784260050029		

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・教科書は全て購入済み
-------------------------------	-------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。定期試験（レポート）などで総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	筆記試験において到達度を確認する。
課題レポート	50%	評価項目に基づいて評価する。

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を熟読すること (第 1 ～ 4 回 /30 分程度)。 2. 地域診断については、提示する事例の地域についてアセスメント、健康問題抽出、計画作成についての事前準備を行い参加すること (第 5 ～ 8 回 /60 分程度)。 3. 実習地域の母子保健計画等をレポートして参加すること (第 9 回 /60 分程度) 4. 健康教育については、発表に向けて対象や教育内容に適した媒体をグループで作成し、それを用いて練習すること (第 10 ～ 15 回 /60 分程度)。

授業の実施方法と授業計画	事前学修した内容については、毎回授業でフィードバックする。レポートについては、コメントにてフィードバックを行う。 第 1 回 (講義) 公衆衛生看護の対象としての集団・組織・地域について (鈴木) 地域アセスメントの目的・意義 第 2 回 (講義) 地域アセスメントの過程 (鈴木) 第 3 回 (講義) 地域アセスメントに関連する理論と考え方 (鈴木) コミュニティ・アズ・パートナーモデル、プリシード・プロシードモデル 第 4 回 (講義・演習) アセスメントの実際 ① (石上) 事例を用いて、情報収集とアセスメントを行う 事例についてグループディスカッションを行う 第 5 回 (講義・演習) アセスメントの実際 ② (石上) 事例を用いて、健康課題の抽出 発表 第 6 回 (講義・演習) 地域アセスメントの実践 ① (鈴木、石上) 実際の市町村を用いて行う 第 7 回 (演習) 地域アセスメントの実践 ② (鈴木、石上) 第 8 回 (演習) 地域アセスメントの実践 ③ (鈴木、石上) 第 9 回 (演習) 地域アセスメントの実践 ④ (鈴木、石上) 第 10 回 (講義) 地域における健康教育の位置づけについて 健康教育の技術と教育媒体について (鈴木) 第 11 回 (演習) 健康教育の実際 ① (鈴木、石上) 市町村の健康課題を用いて行う 第 12 回 (演習) 健康教育の実際 ② (鈴木、石上) 第 13 回 (演習) 健康教育の実際 ③ (鈴木・石上) 第 14 回 (演習) 健康教育の実施 ④ (鈴木・石上) 第 15 回 (演習) 健康教育の実際 ⑤ (鈴木・石上) 発表、まとめ ＊ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	NRCM3017
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		98730		
科目	9873 公衆衛生看護学演習Ⅰ			授業種別		週間授業		
科目責任者	石上 早苗			単位数		1 単位		
担当教員	石上 早苗、鈴木 知代							
授業概要	個人・家族を対象とした公衆衛生看護活動において用いる保健指導の技術について、基盤となる理論と結び付けて学ぶ。本科目では、保健師の行う家庭訪問および健康相談について体験的に学ぶことを通して、個人・家族を対象とした保健指導に必要とされる基礎的能力と技術を養う。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし演習等行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		△	◎	○			
到達目標	1. 地域で生活する個人・家族の保健行動・健康行動に対する支援方法について説明できる。 2. 地域で生活する個人・家族の生活と健康について、健康問題を持つ当事者の視点を踏まえ、多角的・包括的にアセスメントできる。 3. 地域で生活する個人・家族が主体的に健康課題を解決するための支援計画を立案できる。 4. 地域で生活する個人・家族の特性に応じた保健指導を実践するための基本的技術を修得できる。							

テキスト（教科書）							
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考		
【第6版】乳幼児健診マニュアル	福岡地区小児科医会乳幼児保健委員会／編集	医学書院	3,200	9784260039352			
公衆衛生看護学概論 第6版	標 美奈子	医学書院	3,200	9784260047074			
公衆衛生看護技術 第5版	中村 裕美子	医学書院	3,200	9784260050029			
対象別公衆衛生看護活動 第5版	中谷 芳美	医学書院	3,500	9784260053037			
公衆衛生がみえる 2024-2025	医療情報科学研究所	メディックメディア	4,200	9784896329285			

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	・下記のテキストは購入済み 1) 標準保健師講座1公衆衛生看護学概論 第6版 2) 標準保健師講座2公衆衛生看護技術 第5版 3) 標準保健師講座3対象別公衆衛生看護活動 第5版 4) 国民衛生の動向 2025/2026 5) 公衆衛生がみえる 2024/2025
------------------------------	---

成績評価	1. 原則として毎回出席すること。 2. 遅刻、早退や無断欠席など他の学生に迷惑となる授業態度については減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
事前・事後課題	40%	提示された課題内容を評価する
事後レポート	5%	授業内の学習内容を振り返り学びを整理し、その記述内容を評価する
個別支援計画のレポート	45%	個人ワークの演習課題を提示し、その記述内容を評価する
グループワークを含めた学修への取り組み状況（授業への参加状況）	10%	授業内のグループワーク等への積極性や参加状況を評価する

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修（内容・時間）	1) 授業前に、授業のテーマに該当する教科書や指定した資料を熟読する。（毎授業 30 分） 2) 授業後に、授業での学びを整理する。（毎授業 30 分） 3) 授業内で学修すべき内容の課題がある場合には、事前に調べて授業に臨む。 以上を参考に1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	演習は小グループに分かれて実施する。 演習課題の発表に対するフィードバックは授業内で行い、課題レポートについては全体にフィードバックを行う。 第1回 公衆衛生看護学演習Ⅰオリエンテーション〈講義〉（石上・鈴木） 第2回 保健師の技術① 〈講義＋事例紹介＋支援計画立案〉（石上・鈴木） ・母子保健活動について：新生児家庭訪問、母子手帳の交付 第3・4回 保健師の技術① 新生児家庭訪問（実践演習：ロールプレイ）（石上・鈴木） [新生児家庭訪問／場面 1,3,4] 第5回 保健師の技術①の振り返り〈講義〉（石上・鈴木） ・新生児家庭訪問の評価と訪問後アセスメント 保健師の技術② 〈講義＋事例紹介＋支援計画立案〉 ・乳幼児健康診査とは：4か月健診、1歳6か月児健康診査 第6・7回 保健師の技術② 乳幼児健康診査（実践演習：ロールプレイ）（石上・鈴木） [1歳6か月児健診／場面 5,6] 第8回 保健師の技術②の振り返り〈講義〉（石上・鈴木） ・乳幼児健康診査後の評価と事後アセスメント 保健師の技術③ 〈講義＋事例紹介＋支援計画立案〉 ・健康相談・保健指導、特定保健指導 第9・10回 保健師の技術③ 特定保健指導（実践演習：ロールプレイ）（石上・鈴木） [特定保健指導／牛川クリオさん] 第11回 保健師の技術③の振り返り〈講義〉（石上・鈴木） ・特定保健指導実施後の評価とアセスメント 保健師の技術④ 〈講義＋事例紹介＋認知症サポーター養成講座の説明〉 ・多職種連携 第12・13回 保健師の技術④ 多職種連携（実践演習：ゲストスピーカー／豊橋市） [認知症事例のVR体験] 第14回 保健師の技術⑤ 健康危機管理〈講義〉（石上・鈴木） ・健康危機管理とは：災害の定義、健康危機管理における保健師の役割 第15回 保健師の技術⑤ 感染症発生時の保健師活動（実践演習：グループワーク） 保健師が行う公衆衛生看護技術 まとめ〈講義〉（石上・鈴木） ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	NRCM3013
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	98740			
科目	9874 公衆衛生看護学演習Ⅱ			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 知代			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 知代、石上 早苗							
授業概要	地域アセスメント（地域診断）に活用できる理論や方法に基づき、地域アセスメント（地域診断）の技術について演習を通して具体的に学ぶ。本科目では、実在する地域（実習市町村）の健康課題を見出すプロセスを体験的に学ぶことを通して、地域アセスメント（地域診断）を適切に実施できる基礎的能力と技術を養う。また、地域の健康課題を解決するための健康教育や保健事業の企画を立案するプロセスを体験的に学ぶことを通して、事業化の基礎的能力を養う。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして演習等行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		△	◎	○			
到達目標	1. 地域を対象とした公衆衛生看護活動において基盤となる地域アセスメント（地域診断）を展開することができる。 1) 対象となる地域（実習市町村）の人々の生活と健康を多角的・包括的にアセスメントすることができる。 2) 対象となる地域（実習市町村）の特性、健康課題とその要因を明らかにすることができる。 2. 地域の健康水準を高める事業化・施策化を行うための基礎的能力を修得できる。 1) 地域の健康課題を解決するための健康教育を企画・立案できる。 2) 地域の健康課題を解決するための保健事業を企画・立案できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公衆衛生看護学概論 第 6 版	標 美奈子	医学書院	3200	9784260047074	
公衆衛生看護技術 第 5 版	中村 裕美子	医学書院	3200	9784260050029	
対象別公衆衛生看護活動 第 5 版	中谷 芳美	医学書院	3500	9784260053037	1

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・テキストは全て購入済み
------------------------------	--------------

成績評価	原則として毎回出席すること。課題レポート、発表内容、グループワークを含めた学修への取り組み状況（授業への参加状況）から評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度については減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	60%	地域アセスメント、健康教育計画の内容について評価視点に基づいて評価する。
発表内容	20%	発表内容について、評価視点に基づいて評価する。
グループワークへの取り組み	20%	グループワークへの参加状況について評価する。

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修（内容・時間）	①授業前には、授業のテーマに該当するテキストの内容や指定した資料を熟読する。（第1～15回/30分程度） ②授業後には、授業での学びを整理する。（第1～15回/60分程度）

授業の実施方法と授業計画	演習は小グループに分かれて実施する。演習課題の発表に対するフィードバックは授業内で行い、課題レポートについてフィードバックを行う。 第1回 オリエンテーション 公衆衛生看護活動における地域アセスメントの過程と方法〈講義〉（鈴木・石上） 第2回 実習市町のアセスメント（1）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） コミュニティ・アズ・パートナーモデル（コア） 第3回 実習市町のアセスメント（2）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） コミュニティ・アズ・パートナーモデル（8つのサブシステム） 第4回 実習市町村の地区のアセスメント（1）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） 第5回 実習市町村の地区のアセスメント（2）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） 第6回 実習市町村の地区のアセスメント（3）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） 第7回 実習市町村の地区のアセスメント（4）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） 第8回 地域アセスメント（5）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） 実習市町村の地区のアセスメントの成果発表 第9・10回 健康教育（1）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） 健康教育企画案の作成 第11・12回 健康教育（3）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） 健康教育指導案・媒体の作成 第13回 健康教育（5）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） 健康教育評価案の作成 第14回 健康教育（6）〈演習：グループワーク〉（鈴木・石上） 成果物の発表 第15回 まとめ（鈴木・石上） ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	NRCM4017
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード		978D0			
科目	978D 公衆衛生看護管理論			授業種別		週間授業			
科目責任者	鈴木 知代			単位数		2 単位			
担当教員	鈴木 知代、石上 早苗								
授業概要		保健師は、地域住民が安全で安心して健やかな生活を営めるよう、地域の人々や関係者と連携・協働して効率的・効果的に公衆衛生看護活動を遂行する。そのために必要な公衆衛生看護の管理的な視点や機能について学ぶ。教員の研究結果を取り入れ、管理的立場の保健師の役割を発展的に考えることができるための基礎的能力を養う。							
		※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性				○	○		◎		
到達目標		1. 公衆衛生看護管理の目的と機能について説明できる。 2. 公衆衛生看護管理における保健師の活動と役割について説明できる。 3. 健康危機管理管理における保健師の活動と役割について説明できる。 4. 公衆衛生看護活動の質の向上のためには公衆衛生看護管理の視点を探求し、発展的に考えることが必要であることを説明できる。							

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
公衆衛生看護学概論 第 6 版	標 美奈子	医学書院	3200	9784260047074		
公衆衛生看護技術 第 5 版	中村 裕美子	医学書院	3200	9784260050029		
対象別公衆衛生看護活動 第 5 版	中谷 芳美	医学書院	3500	9784260053037	1	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・テキストは全て購入済み
------------------------------	--------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。定期試験(筆記試験)、課題レポートで総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。
小テスト	40%	筆記試験で講義内容の理解度を評価する。
定期試験	40%	筆記試験で講義内容の理解度を評価する。

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を熟読すること(第1～15回/30分程度)。 2. 授業の最後に、事後学修の内容を提示するので、取り組むこと(第1～15回/30分程度)。 3. 健康危機管理事例(災害・感染症)の情報収集を行うこと(災害・感染症、各1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	課題レポートについては、授業内でフィードバックする。定期試験については、フィードバックの時間を設ける。 第1回(講義)公衆衛生看護管理の目的・機能 (鈴木) 公衆衛生看護における管理機能の目的と機能について 第2回(講義)公衆衛生看護の管理機能① (鈴木) 事例管理、地区管理、業務管理について 第3回(講義)公衆衛生看護の管理機能② (鈴木) 組織運営管理、人事管理・人材育成について 第4回(講義)公衆衛生看護の管理機能③ (鈴木) 予算管理、情報管理について 第5・6回(演習)公衆衛生看護管理 ④ (鈴木) 管理的立場の保健師の活動事例を用いて演習を行う 第7回(講義)健康危機管理 ① (鈴木) 健康危機管理の定義と要因、リスクマネジメント、健康危機管理の要素について 第8回(講義)健康危機管理 ② (鈴木) 感染症集団発生時の保健活動について 第9・10回(演習)健康危機管理 ③ (鈴木) 地域における集団感染の事例を用いて演習を行う 第11回(講義)健康危機管理 ④ (石上) 災害保健活動について 第12回(講義)健康危機管理 ⑤ 災害発生時から災害復旧、復興対策期の保健活動について 第13・14回(演習)健康危機管理 ⑥ (石上) 災害支援の事例を用いて演習を行う 第15回(講義)健康危機管理まとめ (鈴木・石上) ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある
--------------	---

ナンバリング	NRDM4012
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	授業コード	98710					
科目	9871 公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政）	授業種別	実習					
科目責任者	石上 早苗	単位数	4 単位					
担当教員	石上 早苗、鈴木 知代、谷口 弥生							
授業概要	地域の人々の健康の保持増進、健康障害の予防を担う公衆衛生看護について、その役割および展開プロセスを理解し、実践に必要な基礎的能力を養う。生活者としての個人・家族の理解と支援技術、グループ・組織の理解と支援技術、地域の健康問題の構造の理解と支援技術について、実習を通して具体的に学ぶ。また、地域住民と、関係機関や医療・介護・福祉の多職種と協働しながら事業化した事例の実際を学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして演習等行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	○	
到達目標	1. 地域の人々の健康を保持増進し、健康障害を予防する仕組みと行政における保健師の役割を説明できる。 2. 地域の健康課題に対応するための公衆衛生看護活動の展開プロセスを理解し、地域アセスメント（地域診断）を基に地域の健康課題を明らかにし、解決・改善するための計画を立案できる。 3. 家庭訪問において、支援の展開プロセスを理解し、対象（個人／家族）の健康課題の解決・改善に向けた支援計画を立案できる。 4. 健康教育において、その展開プロセスを理解し、対象（集団／組織）の健康課題に応じた健康教育を計画立案し、指導案を作成し、実施・評価できる。 5. 看護学生として責任ある行動がとれ、主体的に実習に取り組むことができる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・既習の公衆衛生看護学の科目で購入済みテキストを使用する 1) 標準保健師講座1公衆衛生看護学概論 第6版 2) 標準保健師講座2公衆衛生看護技術 第5版 3) 標準保健師講座3対象別公衆衛生看護活動 第5版 4) 国民衛生の動向 2025/2026 5) 公衆衛生がみえる 2024/2025 6) 乳幼児健診マニュアル 第6版
-------------------------------------	---

成績評価	原則としてすべての実習に出席すること。 実習の到達目標がどの程度達成できているかを実習内容、実習記録、実習への取り組み姿勢について、ルーブリック評価表に基づき評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な実習態度については減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
実習記録	80%	実習内容・実習記録・レポートをもとに目標到達度を総合的に評価する
実習態度	20%	実習態度（グループダイナミクス・実習生としての姿勢など）を総合的に評価する

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修（内容・時間）	1) 実習は 45 時間をもって1単位とする。 2) 実習においては、「公衆衛生看護学原論」「公衆衛生看護学方法論Ⅰ・Ⅱ」「公衆衛生看護学演習Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容を復習して実習に臨むこと。 3) 指示された事前課題を期日までに行うと共に、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 ※事前課題については、その後の学修に役立てられるようフィードバックを行う。 ※実習において理解が不十分であった内容については、実習後に国家試験に向けて各自復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	三河地域内にある自治体（市町村及び保健所）に、4 週間実習参加をする。担当教員：鈴木・石上 1. 実習オリエンテーション 1) 学内での実習オリエンテーションに参加する。 2) 実習施設での実習オリエンテーションに参加する。 2. 実習施設・実習期間 県保健所（1 週間）及びその管轄市町村（3 週間）で 4 週間、または中核市で 4 週間実習する。 3. 実習計画：実習は 2 ～ 3 名のグループで行う。臨地実習スケジュールは実習開始前までに提示する。 1) 臨地実習の内容 (1) 保健事業等の実習 ・家庭訪問の見学・支援計画立案、健康教育の計画・実施 ・乳幼児健康診査、各種検診・健康診査、健康相談等の見学 ・健康教育の見学・参加・実施 ・組織活動、連携調整会議への参加、健康危機管理等 (2) 地域アセスメント（地域診断）及び事業計画の立案 (3) カンファレンスの実施：毎日のカンファレンス、中間・最終カンファレンス 2) 学内実習の内容 (1) 実習 1 週目 ・カンファレンス（学びの共有や情報交換等）、実習記録の整理、面談 ・地域アセスメント（地域診断）や健康教育に関する学修等 (2) 実習 2・3 週目 ・実習記録の整理、面談 ・地域アセスメント（地域診断）や健康教育に関する学修等 (3) 実習 4 週目の金曜日 ・実習記録の整理、面談等 ・地域アセスメント（地域診断）及び事業計画の発表 詳細については、「公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政）実習要項」を参照。 ※実習記録、家庭訪問の支援計画立案、地域アセスメント（地域診断）及び事業計画の立案、健康教育の計画・実施については教員または実習指導者が適宜内容を確認しフィードバックを行う。
---------------------	--

ナンバリング	NRDM4010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期			授業コード	98720			
科目	9872 公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校・産業)			授業種別	実習			
科目責任者	鈴木 知代			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 知代、石上 早苗、蒔田 寛子、谷口 弥生、渡邊 富士子							
授業概要	1. 学校保健実習 小学校・中学校・高等学校で実習を行い、児童・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるために行われる保健教育や保健管理、保健組織活動等の実際を体験的に学び、学校保健活動とその中での養護教諭の活動や役割について学ぶ。 2. 産業保健実習 事業所で実習を行い、労働の場において、人々が健康で安全に働くことができるための労働衛生管理の体制と活動の内容・方法の実際を体験的に学び、産業保健活動とその中での看護職の活動と役割について学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する公衆衛生看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	○	
到達目標	1. 学校保健実習 1) 学校保健の概要について説明できる。 2) 児童・生徒の健康課題への対策と支援について説明できる。 3) 学校保健活動の展開について説明できる。 4) 目的意識を持ち、主体的に実習に取り組むことができる。 2. 産業保健実習 1) 産業保健の概要について説明できる。 2) 事業所の安全衛生管理の体制・活動とその中での看護職の活動について説明できる。 3) 事業所の健康課題への対策と看護職の活動の実際を説明できる。 4) 目的意識を持ち、主体的に実習に取り組むことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
学校保健	徳山美智子	東山書房	2600	9784827815702	
対象別公衆衛生看護活動 第 5 版	中谷 芳美	医学書院	3500	9784260053037	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・テキストは購入済み
------------------------------	------------

成績評価	原則としてすべての実習に出席すること。実習の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な実習態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
実習到達度、実習記録の内容	80%	実習評価表に基づき評価する。
実習への取り組み	20%	事前課題の内容、目的に明確さ、カンファレンスの参加度等

受講条件	保健師選択コースの学生
事前・事後学修(内容・時間)	★実習は 45 時間をもって 1 単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 1. 実習で参加・見学する保健活動については、その根拠法、目的、内容等を事前に調べ実習目標を設定すること。 2. 実習で学修した内容については、文献等を活用しまとめること。

授業の実施方法と授業計画	実習内容・実習記録については臨地での実習指導や学内の面談などでフィードバックを行う。 1. 学校保健実習 1) 事前オリエンテーション (1) 学内での事前オリエンテーションに参加する。 (2) 事前課題を教員に提出し、指導を受ける。 (3) 実習施設に事前訪問を行い、養護教諭と実習の打合せを行う。 2) 実習施設(小学校・中学校・高等学校)で実習を行う。 3) 実習評価を行い、記録を整理し教員に提出する。 4) 実習の学びについて、実習施設に報告する。 2. 産業保健実習 1) 学内での事前オリエンテーションに参加する。 2) 事前課題を教員に提出し、指導を受ける。 3) 実習施設(事業所)で実習を行う。 4) 実習評価を行い、記録を整理し、教員に提出する。 ★ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRDM4011
--------	----------

開講年度・開講学期		2026 年度秋学期			授業コード		977K0	
科目		977K 地域母子保健			授業種別		週間授業	
科目責任者		富岡 美佳			単位数		2 単位	
担当教員		富岡 美佳、リトル 奈々重						
授業概要		地域母子保健の概念、意義を学び、地域における助産師の役割、および、多職種連携について学ぶ。また、母子保健行政のしくみ、制度、主な母子保健施策など、母子保健行政の体系について学ぶ。地域母子保健活動の基盤として、母子保健活動における連携・協働、地域のさまざまな場における助産師の役割を理解し、実際の活動としての産前・産後および特定の状況における具体的な内容・方法について学ぶ。さらに、国際母子保健における、諸外国の母子保健活動や海外在住日本人の母子保健、在留外国人の母子保健を学び、その実際や課題について理解する。 地域母子保健における助産師の活動をもとに助産政策を見出し、提案するプロセスを学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性				◎	○	○	△	○
到達目標		1. 地域母子保健の概念、意義を説明できる。 2. 地域母子保健における助産師の役割、および、多職種連携について説明できる。 3. 母子保健行政のしくみや制度、主な母子保健施策など、母子保健行政の体系を説明できる。 4. 地域母子保健活動の基盤を理解し、母子保健活動における連携・協働、実際の活動の具体的な内容・方法を説明できる。 5. 助産政策の意義や必要性を理解し、自らの提言を説明できる。 6. 国際母子保健の概要を理解し、諸外国の母子保健活動、海外在住日本人の母子保健、在留外国人の母子保健の実際と課題を説明できる 6. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚して行動できる						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 第 6 版	我部山キヨ子 編	医学書院		978-4-2600-5004-3	
新版 助産師業務要覧 第 4 版 I 基礎編	日本看護協会 出版会	日本看護協会出版会		978-4-8180-2798-5	
新版 助産師業務要覧 第 4 版 II 実践編	日本看護協会 出版会	日本看護協会出版会		978-4-8180-2799-2	
新版 助産師業務要覧 第 4 版 [Ⅲアドバンス編]	日本看護協会 出版会	日本看護協会出版会		978-4-8180-2800-5	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
妊産婦メンタルヘルスケアマニュアル	公益社団法人 日本産婦人科 医会	中外医学社		978-4-4981-6022-4	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	筆記試験と課題レポートにより総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験により理解度を確認する
課題レポート	40%	課題に対する適切な内容・記述になっているか評価する

受講条件	助産師選択コースの学生
事前・事後学修 (内容・時間)	1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業 60 分程度行う。 <事前学修>毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること (第 1 ～ 15 回 / 30 分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること (第 1 ～ 15 回 / 30 分程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) 地域母子保健活動の意義 (富岡) 第 2 回 (講義) 母子保健の動向と課題 (富岡) 第 3 回 (講義) 母子保健行政のしくみ①我が国の母子保健制度 (富岡) 第 4 回 (講義) 母子保健行政のしくみ②母性保健施策の変遷 (富岡) 第 5 回 (講義) 母子保健行政のしくみ③女性のライフサイクル (富岡) 第 6 回 (講義) 地域母子保健活動の基盤 (富岡) 第 7 回 (講義・演習) (助産政策) 地域における子育て支援① (富岡) 第 8 回 (講義) 災害時の地域母子保健活動 (リトル) 第 9 回 (講義) 母子保健を展開する場としくみ (富岡) 第 10 回 (講義・演習) (助産政策) 地域における子育て支援② (富岡) 第 11 回 (講義) 地域母子保健活動の実際 (外部講師) 第 12 回 (講義・演習) (助産政策) 地域における子育て支援③ (富岡) 第 13 回 (講義) 国際母子保健① 諸外国の母子保健活動 (リトル) 第 14 回 (講義) 国際母子保健② 海外在住日本人の母子保健、在留外国人の母子保健 (リトル) 第 15 回 (講義) 地域母子保健の課題と今後 (富岡) ★授業計画は、学生の学修状況により変更することがある。 ★課題 (テストやレポート等) や質疑内容については、授業内でフィードバックする。
--------------	--

ナンバリング	NREM3012
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	977H0			
科目	977H 助産学原論			授業種別	週間授業			
科目責任者	富岡 美佳			単位数	1 単位			
担当教員	富岡 美佳							
授業概要	助産学の基礎となる概念と、助産師が行うケアを支える理論を理解する。助産学を取り巻く社会の変化と助産学の変遷および母子保健の動向を知るとともに、国際社会と母子保健について学修する。助産学における倫理と倫理的意思決定について理解する。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			○	
到達目標	1. 助産の概念、助産師の定義と業務について説明できる 2. 助産学を支える理論と研究、倫理について理解し、根拠に基づく助産実践と対象理解に必要な理論を説明できる 3. 母子保健の動向と諸制度を理解し、現状と課題を説明できる 4. わが国、および諸外国の助産師教育について説明できる 5. 助産学研究の必要性について説明できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産学講座 1 基礎助産学 [1] 助産学概論 第6版	我部山キヨ子他編	医学書院		ISBN978-4-260-04708-1	
助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 第6版	我部山キヨ子編	医学書院		ISBN978-4-260-05004-3	
助産学講座 10 助産管理 第6版	我部山キヨ子編	医学書院		ISBN978-4-260-04709-8	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
新版 助産師業務要覧 第4版 [Ⅲアドバンス編]	福井トシ子・井本寛子編 2026 版	日本看護協会出版会		ISBN978-4-8180-2800-5	
新版助産師業務要覧第4版Ⅰ基礎編	福井トシ子・井本寛子編	日本看護協会出版会		ISBN978-4-8180-2798-5	
新版助産師業務要覧第4版Ⅱ実践編	福井トシ子・井本寛子編	看護協会出版会		ISBN978-4-8180-2799-2	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験、課題レポートの内容を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	筆記試験にて理解度を確認する
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているか評価する

受講条件	助産師選択コースの学生
事前・事後学修(内容・時間)	1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業 60 分程度行う ＜事前学修＞ 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～8回/30分程度) ＜事後学修＞ 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～8回/30分程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 助産の基本概念 (富岡) 第2回 (講義) 助産師を構成する理論 (富岡) 第3回 (講義) 助産学を支える研究(富岡) 第4回 (講義) 助産師と倫理(富岡) 第5回 (講義) 母子保健の動向と諸制度(富岡) 第6回 (講義) 助産の歴史と文化(富岡) 第7回 (講義) 助産師と教育(富岡) 第8回 (講義) 国際母子保健(富岡) ＊ただし、授業計画は受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ＊課題(テストやレポート等)や質疑内容については、授業内でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRAM3007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		977A0		
科目	977A 助産診断・技術学Ⅰ			授業種別		週間授業		
科目責任者	富岡 美佳			単位数		2 単位		
担当教員	富岡 美佳、リトル 奈々重							
授業概要	マタニティサイクルにおける診断についての基礎的知識を得て、妊娠・分娩・産褥・新生児・産後期の経過診断・健康生活診断を行い、必要な助産計画を立案していく。 助産診断・助産計画を立案するための根拠のある知識を主体的に得ることができる。診断に必要な情報を得て診断類型と診断名、定義を学修し助産計画の立案を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	△			
到達目標	1. マタニティサイクルにおける診断についての基礎的知識を得ることができる 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児・産後期の情報収集を行い、経過診断・健康生活診断ができる 3. 妊娠・分娩・産褥・新生児・産後期の情報収集を行い、診断を行い、必要な助産計画が立案できる 4. 助産診断・助産計画を立案するための根拠のある知識を主体的に得ることができる ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習などを行う科目です							

テキスト (教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅰ 第7版	我部 山キヨ子 他 編	医 学 書 院		ISBN 9784260042086		
助産診断・技術学Ⅱ〔2〕 分娩期・産褥期 第6 版	我部山キヨ子 他編	医学書院		ISBN 9784260042109		
助産診断・技術学Ⅱ〔3〕 新生児期・乳幼児期 第6 版	石井邦子編	医学書院		ISBN 9784260042192		
実践マタニティ診断 第6版	日本助産診断実践学会	医学書院		ISBN 9784260062633		

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
病 気 が み え る vol.10 産科 第4 版	医 療 情 報 科 学 研 究 所 編 集	メ ディ ッ ク メ デ ィ ア		ISBN 9784896327137		
マタニティ診断ガイドブック 第7版	日本助産診断実践学会	医学書院		ISBN 9784260062404		
助産学講座 3 母子の健康科学 第6 版	我部山キヨ子 編	医学書院		ISBN 9784260049917		

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	80%	課題が適切な内容になっているか確認して評価する
プレゼンテーション	20%	事例の発表の内容と討論について確認して評価する

受講条件	助産師選択コースの学生
事前・事後学修 (内容・時間)	1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業 60 分程度行う <事前学修> 1. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成する (60 分) 2. 1. の過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む <事後学修> 1. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する (60 分)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) ガイダンス助産診断 (富岡) 第 2 回 (講義・演 習) 妊 娠 期 の 助 産 診 断 1:経過診断 (富岡) 第 3 回 (講義・演 習) 妊 娠 期 の助産診断：健康生活診断 (富岡) 第 4 回 (講義・演 習) 妊 娠 期 の助産計画 (富岡・リトル) 第 5 回 (講義・演 習) 分 娩 期 の助産診断：経過診断 (富岡) 第 6 回 (講義・演 習) 分 娩 期 の助産診断：健康生活診断 (富岡) 第 7 回 (講義・演 習) 分 娩 期 の助産計画 (富岡) 第 8 回 (講義・演 習) 産 褥 期 の助産診断：経過診断 (富岡) 第 9 回 (講義・演 習) 産 褥 期 の助産診断：健康生活診断 第 10 回 (講義・演 習) 産 褥 期 の助産計画 (富岡) 第 11 回 (講義・演 習) 新 生 児 期 の助産診断：経過診断 (富岡) 第 12 回 (講義・演 習) 新 生 児 期 の助産診断：健康生活診断 (富岡) 第 13 回 (講義・演 習) 新 生 児 期 の助産計画 (富岡) 第 14 回 (講義・演 習) 産 後 期 の助産診断：経過診断 (富岡) 第 15 回 (講義・演 習) 産 後 期 の助産診断：健康生活診断 (富岡) * ただし、授業計画は受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。* 課題レポートやディスカッションの内容、質疑内容については、授業内でフィードバックする
--------------	--

ナンバリング	NRBM3013
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	977B0			
科目	977B 助産診断・技術学Ⅱ			授業種別	週間授業			
科目責任者	富岡 美佳			単位数	2 単位			
担当教員	富岡 美佳、リトル 奈々重							
授業概要	生殖医療の基礎的知識について学ぶ。ハイリスク妊娠・分娩、妊娠・分娩・産褥期の母子の異常の病態、診断・検査・治療、胎児・新生児の疾患の病態、診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。また、合併症をもつ妊婦・産婦・褥婦の病態、診断・治療・検査について理解し、正常経過を逸脱した妊産褥婦・新生児の助産実践に必要な知識・助産ケア、母体・胎児・新生児の異常・緊急時の対応について学ぶ。女性のライフサイクル各期の内分泌動態、婦人科疾患について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する医師または助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義などを行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	△			
到達目標	1. 生殖医療の基礎的知識について説明できる 2. ハイリスク妊娠・妊娠期の異常の診断と治療について説明できる 3. 分娩の異常の診断と治療について説明できる 4. 胎児・新生児の疾患と治療について説明できる 5. 婦人科疾患について説明できる 6. ハイリスク妊娠・異常妊娠、ハイリスク分娩・異常分娩の助産診断と助産ケアについて説明できる 7. 産褥期の異常の助産診断と助産ケアについて説明できる 8. 不妊症の夫婦の看護について説明できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 第7版	我部山キヨ子他編	医学書院		9784260042086	
助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第6版	我部山キヨ子他編	医学書院		9784260042109	
助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 第6版	我部山キヨ子他編	医学書院		9784260042192	
病気がみえる vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所編集	メディックメディア		9784896327137	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
産婦人科診療ガイドライン産科編 2023	日本産婦人科学会 / 日本産婦人科医会	日本産婦人科学会 / 日本産婦人科医会		9784907890278	
最新産科学 正常編 改訂第22版	荒木勲	文光堂		9784830631191	
最新産科学 異常編 改訂第22版	荒木勲	文光堂		9784830631214	
テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項					

成績評価	筆記試験と課題レポート内容を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	90%	筆記試験により理解度を確認する
課題レポート	10%	課題に対する適切な内容・記述になっているか評価する

受講条件	助産師選択コースの学生
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～15回/30分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～15回/30分程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の診断と治療(薬剤・検査含む)(黒柳医師) 妊娠期の感染症・性行為感染症、悪阻、異所性妊娠、HDP、流早産、多胎) 第2回 (講義) 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の診断と治療(薬剤・検査含む)(安井医師) 婦人科疾患合併症妊娠、感染症、子宮奇形、筋腫、卵巣腫瘍、絨毛性疾患、胎盤位置異常、常位胎盤早期剥離 第3回 (講義) 偶発疾患・分娩期の異常の診断と治療(薬剤、産科手術と麻酔・産科医療と救急の処置)(姜医師) 合併症妊娠、悪性腫瘍、絨毛性疾患、胎盤位置異常、常位胎盤早期剥離 第4回 (講義) 偶発疾患・分娩期の異常の診断と治療(薬剤、産科手術と麻酔・産科医療と救急の処置)(岡田医師) 分娩3要素、超音波診断、胎児心拍数モニタリング、産科手術 第5回 (講義) 産褥期の異常・偶発疾患の診断と治療(薬剤含む)(鈴木医師) 産科危機的出血、産科ショック、救急処置 第6回 (講義) ライフサイクル期における婦人科疾患(諸井医師) 第7回 (講義) 胎児・新生児の疾患と治療(薬剤、新生児の蘇生含む)(戸川医師) 第8回 (講義) 胎児・新生児の疾患と治療(薬剤、新生児の蘇生含む)(戸川医師) 第9回 生殖医療(安藤医師) 第10回 (講義) ハイリスク妊婦の助産診断と助産ケア(妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、多胎妊娠)(富岡) 第11回 (講義) ハイリスク産婦の助産診断と助産ケア(常位胎盤早期剥離、産科危機的出血、産科ショック、羊水塞栓症)(富岡) 第12回 (講義) 異常分娩の助産診断と助産ケア(回旋異常、分娩遅延、胎児機能不全、急速遂娩) (リトル) 第13回 (講義) 産褥期の異常の助産診断と助産ケア (富岡) 第14回 (講義) ペリネイタルロスのケア (富岡) 第15回 (講義) 不妊症の夫婦と看護 (富岡) ★ただし、授業計画は受講学生の習熟度により授業計画、内容・日程を変更することもある。 ★課題(テストやレポート等)や質疑内容については、授業内でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRBM3014
--------	----------

開講年度・開講学期		2026 年度春学期			授業コード		977C0	
科目		977C 助産診断・技術学Ⅲ			授業種別		週間授業	
科目責任者		リトル 奈々重			単位数		2 単位	
担当教員		リトル 奈々重、富岡 美佳						
授業概要		妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にある母子を対象に、助産師として必要なフィジカルアセスメント能力を基盤として、助産診断および助産技術を体系的に学ぶ。 分娩 3 要素、分娩機序、分娩経過に関する基礎的知識を学び、妊娠経過、分娩進行、産褥の回復過程、新生児の胎外生活適応に焦点を当て、得られたアセスメントデータを統合し、助産診断へ結びつける思考過程を学習する。また、フィジカルアセスメントに心理・社会的側面を加えた全人的理解を通して、助産診断課程の展開技術を修得する。※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習などを行う科目です。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性				○	◎	△		
到達目標		1. 分娩の 3 要素と分娩機序、分娩経過について説明できる 2. 分娩の進行に伴う母体と胎児の身体・心理的变化について説明できる 3. 分娩期の産婦が分娩を正常に経過でき、主体的に分娩に臨むために必要な知識・技術を修得できる 4. 分娩期の産婦事例の状態をアセスメントし、分娩 3 要素の分娩促進・阻害因子をふまえて状態に応じた助産診断ができ分娩進行を促進する助産ケア計画を立案できる 5. フィジカルアセスメントに基づく助産診断の考え方を理解できる						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠 期 第 7 版	我部山キヨ子他編	医学書院		978-4-2600-4208-6	
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥 期 第 6 版	我部山キヨ子他編	医学書院		978-4-2600-4210-9	
助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳 幼児期 第 6 版	石井邦子 他編	医学書院		978-4-2600-4219-2	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第 2 版	我部山キヨ子	医学書院		978-4-260-03548-4	
ポジティブな出産体験のための分娩期ケア、ISBN 分 娩期ケアガイドライン翻訳チーム	分娩期ケアガ イドライン翻訳 チーム	医学書院		978-4-2600-4197-3	
分娩助産学 第 2 版	進純郎	医学書院		978-4-2600-1886-9	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	筆記試験と課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	筆記試験により理解度を確認する
課題レポート	50%	課題に対する適切な内容・記述、ディスカッション内容になっているかを評価する

受講条件	助産師選択コースの学生
事前・事後学修 (内容・時間)	1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業 60 ～ 90 分程度行う <事前学修> 1. 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること (第 2 ～ 8 回 /30 分程度) 2. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成し、その過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む (第 1、9 ～ 15 回 /60 分程度) <事後学修> 1. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること (第 2 ～ 8 回 /30 分程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する (第 1、9 ～ 15 回 /30 分程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) 助産診断とフィジカルアセスメント 助産診断課程とフィジカルアセスメントの位置づけ (リトル) 第 2 回 (講義) 妊娠期のフィジカルアセスメント (リトル) 第 3 回 (講義) 分娩の定義と種類、分娩三要素と分娩機序・分娩が母体・胎児に及ぼす影響 (リトル) 第 4 回 (講義) 正常な分娩経過 分娩経過の理解・分娩第 1 ～ 第 4 期の特徴・正常経過の判断 (リトル) 第 5 回 (講義) 分娩期のフィジカルアセスメント・陣痛・子宮収縮の評価・胎児心拍数モニタリングの基礎・分娩進行の評価・正常分娩からの逸脱の診断 (異常の早期発見と判断) (リトル) 第 6 回 (講義) 産褥期のフィジカルアセスメント・子宮復古、悪露、バイタルサイン・産褥期の回復過程乳房・授乳状況・会陰・創部の観察 (リトル) 第 7 回 (講義) 新生児のフィジカルアセスメント・新生児の特徴・全身観察、バイタルサイン・呼吸・循環・体温調節・反射、筋緊張、黄疸の評価 (リトル) 第 8 回 (講義) 分娩期の身体・心理社会的変化と助産ケア (リトル) 第 9 回 フィジカルアセスメントと助産診断・アセスメントデータの統合・助産診断への展開 (演習) 妊娠期 妊娠期のマイナートラブル等への助産ケア (演習・グループワーク) (リトル 富岡) 第 10 回 (演習) 妊娠期における異常時の助産ケア、(演習・グループワーク) (リトル 富岡) 第 11 回 (演習) 分娩期の正常経過を促す助産ケア (演習・グループワーク) (リトル 富岡) 第 12 回 (演習) 分娩期異常時の助産ケア (演習・グループワーク) (リトル 富岡) 第 13 回 (演習) 新生児期の正常経過を促す助産ケア (演習・グループワーク) (リトル 富岡) 第 14 回 (演習) 新生児期のマイナートラブルへの助産ケア (演習グループワーク) (リトル 富岡) 第 15 回 (演習) 産褥期における異常時の助産ケア (演習グループワーク) (リトル 富岡) * ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。* 課題 (テストやレポート等) や質疑内容については、授業内でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRCM3014
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード		97710		
科目	9771 助産診断・技術学Ⅳ			授業種別		週間授業		
科目責任者	富岡 美佳			単位数		2 単位		
担当教員	富岡 美佳、リトル 奈々重							
授業概要	妊娠・分娩・産褥。新生児期に正常経過を逸脱した妊婦（胎児）・産婦（胎児）・褥婦・新生児について医療介入を必要とする妊婦へのケアについて学び、助産診断過程を展開し、助産実践に必要な知識・技術を学ぶ。※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	○			
到達目標	1. 妊娠中に医療介入を必要とする妊婦へのケアについて知識を統合して助産診断・技術について知識をまとめることができる 2. 分娩期に正常経過を逸脱した産婦・胎児のケアについて知識を統合して助産診断・技術について知識をまとめることができる 3. 産褥期に正常経過を逸脱した褥婦ケアについて知識を統合して助産診断・技術について知識をまとめることができる 4. 新生児期に正常経過を逸脱した新生児のケアについて知識を統合して助産診断・技術について知識をまとめることができる							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕 妊娠期第 6 版	我部山キヨ子他編	医学書院		9784260042086	
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕 分娩期・産褥期第 6 版	我部山キヨ子他編	医学書院		9784260042109	
助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕 新生児期・乳幼児期第 6 版	石井邦子他編	医学書院		9784260042192	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
妊産婦メンタルヘルスマニュアル	公益社団法人日本産婦人科医会	中外医学社		978-4498160224	
母乳育児支援スタンダード第 3 版	NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集	医学書院		978-4260057042	
乳腺炎ケアガイドライン 2020 2 版	日本助産師会出版 日本助産師会 授乳支援委員会	日本助産師会出版		978-4905023302	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	60%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する
討論・プレゼンテーション	40%	各回の助産診断・技術について発表を行い討論した内容を確認し評価する

受講条件	助産師選択コース学生
事前・事後学修 (内容・時間)	助産学の講義・演習から学んだ知識・技術を実習事例に応用し、事例検討や課題ディスカッションにより助産学に必要な知識・技術を再確認する。また助産学実習で受け持ち展開した事例をまとめ、学修を深める。自己学修を予習・復習各 60 分程度行う 授業前に指定箇所を熟読し、授業後には授業の学びを整理し、課題に取り組む。1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行う。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義・演習) 正常を逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児への助産診断・技術 (富岡) 第 2 回 (講義・演習) 医療介入を必要とする妊婦へのケア：貧血・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病 (富岡) 第 3 回 (講義・演習) 医療介入を必要とする妊婦へのケア：切迫流早産、予定日超過 (富岡) 第 4 回 (講義・演習) 医療介入を必要とする妊婦へのケア：胎児発育不全・多胎 (リトル) 第 5 回 (講義・演習) 医療介入を必要とする妊婦へのケア：胎児付属物の異常 (リトル) 第 6 回 (講義・演習) 妊婦のメンタルヘルスケア (富岡) 第 7 回 (講義・演習) 出生前診断に関わる意思決定支援 (富岡) 第 8 回 (講義・演習) 分娩経過を逸脱した産婦・胎児への支援：分娩時の緊急対応 第 9 回 (講義・演習) 硬膜外麻酔分娩の助産ケア (リトル) 第 10 回 (講義・演習) 新生児蘇生法① (リトル) 第 11 回 (講義・演習) 新生児蘇生法② (リトル) 第 12 回 (講義・演習) 産後のメンタルヘルスケア (富岡) 第 13 回 (講義・演習) 乳頭トラブル、母乳分泌不足の褥婦の助産ケア (富岡) 第 14 回 (講義・演習) 乳腺炎の母子への支援 (富岡) 第 15 回 (講義・演習) 特別な支援を必要とする母子への支援 (富岡) * 学生の習熟度等により授業計画を変更することがある。* 課題レポートやディスカッションの内容については、授業内でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NREM4013
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード		977J0		
科目	977J 助産技術学			授業種別		週間授業		
科目責任者	リトル 奈々重			単位数		2 単位		
担当教員	リトル 奈々重、富岡 美佳							
授業概要	助産師として必要な専門知識・技術・態度を統合し、妊娠・分娩・産褥期および新生児期における助産ケアを安全かつ的確に実践できる能力を養う。分娩期の対象事例の状態をアセスメントし、助産診断、助産計画立案までの一連の助産診断過程展開技術を修得する。対象となる妊産褥婦および家族の身体的・心理的・社会的側面を総合的に捉え、個性性を尊重した助産ケアの実践力を習得する。また、演習を通して、妊娠・産褥期における健康診査技術や保健指導技術、助産実践に必要な分娩助産技術および出生直後の新生児の看護に必要な助産技術を修得する。※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○		○	◎	○	△		
到達目標	1. 妊婦（胎児）・産婦（胎児）・褥婦・新生児の健康診査、観察に必要な技術を修得できる。 2. 妊婦・褥婦の保健指導に必要な指導案を作成できる。 3. 産婦の事例に応じた助産診断過程（情報収集・アセスメント・助産診断・計画・実施・評価）を展開技術を習得する。 4. 助産実践に必要な基礎的知識、分娩助産技術を習得する。 5. 出生直後の新生児の看護に必要な助産技術を助産診断に基づいて習得し、適切に実践できる能力を習得する。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠 期 第 7 版	我部山キヨ子	医学書院		9784260042086	
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第 6 版	我部山キヨ子	医学書院		9784260042109	
助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 第 6 版	石井邦子	医学書院		9784260042192	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
病気がみえる vol.10 産科 第 4 版	医療情報科学研究所編集	メディックメディア		9784896327137	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	分娩助産技術の習得度、課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	分娩助産技術評価表に則り評価する
課題レポート	50%	レポ ートが 課題に対する適切な内容・記述、ディスカッションの内容であるか評価する

受講条件	助産師選択コースの学生
事前・事後学修（内容・時間）	1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業 60 分程度行う。 <事前学修> 1. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成する（60 分） 2. 1. の過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む <事後学修> 1. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する 2. 技術演習後は技術をくり返し行い、根拠に基づく技術修得に努める（30 時間）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（演習）分娩助産技術①、出産直後の児の取り扱い（教員デモンストレーション）（リトル・富岡） 第 2 回（演習）分娩助産技術②（内診、清潔操作と分娩室移動の判断）（リトル・富岡） 第 3 回（演習）分娩助産技術③（導尿、会陰裂傷縫合術を含む）（リトル・富岡） 第 4 回（演習）分娩助産技術④ハイリスク妊娠の分娩時の助産診断 NST の装着の方法と判読の仕方（リトル・富岡） 第 5 回（演習）新生児に必要な助産技術（NCPR）（リトル・富岡） 第 6 回（講義・演習）分娩期の助産診断過程 展開 1（リトル・富岡） 第 7 回（講義・演習）分娩期の助産診断過程 展開 2（リトル・富岡） 第 8 回（講義・演習）分娩期の助産診断過程 展開 3（リトル・富岡） 第 9 回（講義・演習）妊娠期の健康診査・保健指導（沐浴・退院指導・栄養指導・家族計画）1（リトル・富岡） 第 10 回（講義・演習）妊娠期の健康診査・保健指導（沐浴・退院指導・栄養指導・家族計画）2（リトル・富岡） 第 11 回（講義・演習）妊娠期の診断・ケアに必要な技術（胎児モニタリング、乳房ケア、超音波エコー）（リトル・富岡） 第 12 回（講義・演習）異常分娩の判断と助産診断（頸管裂傷、異常出血、前期破水）（リトル・富岡） 第 13 回（講義）分娩促進（微弱陣痛、誘発分娩の種類と方法）と無痛分娩（講義・演習）産褥・新生児期の助産診断過程 展開（リトル・富岡） 第 14 回（演習）分娩助産技術チェック（リトル・富岡） 第 15 回（演習）分娩助産技術チェック（リトル・富岡） *受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。＊課題（テストやレポート等）や質疑内容については、授業内でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRCM4018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	97790			
科目	9779 助産管理			授業種別	週間授業			
科目責任者	富岡 美佳			単位数	1 単位			
担当教員	富岡 美佳、リトル 奈々重							
授業概要	助産管理の基本と助産業務管理の基礎的知識、助産業務遂行にあたり必要な関係法規と助産師の義務・責任について学ぶ。また、周産期医療体制と地域連携の実態を理解し、周産期医療の現状と課題について学ぶ。さらに、助産に関する医療安全と危機管理について学び、場に応じた助産業務管理を学び、院内助産・院内助産院、および助産所の助産業務管理に必要な基礎的知識を修得する。※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	○	○	◎	○	
到達目標	1. 助産管理の基本と助産業務管理の過程・方法・医療経済について説明できる 2. 助産業務の関係法規と助産師の法的責任と義務について説明できる 3. 周産期医療体制の概要とネットワーク、チーム医療と職種間・地域の連携について説明できる 4. 助産師が行う安全対策と医療事故防止、災害対策について説明できる 5. 周産期棟・混合病棟、院内助産・院内助産院、助産師外来の管理について説明できる 6. 助産所の管理・運営、関係法規について説明できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産学講座 10 助産管理	我部山キヨ子編	医学書院		ISBN978-4-2600-4709-8	
助産師業務要覧 基礎編	福井トシ子編	日本看護協会出版会		ISBN978-4-8180-2798-5	
助産師業務要覧 実践編	福井トシ子編	日本看護協会出版会		ISBN978-4-8180-2799-2	
助産師業務要覧 アドバンス編	福井トシ子編	日本看護協会出版会		ISBN978-4-8180-2800-5	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産所業務ガイドライン	改訂検討特別委員会編集・監修	日本助産師会出版		ISBN978-4-905023-39-5	
今日の助産改訂第 4 版 マタニティサイクルの助産診断・実践過程	北川真理子他	南江堂		ISBN978-4-524-24625-0	
産婦人科診療ガイドライン産科編 2023	日本産科婦人科学会編集・監修	日本産婦人科学会		ISBN978-4-9078-9018-6	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	筆記試験と課題レポートにより総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	
課題レポート	20%	

受講条件	助産師選択コースの学生	
事前・事後学修(内容・時間)	1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業 60 分程度行う。 <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～8回 /30 分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～8回 /30 分程度)	

授業の実施方法と授業計画	第 1 回(講義)助産管理の基本と助産業務管理(富岡) 第 2 回(講義)関係法規と助産師の義務・責任①(富岡) 第 3 回(講義)関係法規と助産師の義務・責任②(富岡) 第 4 回(講義)病院における助産業務管理(富岡) 第 5 回(講義)院内助産と助産師外来の役割と管理(富岡) 第 6 回(講義)周産期医療システム(リトル) 第 7 回(講義)助産所における助産業務管理(外部講師) 第 8 回(講義)助産業務における医療事故とリスクマネジメント(リトル) * 授業計画は、学生の学修状況により変更することがある。また、第 3～5 回の内容は、地域における助産師活動に参加する場合もある。* 課題(テストやレポート等)や質疑内容については、授業内でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	NRFM3011
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	977E0						
科目	977E 助産学実習Ⅰ	授業種別	実習						
科目責任者	リトル 奈々重	単位数	1 単位						
担当教員	リトル 奈々重、富岡 美佳								
授業概要	地域における母子保健のニーズを理解し、対象に応じた学級活動の企画・運営・評価をとおして、地域とのつながりの中で助産師が行う小集団活動を学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習等を行う科目です。								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△		
到達目標	1. 地域における助産活動に参加し、地域連携と社会資源について知ることができる 2. 助産活動を行う場の理解を行い、施設の特徴を知ることができる 3. 健康教育の理論に基づき、性と生殖に関する健康およびその健康教育の内容について説明できる 4. プレコンセプションケアの必要性について知ることができる								

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ 第 6 版	堀内茂子他編	医学書院		978-4260042260	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産師による思春期の健康教育	日本助産師会保健指導部委員会編集・監修	日本助産師会出版		978-4905023319	
国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】—科学的根拠に基づいたアプローチ	ユネスコ(編集)	明石書店		978-4750350486	
プレコンセプションケア	荒田尚子編	MEDOCAL VIEW		978-4758321402	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	評価表に基づき評価する。

受講条件	助産師選択コースの学生
事前・事後学修(内容・時間)	実習は 45 時間をもって 1 単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 事前学修：実習オリエンテーション時に伝える。 事後学修：学修した内容について文献等を活用し整理する。

授業の実施方法と授業計画	1. 地域における助産活動 1) ガイダンス、オリエンテーション 2) 実習施設の助産活動への参加 3) 学びの統合：臨地でのカンファレンス 2. 思春期の健康教育 1) ガイダンス、オリエンテーション 2) 健康教育に必要な知識・技術 2. 集団指導(妊娠期の母親・両親学級等)の見学 3. 健康教育の企画：2 日間 健康教育の企画、教材・媒体等の考案・検討・作成 1) リハーサル、企画・教材の修正 * 受講学生の学修状況により、授業計画を変更することがある。 * 実習終了時、記録提出、担当教員との面談による学修内容・評価のフィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	NRCM3015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	977F0			
科目	977F 助産学実習Ⅱ			授業種別	実習			
科目責任者	富岡 美佳			単位数	3 単位			
担当教員	富岡 美佳、リトル 奈々重							
授業概要	助産実践に必要な概念や理論、助産学の知識・技術をもとに、科学的根拠に基づいて助産実践できる専門職業人としての基礎的能力を養う。主に、妊娠・分娩・産褥・新生児期までの対象を妊娠期から継続して受け持ち、継続的かつ個別性のある助産診断過程を展開し、母子とその家族の支援に必要な基礎的能力を養う。※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	妊娠期から産後・生後 1 か月健康診査まで継続して一組の母子を受け持ち、個別性のある助産診断過程展開および保健指導を実施する 1. 妊娠期にある対象の健康診査を適切に実施し、結果に基づいて妊婦および家族に適切な助産ケア計画を立案し、保健指導を実施できる 2. 分娩期にある対象を観察し、セサメントから状態に応じた助産診断・ケア計画立案・実施・評価ができる 3. 産婦のもつ力を引き出し、分娩促進ケアを実施し安全に分娩助産を行うことができる 4. 出生直後の新生児の観察、健康診査とケアを実施できる 5. 褥婦・新生児を適切に観察し、結果に基づいて褥婦・新生児とその家族の状態・状況に応じた助産ケア計画を立案しケアを実施できる 6. 褥婦のセルフケア能力を高めるのに必要な育児の知識提供や技術支援（保健指導）を実施できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産診断・技術学Ⅱ〔1〕 妊娠期第 6 版	我部山キヨ子編	医学書院		978-4-2600-4208-6	
助産診断・技術学Ⅱ〔2〕 分娩期・産褥期第 6 版	我部山キヨ子	医学書院		978-4-2600-4210-9	
助産診断・技術学Ⅱ〔3〕 新生児期・乳幼児期第 6 版	石井邦子	医学書院		978-4-2600-4219-2	
助産診断・技術学Ⅰ第 6 版（助産学講座）	堀内成子	医学書院		978-4-260-04226-0	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
マタニティ診断ガイドブック第 7 版	日本助産診断実践学会編集	医学書院		978-4-2600-6240-4	
病気がみえる vol.10 産科第 4 版	医療情報科学研究所編集	メディックメディア		978-4-8963-2713-7	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	評価表に基づき評価する。

受講条件	助産師選択コースの学生（4 年次）	
事前・事後学修（内容・時間）	実習は 45 時間をもって 1 単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 <事前学修> 1. 助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲ、助産技術学で学修した助産診断過程展開内容、各種保健指導計画を復習する。 2. 助産技術学で修得した分娩助産技術、出生直後の新生児のケアをくり返し演習し、根拠に基づく技術を実践に修得して実習に臨む。 <事後学修> 実習での学びと自己の課題を明確にする。	

授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間 3 週間 2. 実習施設 豊川市民病院、豊橋市民病院、 3. 実習内容・方法 1) 病棟オリエンテーション（初日） 2) 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象（継続事例）を 1 名受け持ち、助産診断過程を展開する・妊婦健康診査・保健指導を実施する・分娩期助産ケア、分娩助産、出生直後の新生児ケアを実施する・分娩助産後に実習指導者および担当教員のフィードバックを受け、ふり返りと自己の課題を明確にする・産褥・新生児の入院中の助産ケア、パースレビュー、保健指導を実施する・産後・生後 2 週間および 1 か月健康診査に立ち会い、観察・一部実施する・母乳外来に付き添い、必要な観察を実施する 3) 実習終了時、記録提出、担当教員との面談による学修内容・評価のフィードバックを行う	
--------------	--	--

ナンバリング	NRDM4009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期			授業コード	977G0			
科目	977G 助産学実習Ⅲ			授業種別	実習			
科目責任者	富岡 美佳			単位数	7 単位			
担当教員	富岡 美佳、リトル 奈々重							
授業概要	助産実践に必要な概念や理論、助産学の知識・技術をもとに、科学的根拠に基づいて助産実践できる専門職業人としての基礎的能力を養う。主に、分娩期の対象を受け持ち、個性のある助産診断過程を展開し、母子とその家族の支援に必要な基礎的能力を養う。※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 分娩期にある対象を観察し、母児の健康状態から分娩経過に影響する因子をふまえて助産診断過程を展開できる 2. 分娩進行状態をアセスメントし、分娩の経過診断・予測のもとに助産ケア計画を立案できる 3. 産婦の健康状態をアセスメントし、状態に応じた助産診断・ケア計画立案・実施・評価ができる 4. 産婦のもつ力を最大限に引き出し、分娩を促進するための助産ケアを適切に実施できる 5. 母児の状態に合わせて安全に根拠に基づいて分娩を介助できる 6. 出生直後の新生児の健康診査とケアを実施できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕 妊娠期 第 6 版	我部山キヨ子	医学書院		9784260042086	
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕 分娩期・産褥期 第 6 版	我部山キヨ子	医学書院		9784260042109	
助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕 新生児期・乳幼児期 第 6 版	石井邦子	医学書院		9784260042192	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
病気がみえる vol.10 産科 第 4 版	医療情報科学研究所編集	メディックメディア		9784896327137	
マタニティ診断ガイドブック 第 7 版	日本助産診断実践学会編集	医学書院		9784260062404	
産婦人科診療ガイドライン産科編 2023	日本産婦人科学会 / 日本産婦人科医会	日本産婦人科学会 / 日本産婦人科医会		9784907890285	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
分娩介助技術・記録・カンファレンス	100%	分娩介助に関する記録、助産診断・技術を総合的に評価する

受講条件	助産師選択コースの学生(4 年次)	
事前・事後学修(内容・時間)	実習は 45 時間をもって 1 単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 <事前学修> 1. 助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲ、助産技術学で学修した助産診断過程展開内容、各種保健指導計画を復習する。 2. 助産技術学で修得した分娩介助技術、出生直後の新生児のケアをくり返し演習し、根拠に基づく技術を実践に修得して実習に臨む。 <事後学修> 実習での学びと自己の課題を明確にする。	

授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間 7 週間 2. 実習施設 豊川市民病院、豊橋市民病院、パークベルクリニック、吉村医院あさひ産婦人科 3. 実習内容・方法 1) 分娩期の対象を 1 名受け持ち、産婦の助産過程展開、分娩介助、出生直後の新生児の助産ケアを実施する(助産学実習中、計 9 例程度の分娩介助) 2) 分娩介助後に実習指導者、担当教員のフィードバックを受け、ふり振り返りと自己の課題を明確にする 3) 産褥・新生児のバースレビューを行い、できる限り入院中の助産ケア、保健指導を実施する 4) 産後・生後 2 週間・1 か月健康診査を実施・見学する 5) 実習終了時、記録提出、担当教員との面談による学修内容・評価のフィードバックを行う	
--------------	---	--

ナンバリング	NREM4014
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	984B0
科目	984B 在宅看護学原論Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	蒔田 寛子	単位数	1 単位
担当教員	蒔田 寛子		

授業概要	地域の多様な場で人々の暮らしを支える看護の役割を学修する。さらに対象者の生活する場に応じた多職種連携および、関連する保健医療・福祉・介護制度の概要について学び、地域包括ケアの必要性について理解する。※この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義を行う科目です。教員の研究結果を教育内容に含めて講義を行っています。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			△	○	△		◎	
到達目標	在宅看護に関連した法制度を踏まえ、地域の多様な場で人々の暮らしを支える看護について説明することができる。具体的には、以下の内容である。 1. 社会の変化に伴う地域の多様な場での看護の役割の広がりについて説明できる。 2. 地域の人々の生活を支える看護における倫理的な問題について意識を高くもち考えを述べることができる。 3. 地域の多様な場での地域包括ケアシステムについて説明できる。 4. 人々の生活を支えるための有機的な多職種連携と、連携における看護の役割について説明できる。 5. 今後の社会の変化を踏まえ、在宅看護を発展的に考え説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア	石田千絵 臺有桂 山下留理子	メディカ出版	本体 3100 円＋税	9784840484718	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書および参考文献に関する特記事項は必要時適宜紹介します。
------------------------------	--------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。筆記試験とレポート課題の合計で評価し到達しなかった場合に再試験とします。なお、劣悪な受講態度は減点の対象となる場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	筆記試験で講義内容の理解度を確認する。
課題レポート	20%	課題に対して適切で、論理的にわかりやすい内容であるかで評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する。(毎回 30 分程度) 2. 講義で学んだ内容は配布資料、テキストを見直し整理しておく。(毎回 60 分程度) 3. レポートは資料なども参考に熟考し作成すること。(180 分程度) 4. 定期試験には授業内容の復習を十分に行い臨むこと。 以上について、1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 授業ガイダンス 地域の多様な場での看護の広がり 連携する多職種・多施設 (講義 蒔田) 第 2 回 病院での在宅看護と多職種連携 (講義 蒔田) 第 3 回 高齢者施設での看護と多職種連携 (講義 蒔田) 第 4 回 児童、障害者の福祉施設での看護と多職種連携 (講義 蒔田) 第 5 回 病院と産業保健における在宅看護と多職種連携 (講義 蒔田) 第 6 回 地域包括支援センターにおける看護と多職種連携 (講義：地域包括支援センターで保健師として活躍するゲストスピーカー) 第 7 回 介護保険事業を通したまちづくり (講義：ゲストスピーカー 自治体職員、地域住民) 第 8 回 薬害と看護 (講義：ゲストスピーカー 当事者、弁護士) ※ただし受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 ※講義内容の順序は変更することもあります。 ※リアクションペーパーについては、授業内もしくは Classroom でフィードバックを行います。 ※課題については、授業内もしくは Classroom を通して質問や疑問に対するフィードバックを行います。
--------------	---

ナンバリング	NRBM2007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	988A0			
科目	988A 成熟期看護学原論			授業種別	週間授業			
科目責任者	豊島 由樹子			単位数	2 単位			
担当教員	豊島 由樹子、原沢 優子、二十軒 温美							
授業概要	成人期への移行期である思春期から人生の完成期である老年期までを成熟期と捉え、この段階にある人々の加齢による変化および発達課題や健康上のニーズ、健康問題について理解する。また、健康状態に応じた看護実践の基本となる理論や考え方、地域包括ケアシステムを含めた保健医療福祉政策の動向や医療システムについて学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			△	
到達目標	1. 成熟期にある人々の成長・発達過程を理解し、成人各期の特徴と発達課題を説明できる。 2. 成熟期に生じやすい生活の変化に伴う健康問題を、成人保健の動向と関連づけて説明できる。 3. 成熟期のさまざまな健康状態に応じた看護の特徴を説明できる。 4. 成熟期の健康上のニーズや健康問題に対する人々の心身の反応を理解し、成熟期看護に用いる基本的な考え方（理論・概念）を説明できる。 5. 認知症を含めた高齢者を支える保健医療福祉制度を理解し、看護の特徴を説明できる。 6. 成熟期にある人々の権利擁護と倫理的課題および看護の役割が説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
成人看護学 成人看護学概論 改訂第5版	林直子 他編	南江堂		9784524211920	
老年看護学 第10版(系統看護学講座)	北川公子 他	医学書院		9784260056892	電子 ISBN: 9784260656894
老年看護 病態・疾患論 第6版(系統看護学講座)	鳥羽研二 他	医学書院		9784260056830	電子 ISBN: 9784260656832

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を各回の講義で配布する。
------------------------------	-----------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、定期試験と授業課題から評価する。なお、劣悪な授業態度や提出物の不備については減点対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する
授業課題	10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修として、教科書の指定された部分を読み、理解が難しい箇所や疑問点に付箋を貼るなど予習した上で毎授業に臨むこと(第1～15回/60分程度)。 事後学修として、授業で得た気づきと学びをまとめる。また Google Classroom の復習問題に取り組み、授業内容の復習を行う(第1～15回/60分程度)。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回：授業ガイダンス、成熟期看護の対象の理解 <講義>(豊島) 第2回：成熟期の健康問題の動向 <講義>(豊島) 第3回：生活習慣に関連する健康障害 <講義>(豊島) 第4回：成熟期の対象における保健・医療・福祉政策 <講義>(豊島) 第5回：健康状態に応じた看護の特徴 1. リハビリテーション看護 <講義>(豊島) 第6回：健康状態に応じた看護の特徴 2. 慢性看護 <講義>(豊島) 第7回：成熟期看護に用いる理論・概念 ①セルフケア・自己効力 <講義>(豊島) 第8回：健康状態に応じた看護の特徴 3. 急性期看護 <講義>(新任) 第9回：成熟期看護に用いる理論・概念 ②危機 <講義>(新任) 第10回：成熟期看護に用いる理論・概念 ③ストレス・コーピング <講義>(新任) 第11回：健康状態に応じた看護の特徴 4. 高齢者看護 <講義>(原沢) 第12回：成熟期看護に用いる理論・概念 ④サクセスフルエイジング・ストレングス・コンフォート <講義>(原沢) 第13回：高齢者の権利擁護・倫理的課題と高齢者看護の理念・役割 <講義>(原沢) 第14回：高齢者の生活を支える保健医療福祉制度と療養の場における看護 <講義>(原沢) 第15回：認知症施策と認知症高齢者への看護の目標 <講義>(原沢) 授業課題については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。定期試験のフィードバックは適宜メール等で対応する。 ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	NRBM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	988H0			
科目	988H 成熟期看護学演習Ⅳ			授業種別	週間授業			
科目責任者	城川 絵理子			単位数	1 単位			
担当教員	城川 絵理子、原沢 優子、三村 絵美							
授業概要	高齢者看護に必要な思考法およびアセスメント方法を活用し、実習に向けて高齢者への看護過程展開方法を事例演習を通して学修する。また、高齢者看護の実践に多い看護技術について、知識的な理解および実技体得の両面から学修する。認知症高齢者ケア技術については、アセスメントスケールの活用とコミュニケーション演習などから適切な看護技術の修得を目的とする。 ※本科目は当該内容に関する看護の実務経験を有する教員が実務経験を活かして教育する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎	○		△	
到達目標	1. 嚥下リハビリテーションの知識修得と技術が実施できる。 2. 口腔機能リハビリテーションと口腔粘膜ケアの知識修得と技術が実施できる。 3. 認知症高齢者への対応スキルを学習し、特に立ち上がり援助を実施できる。 4. 介護施設入所中の高齢者の事例に対する看護過程の展開が実施できる。 5. 高齢者看護の特徴を踏まえてアセスメント、看護目標、看護計画の記述ができる。							

テキスト (教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
老年看護学	北川公子編集	医学書院		978-4-260-03186-8	2 年次購入済	
老年看護病態・疾患論	鳥羽研二編集	医学書院		978-4-260-03172-1	2 年次購入済	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
生活機能からみた老年看護過程第 4 版	山田律子編集	医学書院		978-4-260-04274-1	本学図書館所蔵	
生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程	奥宮曉子他	医歯薬出版		978-4-263-23562-1	本学図書館所蔵	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	「演習課題」の達成状況および「実技演習」の習得状況から評価する。 欠席、遅刻、早退、劣悪な授業態度、提出物の不備については減点対象となる場合がある。 演習課題 ①嚥下リハビリテーション、②口腔機能リハビリテーション／口腔粘膜ケア、③認知症高齢者への援助技術、④看護過程展開 実技演習 ①嚥下リハビリテーション、②口腔機能リハビリテーション／口腔粘膜ケア ③認知症高齢者への援助技術	
評価項目	割合	評価基準
演習・技術課題①②③	30%	各 10 点× 3=30 点満点。評価基準は課題の実施状況とする。
演習課題④	60%	自宅課題の実施状況、グループワーク参加度、各看護過程の具体性を評価基準とする。
実技演習①②③	10%	各技術への事前学習態度、技術の適切性を評価基準表により点数評価する。

受講条件	必修科目 履修条件を付けない
事前・事後学修 (内容・時間)	事前学修 初回授業日に演習課題、看護過程に関する課題を提示する。(各回 1 時間程度) 本科目は、自宅課題を前提として授業内でグループワークを行う。 事後学修 演習課題は、実習前・実習中に振り返り学修する。(各回 30 分程度)

授業の実施方法と授業計画	※この科目は、2 コマ連続開催を基本とするが、1 コマ開催日がある。 ※看護過程の演習は、個人の自己学習を前提としたグループワークを講義内で行う。 ※プレゼンテーションの実施があります。 ※質問・意見・試験やレポート等へのフィードバック方法：classroom を通して行う。 ※演習は、担当教員全員で行う 4/16 第 1 回 (講義) ICF の生活機能にもとづく看護過程、目標指向型思考、①事例紹介 <原沢> 4/30 第 2 回 (講義・演習) 認知症高齢者への対応技術 ★<原沢・城川・三村・外部講師> 第 3 回 (講義・演習) " パーソンセンタードケアの理解 5/ 7 第 4 回 (講義) 高齢者への看護技術 ①嚥下に適切な食事介助・口腔粘膜ケア ②口腔リハビリテーション 5/14 第 5 回 (演習) 高齢者への看護技術 ①嚥下に適切な食事介助・口腔粘膜ケア 第 6 回 (演習) " <実技演習>☆<原沢・城川・三村> 5/21 第 7 回 (演習) ②口腔・嚥下リハビリテーション 第 8 回 (演習) " <実技演習>☆<原沢・城川・三村・摂食嚥下障害認定看護師> 6/18 第 9 回 (演習) 看護過程の展開1 ②情報・アセスメント <グループワーク><城川・三村・原沢> 7/ 2 第 10 回 (演習) 看護過程の展開1 ③統合アセスメント <グループワーク><城川・三村・原沢> 第 11 回 (演習) 看護過程の展開1 ④目標・優先順位 <グループワーク><城川・三村・原沢> 7/ 9 第 12 回 (演習) 看護過程の展開1 ⑤看護計画 <グループワーク><城川・三村・原沢> 第 13 回 (演習) " 7/16 第 14 回 (演習) 看護過程の展開1 看護目標・計画発表会 <グループワーク><城川・三村・原沢> 第 15 回 (講義) 看護過程の展開まとめ <城川・三村・原沢>
--------------	---

ナンバリング	NRBM3018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期		授業コード		98800			
科目	9880 成熟期看護学実習Ⅶ		授業種別		実習			
科目責任者	豊島 由樹子		単位数		1 単位			
担当教員	豊島 由樹子、藤井 徹也、鈴木 知代、桂川 純子、原沢 優子、富岡 美佳、鈴木 和香子、山口 直己、石上 早苗、二十軒 温美、井上 直子、小山 順子、笹木 りゆこ、リトル 奈々重、城川 絵理子、山本 義昭、林 美佐、三村 絵美、小原 由佳子、都築 弘典、徳永 麗子、藤田 陽子、阪下 陽香、宮野 幸子、谷口 弥生、坂下 陽香							
授業概要	エンドオブライフ期にある療養者と家族の特徴、および緩和ケアについて理解し、その人らしさを支える看護援助について学ぶ。また地域包括ケアシステム構築に向けた保健・医療・福祉等の現状を踏まえて看護専門職としての役割や責務を果たす幅広い社会的貢献の観点から看護実践を行うための基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし実習を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1. エンドオブライフ期にある療養者と家族の特徴および緩和ケアの実践について理解し、その人らしさを支える看護援助について説明できる。 2. 地域包括ケアシステム構築に向けた保健・医療・福祉等の現状を踏まえて看護専門職としての役割や責務を果たす幅広い社会的貢献の観点を理解した看護を実践できる。 3. 対象者を尊重し、人権を擁護する倫理的姿勢を基盤として行動できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
エンドオブライフケア看護学 基礎と実践	小笠原知枝 他編	ヌーベルヒロカワ			既に購入済

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜紹介する。
------------------------------	---------

成績評価	到達目標が達成できているかを、事前課題、実習記録、看護実践、課題レポート等について、実習評価表に基づいて総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
到達目標 1 の実習内容、実習記録、課題レポート、カンファレンスへの参加度	50%	実習評価表に基づき評価する
到達目標 2,3 における実習内容、実習記録、課題レポート、カンファレンスへの参加度	50%	各看護学領域の実習評価表に基づき評価する

受講条件	必修科目 履修条件を付けない。
事前・事後学修(内容・時間)	実習は 45 時間をもって 1 単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習においては「成熟期看護学演習Ⅲ」で学修した内容を復習して臨む。 また、各領域で指示された事前課題について期日までに学修する。 実習後は、理解が不十分であった内容について、各自復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	①実習期間：1 週間 ②実習場所：聖隷三方原病院ホスピス、および各領域で指定する実習施設 ③実習内容・方法： 1 日目：実習オリエンテーション、アドバンスケアプランニング(ACP) 等に関するグループワーク 2 日目：ホスピス見学実習 3 ～ 5 日：各看護学領域における実習 ・実習施設 <table border="0"> <tr> <td>豊橋医療センター</td><td><基礎看護学、成熟期看護学(慢性)></td></tr> <tr> <td>豊川市民病院</td><td><成熟期看護学(急性)(慢性)、精神看護学></td></tr> <tr> <td>豊橋市民病院</td><td><母性看護学></td></tr> <tr> <td>老人保健施設 明陽苑</td><td><成熟期看護学(老年)></td></tr> <tr> <td>愛知県立豊橋特別支援学校</td><td><小児看護学></td></tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td><td><在宅看護学></td></tr> <tr> <td>地域包括支援センター</td><td><公衆衛生看護学></td></tr> </table> 事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、その後の学修に役立てられるようフィードバックを行う。 詳細については、「成熟期看護学実習Ⅶ実習要項」参照。	豊橋医療センター	<基礎看護学、成熟期看護学(慢性)>	豊川市民病院	<成熟期看護学(急性)(慢性)、精神看護学>	豊橋市民病院	<母性看護学>	老人保健施設 明陽苑	<成熟期看護学(老年)>	愛知県立豊橋特別支援学校	<小児看護学>	訪問看護ステーション	<在宅看護学>	地域包括支援センター	<公衆衛生看護学>
豊橋医療センター	<基礎看護学、成熟期看護学(慢性)>														
豊川市民病院	<成熟期看護学(急性)(慢性)、精神看護学>														
豊橋市民病院	<母性看護学>														
老人保健施設 明陽苑	<成熟期看護学(老年)>														
愛知県立豊橋特別支援学校	<小児看護学>														
訪問看護ステーション	<在宅看護学>														
地域包括支援センター	<公衆衛生看護学>														

ナンバリング	NRFM4001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	97490			
科目	9749 医療・看護の最前線			授業種別	週間授業			
科目責任者	蒔田 寛子			単位数	1 単位			
担当教員	蒔田 寛子、藤井 徹也、原沢 優子、豊島 由樹子、鈴木 知代、鈴木 和香子、桂川 純子、石上 早苗							
授業概要	日進月歩の医療において、安全で安心な質の高い医療・看護が求められている。本科目では、現代の医療・看護における現状と課題を理解し、最適な医療・看護のあり方、および対象者にとっての最適な看護のあり方をオムニバス方式で学修する。※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性						◎		
到達目標	現代の医療・介護の現状と課題について関心を持ち、創造的に課題解決に向け対策を考え説明できる。具体的には以下の内容である。 1. 看護が提供される様々な場で注目されている内容について学び説明することができる。 2. 看護が提供される様々な場で注目されている内容に関する課題解決について考え説明できる。 3. 医療・介護の最新の情報に関心を頂き、考えたことを説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストは特に指定しない。 参考書および参考文献は必要時適宜紹介する。
------------------------------	-------------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかを課題レポートの合計で評価します。なお、劣悪な受講態度は減点の対象となることがあります。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	100%	課題に対して適切で、論理的にわかりやすい内容であるかで評価する。

受講条件	履修条件をつけない。
事前・事後学修(内容・時間)	毎回授業後には課題レポートがある。課題のテーマを踏まえ配布資料、参考図書、文献等を使いレポートを完成させること。(毎回 /120 分程度) 以上、1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 授業ガイダンス 特定行為研修制度修了等専門性が高い看護師の活躍と在宅看護における看護師の自律性の高まり(講義:蒔田) 第 2 回 未来の健康を創る プレコンセプションケア(講義:富岡) 第 3 回 高齢認知症患者に対するケアの最前線(講義:原沢) 第 4 回 公衆衛生看護における母子保健の最前線(講義:鈴木知) 第 5 回 一歩先のこころの健康への取り組み(講義:桂川) 第 6 回 学校における医療的ケア(講義:鈴木和) 第 7 回 看護技術の刷新と安全・安楽(講義:藤井) 第 8 回 移植と再生医療(講義:豊島) ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。※課題レポートについての質問は、授業内または Classroom を通してフィードバックを行います。 ※授業内容の順序は変更することもあります。
--------------	---

ナンバリング	NRFM4001
--------	----------